E.M. 3-1-68

PL 787 U7 1929 v.4

Utsubo monogatari
Utsubo monogatari

East Asiatic Studies

PLEASE DO NOT REMOVE
CARDS OR SLIPS FROM THIS POCKET

UNIVERSITY OF TORONTO LIBRARY

日本古典全集

顧問　井上通泰先生
　　　山田孝雄先生
　　　新村出先生

正宗敦夫　編纂
　　　　　校訂

うつぼ物語　第四

PL
787
U7
1929
v.4
LIBRARY
MAR 28 1967
UNIVERSITY OF TORONTO

うつほ物語

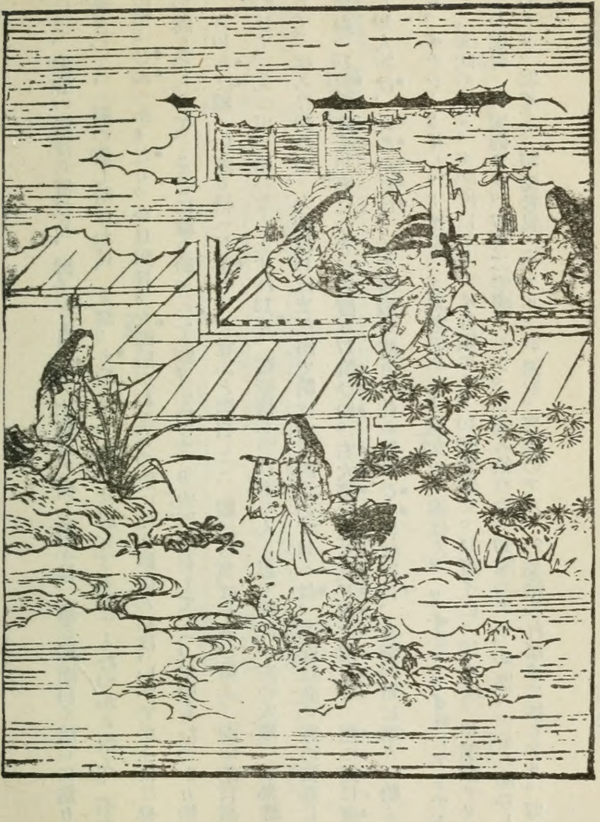
第四

うつぼ物語　第四目次

國讓　上……七八五
國讓　中……八六七
國讓　下……九四七

右の大殿（おほとの）には、御聟の殿ばら宮ばら、御子ども1し、上達部に物し給ふは、廣き殿面白く淸らに造りて、萬の調度寶（たから）盡きつゝ、「殿の許し給はねば、え渡2り給はで、狹（せま）き住居をする事」とむつかり給ふ。右大將は、「藤壺罷出給3ひぬべか4なり。今日明日5女御（によご）后がねなどの對（たい）に住み給はんには、いかでか上には昇り侍るべき。西の對しつらひて、そこに渡り給6へ」と聞7て給ふ。8大臣（おとど）聞召して、「9年頃もむつかり給ふなるを、今は、さ10らば殿（との）々に渡り給へ11かし」と宣ふと聞召して、殿ばら宮ばら喜び給ふ。源中納言殿も限りなく喜び給ひて、先づ出で給ひなんとすれ12ど、藤壺待ちつけ奉らんと思す程に、左の大殿、式部卿の宮より初め奉りて、移ろひ給ひぬ。大納言13はまだ出で給はず。西北（にし）の町14へは、宮達は北の方の御親（おや）につきて皆出で給ひぬ。15男君達（をとこぎみ）も16妻（め）につきて皆渡り17給ひぬ。右大將は家あれどまだ造らで、西の對に渡りて住18な。さて19人20は、此の町には、右大將殿21渡りて住み給22ひし23町24は、女御25君に奉り26給ふ。27殿

校異　1イも、イナシ。2イし。3イふ。4因考異め。5因女（にょう）。6国はん。7イえ。8イ此トアリテ下ニ「板ニ」アリ、国此のアリ。9イげにアリ、イ日頃アリ。10因考異て。11國イに。12イば。13因殿アリ。14因なり。15因男（をのこ）。16因御アリ。17廿二字國イナシ。18国み給ひぬ。19国のアリ。20因々の分（わが）れ給ひし後は。21因のアリ。22イふ。23因考異このアリ。24因を。25国のアリ。26因給へればさて移りアリ。27因今までアリ。



ばら宮ばら住み給へ1る町2は藤壺に奉り給3ふ、いま一町をば、あなたの北の方に奉らせ給ふ4。5多く外へ渡り給ふやうなれど、たゞ6その殿の廻り7に、あるは向に、あるは8傍に、遠しとて一町二町を離りつゝ住み給へ9ど、同じやうに御門の隣と云ふ10ばか11 12になん。

かゝる程に、大納言殿北の方まだ對13面し給はねば、移ろひもえし給はず、侘びおはす。「怪しう14計りし事にて、此の月頃15怨じ給16はでかゝる事」と歎き給ひつゝ、御文度々奉り給へど御返なし、たち返り聞え給ふ。「17彼處に待ちわたりなんとするを、人18をば忌19んと云ふなるを、たゞあか20らさまに渡り給21ひて歸22り給ひ23ねかし。24（か）く年月隔てゝ怨じ給ふべき事とも思えぬを、人の容言云ふにつけてやは。明日よき日なるを、必ず」と聞え給へれば、大宮、「げにいと見苦しき事25なるなり。早渡り給へ。いかでか一所は物し給はん、から事なきやうに見え給ふこそ」など聞え給へば、御返に、「いざさらば渡らむ。ゆゝしげなる人26は」などぞ聞え給ひける。さてそれも渡り給ひぬ。彼方には女御27君、大宮の住み給ひし北の御殿には、女28御達引き29て、西の二の對かけて住み給ふ。大將殿の御方は、東30一二の對、廊かけて住み給ふ。西の一の對には彈正の宮住み給ふ。東の一31（の）對の北面、よくしつらひて、少將の妹迎へて住32み給ふ。

校異 1 因りし。2 イをば。3 因ひ。4 国を御子どももアリ。5 イ御子どもあり。6 因こ。7 四字國イナシ。8 國イ兄弟。9 国ば。10 国憚り。11 イりアリ。12 イり。13 因面。14 国はかなき。15 國怨。16 国ひて。17 因かしこ。18 国の。19 イむ。20 國イす。21 國イはゞ。22 國し。23 國イぬ。24 一字イニヨリテ補フ。25 イナシ。26 因かなと。27 国のアリ。28 イ君。29 因率アリ。30 因のアリ。31 一字イニヨリテ補フ。32 因ませ。

藤壺の得給1ひつる所は、左の大殿住み給2ひつるを、外へ渡り給はんとて、御簾懸け壁し3といつ「（代）」4御帳御座などいと清5げにしつらひ給へ6り。式部卿7宮の御方も御簾など懸け8給へり。對9どもにはさもせず。かゝる程に、藤壺「10いかゞ今出で給はん」と宮に聞え給へれば、梨壺11も、その程は過ぐしてこそ出でんなどか、そこに12もかねて急ぎ給ふ」と聞え給ふ。

［評］13此所14は藤壺。

かくて太政大臣は、御年高くなり給ひにければ、そこはかとなく悩み給ひて、心細く思す事ども有りければ、「君達皆公に仕うまつり、不足15そ〔〇要〕なんもなし。我打ち棄てゝ亡くなりなんとて、右16大臣の物し給へば、顧み思ひてん。17同じく後めたき者は宮18の19女御、實忠思ふに黄泉に往き難20 21ふ、ある世にだに、女子は萬の事むつ22かしくやさしきもの23と、宰相24朝臣、公に25仕りぬべく、かた26か〔〇容貌〕心人には劣らざりしかば、我が家嗣ぐべきはこれかと27こそ思ひしか。淺ましく、幸た28くて、物に誤れるやうに心まどひもなくなり果てゝ、世に29さて交30らはずなりぬる事」をなん顧に思ほえて、民部卿の君中將31君

校異 1イへ、2イへ、3イろ。4底御。5イら。6國イる。7底のアリ。8底春へアリ。9イなど。10イたゞ。11國イぞ。12底しアリ。13以下五字イナシ。14一字底けノ傍ニヘトセル八誤。15イう。16底のアリ。17底たゞ。18以下二字イと、イこ。19二字イナシ、底君。20イしアリ。21底う、底し 22イまじ。23底なり。24底のアリ。25イ仕うまつ。26イち。27國イぞ。28國イらで。29イまで、底出で。30底考異ろ。31底のアリ。

などに聞え給ふ、「日頃經るまゝに、心地のえあるまじくのみ覺ゆるを、いかで右1の大殿に對3面せん。さなんと申4すに奉れ給へ。さては宰相に、我が非ざ5ら(常)の時にも逢ひ見で止みぬべきか、いかに思ひたる6る、世の中に愛しきものは親7こそ言へ、8こ9の上も知らず、さても有りぬべかりし身をも捨てゝ有るは、いかなる10にかあらむ、哀になり果てぬべき人かな、かう心地なむ弱くなりにたる事告げに遣り給へ。今一度だに見るまじきか」と宣へば、君達いみじう泣き給ひて、右の大殿には民部卿の君、小野には中將參うで給ひて、有りつるやうを委しく聞え給へば、宰相とばかり物も宣はで、いと久しく11思ひはからひて、「惱み給ふとは承りて久しくなりぬるを、いかで參り來んとは思ひ給ふれど、世12の中にまだ侍りけると人の見んも、有樣などもその人にも侍らず。人々の見給はん事など思13ひ給へつゝなん。かく重く惱ませ給ふなるを、いかでか參らざらん」とて、夜に隱れて出で立ち給ふ。民部卿14は15大殿にかう／＼など申し給へば、參り給へり。太政大臣、御脇息に押しかゝりおはしまして、内に請じ入れ給へり。御物語など聞え給ふに、中將の君、「宰相の朝臣參り16て侍り給ふ」と申し給ふ。大臣、「此方に呼べ」と宣ふ。宰相、右の大臣侍ひ給へば、更に出で給はず。度々召せども參り給はず、大臣おはします御屏風の後に忍びて侍ひ給ふ。宮の君參りて大臣につき奉り給ひて物し給ふ。17(右の)大臣に聞え給ふ。「月日の經るまゝに病のまされば、なほえ

校異 1国のアリ。2国大臣。3因面。4因し。5イう。6イぞ。7イをアリ。8イそ。9イは、国が。10因考異事アリ。11因忍びため。12因のアリ。13因考異う。14国右の。15因右のアリ。16イナシ。17二字因ニヨリテ補フ。

侍るまじきにこそあめれ。何か、人の惜むべき程にもあらず、又命の惜かるべきにもあらず。七十に餘りて公にも1仕りぬれば、理。たゞ思ひ侍る事は、子二人が上をなん思ひ侍る。實頼もまだかう下臈に侍れば後めたけれど、殿の物し給へば、さりともと頼み聞えたり。女御の上は、人に聞え置くべきにもあらず。たゞ宰相をなん思ひ侍2(る)に、3黄泉も安4くも罷るまじく、萬の所の蹋となる心地し侍るを、心もて身をいたづらになしつる人にこそはと見侍れど、なほ5うれなんあたらしく後めたう見侍る。折あらばこれ顧みさせ給へ。世6中思ひ捨てゝ侍れど、これいたづらになし給ふな」と泣く〳〵聞え給ふ。右7大臣、「いともいともめづらし8く此所に參り給ふなるを、などか御前には侍ひ給はぬ。年頃昔よりいかで心ざし深しとは、此君をこそ思ひ聞えしか。又侍9(る)所に物10し給ひしかば、哀にむつまじきものに思ひ聞えしかども、怪しう年頃山里に籠り物し給ふらんは、世11中に倦じ給ふ事やあらな。何でふ御心有りてかなど思ひ給ふるを。さ12いと年頃13侍る14所にこれかれ物し給ふ事侍る15とか、早16くより思う給へ心ざし侍りしものを、雜役などにも使ひ給へなど消息聞えたりしに、御返17 18し給ひしかば、思ほす心あるやうになん見給へし。それは此の宮に19侍ふ者のまだ里に侍ひし時なん物など宣ひけるを、更に知り給へざりける。そが中にも宣旨侍

校異 1 因仕うまつ。2 一字イニヨリテ補フ。3 イ黄泉。4 國安と。5 国こ。6 因のアリ。7 国のアリ。8 イき。9 一字イニヨリテ補フ。10 イ宣。11 因のアリ。12 国れど。13 以下四字因ナシ。14 國イ心。15 国時。16 イう。17 因りアリ。18 イ見。19 イ侍る。

りて、源中納言に賜へと仰せられしかば、背かぬ者なれば、しか思1ひ給へしを、宮より重く勘當せられしかば、參らせ侍りしなり。これにこそなん人々多く恨ども侍りける。宰相の君におき奉りては、正頼に委し2く言ふ人侍らましかば、何か、ともかくも思ひ給へまし。仰せ言なくとも、昔の事を更に忘れ侍らず。いはんや更にかく仰せらるれば、よからぬ男どもよりも、いかでとなん思3ひ給ふ4」5など聞え給ふ。大臣いとかしこく御しほたれ給ひて、「などか實忠の朝臣の辛うじて物6したなるを、此方には物せぬ。すべて、7己には會ひ見じと思ふ心やある」と宣へど、參り給はねば、右の大臣いといとほしと思す。さて大臣民部卿に筆取らせ給ひて、御處分の文書かせ給ふ。「大きなる殿8みある、9男住10み給ふをば宮の君に、今一11(つ)次ぎたる12は、大きなる莊13々どもの國々14なる15、昔より16なるに、齊にし給17ふをひた18り、細かなる物19源宰相に、今一20(つ)の殿21、女の使ひ給ふべき調度加へ22」と宣ふ。「これは宰相の朝臣の忘れにし人の23女24こ一人あらん、今は大きになりたらん。淺ましう心あやまりしたるやうにて、よろしく聞えし女子をも、いたづらになしつめるを、それに取らす25」と宣ひて、中將の君などには、所々に領じ給ふ所數多有り。何もく民部卿など皆同じごとく得給26ひければ、此の二所皆得給ひて、か27ゝ書かせ奉り給

校異 1 因考異う。2 因考異う。3 国ふ、因考異う。4 国るアリ。5 イかなど。6 イ宣ふ。7 イ我。8 イ二、因三つ。9 イを此の。10 國イん。11 一字イニヨリテ補フ。12 因に。13 因ナシ。14 因考異にあアリ。15 因考異にアリ。16 イ中。17 イひ置い、国ひ置、因ひ。18 イる。19 因孫へてアリ。20 一字イニヨリテ補フ。21 因にアリ。22 イてアリ。23 因女。24 イ子。25 イるノリ。26 イふそれは。27 イく。

ひて、御名押し給ふ。右1大殿にも2御3判せさせ奉り給ふ。さて萬の4物語聞えさせ給ひて泣き給5ふ。源宰相もいみじう泣き給ふ。御前にはいまだ出で給はず。さて右の大臣罷出給ひぬ、宰相大臣の御前に參り給ふ。大臣萬の御物語し給ふ、「世6中と云ふもの、事につけて、とある事かゝる事あれど、知らぬやうにて經ればこそあれ、はかなき女の上などにつけて、身をいたづらになしつる事」など宣へば、宰相、「何か、さやうなる7佞言にも侍らず。殿の上隠れ給ひにし後、世の中心憂く思8ひ給へしかば、すべて世に侍らじと思9ひ給へしなり」大臣、「それは我もいみじく悲しと思ひしかばこそ、また人をも住ませで年頃一人は有りつれ。そもそもかの10事足りし人は、何方か物11しにし。12男子ははかなく13は失ひつめり14き。女子さへ15はいかにしなしてし。年頃はたゞ行人よりも16 17哀にてあり經めれば、子と云ふものなかめり。いかにせよと思ふぞ」など宣ふ。宰相、「知り侍らず。かの侍りし所にも今は物せずとなん承る。世18中心憂しと思ひ給19へしかば、尋ね侍らず」大臣20、「いと怪しかなり。早求めさせよ。すべて現心もなき人にこそあめれ。先づは我かく世の果に、年頃有りて逢ひたる21をも、殊に悲しとも22ゑひたらざめ23なをや。いと愛しき人にも有るかな」と宣へば、涙を雨の如く零す。御前なる人涙24を落さぬなし。民部卿、「此所の25御昔人は、

校異 1国のアリ。2イ御。3国覺ぜ、因考異名せ。4イ御アリ。5イひけり。6因のアリ。7因事。8因ら。9因う。10イ子供持た、国ごと子供足。11因考異せ。12イ男、國イおとゞ。13イて。14イナシ。15イナシ。16因いとアリ、因考異げにアリ。17イけ、国哀れげ。18因のアリ。19イひ。20イはアリ。21因に。22イ思。23イる。24國イナシ。25因考異ナシ。

志賀の山本、比叡1辻の邊にいとをかしき山里侍り、そこにこそ年頃物せらるゝなれ2。三條に物せられける3は、これかれ好きごと言ひ違ふ宰相の中將など消息絶4たれければ、それに思ひ倦じて籠5りたるとなん承りし」宰相6の右7大將8の中將なりし時、諸共に往きたりし所は、さばそこ9か、若き人の聲せしは、我が女にや有りけん、怪しく、人は住むものから、音せぬ所とは思ひしぞかし、淺ましく物覺えず有りける10心地かな、いかにをかしくも怪しくも思ひけんなど思ほすに、哀に悲しく覺ゆる事限りなし。大臣、「早その11人の有所12を尋ねよ。その女子をだにいたづらになし果つな。朝臣はた13に〔〇不〕14用の人なめれば、只今の15事我が位はえ有るまじかめり。我が子になして宮仕16ひをも、よろしからむ事もせさせよとてなん、いさゝかなる物ども17も物する」など多くの御物語などし給ふ。かくて、宮の君に聞え給ふ、「此の家に、開け使はぬ納殿五18 19なり。20これはこの屋々には、やんごとなき物どもあらん。21所々に22は、人のなくてえあらぬ物ども23皆置かせたり。莊々數多ある中に、24世にたきあふみたにの程に、折に從ひて、かかる折に賜はずなりぬるを、あたらかし、此所おはする君の少し情なくぞ。民部卿心廣く後安き人なり。そ

校異 1図のアリ。2〔イ〕ばアリ。3図に。4イえに、国え、図えずアリ。5図られ、國イれ。6国ナシ。7国のアリ。8図殿アリ。9図にこそ。10〔イ〕心のアリ、イ頃のアリ。11二字國イナシ。12図ナシ。13イふ。14国要。15図ごと。16図へ。17國イナシ。18図つあアリ。19イあ。20図その二つ、図考異この二つ。21図三つの屋々。22國イナシ。23図品々。24図遠江、丹波の國、尾張、信濃、飛驒なるは、殊に勝れたなるを渡せしぞかし、これをだにな失ひ給ひそ、この東宮に侍。

れ1を御り食入れ奉りてん。我を忘3れざらん人は、此所をこそ4は訪ひ申さめ」など宣ふ。宮の君の聞え給ふ。一自ら5ご覽じけむ。宮も昔はかく6もおはしまさざりき。此の7藤壺と云ふ者參りて8なん。おのれならぬやんごとなき人の御爲めも、かくのみなん。世の中に9人侍る年頃の世の人のとありかゝりと承るごとには、殿の御事を10と思11ふ給へ12入る、胸潰れて恐ろしく13は侍りつれ。かゝる事宜はすなる、いみじく悲しき事。ナ免れおはしまさぬものならば、諸共に率ておはしまし14 15程、萬の寶を賜ひても、おはしま16さざらん世には、いかでか侍らん。萬の物も17失すれば片時に無くなる物にこそ侍るなれ」と泣き惑ひ給ふ。大臣、「何かそは、いとよく物し給ひなん。今は異なる事なくば、な參り給ひそ。我が有りつる18時、19牛車供の人具して20物し給21ひつる時だに、覽22(東)なかりつるものを、人笑はれにて出で入し給ふ、いと見苦しか23ならん」など聞え給ふ。

かくて萬のあるべき事、後の御世の事など書かせ給ひて、御位返し24給25へれば、御髮剃し給ひて薨れ給ひぬ。二月26晦日太政大臣27殿御弔に、左右の大將、一つ御腹の右28大殿の君達、日々に參り給ふ。かくて右の大臣殿は、一29の御腹の弟におは30せれば、殿の君達、大臣も御暇になり給ひぬれば、藤壺も夜さり歸

校異 1囡そ。2国口。3イら。4囡考異ナシ。5イ御。6イナシ。7國つち。8イナシ。9イ經。10国ナシ。11国う。12イつ。13囡ナシ。14イしアリ。15イね。16國す。17囡女領す。18囡折。19イ輿。20囡參りアリ。21イへ。22一字イニヨリテ補フ。23イる。24囡寒れアリ。25囡ひ。26国廿日。27国の。28囡のアリ。29国つ。30イす。

出給ひなんとす。宮此度はえ留め給はで、その日は入り臥し給へり。御物語し給ふ。「からてあり習ひて、物言ひふるゝ人なくてあらむ。梨壺さへ罷出給1ひつらむ2こそ」君「院の御方、左3大臣4など物し給ふめ5るぞ。式部卿6宮のも、今日明日物し給ひぬべかめり」宮「7そこに8物し給はざらん程に人に物言はじとぞ思ふ。そこにずるなりけりとていとゞ言はんものを。院の9さいとかたじけなく哀にも思ひ聞ゆれど、恐ろしく菀10くしき11心持給12へる13こそ。女は何心なく物思ひ知らぬやうなるこそ。かつはそこを憎み給ふこそ、さらでも有りぬべき事なれ。さては此のさがな者こそ今はいとらうたけれ。心ぞ人14々見ゆべくもあらず、見る日15もことなる事なし。子なども今はいかでか。兄弟ども数多あめれども、いとよくもあらざめり。親の物せられつる時こそさても有りつれ、いかに心細く侘びしからん。いかに16と訪ひ17に、故太政大臣のいといたう嘆18くと聞19きしものを、我だに心留めて思はずば惑ひぬべき」君「實忠の朝臣の爲めには、聞きにくき事言ふとて、もとより20まうも21し來22りさなりき。里に罷出て、人はうたて言ひなすとも、實忠の朝臣訪ひに遣さん23と24て」宮「それならぬこそ。うとからぬ仲らひなる中にも、此の人々どもは妹の爲めぞおろかなるや。さるは同じ親にこそあめれ。右の大將の、同じ腹にもあらず25なるもよろし

校異 1イへ。2イうち。3因のアリ。4因のアリ。5因りそがうち。6因のアリ。7イはた。8國イめも。9イナシ、因は。10イ々。11イをアリ、因御アリ。12國イひつ歟。13因にぞ。14イに。15イし。16因ナシ。17因てん。18因きし。19因えつれば。20イよう、因消息、國イ二字ナシ。21以下五字因聞え給はざ。22以下二字イらず、イらざ。23以下二字因ナシ。24一字因こそ。25イ仲。

かるまじきが、兄妹(はらから)哀に思ひたゆめれば、誰々1心見えてあらまほしくこそ」君「數多侍らねばいかでか。昔里に侍りし時、はかなき言云ふ者數多侍りしを、すなはち皆忘れぬめりしに、實忠2いまだ忘れず、宮仕(さかへ)をもせず3侍るなれば、あるが中に心長かりけるよろこび言ひ4に消さんとなり」宮「心長さは嬉しや。さはば5たゞ6には賴もしかなり。そこには此の事今は思し消りる7につけて、罷出をのみせらるれば苦しくこそ。とてもかうても諸共に見るべき身なら8ば、數知らず9もあらせまほしを、10さはた有るまじければ、いと11ど苦しくなん」とて、例の御車迎へ人參り給へれど、許し給はず。宮、「例の罷出給ひてば、とみに參られで、待たせ給はんとや」君12は、「何か、いかなるにか侍らな、此度(こたび)は怪しく心細くのみ侍れば、え參るまじきに13」とて、

草の葉に露の我が身14も15君去らばまつ16にも何か17かゝらざるべき

宮、「あなゆゝしや」とて、

露のよもまつにかゝれば貫(ぬ)き止(と)めて風にも消えぬ玉とこそなれ

と宣ひて、夜更くるまで罷出給はず。大殿(おとゞ)君達先(さき)に懲り給ひて、物も宣はず、待ち18煩ひ奉り給ひ、立ち返

校異 1 因にもアリ。2 因の朝臣今に。3 國はんべ。4 因考異ナシ。5 イこゝ。6 イれか。7 因考異かこアリ。8 イねアリ。9 因考異とアリ。10 國イナシ。11 因ナシ。12 イナシ。13 因やアリ。14 イし。15 イ消えざ。16 イナシ。17 イはアリ。18 イ佗び。

りつゝ御消息申させ給ふ。君、「罷出て思ふやうに侍らば、かく承れば靜心も侍らじ、いととく此度は。たゞ知らぬ1をこゝたん」宮、

「散る花も夢に見ゆなる春の夜を君外にてはいかに寐よとぞ

わ2りなくこそ」君、

花だにも同じ春にてはかなきを3我が4名5と外に行くをこそ思へ

と宣ひて、夜半6過ぎて曉まで罷出給はねば、大臣忍びて御局におはす。君達は7立ち寄りつゝ物8宣9ひ、童大人は裝10束き立ちて待ち奉れど、出で給はねば、君「さらば罷出侍りなん。大殿參りて侍る、心もとなくて侍らん。今11緋色の物などして12たらん月13日の程には、夜の間14は忍びて參り侍らん」と聞え給へば、宮、「いと嬉しかな15り。人の參るやうにて、出し車にて、夜々必ず、さら16ずば相思はれざりけりとなん」と17て、から18くして19起き給ひ20て、大臣おはしぬれば罷出給ふ。御車廿、大人四十人ばかり、童下仕八人、ひすまし二人。大臣上達部三所は御車にて兵部大輔21 22君より初めて23は、御馬にて、世の中に目明きたる人の限りは四位も五位もなきなし。六位は物とも見えず。御車御前乘り續きて、源中納言殿の住み給

校異 1 **イ**男子。3 國イか。3 以下四字国別れと、因別れて。4 一字**イ**れカ。5 **イ**て、**イ**は。6 因考異打ちアリ。7 **イ**曹司にアリ、国曹司々々にアリ。8 **イ**し給。9 **イ**ふ。10 **イ**東。11 因幾日、**イ**幾。12 **イ**立た。13 **イ**ナシ。14 因考異に。15 **イ**る。16 國イナシ。17 國イこそ。18 因うじ。19 因出で。20 因ぬ。21 国のアリ。22 **イ**君。23 **イ**ナシ、因皆。

ひし西の一の對の南の階に御車寄せて、左大辨の君宰相中將の君と御几帳さして、大臣左衞門督1君御車の簾垂引き上げて、下し奉り給ふ。異君達は皆御車のもとに立ち給へり。御車には四位五位2にだにかゝりて3四人、思4ひ給ふ樣親兄弟の御前なれど目出たき事物に似す。御裝束御容貌物の香など、限りなく目出たし。御車には兵衞の君5孫王の君などぞ6候ける。昨夜より大宮女御君7立ち8待ち奉り9給ふ。源中納言殿の北の方は、此の御方に入れ据ゑ奉り給ひて、代りて出でんと10覺えて、また物し給ふ。大臣上達部も11南の廂に、他君達は簀子におはする程に明くなりにた12り。大臣、一日13みしる參うで14有りぬべけれど、15怪しく人に許され16ねば、道の程17腹汚18に人もやと思ひて、參うでたりつるに、遲く出で給ひつる、いと心もとなくなん」嘆竃、「皆人罷出19たる頃しもとて暇を賜20は21りつ22れば、辛23くして、とかく聞えてなん」大臣「先に催し申して騷がれければ、煩はしさに物も申さでこそは待ち奉りつれ」と宣へば、大宮、「淺ましう久しく、一昨年の秋參り給ひしまゝに對24面せざりつる。かゝる事なくては、えこそ出で25ざめれ。何ぞと見んと掻き出で給へれ」とあれば、笑ひ給ひて、「見苦しと」聞え給ふ。女御、「罷出給26へ(ふ)によりて

校異 1イのアリ。2イわ。3イ寄せたり。4二字因考異ナシ。5国孫。6イさぶらひ。7因居アリ。8イにアリ。9国ておはします。10イ思し。11イ皆此。12國イる。13イら。14因でアリ。15イおや。16イ給はアリ。17國イはい。18イき。19因考異給ひアリ。20[イ]さアリ。21[玉]ざアリ。22因るを。23[玉]うじ。24因面。25因給はアリ。26一字[イ]ニヨリテ補フ。

こそは。内裏にも昔も後々にこそ1は罷出るを喜にも」大宮、「いで、なほいぶかしや」とて、御衣を掻き上げて見奉りて「此の度も同じ物にこそは」2と聞え給へば、君「いづら此の幼き人々は。まづそれをこそ何時しかと3こ4え5は」「渡り初め給ふ所なれば、三日までとて。若宮はいと大人しくなり給ひた6り。今一7所は、すゞろなる聲を打ち出だし給へば、8一9所は世にもと10て」君「さ言はせ奉11るまじく12てこそは。心もとなくはいかでか」と宣ふ。明くなり行くまゝに見給へば、此の大殿の造り樣しつらひ13〔　〕設備」さ14くに言ふべくもあらず。やがて出で給へるまゝに、御座ばかりをぞ敷き代へて、夢ばかり取り15置かし給ふ物なし。たゞ御自らぞ渡り給16ふべき。源中納言殿は、沈の小唐櫃のをかしげなるに、錠鍵取り具して奉り給ふ。「これよき隙なれば奉りてん。此所に持て使ひ侍る物どもなり。罷り渡るべき所にも侍るなれば、何かはとて。たゞ預からせ給へ」とて、「さて、此所におは17す18ませ給へ。寝殿はいと悪かめり。これは元のをば取り遣へて、かの吹上げ19てと云ひける所20を取りに遣りて奉るなめれ21ど、いと住みよし。此の西なる屋ともなん22ども、彼處のなれば對の樣になん。そが中にもとかく宜かるべきにせさせたる所なめり」と聞え給へば　大宮女御の君、「げにいかでか。これがやうなる所はいづくにもあら23ん。いとものよ

校異　1 因ナシ。2 國イナシ。3 以下三字因大宮。4 一字囝そ、国ひ。5 イナシ。6 イる。7 イと。8 以下五字因いと心　9 一字國イ頃。10 因ならアリ。11 国ら。12 因ナシ。13 イひ。14 国ら。15 イ落。16 因へり。17 囝しトアリテ下ニ「板」トアリ、国一。18 イさ。19 イナシ。20 因のアリ。21 イば。22 イとて。23 因し。

くこそ1此の筋あたり給2ふめれ」と宣ふ3に、源中納言4 5君は、「やがて三日の參り物仕うまつりて罷出ん」と宣ひて、東の對を行事所にて、家司6 7も紀伊守などして、おほ8えあり9かしこ御饗仕うまつる。男にも女にも、おはします限り御祈數カ、下臈には六10三な11んど12へつ掃ふへ渡したりし。かゝる程に、紫の色紙に書きて櫻の14花に付けた15る16 17文、宮より、御使藏人18、開けて見給へば、「只今の程はいかゞとなん。かくてはえ有るまじかりけり。何せん19罷出させて姑20ふこそ。

吹く風に花はのどかに見ゆれども靜心なき我が身何ぞも

先々いかでありけんとこそ」とあり。大臣、「此の御手こそ久しう見ねどこそ見21て、いと宜くなりにけり」とてさし入れ給へば、女御の君、「かしこけれど、此の御手こそ右22の大將の御手に覺え給へれ」藤壺23の、「たゞその書きて奉られたる本をこそは、男手も女手も習ひ給ふめれ。それ昔のやうにて、今の仰す24 25めれど、また奉られざめりしかば、それ驚か26すなどぞ宣は27しせし」女御の君28の「御29文書かむとてなりと聞きしは、さにやあらむ」大臣「萬の30事人には勝らんとなれる人にこそ」とて、宮の御使に31主物かづけ給ふ。御返、「今の程は旅にて、靜かなるにとなん」とて、

校異 1 戻はアリ。2 イはす、戻はすめれ。3 イ程アリ。4 戻のアリ。5 玉殿。6 戻とアリ。7 イも。8 イみ、戻ん。9 イる。10 イ四。11 戻ナシ。12 イづゝ。13 国ゑ。14 戻枝。15 國り。16 戻御アリ。17 國イふき。18 戻なりアリ。19 戻にアリ。20 国う。21 玉給ひアリ。22 戻ナシ。23 イナシ。24 戻考異ナアリ。25 イな。26 戻せ。27 戻ナシ。28 戻ナシ。29 戻文。30 國イとて。31 玉饗し。

「花よりも静かならぬは君もさては風も吹きあへぬ心なるらん

と思う給へるこそに」とて奉り給ひつ。

かくて三日過して歸り給はんとて、女御1君おはす。男は、初めはおはし代りつゝ、めづらしがり聞え給ふ。かくて夕つ方、直衣姿にて、いと目出たく參り給へり。簀子に御座敷き渡したり。あこ君簾のもとに御几帳立てゝ、御屏まし出でたれば、中納言「昔の人に違はず」など聞えて見ればいとあてになまめきたる人の、右大將のきみ2・3同じやうにもてなしたる人の、あれはことよなうなり4渡るなれど、これもいと花やかに、鬢つき色際などいと目出たし。あに5きして、「6土器賜はましかば、さ7る心もすべう侍りけるを、曹司に侍りしかば、身の程にこそ、雜の宿にて侍8るを、我に渡りおはしましたれば　思ふやうにはあれど　むつかしげになん9とあるに、聞え給へば、藤宣「千年を10重ねて聞き給ふと、これより11はいかでか」と宣ふ。御聲もいとほのかにて聞ゆれば、「申しつかぬにしも、此の度ばかりは心し12るたまし」とて、「參り侍る時は、必ず御消息聞えさすなど、人も聞えつか13ぬは、聞えさ14すと」宣はせやすらんと15て愼ましくなん」「御出で交16うひすみ17には、18とう(ご)訪ふか、疾うか、給ふべき19事の20と21ふ給はぬこそ怪しき事に　君

校異 1国のアリ。2イもアリ、イをもアリ。3國イもえのなし。4イにた。5宮君こ。6宮かく承。7國イく。8イりつアリ。9以下三字イナシ、一字宮ナシ。10國イか。11国も。12イ侍り、国り。13イぬ共、国ねば。14宮せず。15国ナシ。16イら。17宮ナシ。18宮考異たふ。19イと。20宮考異た。21宮う。

1宮はざらんには、心ざし有りとも、あこきなどはいかでか2」中納言「常にこそ聞えさすと思3ふれ。御返は今日のみこそなん」と聞え給ふ程に、彈正4宮おはしませば、立ち給ひぬ。宮は御簾の内に入り給ひぬ。女御の君に、「などか彼方には。十の皇子も此所に求め奉り給ふめり」と聞え給へば、「此所にいとめづらしき人に對5面賜6はるはや。彼方に7てなほ暫しおはし8せまし」と9聞え給ふ。彈正10宮、「げにめづらしうこそは」宮11參る時12に、すゞろなるやうなれば、御消息13を14奥らし聞えず。例の覺束な15うこそあらめと思へば、これよりもしば〳〵16と聞え給17ふ。先つ頃な參らせ給へりと承18はりしかど、え聞えさせず、我を待乳のとかや云ふやうになん」と聞え給ふ程に、夜さりの御物19御前ごとに參る。御折敷など取り代へて參る。かくて彈正20宮は、「今常21參り來ん。後め22たき事侍れば、宿23り24守に」と25て立ち給ひぬ。26宮「此の犬の餅參りし日、此の宮の怪しき事を宣ひしはまことか」と聞え給へば、「知らずや。何事にかは」27と、宮「世の中に苦しかるべきものは、若き人の好いたる、28子に」持たる29わざなりや。見苦しういみじきものを見ることそ、いと命長くなりなまほしけれ。此の近純と云ふ人の、童より怪しく好きて見えしかば、

校異 1図のアリ。2イはアリ。3国はゆ。4図のアリ。5図面。6国へ。7図ナシ。8イして、イしませと。9國イにアリ。10図のアリ。11図にアリ。12図は。13以下四字図もえで。14以下二字図考選もど。15國イと。16イナシ。17図はず。18二字国ニヨリテ補フ。19國イナシ。20図のアリ。21イにアリ。22國イてにカ。23イナシ。24イ取り。25國イこそ。26図大アリ。27図大。28図考異こそ。29国うたてきアリ。

そへ物になりぬべしとて、彼所に許し給はで有りしものゝ、人定めて有りしかば、目易しと見しを、如何しけむ、そこに1もあらで、たゞ彼方にのみ有りて、己2がせん3な〔○名カ〕4に侘びぬ。その云ふやうは、5心一つ6に得7たらずば、いかにも〳〵と思へども、親の8先に命なき人あらはたれば、かく申すに、その如くならし給9へとにはあらず。20佛神にも此の事な11思はせ給ひそと申させんなど12こそ13など言ひつつ、常に喜び樂しむを見るこそいと世に經まほしけれ」と聞え給14ふ。藤壺「何事をいかに思すぞ。すゞろなる事、有るまじき、思ひ初むるもよからぬわざにこそ」と宣へば、「知らずや。その言ふ15と、いと恐ろしや。此の仲らひにこそはあめれ」女御16君、「何かぞ。一の宮をこそ人よりは殊に思ひ聞え給17へめれ」宮、「あなうたてや。いかでか。そは若宮にこそあべかめれ。まだ西の對におはせし時、垣間見18をなむしたりしかば、一の宮と御碁打ち19たりしを見奉りしまゝに、いと20命ながら馴れしかば、かくて21やかならんとぞ云ふ」女御22君「一の宮も昨日今日侍從なりし人に付きてこそはあるなるに、上もこよな23う思ひ聞え給ふめりし24を、かゝるわざ帝の仕置き給ふめりしかば、25外26人だにかくてこそは、我もとこそ27思28ふ

校異 1イナシ。2因何、因考異ナシ。3因ナシ。4因考異う、因考異り、國イわう。5イナシ。6イも。7イ絶え、玉堪へ。8イ騷ぎも。9イべき。10イ神佛。11國ほもアリ。12因考異とアリ。13イと、因考異二字ナシ。14因考異へば。15国事。16因のアリ。17国ふ、因ふべか。18国せ。19因給ひ。20因後永う。21[イ]已む事、イ止むる。22国のアリ。23イく。24因ナシ。25以下二字イなかう、[イ]外にと、因外に。26一字國イそ。27イはアリ。28國イは。

1らめ」宮「あな目覺ましや。一2口にてもはた。人は位3は有樣する4事すわざなどこそ。かく知らば、帝5をもと6るかとな7るらんをば何にかは。怪しく、見聞けば、物し給ふ人にこそ物し給ふめれ。8寺にも許されたるやうに、善き人も惡しき人も、いかで此の人に物を言ひ9笑ひにしがなと思はれ給へ10つゝは、いかなる11にか。上達部君達、近く12は親に物し給13(ふ)めれど、同じ事を諸共に申しなるるに、14此の15なり、かしこの16はならざ17んめるに、若き人の昨日今日出で立つに、なさるゝ18事、さらぬは心よからざ19る20れ21ど、見る顏容に、分けて皆靡き從ひてこそ。かく有難き人の、皆習ひは22ゝや。うたていかでかはす23ゝむ」藤壺「かしこく物し給ふなれば、さ聞え給ふにこそ。はかなき事を心一つに思ひて、はかなくなる時はいと幼しや。よう心し給へと聞ゆるやう有24(り)。何れとにあらねど、25ひるなかに26人に27もなり給ひぬべかめる28もの29、30人々」と31聞え給へば、女御32君33、「こゝにも思ふやう有りや。34衣更してば參りなむとす35るを、此の36宮達をこそ内裏に率て奉らんとすれ37ど、參上りたらん間の後めたく、一

校異 1イなアリ。2國つち。3イかアリ。4二字イナシ。5国も。6イかうと、国今日事。7イか、因考異ナシ。8イにてし〔○手師カ、弟子カ〕、国父。9因渡ら。10國ば。11国故アリ。12イナシ。13一字イニヨリテ補フ。14イ殘り、国後、因考異ころ、因考異又後。15イちアリ。16イみ、因考異ナシ。17因考異ナシ。18イこそ。19國な。20イナシ、因考異な。21イナシ、イと。22イて、因てて、因考異つ、國イく。23イら。24一字イニヨリテ補フ。25イひかなる、因そが中にも如何なる、因考異いかなる、國イひかなるに。26国もアリ。27國イて。28二字イナシ。29イかやアリ。30因を、因考異ぞや。21イ宣。32因のアリ。33国のアリ。34國心には。35イれば。36イ君。37イば。

1宮の御許にと思へど、人の心も知らず、大將も2ニらめき給3つるれば、日の見樣なる心もやとて、御方にとこ二は思ひ給へつれ。かた4わなれたる馬の如5あるべかなれば、如何はすべからんを、所々參6るとて、いと憎げなる事をし給ふなれば、思ひこそ煩ひめれ。また怪しき事も有りや。みこふさいの人も、異樣なる事を7をれは許さ8ず、例のわざせんとぞあなるや」大宮打ち笑ひ給ひて、「若き者の9來をだに思ふところに、なほ一の宮の御方に預け奉り給へ。その大將は帝の聞し召10すに11すかんと思さじ。そが中に、宮にこよなう勝り給は12いここに」女御13君「いさや。人の心を知ら14ぬとぶらふ、恐ろしうこそ。うち〔○內カ、內裏カ〕に15思ふが後めたきは、此の宮たゞいかにやい16か17んと宣ふなり。御文18常にあれば、あな恐ろしや。后の宮のようし給はぬところになん」と宣ふ程に、夜更けぬれば、皆御殿籠りぬ。

あくる19つとめて、宮より御文あり。「昨日たち返20と思ひ給へし21かど、靜かならずと有りしかば、心あわたゞしくやとて。今宵は、

ありとのみ見ゆる寐覺の侘びしきに獨りある頃の22夢や何な23る

なほ一人はえこそ。夕暮24とは、いと便なき心地して、大空をのみなん」と聞え給へり。御使、兵衞の君の

校異 1因のアリ。 2イ怨み、因考異打見。 3イふべけ。 4イは。 5因考異くアリ。 6イり。 7イおの、因考異ナシ。 8以下三字イれ、一字因考異ナシ。 9因狂ふ。 10国さん。 11因もよからず。 12イば。 13因のアリ。 14国ねば。 15因とアリ。 16國ら。 17国に。 18因もアリ。 19イ日アリ。 20イすアリ、イりアリ、因りて。 21國イもと。 22因夢ぬ。 23因り。 24イなど。

せう1（と）（〇兒）賤人の内裏許されたる　御前に参り、「今宵はたゞ一所御遊びし給ひつゝ、御殿籠らずなりぬ」と聞ゆれば、「庚申にこそは有りつらめ」御返「されば2こそは3聞えさせしか。

程もなく忘れにけりな4夢にても思は5ましかばありと見ましや

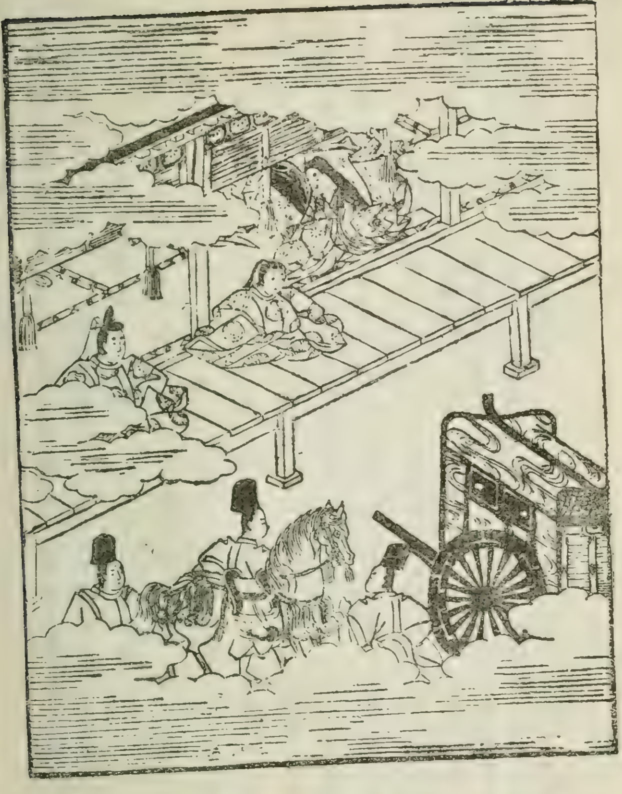
あかず心短かや」と聞え給ひて、「菰はうるさし。後に6は」と7宣へば、笑ひて参りぬ。かゝる程に、一の宮より御文有り、「いとめづらしう罷出給8ひつるを、いつしかとこそ待ち聞えつれ。などか9それよりも宣はざらん。いかで對面も疾くもがな。こゝにてさへ覺束なきまゝに、昔を今にとのみなん。こゝには立ち寄り10げも11、其方に参り來12ば宣はん13に」と聞え給へり。「承りぬ。罷出侍りては、すなはちめづらし14人をも先づとこそ15、こゝにこれかれ物し給へりけるに、聞えさせ承るとてなん。渡らせ給はんとか。いかでか。御守は恐ろしかめれど、今其方にを」と聞え給ふ。

かくて藤壺16、「17参りて、犬18ふとかゝ抱き19て奉らん」大宮、「こゝにえ見ざりしを、20用ゐて21は22せに物してこそ。それ23にだに、とみに出だし立て24寄せざりき」女御25君「此の頃はいと26をかしく、なりにたり。起き返り、しば（〇芝カ、暫カ）27はは28い（〇這ひカ、居カ）などし29て、人見てはたゞ笑ひ30〳〵て、

校異 1一字イニヨリテ補フ。2[因]こアリ。3イそはアリ。4[因]いめ。5國イせアリ。6イナシ。7[国]聞え給。8[因]へ。9[因]はアリ。10[国]給ひアリ。11[国]なきをアリ。12[因]む。13[国]まゝアリ。14イきアリ。15[国]思へ給ふめれどアリ。16イにアリ。17[因]宮にアリ。18[因]宮アリ。19[国]ナシ。20[因]餅食。21[不]見。22イ世。23イを。24イられ。25[因]のアリ。26イほ。27[不]〳〵、イし。28[国]ひ。29[因]考異ナシ。30イに笑ひ。

白くをかしければ、前に臥せ一常に1守らへてぞあ2る」「3彼をいかで4疾く疎き人にこそ5。6そが中にも、こゝにも何か宮は隱し給はん」女御7君8は、「誰にも隱し給はず。9何事を思し10たる11ら12ざめり」藤壺、「さ13大殿には」「いであなうたてや。女にだに隱さるゝ14ものは」など宣ふ程に、右大將夕つ方、直衣姿にて參うで給へり。例の簀子に褥參り給へり。居給15てみを、16これは見え給17へる人にいとこよなし。藤壺、なほこれはこよなくもはたと見給ふ。大將「先つ18頃も參りて侍りしかども、19よに20のみなん。御局の人も參らせ給はずと承りしかば、覺束なくてなん。かくておはしませば、今はむつか21らせ給ふまで22なんと聞え給ふに、孫王の君して答へさせ給ふ、「承りぬ。時々訪はせ給ふをなん、人心地は」大將、「いとやすき事にこそ23。常に參り來ば、いかなる人の御心24地にか」などと聞え給ふ程に、若宮達二所ながら、乳母達などして、大殿の御方よりおはしたり。かの大將の率り給25へる馬車ども26してお27ほして見28せ奉り給ふ。若宮はいとおとなしく、ひ29と〔〇一カ、人カ、紐カ〕ついさしなどしておはす。母宮いとめづらしう哀と見奉り給ひて、「心地こそ頭白くなりにたるやうなれ、かく大きになりに給ひたれば」御手習などはし

校異 1 図考異守。2 図なアリ。3 以下七字図藤壺のいらへ。4 二字イとて。5 国はアリ。6 イは内裏。7 図のアリ。8 〔イ〕宮アリ。9 イかくアリ。10 以下二字イ立た。11 以下二字國ナシ。12 以下四字図考異ずとなむ。13 國イ男。14 二字イナシ。15 イへ、国ひつ。16 イ見れば、イば。17 国ひつ。18 國イに。19 イ上。20 イをアリ。21 図しがアリ。22 図考異など。23 図はアリ。24 図ナシ。25 国ひつ。26 図持。27 国は。28 國そアリ。29 イも。



給ふや。何わざ1かし給ひつる」と問ひ聞え給へば、若宮、「何わざもせさする人もなければ、2大將かしこう書習はさんと宣ひしかば」母3君「いと嬉しき事かな。かの御弟子になり給ひて、萬のわざし給へ」などど聞え給へば、大將打ち笑みて、「おとなしう、4目に見す／＼人の5親にならせ給ひて。さても宮にはいかで仕6まつらんと思う給ふ7べき8を、今9はいとよう物遊ばしなどし給10ひつべかめるを、さる仰せ言もなければ」と聞え給へば、「誰か11は、こゝには知らで籠り侍れば、お12ほぞ13らたるやうなれば、こゝにかくて侍14(る)程に、いかで習はし奉らん」大將「いとやすき事なり。御文を仕15まつらん16。その日と仰せ言を」藤壺17、「手などもまだ習ひ給はざめるを、本をこそ先づ物せさせ給はめ。まことや、宮にも、書きてと聞え給ひける、18 19そこの20(か)し聞え奉れよ、使21が22らか見んと宣ひしを、賜りて奉らばや」大將「いと怪しく、異樣なる物をぞ召すや。早く書きてさぶらひたれど、憚ましうてえ參らせ侍らず」と聞え給へば、「早う奉り23けるてぞ、此の頃は待たせ給ふとなん」大將、「さらば、とまれかうまれ、今參らせ侍らん。若宮の御料には、只今も侍24(り)なんかし」と聞え給ふ。藤壺「今さるべからん時に聞え侍らん。その日も取らせ給へ。さて、かの人に見せ給はざんなる人はこゝにいつしか。とくとこそ思ひ」大將、「いさや、とに

校異 1イナシ。2二字イナシ。3イ宮。4國召す。5宸御アリ。6イうアリ。7国る。8イナシ。9イに。10国ふ。11國イナシ。12國イう。13イう、イを。14一字イニヨリテ補フ。15[イ]うアリ。16国とアリ。17[イ]のアリ。18国書き奉り給ふ、はきしねがアリ。19イも、[イ]そ。20一字イニヨリテ補フ。21以下五字国裏書かん、宸がら書かむものぞ。22一字國う。23国給へと。24一字[イ]ニヨリテ補フ。

きよりいと醜1けれめれば、か2うもりがしたりけんやうにてぞよげなるや」などて、「さらば靜かに、かのか3うもりを率て參らせん」とて歸り給ひぬ。

かくてその日暮れ4つゝつとめて、今日5もよき日なれば、6鑰の小辛櫃を開けて見給へば、白銀に捻り物したる鑰ども7みたさら付け8つゝいと多かなる中に、見給へば、源中納言の御手にて有9(り)、

君が爲め10と思ひし宿の鑰を見て明暮歎く心をも知れ

と有り。見付け給ひて、北の方11の方見給ひて、うたて有りと思して、かくし給12(ひ)つ。北の方、「殿13中たど、今日14古隱ぜよ」と宣へば、15宮も此の16にもき17ゝみ18 19も20開けさせ給はんずれば21思して、立てたるからの辛22櫃ども、いみじう淸ら23に十ばかりあり。開けて見給へば、萬の寶物、絹綾など樣々にあり。また樣々なる物に入れつゝ、さらぬ物もいと多かり。外には、三24尺の沈の御厨子、淺香の四25尺の御厨子二具、萬の男女の使ひ給ふべき調度ども、有難き淸らにて、數を盡くしてあり　すべて萬のてう26つ27くなど有り。六尺ばかりの金銅の蒔繪の厨子28 29萬、それに白銀30御器調じ、萬の調度白銀にして据31へた。

校異 1 イげな。2 国ら。3 因ら。4 國イナシ。5 因ナシ。6 イか。7 イ多くさしつなぎ、國たかうつけ。8 因て。9 一字イニヨリテ補フ。10 イナシ。11 二字イナシ。12 一字イニヨリテ補フ。13 国のアリ。14 イ御。15 国君。16 二字イナシ。17 イナシ。18 イにアリ。19 イに。20 因今日出で。21 イとアリ。22 イ櫃。23 イなる。24 国尺。25 国尺。26 以下二字国ど、イく。27 イナシ。28 イよりアリ。29 因四つ。30 国のアリ。31 国ゑ。

り。今片方には樣々の物どもいと多かり。此の御殿の西に七間の檜皮葺にてあり。左右の渡殿あり。御厨子所には、その西の屋をしたり。そこには白銀の2壺二3よばかり、ち4いさきなど同じ。笥には饗具しつつ、そこの5具どもいと目出たう6有り。7殿の內どもに8 9いけ10ちくに11使ふべき物12ども13多かり。かゝれそ14く15し〔○廚子カ、倉カ〕の前に十一間の檜皮屋有り。16それは納殿にて、米萬の物を納めたり。かゝれば藤壺、「思ほえず富をもせさせ給17ひつるかな。あな嬰、君よ、あひな賴みして居18こぶり〔○眠〕し給はんに」北の方、「などか、さも眠らまほしうなん。此の三條19と云ふ所は、20又京にも上らざりける時、設けたりけるとかや。此の有める物21くよ22う、すなはちより云ふめる。さればあひな賴めにもあらじや」と聞え給へば、「まことや、などそのめづらし人は。それもや、何ならば隱し給はんと23する」「24いさや、思ふやうならずとて憎むめれば、こゝにも、見苦し、女子ならましかば、若宮に奉らまし物をとぞ言ふや」と聞え給ふ。藤壺「味氣な。後にさるも有りなんものを」など聞え給ふ25に、日暮れぬれば、曉、源中納言渡り給26ひなんとす。御車廿ばかり、御前いと27になく設けられた28り。29日に二のわ30うは〔○童〕などしてぞ。

校異 1國イる。2国鍼。3国十。4国ひ。5**イ**て。6**イ**てアリ。7因北の外。8国はアリ。9以下四字因倉どもありその倉。10一字**イ**ら。11因はアリ。12國いと。13国いとアリ。14**イ**つ。15**イ**ら與、国ら。16**イ**ければ。17**イ**へ。18**イ**ね。19國イ殿。20**イ**まだ。21以下三字因の具ぞ。22**イ**とアリ。23国やアリ、因考異やとやアリ。24因いらへ。25因ナシ。26因考異は。27**イ**よ。28有る。29以下十一字因いと裝ほしうてぞ。30一字**イ**ら。

渡り給ひぬ。此の殿は堀河よりは東、三條の大路よりは北二町、吹上の壺造り磨きて、萬の調度は片山に積みたるやうにておはす。

かくて三日過ぎぬ。女御1君大宮渡り給ひなんとて、「かくて徒然とは。彼處に暫し渡り給へ。年頃の物語も聞えん」と宣へば、「今などて渡り給ひぬ。藤壺源宰相訪はんと思す。

2 3大臣4は、二月廿七日の程に、とかくし奉りて、殿に皆集り給ひて、土殿して男君達のもおは5し、宮の君は御局しておはす。7藤壺は8大臣の御方に渡り給ひぬ。此の西の對には人々多く候ふ。9かくて10りやう〳〵(線)の11鈍色の12 13薄らかなる一重に書き給ふ、「年頃覺束なきまでに。などかはそれよりも。時々はいと哀に思はし忘れ14ぬやうになんと人の物すれば、思はずに心長くもと承りつる程に、いとも〳〵哀に悲しき御思ひを、いかに〳〵となん。いと怪しう御宮仕へを怠り給15へかめるやうなるをだに、いといと16Δおしと思ひ給へる物を。

木隠れてすむと聞きつる山川になど藤波の袖にたつらん

世の中のはかなきにつけて17も、萬思18ひ給へらるゝ」とて、藤の花に付けて、兵衛の君の兄の、童なりし

校異 1 因のアリ。2 国かくて太政アリ。3 因大殿。4 国殿にアリ、因にアリ。5 国はし。6 イす。7 国かくて紙アリ。8 国大い殿。9 以下七字国考異ナシ。10 以下二字イれ。11 イ鈍。12 因紙アリ。13 イ直よ、因考異紙の直よ。14 國イナシ。15 イふべか。16 国ほ。17 イナシ。18 因う。

が、今は東宮1藏人になし給へるを召して、「これおほき大殿に持て參りて、人々數多物し給へらん、源宰相に定かに奉れ」とて賜へば、喜びて持て參る。かの御方の人は皆見知りたり。殿にうちはへ物し給ひて、兵衞の君語らひ給ひし時は、これを使にてぞ御文通はし給へる。藏人、かの君の近く使ひ給ひし、侍の人に、「これ定かに參らせよとなん仰せられつる」とて取らすれば、「いみじう2おし嘆くに、此の御文を御覽ぜば少し思し慰めてん」と喜びて物も聞え3で奉れば、「いづくよりぞ」「知らず。參らせよとて人の申しつる」と申す。引き開けて見給ふ。かの御手なれば、見果てで泣きに泣き給ふ。民部卿の「藤壺のな4り5か6な。賜7人。見給へむ」答へ「ま8だ見給9ふや、目も見え侍らねば。親と聞ゆるものは、おはしまさぬ世にも、10御11と、嬉しきものなりけり。こゝらの年頃、身をいたづらになして侍りつれど、音もし給はざりつるものを」とて、いみじう泣き給ふを、宮の君12見給ひて、「さ言へども、はた密夫13と云ふとぶらはれためりかし。か14う忍人設け給15(16ふ)めるを、二つなく思し騷ぐ」と宣ふを、民部卿聞き給ひて、「いみじう17は。これ聞き給へ」とて、つきじろひて、爪彈をし18おはさうず。宰相、「まだ小野に侍りし時、宰相中將物19し給ひたりき。哀にあなる事など、時々宣ふとなん告げし」などて、御返り書き給ふ、「いともくめづ

校異 1 丙のアリ。2 イ思、國イおほ。3 イナシ。4 イる。5 以下二字丙や。6 イナシ。7 イへ。8 丙だ。9 丙へず。10 以下三字国いとゞ。11 二字イ德。12 イ聞き。13 丙こそ。14 丙考異く。15 一字国ニヨリテ補フ。16 イひ、イふ歟。17 丙ナシ。18 丙てアリ。19 イ宣。

らし1きは、限りなく喜び、かくいみじき喜びの侍りしにも、今日なん少し年頃の心地思ひ給へ慰むやうに。させても、

淚川袂に淵のなかりせば沈むも知らであらむとやせし

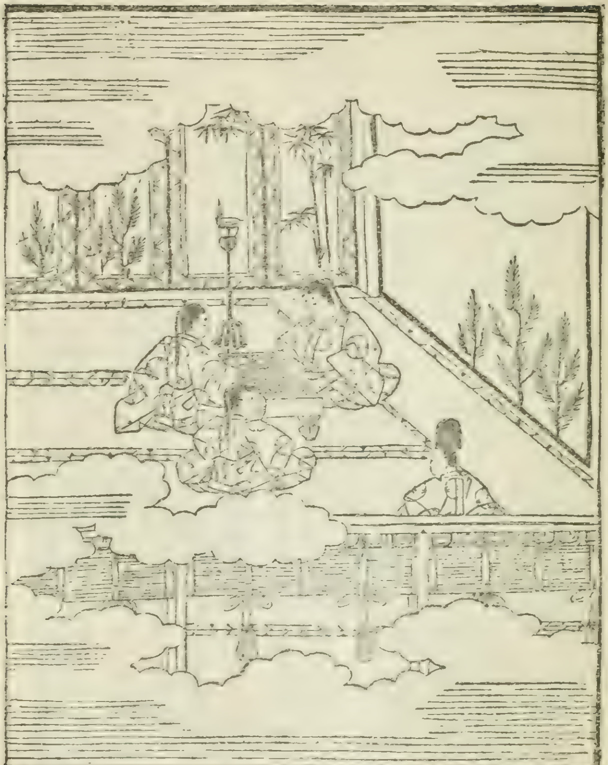
身を捨てゝ思う給へ嘆きつるものを、かゝる折の侍2りければ、身の爲めにはいみじき事のあらんのみこそ3と思ひ給ふるも、口は心憂くこそ。たまさかに里におはしますなるを、今只過ぎ侍りなば參り來て、今日のかしこまりも喜び4も聞えさせん。例のやうにた5もてな6させ給ひね。今はたゞ狹しと云ふなる道一つを」など7いと濃き鈍色の紙に書きて、いと面白き八重山吹に付けたり。此の御使に何わざをせんと思しめぐら8して、兵衛の君の返したりし箱の、外にありける、金入りながら9共に遣はして、10鈍色の紙に包みて、その紙に

「此の箱は君に讓らん我か身には今日訪ふ人に得すものぞなき永き心11」と書きて、「此の御使は誰ぞ」と問はせ給へば、「童名これ12はたと召し13くが、今は宮の藏人に侍るなん參り來たり」君「14昔睦まじかりし人15と思して賜16(へ)るにこそ有りけれ。こゝに忍びて立ち寄れと云へ」と宣へば、簀子もなき蔀にかゝれる所なりければ、そこにて物17越にて宣ふ、「いとめづらしく嬉し。

校異 1 国さ。2 イるべ。3 國イナシ。4 國イナシ。5 國イり。6 國イき。7 イ云ふ。8 國イん。9 国取り。10 イ鈍。11 國イとかアリ。12 国こそ。13 イし。14 國イむし。15 國ナシ。16 一字イニヨリテ補フ。17 國イ

しき御使に物せられたなれど、かく人にも見えで籠り侍れば、對1面せず。忍びて妹の君して申させ給へ、御文には物2も覺えねば、こと〴〵にも聞えず。今必ず參り侍らん。制し給ひし人もおはせ3ぬは、今は山林にも深く入りたんと思4ひ給ふるを、聞え置くべき人の上など侍るを、昔のやうにはな思しそ5なんどなん聞えつると申し給へ」と泣く〳〵宣ひて、「これは只ならぬ折ならぬ6に衣をも脫ぐべきを、年頃7なみな8た（〇行ひ）出でたる佛舍利なり。いく9なるまでこそは山籠りは」と10宣へば、「11いかでか無德の人は、賜はりて失ひ侍りなん。いと恐ろしき事」と聞ゆれば、「世に侍らざらむ形身にし給へ」とて、取らせて入り給ひて、御齋參り据ゑたれど聞し召さず、いみじう泣き12入りぬ、民部卿、「昔いかなる契りをなし給へる人なれば、此の御爲めにかゝる御心あらむ。音にのみ聞く人をば、かくしも思はぬものを。物越にても物聞え13んとやし給ひし」「なほ14さるにこそ侍るめれ。かの殿に侍りし時、兵衞15君に、御階だに開かせよと責めしかば、中の御殿の東の簾と格子との間になん入16りたりし。格子の穴あり。開けて見しかば、母屋の御簾を上げて、火を前に燈して、此の大將の君の得給へる御子と碁たん打ち給ひし。さては琴彈きなどなん。それを見しまゝに寒がり17にし胸なんまだささながら」民部卿、「さて如何有りし。何れか優りて見え給ひし」

校異 1要面。2イしアリ。3イればゞ。4因ら。5イと。6イればば、要ましかば。7イおこ。8イひ。9イよアリ。10因て賜。11因考異答へかばかりの物。12因居給へ。13イなんど、因など。14イざり。15因のアリ。16イナシ。17イナシ。



「1いさゝ、かの御子をば委しくも見奉らず。思ふ人をのみ。更に又世に類有る2べうは見えざりし人なり」「げにかく名だたる人はさりけんかし。こゝにふ見4うつる人は選り屑にこそ侍らめ。それも人よりはよろしかめるを、などかはさ見給5ひけん。よ6は押し開けて入り給はずなりにし。かくばかり思はん人をば、さてこそ7はせめ、かくて歎き8おはするよりは」宰相、「人の許さぬ人に、さてし9はあらませ10 11かば、今は死なまし、見ざらましかば、なほ世の中に交らひ侍りなまし」民部卿「から幸の物し給ふべき人なれば、さ12らし給はずなりにたるぞ」など宣ふ程に、東宮より宮の13近を14使にて御文有り。喜びて見給ひて、聲を放ちて、「我が親の今々とし給ひしまで、我はきんぢを思ふにぞ夜路もえ往くまじき、宮仕15ひに16は〔〇出〕だして、人17數にもあらず、かゝる折にだに哀とも宣はねば、おぼろけに悔しと思すにあらざめり。かゝるを見18する事、如何樣に惑はんずらむと泣く〳〵臥れ給ひにし。吾が君、今日の御文を見せ奉らずなりにし。かくぞ宣へる。天翔りても見給へ」と泣きのゝしり給ふ。民部卿、「如何樣なる御文ぞ、賜へ。見給はん」と聞え給へば、さし出で給へり。見給19えば、「いと哀に悲しき20事は聞き21しす22なはちと思ひし。23忌むなど人の云24ふ日過さんとてなん。いかに程經るまゝに心細くと25ぞ。何かさしもと26ぞ。

〔校異〕1 攷考異答。2 國や。3 以下二字摂持給へ。4 イ心アリ。5 國はざらむ。6 イくも。7 イおアリ、國はおアリ。8 イを。9 イも。10 イしアリ。11 國ナシ。12 國しも。13 イ進、イ近侍。14 國御アリ。15 國へ。16 イい。17 イのアリ。18 イ乘つ。19 イへ。20 國と。21 イ知らず。22 イナシ。23 イつ。24 イ仆。25 イて。26 イて。

頼みけん人はなくとも我だにも世に1人〔○經〕ぼいたく嘆かざらなん

怪しく睦まじかるべき人に疎く思はれ給ふめれば、昔人の2し給へればこそ見讓りても。今よりはなほかの人の心ゆかず思3ふべからんにと宣はす。心治めて物し給へ。さて平かに世にあれと思はせ」と書き給へり。これかれ見給ひて、「あないとほしや、各々顧みずと思したるにこそあめれ」4宰相、「いでや、心肝を惑はして思ふ人らの、宮もになら思す6なる、7るき8め9に10ふるめぞや、11みそか12をとにぞともそれ13かそや」など宣ふ。「いかでか許しとしも思はんは、14されば今よりは、15世に人は訪ひこそは」な16どさゝめき給ふ。宮17君御18文書かせ給ふ。「畏まりて承19(はり)ぬ。淺ましういみじき目を見給へて、思ひ給へ歎きつるに、いと嬉しき仰せ言を承りてなん20少し慰み21。いでや昔の人の夜晝思ひ給へ歎きし身を、如何樣に22とぞ。

見し23世にぞかくも言はまし嘆き24なく死出の山路をいかで越ゆらん

今日の25御文を見せ侍らましものをとぞ思26ひ給へ侍27る。人28爲めによからずと宣はせたるは、身の人數

校異 1イへ。2国死アリ。3因ひ給へずとも、因考異思ふ。4イ源アリ。5因は。6二字イナシ、一字國イナシ。7イ輕、因貴、國か。8因女。9イわ、因ぞ、因考異は。10因かしこき女なれ。11三字イ見する、一字國イこ。12国男に、因事、因考異男。13因こ。14イこれは。15イ寄る邊。16イう。17因のアリ。18因にアリ。19二字国ニヨリテ補フ。20国うち。21因給へるアリ。22二字因考異ナシ。23イより。24国つゝ。25國イけふ。26国ふ。27国りし。28因のアリ。

に侍らねば、親兄弟(はらから)の思ひあなづり侍るまゝ1、幼き心は思ひむつかり侍りしなり。今は何につけて2かは3今はたゞ顧みさせ給はず4、親の面(おもて)をも君の御面をも伏せ侍るべき身にこそは」とて奉れ給5ふつ6。

書詞 7此所はおほき大殿。

かくて藤壺の御使は歸り參りて、御返奉らせて、人もなき折な8れば、侍りつるやう、宣9へる事10を委しく申して、有りつる箱11を見せ奉れば、開けて見給ふ。書き付けたるものを御覽じて、「これは見つやゝとて賜ふ。12箱に13有りし14箱15一箱あり。16上「心深き事17はた、又はあらじかし、これを置きて。この族(ぞう)に遂に取らせ18つる19を、20か21らひ22いてやあらむ」と宣へば、「23外(ほう)よりなん持て參りで來つる」と申す。春宮は24白銀(しろがね)25結び物26ども27毀(こほ)28たせ給ひて、外(ほか)なる竹(たか)29原にして、下には白銀30のほ37と31かは結び、33餌袋(ゑぶくろ)のやうにして、黒方(くろばう)を土にて、沈(おむ)のたか34らな（○筍）35まりなく植ゑさせ給ひて、節(ふし)ごとに水銀(かね)の露据ゑさせ給ひて藤壺に奉らせ給ふ、「昨日(きのふ)一昨日(をとゝひ)は物36忌にてなん。かの訪(とぶら)はんと物せ37られし人の許(もと)に遣

校異 1因にアリ。2以下二字イも、六字囡も。3以下二字イナシ。4イばアリ。5イナシ、国ひ。6國つアリ。7以下八字イナシ、二字國上(うへ)。8イりけアリ。9国ひつ。10イなど。11囡ナシ。12イはアリ。13以下四字囡は賓金。14國イしアリ。15イとアリ。16囡君。17イ箱。18囡給へ。19因ナシ。20以下七字囡御身に添へてや持ち給へ。21一字イう。22國ナシ。23囡いなアリ。24イ銀金、因考異銀(しろがね)黄金(こがね)。25因のアリ。26イ考異などを。27因をアリ。28國イさ。29國はう。30以下五字囡細き緒を。31イう。32一字イに。33國イし。34イう。35国作らせ給ふ間(ま)もなく、因作らせ給ひ隙(ひま)もなく、國作り、國イ間(ま)なく。36國イいと。37國しまらうど。

りたりしかば、かくなん。殊に心地有りげもなき人も、かうこそは思ひけれ。これにつけても、院の1から2のみいとほしく、行く先少げに見え給ふを、かくてありとのみ聞し召すらんを、此の頃物せんと思3へ、心ありとも4思へば、慎しうてなん。宣はんにおきて、これは小き人々に4持たせ給へとてなん。さても、

明け行くと着抜定めぬ東雲の老の世5にても佗びしかりしか

6際に7は如何。こゝには夜晝忘るゝ時なく、罷出給ひにし後は、まだ寐をなん寐ぬ。

諸共に伏しのみあかしくれ竹のよ8ごとに9露の10おきて行くらん

行く末まだ遠き心地のするこそ」とて、例の藏人して奉れ給ふ。また11大臣殿の御方にぞおはし12ける。これかれ見給ひて、「をかしきたか13らな（荷）14かな」とて、帯押し丸がしつゝ、帯一筋づゝ15取り給ふ。御返は、「承16（はり）ぬ。賜はらせたる人の御17ふは、げにさも18思すべき事にこそは。宣はせたる事19は、いとよう侍20る21なり。侍はぬ程にと22仰せざ23るとも、御覽じ直す折も侍りなん。このわたりには、承りぬ。いみじう思ほし24れげ（）歎いてとあれば、25いといとほしくなん。早う聞え給へ。さてこ26れ27。

きぬぐの濡れて別れし東雲28ぞ明くる夜ごとに思ひ29出らるゝ

校異 1因方。2イなん。3イふ。4イも奉り。5イまで。6国君。7國イナシ。8イも。9底考異夢。10イみアリ。11国大い。12因ましアリ。13国う。14イり、底考異なり。15國イと持。16二字国ニヨリテ補フ。17イ文、国文は。18イ覺えおは。19イも。20以下二字イナシ。21二字國イナシ。22イ思。23国り。24イな。25二字イナシ。26因の。27底考異はアリ。28イの。29イ出でけり。

露は、これにはそれをのみなん1明暮し

　呉竹のふしにはあらでかゝる身の露のよのみも嘆かるゝかな」

とて、藏人に、「形見2だに」とて、單の御衣に、3小袿重ねて賜ふ。

かくて大4殿の町は、殊に面白き事はなくて、5全く嚴し。御6箱は、東の一の對に右7大辨、二の對に二方にて藏人の少將、大夫の君おはす。さては異人の曹司。君達は、殿におはせし時はさしもあらざりしかど、里にては人8參り集ひ給ひて見え奉り給へば、いと騷がしとて、藤壺、「今はあなたに歸り渡りなん」と聞え給へば、大宮「いかでかさばかり廣き所には。物言ひさしたゞ人々の9み〔〇身カ〕投げ置きて、かゝる折とて走り入り來ば如何」かうなくて10來ん人によからず思11ひはな給へれ12い、名を立てんとて、腹汚なき心使ふ人もあらん。いと後めたき事な13り。なほ狹くとも此處にを」と聞え給へ14ば、「誰か心おきては。昔御子にて、かくも見えざりし時こそ、もし人のやうにもやとて。かうさ15がりて16（17萬の18下司などに19 20かくまさなく言は21るれば）、22萬の人23聞き疎み24にたらんものを」宰相の中將見え給へど、「殊にか

校異 1二字因ナシ。2イにアリ。3國ナシ。4因いアリ。5國またく。6イ方は、因方々。7以下六字國イナシ。8イぞアリ、國イにアリ。9以下三字因皆見。五字國皆け押され。10因も、國ゑ。11イはれ、国ひ離れ。12イば。13國イる。14國イえ。15因考異りも。16十八字イニヨリテ補フ。17二字国ナシ。18因考異はず。19因考異もアリ。20因さへ。21国ざ。22三字国ナシ。23イのアリ。24イわた。

たは1らならぬ人はそれしもこそ」「2いで、かたはなりと見ゆる人もあらん」大殿「何3にかは、おのれをもかの人どもをもか4こじ〔〇勘事〕せられしにこそ、いと5面目有りしかど、心々に言ひ6てさ7は〔〇騒〕がれ給ひしこそ、思ふ時には面だたしかめれ。なほ人に言はれん事は慎しや」藤壺「さても、さ8たつべき人は誰かは。さもやと思ふべき人は、歩きすべうもあら9ざなるを。かの人こそいとほしうは聞き侍れ。10人訪ひに遣はしたりしかば、いみじう喜びて、今は心に任せて野山にも入り、法師にもなりなん11とぞ言ひける。さらん心ざしを思ひ知れば12こそ、13人ならぬ者だにも物思ひ知る物なれ」と宣へば、皆人いと怪しと思14ひ、左衛門15督の君「此の族を離ちて世にある人は皆さる心のみこそは。此の君しもかく見え奉りたるぞかしこきや」藤壺「思ほえぬかな。16年頃より言ひ初めて今に忘れざんなる人は誰かは。はかなき文などは、あこきなども數多17買うめる」大宮「心さ18へし、失はぬ人は數多聞ゆや」藤壺「い19るに〔〇今〕は誰もさこそは、こゝにはさ見ゆる20事なし。はかなき宮仕へをして、ゆゝしき人々の事どもを聞く時は、味氣なや、心ざし有りし人につきても有るべかりけるものを、さりともかく言はましやはと思21ふ折は多かる。又も心憂く悲しと思ふ事ありや」とて泣き給ふ。大宮宰相中將は、知り給へばいと悲しと思す。異人々22何。

校異 1 イナシ。2 因答。3 因ナシ。4 イう。5 因面。6 イナシ。7 国お。8 国る。9 國イさ。10 イ一日。11 國イそ。12 イ他所。13 因老異世にアリ。14 因ふ。15 因のアリ。16 國イときし。17 イ書く。18 一字イニヨリテ補フ。19 イま。20 因ナシ。21 一字イニヨリテ補フ。22 因はアリ。

事1も知り給はず。「世の中を知らざりし時は、萬の事心にも入らざりき。今思へばこそ哀にも悲しうも」と宣へば、宰相中將、「げにかくおぼさる2らにてはえおはせじ。祐純3しより初めて、二人づゝかの御方の4宿直5仕らん。行く先、自らより初めて男女子供まで6抱き奉り給7ひつれば、此のなか君にこそは」藤壺「あなうたてや。8なし9に10かうは。梨壺11物し給ふめれば、男にてあらばさしも。12こ宮の御許へも參うで通ひ給13ふべかなれば。此の程にさる事あらば、それこそは世14中定めなければ、必ずとも思はず」大殿「梨壺はさ15 16ても知らず。只今世は右大將親子の御世になりなんとすめり。世の人は怖い、大臣17我身より初めて、皆18らびへ隨ひき19いでにたり。それはかの君の押し立ち惡しきにもあらず。自然に恥かしきによりて、人の心を使へば靡くやうなるなり。宮は内裏に從ひ20て奉り給ひ、内裏は右大將に叶ひ給へば、かの主達もちてこれをと申さば、何の疑ひかあらん、われも口開くべくもあらず。中宮はおはします、故郷は皆足末なり。例はさる筋にもあらず」宰相中將、「いと不便なる事21物の聞え侍れ。天下の御子22なしさ〇生れ給へりとも、さる心あるべき人か。その中に、若宮23をばいと心ざし深く思ひかしづき聞え給ふものを。此の子日、御前の物調じて、もてあそび物七寶を盡くして、し設けてこそ、裝24束いとうるはしくて、

校異 1イとアリ。2イう。3イナシ、因等。4國イる。5イはアリ。6因頼み。7イへ。8国何し、因何。9因考異か。10因考異そ。11イも宣。12因四の。13イへる。14因のアリ。15国しアリ。16因し。17イ我が。18イな。19国入り、因果て。20国ナシ。21イのみ。22国らま。23イは。24国束。

賂（まかなひ）しつゝ、手づから參り給ひしに、さる物から、世の覺え重しとある人なれば、いさゝか僻（ひが）みたる心使ふ1べうもあらざめり」大殿、「先づ見給へかし。此の人共もようこそは應きためれ」と宣ふ。左衞門2督、「などか此の3緣に忠純（ただずみ）とを入5られぬ。こゝに6もせん」と宣ひて、「宮あこの7（侍）從、いかに御方の8舞踏（ぶたふ）して行へ。藏人は入れじ。宮仕へ忙がし。此の御9館は一人10置く、11忘まれ12ゆは二人づゝ六番に結ばん。彼方（あなた）にさはある人どもは番々に入れつゝ、此の番13借らん人は一日の14番15このはすに16かふらせさせん」と尋き給ひて、御17めんして、宮あこ君に、「これ預りておは18せ19ん。御前の柱に押して、20借らん人なげ21斷當（だんたう）22に責め。23兄（このかみ）とも云はず責めそせよ24」と宣ひて取らせ給へば、喜び25借りつ。宰相26君「さらば、これはれ侍る時渡らせ給27はぬかし」と聞え給へば、「いと惱ましく侍れば、安き臥し起きもせん」とて、「今夕、參り來ん」とて渡り給ひぬ。御車には四位五位、ありとある人ふさに付きて28て（一）出てカ、て手カ29膝（ひざ）に引く。若宮に所乘り給へり。君達打ち群れて送りし給ふ。かくて大殿（おとゞ）、「怪しく、藤壺のいたに思ひて物しつる事30も」大宮「有るやうあめり。目に近う心變りて有るを、思ひて31にてこそあめれ」大殿

校異 1宮考異や。2因のアリ。3因番。4イら。5イれアリ。6イ物。7一字イニヨリテ補フ。8イ二人（ふたり）。9イ子達。10国なげ。11以下四字イ今。12国か、因や。13イ飾か。14イさやう。15イこせずば、因殘さず。16イ掾（かうぶ）、因仕うまつ。17イ齊、イ判、国封、因名、因考異對。18国さ。19因よ。20イ飾か。21因兒（このかみ）とも云はずアリ。22旬考異せし。23八字因ナシ。24因やアリ。25イ取。26因のアリ。27イひね、國ひぬ。28因ナシ。29イ引き。30イぞ、因ぞや。31一字イナシ。

「難き事かな。いみじう辭ひしを、公私居立ちて、強ひてしたるをげ」宮、「なほそれぞ宮仕1ひせさせて、さてもたどは思2ひわれたりける。かく琴彈き遊びなどするを、若き心に羨ましと思ふなるべし」大殿、「今犬に琴習はさん時に、さらば羨むかし」など密に宣ふ。

かくて藤壺のおはする町はいと面白し。3やがて水の程に八重山吹の高く面白き咲き出でたり。池のほとりに大きたる4松5藤6にかゝりて數多有り。すべて春の花秋の紅葉面白く、時々の7前栽、草木もいとをかし。遣水に灑落し、岩立てたる樣などと異所には似ず。かゝる事好み給ふ人なれば、暫しなれど面白う8習きた9る此の西の對は、暗き闇にも照り輝きてぞ見ゆる、世の常の調度を使はねば。寢殿は淸涼殿の樣を造れ10こと、例の調度な11れば例の所12樣なり。それは二方にしつらはせ給ひて、東は若宮の御方、乳母四人童下仕二人づゝ有り。皆有るべき所々せさせ給ひて、東の一の對を侍13ふ藏人所にしたり。方々し置き給へる所々に、あたりあたり、政所より始めてしたり。東の二の對は、宮あこの侍從、14此の御方、寢殿の西面は、二15宮の御乳母人々あり。西の16二對は、二宮の御方の侍藤壺の御侍、これにはやんごとなき四位五位いと多く參り仕うまつる。次の對17藤壺の御方の親族達　御曹司、西の廊は押しなべての人の曹司。

校異 1因へ。2イは。3イ道。4以下二字イ藤松。5国にアリ。6国の。7因前。8国しアリ。9国り。10イど、考異れば、二字国ナシ。11因どは。12国のアリ。13因ひ。14イ二。15因のアリ。16イナシ。17因はアリ。

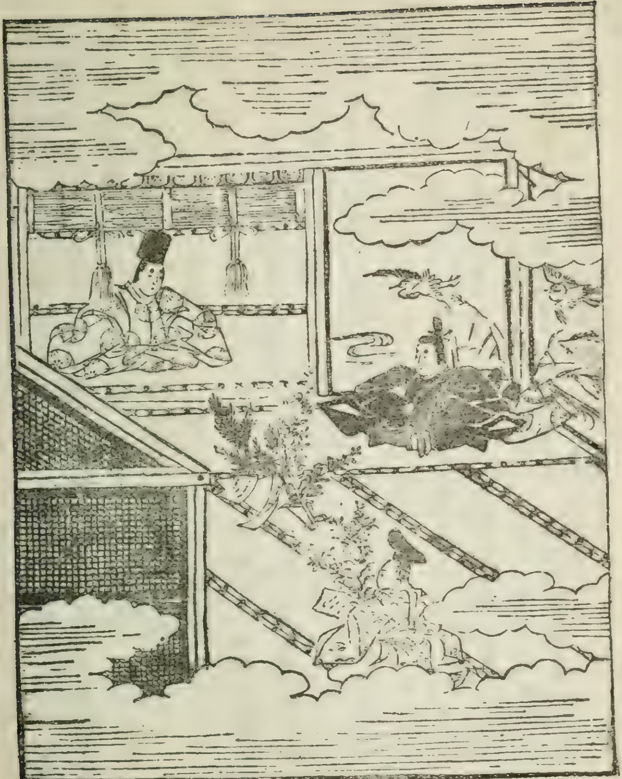
御門は東南1あり。かく廣けれど、なほ2せで住みなし給へり。宿直の君達、夜毎に繪3はり〔○劃〕籠4こう〔○勞〕ある物ども調じて、御前にも臺盤所にも參る。かゝる程に、「右大將殿より」とて手本四5てわん〔○卷〕、色々の色紙に書きて、花の枝に付けて、6孫王の君の許に御文して有り。「自ら持て參るべきを、仰せ言侍りし宮の御手本持て參るとてなん。これは若宮の御料にと宣はせしかば、習はせ給ひつべくも侍らねど、召侍りしかばなん急ぎ參らすると聞えさせ給へ。さて御私には何の7外8御要ある。こゝには世の例になん」とて奉れ給へり。御9前に持て參りたり。見給へば、黄ばみたる色紙に書きて、山吹に付けたるは10し〔○眞カ〕の手、春の11し〔○詩カ、字カ〕、青き色紙に書きて、松に付けたるは草にて夏のし、赤き色紙に書きて卯の花に付けたるは12假名、初めには男13にてもあらず、女14にてもあらず、15あ16めつちぞ。その次に男手、放ち書きに書きて、同じ文字を樣々に17變へて書けり。

我が書きて春に傳ふるみづ18せき〔○水堰カ〕もすみかはりてや見えんとすらん

女手にて、

まだ知らぬ19紅葉20と惑ふ21そかふらし千鳥の跡も留まらざりけり

校異 1イにアリ。2イ狹く。3イわ。4イら。5一字イく、三字国卷。6国孫。7イ本か、因考異本をか。8イ左樣。9イ前。10イ眞く。11イ詩。12イ春の、因假名。13国手に。14国手に。15以下五字因考異集め書きて、因考異集めて書き。16国つアリ。17因考異書き變へて書きた。18イく與、国く。19以下二字因道にぞ。20イに。21二字イうと、因考異うとい、五字因疎からじ。



さ1ゝ次に、

飛ぶ鳥に跡ある物と知らすれ2ば雲路は深くふみ通ひなん

次に片假名、

古へも今行く先も道々に思ふ心3有り忘るなよ君

葦手、

底濁く澄むとも見えで行く水の袖にも目にもたえずもあるかな

と、いと大きに書きて一巻(まき)にした4り。見給ひて、「いとはしく萬の事に手を5えみ〔〇惜しみカ、撰みカ〕給ふ人の、樣々に書き給へるかな、一日戯(たはぶ)れに物6惜しみ、宮の年頃召しつるも、今日こそは奉7るなれ。此の8返事は我(われ)せん。使は誰(たれ)ぞ」と問はせ給へば、「奉り置きて罷りに9けり」と聞ゆれば、「いと心地なき所の人かな。彼よりかゝる物あらん使遣(や)10り心11よ」と宣ひて、白き色紙のいと厚らかなる一重(かさね)に、「賜はせ12ざめれど、人を訪(と)ふともと言ふなればなん。此の本どもを、かく樣々に書かせて賜へ13るなん限りなく喜び開14え、なほ此の人々は、御弟子(でし)にし給ひて、これならぬ事も知らせ給へ。まことに15後(あと)16か求められた

校異 1イし。2国ど。3以下二字因を、七字国は君忘るなよ、因考異を君忘るなよ。4國イる。5國は見。6国せしを、因考異せしに。7因らるアリ。8イ御アリ。9イき。10国る。11国せアリ。12イた。13イば。14因ゆ。15因考異何と。16イナシ、国に。

るは何事にかあめる。我ならぬ人にやと思ふこそ後めたけれ」1と例より日出たら2筋つきて、大きやかに書かせ給3へて、「これ又心あらん者して奉4らせ5 6て歸り來ね」とて奉7れ8付くる程に、宮より御文、「日頃は如何9なん、10には11見れば、夜の間にもとか有りしかば、頼め12てもと言ふなれば、夜毎になん。そこにもいか13でと思へども、さはえせぬ事なりければ、心にもあらでなん。かの物したりし所には一14いふ「〇日」なん。いでや、

筑波根の蔭につけつゝ時の間も思ひ忘るゝ折15のなきかな

16なほ夜の間には必ず。世の中になくなりてば、幼なき人を如何など思さば、物17憂くもあらじ」とて奉り給へり。上18賜らせ給ふ。「院19御方へは、何時か渡らせ給へりし。幾度ばかり20參上り給ひぬる」藏人、「朔日、内裏になん渡らせ給へりし。さては夜一夜なん參上り給へりし。上は此の頃は講師日々に參り、御文遊ばす21よりは夜更くるまで御手習せさせ給ふ」などなん聞ゆ。御返書き給22(ふ)。「日頃は怪しう惱ましう思ひ給ふれど、夜の間に24は、のみ侍りて、いかならんと心細き心地なん23知りたき事になん侍りける。夜の間に24は、聊か動きもせられ侍らねば、人に知られぬ25間に歩きは難くなん。まことや蔭につけつゝとか。

校異 1國イそ。2図罷。3イふ。4図り澄き。5図考異置てアリ。6イナシ。7国り。8イつかゝ、イつから。9イとアリ。10二字イナシ。11図さ。12国に。13国が。14イひ。15国も。16廿字イナシ。17図のアリ。18国間は。19国のアリ。20イかアリ。21イ夜よ。22一字イニヨリテ補フ。23国參。24國イい。25イ能れ。

思ひ出づる折しもあらじ筑波根のます1(か)げ(〇陰)をのみ2添ふる身なれば

とのみなん。3一人と宣はせたる事はいとよかなり。さてのみも罷ひ参り来るものならば、さて心安くは」と聞え給へり。又右大将殿より、今朝の御返聞え給へり。「見えざりける程に賜はせたりけるは、只今4なん。自ら参り来て、此の畏まりも聞えさせんとするを、今まで御前に侍ひ5て、いと苦しうてなん6出し7事か。若宮に侍り参るべき心ざし侍るうち、かく宣はせたればいかで8下司雑役にもとなん。まことは世に止まらめと侍りつるは何事に9。その方々に、

濱千鳥我が袖の上に見10えし跡は涙にのみも先づ消11らしかた

定かにだにも見12給へらずなりにしものを、今日の13をみこそ」と聞え給へり

又の日になりて、上14孫王の君して御髪参らせ給ふ。御15前に16孫王の君兵衛木丁侍ひて、御眼参り御眸なんとす。兵衛の君の聞ゆる、「昔見給へし箱は、此の一日見給へしこそいと哀に見侍りしかば」17孫王の君「かの箱なりし物を懸けて侍りしかば、三千両こそ侍りしか」兵衛、「二百両賜ひてき。さてはこれかれ皆賜ひて、これはた弟には賜はずなりにき」上「怪しの物数18えや」19孫王の君「懸けつれば多かめるをだにこ

【校異】1 一字イニヨリテ補フ。2 イぞ觸る。3 イ人より、居一日。4 二字イナシ。5 イナシ。6 イ雑アリ。7 国ナシ。8 国考異か侍りける。9 国かアリ。10 イナシ。11 イえ。12 国奉ら、国イ奉り。13 イナシ。14 国孫。15 イ前。16 国孫。17 国す。18 イへ。19 国孫。

そ。哀此の頃こ1に昔思ひ出で2らるれ。宰相の君の思ひ惑ひ給ひし事もこそ徒然と思ひ出でらるれ」孫王の君「3いかでかく里におはしませば、かゝる物も打ち見ゆ4や。5内裏に籠りおはしませば、さうぐ〜しくこそ。此の頃かく離れ6住みし給ふを、昔なりせばいかなる事あらまし」兵衛「宰相の君よ人し給はざりしは、一所おはし7まし御曹司に召しゝに、常に参りしが、と8く聞えよ、から聞え9とのみこそ。聊かなる私戯をこそし給10（は）ざりしか。若き人はさやはあ11るなり。12いでやかく聖になり給ひける」少将、「何かは私事も言は13ぬ。されど人こそ耳に聞き入れ14ぬ」兵衛「15いさや、まろ16が恐しければにや有りけん、聞かでこそ止みにしか」17孫王の君「18いでやまめ人もなきものぞや」19上は「さかし。20君のみこそは」と言ふ。此の21孫王の君の22兄弟、帥の君23一向に忠まはりて、此の源中納言殿の渡り給ひ24るをとなしていと25ど畏26うらず。女27は三人28。大い君29と30れ31、中の君は大将殿の32それら、三の君は源中納言殿の33孫王、此の御方の、昔34容貌なんどよくて、髪長に餘りて、物々しう清げなる人の、心にく心有るなり。右大将昔思ひて語らひしかば、それをのみ思ひて、よき人君達35宣へど、耳にも聞き入れず、

校異 1イそ。2國て侍。3因答。4国るアリ。5イ町。6國イず。7國イしアリ。8イナシ。9イよアリ。10一字国ニヨリテ補フ。11イるとて、因考異なる。12イ御手。13イめ。14イば、国れ。15因考異答。16因らアリ。17国孫。18因答。19イ持てば、因上。20イき此の身。21国孫。22因母の。23因優にざれたれば。24因れどあざれ。25因ナシ。26イま。27因子アリ。28因ありアリ。29国はアリ。30イの。31国にアリ。32因孫王。33国孫。34イ語り。35國イの人と。

君の御身に添ひて、御前守時去1しであり。紀伊國のをば、萬にいたはりて、局なる童大人下仕へ2までいたはる。大将3も忍びてをかしきやうにて、物心ざしなどし給ひしかど、宮の御4後はさもあらず。兵衛の君は見めきたる人の、髪長に一5尺ばかり餘りて、いといたうはやり6なれたり。木工はふくらかに愛敬づきたる人の、髪長にて、いとりやうりやうじき。あこきは兵衛の君に7して、頭つき姿つき8いとよき程にて、をかしげにて、髪長に一9尺ばかり餘りて、いとらうらう10あり。小君もそれに11ぞ似た12る。それはいとはやりざれたり。

かゝる程に、三月廿八日ばかりなり、一13宮女宮14一つ車にて、五位四位數知らず、君達も御供にて渡り給へり。下し奉りて入り給ひぬ。御15そう(△)装束例のごと、蘇芳は16平絹の極練の御衣一襲、薄鈍の張り合せの御衣奉りて、「其方にこそ參り來んと思ひ給へつれ。御傍守くの顔たく物し給17ふなれば、思ひ給へ憚み18つゝ程に、いと畏く渡らせ給へるをなん」と聞え給ふ。「守の悔ち給ふは如何なるぞこ」「かの家を慣ひて知らぬ人と時々は交19りかひ奉りて、さては徒然と眺め侍るを、いとこそ怪しけれ。宮仕へ心ゆくとに何をか言ひ侍りけん」「20都にもこれかれ集ひて、男にも女にも、疎21ならぬ22時遊びをもし、物語な23どをもし

校異 1イら。2國イさて。3イナシ。4国上參り給ひしアリ。5国尺。6国さ。7イ似。8二字国イナシ。9国尺。10イじあこ。11イナシ。12イり。13国のアリ。14国達アリ。15イさ。16二字イ紫、一字イむら。17イひけ、或考異ふけ。18国て侍りし。19国ろ。20国宮此處。21イか。22イともち。23国イナシ。

習ひて、去りし人をはいと疎くもてなして、音にも聞え影にも見1えしかば、恐ろしく恥かしと思ひし者に向ひ居たるは、我が人にもあらず怪しきまゝに、昔の戀しく思ほゆれば、すなはち參うで來んと思ひしかど、辛うじてこそ」と聞え給ふ。藤壺、「などかく、めづらしき人は留め奉り給へる2ぞ。それをこそ先づと思ひ給8へめれ」宮、「4いさや、前に5伏せて6もくはきつれば」藤壺、「などて人には隱し給ふぞ。小さき程には、此のおはしますなどを、皆此の中には見奉りしは」宮7は、「8さ前にのみあれ9ば、⑩彼が前には人の物10をせねばにこそあめれ。かく11くる物を見12ながらはさかければ、たゞ13は袖を14友達にてぞ15籠り16い○居」ためる」藤壺、「いでや、聞えても〳〵彼の御時の17物の音を承はらずなりにし18こそ。罷出んと聞えしかど、車も賜は19ず、20消息も宣はずなりにしかば、いみじう口惜しうこそ。内裏の上も、いかで疾く退り居て、彼の人に琴彈かせて聞かん。呼ばんに物せずば、家に入りて彈か21せ22んと23さへ宣はするものなし。此所にはさる事の侍りけるをと思ふこそ言ふかひなく妬く、誰か先づは遊ばしけん、何れの御琴ぞ24」と聞え給へば、「彼の三條に有り25ける琴ぞ26や27こそ先づあめりしか。親のはいと悲しう聞きしかば、たゞ泣き

校異 1 因ざり。2 国ナシ。3 因ふ。4 因考異答へ。5 イ觸れ。6 国のみ濱」 7 因ナシ。8 イ御、因考異お。9 イど。10 イナシ。11 イか。12 イ習はざ。13 イ八軸、底にそ。14 イ保ち。15 國イ凝。16 イる。17 國イその、18 國とぞ。19 因せアリ。20 因御アリ。21 イせさアリ。22 二字國イナシ。23 二字イナシ。24 国やアリ。25 イつ。26 因考異子。27 因子アリ。

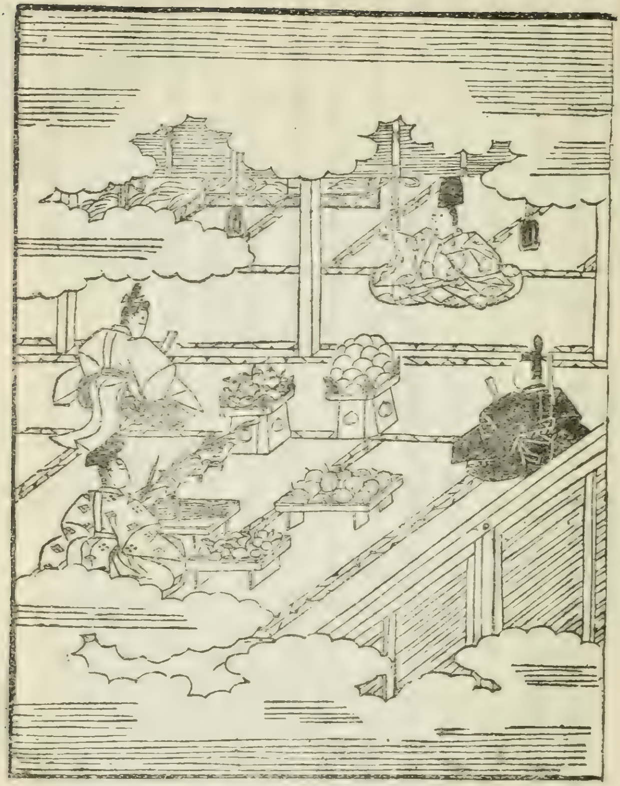
にぞ泣かれし。そ1れ聞きしまゝに、苦しき事もなくて起き居に2琴の3人の4、いと荒々しく恐ろしく覺え5、胸なんはしりし」藤壺6の、「御7事はさぞある。清涼殿にて仕うまつり8し夜、せめて聞かまほしかりし9は、大殿人々にも泣く／＼責め聞えしかば、あな物狂ほしとむつかり給ひしかど、人々の中に10て率ておはして11籠出給ひしを聞きし12は、何處に13隱れ14に15似たるとこそ覺えしか。あなかま、16から聞ゆと宣ひながら、大殿のをぞまだ聞き侍らぬ」宮、「17いさや、その人のを18ぞ委しう聞かぬ。いかで聞かんと思へど更に聞かせず。さて言ふやうは、そこの御許にあらましかば、此の手はいとよく習はし奉りてまし。此の世には、そこにのみなむ19そこらの手20彈き給ふべき人は物し給ふ。21すゞろに、思ひの外なる所に有りて、御爲めに心ざしなき樣に見え奉る事とて、22聲をのみぞ言ふや」藤壺、「あなうたてや。世にもさは。23御24きえなしならん。などかは、かゝる便に夜晝責め給ひて、教へ聞え給はぬやうは有りなんや」宮、「さ25言へど聽かず、26今上退り居給ひ27て28なん時、29御前にて何事も手を盡くして仕り聞かせたて奉らんとす。かくてあらせ給ふ御心のいと畏き畏まりには、かゝる事をだにこそは、そこ30に參りてを聞けなんどぞ

校異 1イの。2国しアリ。3国手、因聲。4イはアリ。5イてアリ、國イんアリ。6因かアリ。7イ琴。8因給ひアリ。9因かば。10因ナシ。11イ任せ、国聞かせ。12因が。13因生。14以下二字國イナシ。15イナシ。16イぞ。17因考異容。18イも。19イ此の族。20因はアリ。21イ心。22国常に。23イさ。24イ聞き。25国何時と。26國イナシ。27因ナシ。28国ナシ。29因御前。30イナシ。

言ふ1」藤壺、「いみじき事にもあるかな。さ侍らん時は、御消2息3かねて宣へ。忍びて御4許に5仕らん。それをさへはづさせ給ふな。6御前には行く末もあり、かの7は飽くまで聞し召してん、犬の御德に」宮、「あな久しや」など多くの御物語などし給ひて、「いで御髪は。此所のは皆落ちぬ」とて、ひき較べて見給へば、藤壺のは今三寸ばかり8 9優りた10り。「いと等しかりし物を、多くも優り給ひにけるものかな」とて、二11宮のを見給へば、袿の裾12と13 14等し。筋麗りば一15宮の御16子17いとよく似たり。すべていと同じやうにおはするが、これは少しふくらかに、氣近き18らなん。19姬宮はまだ小くおはするが、あてにそびやかなる御容貌の、御髪長に少し餘りたり。

かゝる程に、大20殿の御方より、檜21はり〔〇割〕籠、御酒、椿餅など奉り給へり。左の大殿よりは、梨子、柑子、橘、荒卷など有り。所々よりをかしき物共多に奉れ給へり。宮22御23許には24孫王の君中納言25君、此所の御前には26孫王の君27兵衞あり。28孫王達は物語す。姉29君「我等が宮はな30は31や此の下﨟の女を上とは思したらん」中の君「更なる事かな。一日それより來たりし人に問ひしかば、或る人、東宮に侍ひ給

校異 1因考異めにアリ。2因息。3イ書き。4イ供。5因仕うまつ。6因御前。7因音。8イぞアリ。9國イにさゝ。10イる。11因のアリ。12イも、因考異に。13イいとアリ。14イ一。15因のアリ。16イに、因髮に。17国にアリ。18イに。19イ二、因二の、國イ船。20国いアリ。21イわ。22イのアリ。23因供。24国孫。25国のアリ。26国孫。27イのアリ。28国孫。29イ宮。30国ど。31因考異ナシ。



ひしぞ九の君とは申すめれと言ひければ、1とぶらへていみじ2打たせ給ひて、下に籠められければ、更に3うけて言ふ人な4るなり。限りなくかしづきてぞ置かれたる」姉君「あな物狂5はしや。人聞きこそ恥しけれ。御方の大殿や、かやうの事聞き給ふらんと思ふこそ面恥かしけれ」彼の君「更なる事をもし給ふかな。言種に6も7え笑ひ給ふものを。彼の皇子の御子8に得、そこ達いかでかうだにあらんと宣ふ」など言ふ。藤壺「何事ぞや。此の君かくて物せらるゝを、御供ならずとも時々は物し給へかし」彼の君「さ思ひ給へれど、渡らせ給はんと有りつれば、同じくばとてなん。9人10は、御方の御事によりて、大殿にかしこく籠がれ奉り—はや。奉り給へりし御文を、下仕への者持て參うで來たりしかば、侍りながら聞えぬ11と、君こそ、などかは參り來ぬとは聞えさせざりし、侍りながら。すべて心地なきなど、例の殊に物し給はぬ人のむつからせ給ひしこそいとほしく侍りしか。さて見給ひて、御文はこればかり12の寶はあらじ。今行く末は、かくてしも得賜はじとて、人に手も觸れさせ給はぬ御厨子に納めさせ給ひて13 14聞く、はしたなき日をなん見給へりし」藤壺「15孫王の君の御許に16あめりし本どもを、いと煩はしく書かせ給ふめりしが、17所の喜び聞え18させ—ぞや。此所にこそいと心地なしと19は物せしか。賜へりける人に御文を取らせずなりにける事を」

校異 1 イ捕、國イとら。2 イふアリ。3 国か。4 イか。5 国は。6 一字イナシ、以下二字虫し。7 国し。8 国考異ぞ。9 国一日。10 国考異ナシ。11 イナシ。12 国ナシ。13 国とアリ。14 国時々。15 国孫。16 國イな。17 イそ。18 國イナシ。19 イナシ。

など宣ふ程に日暮れぬ。

宰相中將の君御番の夜、同じ番の男を1れ(〇女)參う上りたり。藏人の少將は2二の宮の渡り給3ふめれば、御4前臺盤所に物し給ふ。藤壺「いと久しうし侍5(ら)ぬわざ、今宵いかで。御前には常6に遊ばすらんものを」宮「更に此所にもせ7ん。8いれぐ(〇徒然)なるに掻き鳴らせば、つれなしやまばゆ9やなど笑10へば、見だにぞ見ぬ。いざ今宵忍びて」とて、琴の御琴ども11事と出ださせ給ふ。かたち風をば藤壺、山守12は一13宮、箏の琴は二14宮、琵琶は姫宮、和琴はあなたの15孫王16の御前ごとに打ち置きて、先づ琴の御琴を掻き合せつゝ遊ばす。いと面白し。宮「17ちふ二(〇怪)しう、此の御手こそ聞くあたりの御手にはいと善く18似たれ。いかでかくにたりにた19るぞ」藤壺「あなむくつけや。いかでそれは聞20くにだに聞かぬものを」宮「いかでかの邊な21くて聞き給ひけん。かの夜のな22からんかし。此23(所)にはさばかりだに24ぞ25任せぬ」答「いとうたて有る事26をも聞えてけるかな。27夢か28く宣29(は)す30る事」宣ひて、31琴の音ども彈き合せて遊び給ふ程に、大將、宮の御迎へにとて物し給ひけるを、琴どもの聲しければ、密かに立ち寄

校異 1イうな、国んな。2因考異女アリ。3因ひぬ。4因葉。5一字因ニヨリテ補フ。6國イナシ。7イず。8イつ。9イしアリ。10因ひ給アリ。11イとう、国取り、因考異を取り、因考異とく。12因風アリ。13因のアリ。14因のアリ。15国孫。16国ナシ。17イあ。18國イわ。19國イナシ。20イき。21国ら。22国る、因ナシ。23一字イニヨリテ補フ。24イも。25国聞か。26イ思ひ、國を思ひ。27因ゆめ/\。28國う。29一字イニヨリテ補フ。30イなど。31因御アリ。

りて勾欄の1下にて聞き給ふ2、3さも知り給はで、萬の手を遊ばすを聞き給4ふ、思ふやう、いかでか我清涼殿にて仕うまつりし6手を彈き給ふらん、内裏の人ならばこそ參う上りて聞き給はめ、いと怪しくも有るかなと聞き驚き給ふ。御琴7が事も一つに合ひて、面白き手どもを遊ばし造りて、人の有り無しも知ろしめさず。宰相の中將の君、藏人少將、宮あこの侍從などは御格子の内、母屋の御簾あげておはします。大將御階よりやをら上りて、御簾の間に籠りて8穴を求め給へど、いみじく麗はしく造りたれば隙もなし。開くべき物もなければ、いかにせんと思ひ立ち給へり9て、かくて夜半ばかりまで遊び給ふ。遊び果てゝ、物など聞し召して、御殿籠りなどする程に、打ち躁作りして、「10孫王の君は此所にか」と宣へば、宮達藤壺も心地を惑はして、「あないみじや。いかにしつる事11どもぞ。12常13にかく心地なき事どもをする事」とて物も宣はず。宰相中將驚きて出で給ひて、御座など敷き給へば、「此所には宿直に參りつるなり。君の御宿直所に」と宣へば、入れ奉り給ふ。南向におはすれば、南と西との間に、14綵を15劍物にしたる三尺の屏風唐錦の端さしたる16御座など、中納言殿のし置き給へる物どもあり。宮達御方いとほしく思されて入り給ひぬ。大將宰相の中將は内に、異君達は簀子に、大將17孫王の君して、「三條に罷り渡りて、今なん歸り參うで來つ

校異 1イ下。2國なアリ。3イな、國考異なき。4國ひて。5國ひ給アリ。6國ナシ。7二字イど、國の音ど、一字國イナシ。8國イあな。9イナシ。10國孫、11イぞ世の。12國考異世のアリ。13イナシ。14國繊。15イ織。16イ／。17國孫。

る。覺束な1さになん。今宵は渡らせ給ふまじきか」と聞え給へば、宮「此所には、辛うして對2面したれは、暫しからうてなん。彼處にあらず者一人してあらんを、などか見棄てては」3大將、怪しの4妻の間はせ言5、げに後めたくと思す。夜更けぬれば、宰相中將9と、「怪しく昔覺えたる7よりや、大將たとまかやうにて8ぞ」など物語9し給ふ程に明けぬれば、つとめて歸り給ひぬ。宮の御許に御文有り、「昨夜、御遊びども承るとて、さも久しく、

調ぶとは音にぞ聞きし琴の音をまことにかともひ10さし宵かな

立ち歸り、す11くまりてこそ。內裏より召あれば參り侍りぬ。今夜うきり御迎へに」と聞え給へり。藤壺、「されば12よいぞ」「昔13をだに只そこにのみなんおはすると言ふを、まして今はめづらしき手ども彈き給14へば、いとかしこくな15をりにけりとぞ聞きけん。まろをこそをかしと思ひたらめ。琴は皆聞たさり。此の16御箏の琴はいとよくなりぬべしと言へばあ17へなん」とて御返りもなし。怪しと思ひつゝ參り給ひて、夕さりつ方內裏より御文あり、「罷出侍りなんとするを、去年仕りさし18く御文、今日仕れと仰せ19かれば20な、皆御覽じ21て22そり。此所少し23なん難き所交り侍りけ24る。明日の夜さり罷出侍25り」と聞え26侍りけり。

校異 1因き。2因面。3イナシ。4[Ｉ]乳母は仰せ言、イ乳母は思せど、イ乳母は思せば、宋乳母仰せ言、因考異乳母とも仰せ言。5因やアリ。6イナシ。7イに、宋夜。8イナシ。9イび。10イき。11國イす。12イこ。13イナシ。14イひつ。15因ナシ。16國イナシ。17イえ。18イし。19イらる。20イナシ。21以下五字因渠てでなむ。22一字イけ。23因考異ナシ。24因り。25国る、因らむ。26宋給へ。

「さらに[1]夜なり」と言葉に聞え給ひて、御文はなし。[2]女御の君おはしまして、宿直物装束などは奉れ給ふ。

つとめて東宮より例の藏人して御文有り、「ひと[3]は〻〔○一日い〕と心[4]憂かりしかば、かく物せんと思へども、いりて[5]くる〻〔○入りて暮る〻カ〕と言ふめればなん。同じ心ならましかばと思ふこそ。

浦風に立ち出ざりける白波の今より[6]とのみ騷みけるかな

容言をこそ嫉けれ」とあり。一[7]宮も、「何事をかは騷み聞え給[8]はし」藤壺、「厭ひてなど容言は聞えさせしためり」とて笑ひ給へば、宮、「只一人々々こそさやうにも宣[9]〔へ〕」藤壺、藏人に、「何わざか此の頃はし給ふ。誰々か參う上り給ふ。御文などは人の許に遣はすや」と問はせ給へば、「日頃は、書は御文遊はし、夜は御手習倒くまでせさせ給ふ。院の御方なん、此の月となりて三夜ばかり參う上[10]り給ひての[11]日一度なん。さては上り給ふ人もなし。御文は[12]右の[13]大殿の御方になん[14]つ度侍りし。[15]右[16]の大將殿[17]にたん、此の月[18]に三度はかり奉り給へろ。一夜は參り侍[19]るべき。大殿彼の御方におはしますか折にて、いとかしこく興せさせ給ひき」「いかでか、[20]そこ[21]にのみ參うでまほしからむ、藤はありきや」

校異　1 イよか、國イ夜半。2 国女。3 イひい。4 國移。5 国ら、國イう。6 國イこアリ。7 国のアリ。8 国ひ。9 一字国ニヨリテ補フ。10 国らせ。11 國イナシ。12 国左。13 国大臣。14 国一。15 国左。16 国ナシ。17 国の御方アリ。18 國より。19 イり。20 イお。21 国ナシ。

藏人1、「女のよ2う3ひ〔○用意カ、装ひカ〕侍りき」—4宮「梨壺5なほ立ち交り給ふなめり」梨壺「時の人ぞや。心いと善しとて、いとらう6く7たくし給ふ。そが中に、親兄弟は恥かしとて、容貌も右大將になん似給8ひつるとぞ宣ふ。萬の人憂き事聞く中に、9かの10御事ぞまだ聞かぬ。左の大11將のは、いとす12ゞどにいかめしき人の、萬の事思ひながら言はぬかな、式部卿の宮のは、13孫王14 15容貌にて、何心もなくなん16聞き侍る。17中納言殿はいときよやかに18馴れたる人の、らう〳〵じきなり。院のは見奉りき。いと物々しうなん、淸らに、すべて望月のやうに、いと見まほしき容貌になん。宮それをいとやんごとなき者に、御心ざしもようあり19て、只我20をこそと思して心21に22かてめすれば、常に御中23は惡しきぞ」など宣ふ。かくて「24心も承りぬ。此所にもいかで[illegible][illegible]まことにと思ひ給ふれば、聞えさせたり1やうに、日の經るまゝに苦しう侍ればなん。立ち25いぬと宣はせたる、

靜けきをうちみざらなん君が窈め今より浪の立たぬなるらん」

とのみ26を聞え給ふ。内裏より又大將殿御文27、宮の御許に、「度々聞えさすれど、御返りの侍らぬはいか

校異 1イとアリ。2イぞ。3国い。4宮のアリ。5國イナシ。6イナシ。7イたう、国しう、國イたた。8宮へ。9國イナシ。10宮ナシ。11国臣、宮殿。12イくよか、宮考異ぐやか。13国孫。14イのアリ、國イはアリ。15イ什。16宮考異見え。17国平アリ。18国なり。19イナシ。20宮ナシ。21以下五字宮高くおはすめ、宮考異にかけて思ほすめ。22一字イは。23宮そばく。24宮御文書かせ給ふ。25イナシ。26イナシ、国ぞ。27流ありアリ。

なるに1。かゝる御心ばへの有る2こそ、3いかなるにかあらむとしづ心なく思ひ給へられて、御文も仕うまつり遊ふれば、笑はせ給ふも4御面伏にこそ。

春日山今日も5ふみ見ぬものならば花は殘らず散りぬと思はん

犬6いかに侍らむ。必ず御返」と聞え給へり7。藤壺見給ひて、「いとよく宮の御手に似たりかし」とて、「さし較べて見るに、傍にはえぞあるまじき。罷出給はぬ先に犬宮迎へ奉り8給9（へ）。おはせん時は不用なめり」宮「よ10に乳母ども11に言ひ置きたれば。先にもこれかれ見んと宣ひしかど、大輔とかくして出ださずなりにき」藤壺、「さらば今の間にいざ給へ。いかでか、かゝる折に12見奉らでは」「宮など13も14にさかに見給はじかし。此の人は己をば物に15もせず、物も言はねど、16彼を17ぞ恐ろし18きものには。19それが出でゝ行くとては、只此の20（こ）と（事）をのみ返す〴〵言ひ置きたれば、更に人にも見せず」藤壺「あなまさりが21を（顔）こそ」と宣ふ。御使「御返賜はずば、やがて侍はせ給は22じと仰せられ23し。必ず賜はり侍らん。今更に24追はせ給はゞ侘びしく侍るべし」と申さすれば、「怪しや。難かるべき事ならばこそ。異なる事もなければむつかしさに」とて、「有りしは見しかど、覺束なからぬ程なりしかばなむ。山路には云ふか

校異 1イかアリ。2因にアリ。3十字イナシ。4國イナシ。5イあと。6イ宮アリ。7國しアリ。8以下二字國イナシ。9一字イニヨリテ補フ。10イうぞ、因う。11イナシ。12イだにアリ。13因考異ナシ。14国猶ざり、因定か、國にこか、國イにさり。15國イナシ。16イ我。17イば。18國イナシ。19イす。20一字イニヨリテ補フ。21イは。22イな。23イナシ、因考異つる。24イ思。

ひなや。さやは」とて、

「山茂み1ふみは見ずとも風待たで散るべき花の色とやは見る2

犬3は彼方に4宮」と聞え給ふ。

かくて日暮れぬれば大將罷出給ふ。やがて物し給5へり。簀子に御座などよそひて物し給ふ。6御車7御前などして御車寄せさせ給ひて、消息聞え給ふ、「罷出給へるまゝに、渡らせ給ひぬべくばとてなん御迎へに」と聞え給8ひつれば、彼方には、「此所に、いとひ9き〔〇久〕しう聞え10ざりつる事どもをなん聞えさせたる。11げに明日此所になん。彼方に12な早」と聞13え給14ひつれ15ば、大將、「あからさまに渡らせ給ひて、又歸らせ給へかし」宮、「何か騒がしきやうに」と宣へば、藤壺16の「御前に侍ひ給へらんものを、苦しうもこそ思さるれ。渡らせ給17ひね18ば、其方に參り來ん」と聞え給へば、「何か此所に19も見ず20事も苦しからん事はおのづから」と宣へば、大將21此方に物し給ふを、強ひては聞え給はず、いと苦しと思して、「22さらば此方の宿直にこそは」とて物し給へば、藤壺南の廂に御屏風立て、御座敷かせ23給ひて、「さらば此所にを」と聞え給へば、宮「あな見苦しや、狹き所に。犬24の許に去ね」と宣へば、大將「何せんにか犬25の

校異 1イあと。2國イなアリ。3イ宮、國イ宮は。4イナシ、閑を。5國イふ歸。6二字イナシ。7國イく。8国へ。9イさ。10國まか。11イ今日。12イ出ばや。13イこえ。14国へ。15イナシ。16イナシ。17イは。18因ナシ。19イは。20イと、国ナシ。21因もアリ。22イ更に。23因ナシ。24イ宮アリ。25イ宮アリ。

許に。1内に臥2すとこそ言ふなれ」3とて、4人に物し給ひし君達の宿直所に入り給ひぬ。今宵春宮の亮の君5と、物などて6こ〔○調〕じ7て、8臺盤所、若宮の御方9藏人所、臺盤所に物せさせ給ふ。御前どもには折敷などして參り給ふ。大將殿の御前には宮の御前のを參る。されど參らず。御宿直物取りに遣はして臥し給ひぬ。内よりも御衾出だし給ふ。御供の人もやがてあり。それにも物など10宣ふ。大將「11たゞ御簾のもとに出でさせ12給へ。聞えさすべき事」などあれば、「あた見苦しや」とて御帳の内に入り給ひぬ。皆御殿籠りぬ。

かくて夜半ばかりに、三條殿より大殿の御消13息あり。「あからさまに物し給へ。とみなる事」などあれば、驚きて、「何事ぞ」と問はせ給へば、「宮14の御方の惱ま15せ給へば」と申す。「内裏より只今能出侍りて、亂り心地東西知らず侍16り17て、今ためらひて只今と聞え給18へ」。とばかり有りて御使、「よし。な渡り給ひ19(そ)。觸穢の事有りて」とあれば、驚き給ひて、「何ぞ」と問はせ給へば、「男と聞え給ふ」「宮より御使は有20りや」と問はせ給21ふ、「知らず。え22給へずなりぬ」と申して參りぬ。曉になりて、中納言23と云ふして、「三條にかゝる事侍るなれば、今の間に罷り渡り、立ちながら參らん」とて出で給ふ。藤壺、「何と

校異 1国打ち。2國イナシ。3イナシ。4イ一日。5國イの。6イう。7イナシ。8三字イナシ。9国のアリ。10イ賜。11イ灶所の。12國イナシ。13国息。14國イナシ。15イナシ。16以下二字国れば。17イナシ。18イひつ。19一字イニヨリテ補フ。20イつアリ。21国へば。22イ見アリ。23イ君アリ、国の君アリ。

し1給へらん」と2て宣へば、宮、「男とか言3ふなりつ」と宣へば、「味氣なの事や」と聞え給ふ。大將4けかう果て歸り給ひて、切に聞え給へば、その日の夕さりつ方、梨壺も訪ひ聞え給はんとて渡り給ひぬ。かかる程に、御使にはあらで、藏人罷出たり。上御前に召して問はせ給ふ、「梨壺5には御使6つて〔○幾〕度7か遣はし8し」藏人「聞9え召さゞりしに、いたく煩ひ給ふ事有りとて、御消10息申されたる11事有りしになん驚かさせ給ひて、その夜、さては今朝なむ參りて侍る。男13おはするなりと14て、人はさこそ言へ、終にし給ひつめ15りかし、いかでか覺えぬ筋にはたんま16う〔○申〕しのゝしる」あな聞きにくや、かやうの事は聞かぬやうにて、物も宣はず。

〔畫詞〕17 18西の對19に。

かくて三日の夜、一20宮產養し給ふ。五日夜は大將殿、七日21夜たん東宮より例の御訪は有りけ22り。產屋いと面白う淸らに有り。父大殿を始めて左の官人宮人引きて、幄打ちて23にたたる、夜一24夜遊び明かす。その夜は25太政大臣后の宮26御產養し給へり。右27大28將の君達左29中將に30て、宰相中將、左近

〔校異〕1國てアリ。2イナシ。3囡ひつや。4イ儀らはで。5國より。6イいく。7國イナシ。8國イナシ。9イし。10囡息。11イと、イナシ。12イの夜アリ。13囡にアリ。14イナシ。15囡る。16一字イニヨリテ補フ。17国此所はアリ。18以下四字イナシ。19国ナシ。20囡のアリ。21囡のアリ。22囡る。23四字イナシ。24国に。25イおほきおとゞハおほぢおとゞノ誤歟、国右の大臣、囡殿。26イ大宮アリ。27国のアリ。28国臣、囡殿。29囡近アリ。30国ナシ、國は。

少将に蔵1人の少将、頭の中将など、さらでは上達部藤大納言、その2御弟の宰相、さらぬもいと多かり。

畫詞　3此所は梨壺の御産屋。

又九日4の夜は、右の大将の御産養、例の白銀の5衝重、すみ物6の〔〇碁〕代など7し8奉れり。9祖父大臣、此の生れ給へる君を限りなくかなしくし給ひて、臍の緒付きながら抱きもちて宣ふやう、「子と云ふ者は、かくかなしきものにこそ有りけれ。只宮の小くおはす10るにもこそあめれ。これに、同じくば参り給ひて一二年の程にか11〔か〕らましかば、いかに嬉しからまし」と宣へば、「後お12い〔〇老カ、生カ〕の13 14ゆ〔〇言〕ふ事のあれば」などて、「我が孫にこそあれ、必ず異筋とも思ひつくらん。院の后の15君は、そこの筋には物し給はずや。16内裏の17は、御18いも異にはあらずや。など我がこそ此の身19にならんからに、此の筋の絶ゆべき」と宣へば、大殿、「うたてある20事、かけてもえ言ふまじき事なり。昔なりせば何の疑ひは」など宣ふ。「小き子は、21子持22いのみ23こそ24は目に近くは。中納言は見ずなりにき」などて、此の君見奉りに常に25思はれど、26上の大殿は悪しとも宣はず。大殿、「末の世にらうたき人の物し給へば、見るとて彼方

校異　1図人。2國ナシ。3九字イナシ。4國イナシ。5國イつ。6一字図ご、二字イナシ。7図ナシ。8イてアリ。9国上の。10イナシ。11一字イニヨリテ補フ。12国ひ。13イとアリ、国のアリ。14国い。15イ宮。16國イみち。17イナシ。18イ心。19イナシ。20國イと。21図此のアリ。22イナシ。23図イし。24イナシ。25国おはす、國重か。26図督。

がちなんを、見習1は2 3ぬ心地し給ふらんと思へば、いとなん恐ろしき」と宣へば、北の方、「何か、おはせ4よ。から5はでも物は習ふめれば、今よりこそは」大殿「さればよ。前はかう宣6ふかし」と宣ふ。されど宮の御方には、夜泊り給ふ事いと稀なり。中の君7とありしも、あからさまにぞ訪ひ給ふ。かくて大殿8此の宮に9は御心止め給ひて、しだ10ひ〔○次第〕11母宮12儀式いかめしくなり給13ひて、月立ちぬれば、仁壽殿の女御の御14心もかくして、五15日の日參り給ふとて、一16宮に聞え給ふやう、「參らまほしくあらねど、御國讓も近くあるべかなるに、此の頃は内裏邊にも17思ひてなん。18その中にも、いと憎げなる19樣に常に宣20へば參る。犬21を見奉らざらむ事の覺束なかるべきを22、さて此の宮23を、殿の御方に渡し奉らんとすれども、思ふ心ありてなん。さ聞ゆるやうあり。此方に據ゑ奉り給ひて、御眼放たず見とぶらひ給へ。大將いと物ゆかしくし給24ふめり。夢見せ給ふな。善しとも惡しとも、人には見せぬぞよき。彈正の宮にいとよく聞えん。夜は此方に25殿籠れなど。26異人よりも宰相の君はいと煩はしき。十の皇子は率て參りなん」と聞え給へば、「承りぬ。いとよう後見聞えん。夜は同じ所にと思へど、むつかしき者27や言ひ28侍29らん」

【校異】1因考異ひ給アリ。2国せ給はアリ。3イせ。4イナシ。5国から。6国はざりき。7國イも。8國ニ。9イナシ。10国い。11イにアリ。12國イま。13国ふ、因ふかくて。14国衣更。15國イナシ。16因のアリ。17イとアリ。18國イナシ。19国こそ、因考異事。20国はすれ。21イ宮アリ。22イたんアリ。23国達アリ。24国ひけ。25因考異宿直し。26國イ殊に。27国なり。28イ煩。29国夜。

1は2ざらんと思へば、え侍る3よじき。彈正の宮に聞え給へ4ば、藏人の少將はかの南にありし所5夜晝有りて、藤壺6ぞ責め聞ゆめりし。いみじく恨むめりしかども、耳にも聞き入れ給はざめりき」と聞え給ふ。彈正宮にも同じごと聞え置きて、日暮れぬれば、御車廿ばかり、御前數知らず、君達さながら御供に7、參り給ひぬれば、帝、「高麗8人來た9んなりや」とて、すな10わち參う上らせ給ふ。

［畫詞］11此處は12紫宸殿の御局13へ。

か14くて藤壺、此の月に當り給へり。春宮より15日16々に17ある時は18御事に御文なき折なし。19十五日になれば、大宮此方に渡り給ひて宣ふ、「先のは、かの寢殿にてこそは。そこにてそこらの20事も出で來、いと平かな21る、此の君達もむ22さ「○生」れ給ひしかども、さて人の御方となりにたるを、かゝる事なん有ると聞ゆべきにあらず。此所にてこそは。萬の事所がらに23もあらじ」など宣ひて、かねてより修法行はせ給ふ。山々寺々に祈禱の師を据ゑて申させ給ふやう、「思ほす事に疑ひ24出來たる。これ事なく平かに、さては此度25御事思26すやうに平かに27て」と手をあ28がきて祈り、願をせさせ給ふ。大殿此の事を疑ひて29思す。藤

［校異］1國ナシ。2イさ。3イま。4イナシ。5イにアリ。6國をアリ。7イ似アリ、國てアリ。8國イナシ。9國ナシ。10イは。11以下十字イナシ。12以下三字イ仁壽殿、國仁壽殿。13國ナシ。14國イう。15イ御使アリ。16以下三字國毎なり參。17イ參。18三字イナシ。19國子持。20イ子供。21イり。22イま。23國イは。24國出で。25國のアリ。26國考異ふ。27イナシ。28國イり。29イ思ほ。

意「さりとも宮知り給はで有るべき事か。天下の院の御1傍に出で2てとも3事4も思ほすべうもあらず」と宣5ふ。物など思ほして、親達は思ほし歎けど、いとつれなくておはす。

かゝる程に中旬になりぬ。太政大臣の御四十九日6八月六日ばかりに當りたれば、御わざ果てゝ、暫しありて、帝、大將を御位にておはします程に、大納言になし給ひてんと思して、只今太政大臣なくても有りぬべく思して、なり給ふべき人7御年若ければ、大納言のやんごとなければたん。8左の大臣、いかで此の大臣召しの9儀に、中納言に思ふ人なさんと思ほす程に、10參り過ぎて、廿二日に大臣召あるべし。殿ばらその設け11し給ふ。左大將殿いとになく設け12給ふ。右大將下り立ちて政事し給ふ。此の日になりて皆參り給ふ。左の大臣は太政大臣、右は左13に、14大將は右大臣になり15て、大納言には又右大將なり給16ひて、中納言には、帝、宰相中將17をと思ほす。右の大臣は源宰相をと思ほす。上、「定め18られよ」と仰せらるれば、19かゝれ22ど、正頼が思ひ侍るは、23 24太政大臣の終取り侍るとて呼び侍りしに罷りて侍りしかば、25他の事26申さず、實忠の朝臣の上をなん返すがへす申し侍りしかば、27大臣此の子供の上をは知らで、必ず相顧みんと申し侍り

右の大臣、「此度の20順、師純の朝臣にぞ當りて侍る。左大將の前わたり罷りならぬ21ものなり。

校異　1 國方の御腹。2 イ來。3 国から。4 國イと。5 國ひ。6 国四、國は四。7 國のアリ。8 國右。9 イの後、国のしる。10 イ祭。11 國考異ナシ。12 國しアリ。13 イ左の。14 国左アリ。15 イ給ひアリ。16 イふ。17 國イとアリ。18 國イく。19 国左。20 国そん。21 國考異事。22 イば。23 国故アリ。24 イ太。25 國考異誰が。26 國考異をアリ。27 以下二字国ナシ、六字國男ども。

しを、喜びて罷り籠れ1侍りし2を、此の度の3缺は、彼を4裏ませ給へ」と奏し給へば、上5は、「師純の朝臣はさるべき事なれど、思ふやうは、院のおはしましゝ、此所になどかくて有るを、同じ親王のいむ〔○忌むカ、嵐カ〕6つ7やなど言ひて、いと下﨟なれば、せ8てう〔○帯上カ〕なるを、さる9例も有るを、輔純の朝臣をなん思ふ。實忠の朝臣はかけたる所もなく、今は世を捨てゝ法師のやうになりたる人は、何の官の用かあるべき」と仰せらるれば、「當時に親侍る正賴が男ども10罷りた11り侍りて、彼等12が後れ侍13たんは、此の朝臣の靈の見侍らん事なんいとほしく悲しう侍り。身を捨てゝ侍るにおいては、空しうなりて侍る後に賜ふ例14も侍りなん15や、生きて侍らんになどか罷りならざらん」と申し給へば、上、「さらば、ともかくも16皆計らひに有るべき事なるを、先づと思はれ17人を誰も〱」と仰せらるれば、源宰相18をなし給ふ。大臣のなり給ふべき君達怪しと思す。宰相には、御心と頭19中將20なし給21ひつ。異官ども皆なりぬ。

かくて罷出給ふまゝに、太政大臣、右の大臣、右大將、仁壽殿に參り給ひて、右大將、「度々の喜びを、御方にのみたん。22宮の御23徳な24らずば、かくその人25 26にも侍らず、只今罷りなるべき職にもあらぬを、且は思ひ給へつゝみ、且は喜び聞えさする」とあれば、女御の君、「いと覺えぬ筋に思しなるを」など宣ふ。

校異 1 刈考異てアリ。2 イナシ。3 イ下知。4 イ召さ。5 囨考異ナシ。6 囨す、囫べき。7 イへすアリ〔○末爲カ〕。8 囫け。9 囨例。10 囫まさ。11 囫む。12 囫ナシ。13 イら。14 囨と。15 囯混アリ。16 イ御。17 囨ん。18 囫イなは。19 囨のアリ。20 囯をアリ。21 イふ。22 囨のアリ。23 囫とと。24 囫イと。25 囯と申すアリ。26 イ申す。

父大臣も1立ち給へり。大將は2菓子奉り給ふ。后の宮近くて御覽じて、いと憎しと思ほす。かくて今日は太政大臣3大饗に皆參り給ひぬ。

又の日、左の4大殿5の6宮ふべ7けれど、忌ませ給ふ事有りて明日なり。藤壺のおはします西の對に、宮も大臣もおはします程に、8左の大臣、大宮の御許に喜び申しに參り給へり。驚きながら、廂に御座よそひて對9面し給へり。大臣、「すなはち參らんと思10ふ給へしを、昨日は饗の事侍りしかば、それに障りてなん」「いとも嬉しき御喜びとなん、例よりも嬉しく。此の宮に侍ふ人の、見苦しくめづらしげなき事に、か11く侍れば、初め物し給ふだに殊12榮もなかんめるに、見苦しけれど、此所にさへは見放ち侍らんやはと13ぞなん、此の頃此所に侍るを」大臣14の、「いと怪しう、皆人の羨み聞ゆる事の、かくのみ物し給ふこそ、などか殊物15榮16はなくは。17いもの人行く末の君18こそ」宮、「19いでや、20某21褻さ習ひたるに侍らねば、只此の人の姉の、殿に侍ふ御後などの數多物し給ふをのみこそ、かこちもや聞えましと思22ふ給ふれ」大臣「筋變りたるやうに宜はすれど、兼正が後は大人も童も、子孫まで23御中にし侍れば、更に隔て聞ゆる事侍らず。近きをも遠きをも、幼き者どもは此方に顧みさせ給へとなん思24ふ給ふる。若宮此の世の物にも見え

校異1因參り。2イ拜し、イははし、因考異拜み。3イのアリ。4因考異おとゞ。5イナシ。6国し給。7因きな。8国右。9因而。10因う。11國イかる。12國イはみ。13イて。14国ナシ。15因はアリ。16因ナシ。17因今。17国とアリ。19因考異答。21以下三字因何かかうしは。21二字イぞ。22因う。23イ皆アリ。24因う。

給はねば、御方をば忝きものに。そが中にもかくまだき罷りなるまじき職に1侍2れば、世3中を長くもえ思4ふ給へずなん」宮、「あなゆゝしや。御覡のやうなる人だに、さも思ひ給はざなるものを」と宣へば、「萬の事5後安くを」など宣ひて立ち給ひぬ。宮、さりとも我等6る爲めに後めたくも物し給はんやはと思ほす。

晝つ方、右大殿、一の宮の御許に參うで給へり。やがて藤壺の御許に御消息あり。「をはり法師のやうなる喜びに侍れど、聞えさせでやはとてなん」宰相中將して聞え給へり。御返、「いと畏く、かく宣はするをなん、此所には時知らるゝ心地し7て侍8る」など聞え給へり。歸り給ひぬすなはち、右大將限りなく裝束きて、花やかに、伯父にも父にも優れて參うで給ひて、大宮を拜み奉り給ふ。藏人の少將して、「暫し侍るべきを、此所彼所喜び申さんとてなん。御方には今殊更に侍はんと聞え給へ」とて出で給ふを、宮も御方もすべて9人御簾の内10だに居て11え奉り給ひて、「なほ似る者はなかりけり12と、13今宮こそ幸ひおはすれど見聞14きか15いある16を人を、一人領じ給ひて、使ひ人よりけに從へ給ふ17聞」18と藤壺は宣19ひし。宰相參り喜び申させ給ふ。裝束いと好くして、20拜し奉り給ひて出で給ひぬ。

校異 1 因なりアリ。2 イら。3 因のアリ。4 友ひ、宮考異ら。5 宮御アリ。6 イが。7 イナシ。8 宮考異り。9 因のアリ。10 イナシ。11 イ見。12 以下二字因一の。13 一字国一の。14 イく。15 イひ。16 イナシ。17 イなる。18 イなど、国なんど。19 因ふ。20 因拜み。

此の頭1は、藤壺今日明日とおはすとて、里の人々參り集ひて五十人ばかりあり。宮の御方の人もいと多かり。御前にこれかれ侍ひ給ひて、宰相の中將の君、「此度の喜びをし侍2りぬるこそ、仲純喜びには思ひ給ふれ。時々小野に籠りて見給3(へ)しかば、いと悲しげに世4中を深く心5ら[〇憂]しと思ひて物6宣ひし7を、哀と思8ひ給9(へ)しかば、自らの喜びあらましよりも嬉しくなん。皆人さなん思ひ侍るなる。右の大殿の10左大將などは、かく心深く、11かく更に恥かしき事なん皆聞え給ひし」藤壺、「怪しき12ごとく聞え置き給ひければ、君達を描き奉りて申し給ひければにこそあなれ。此所に知るべき事へ13」「いでさも侍らず。其方にて宣ひし14とを思したるなり。15更には此度はよ16にも。辨の君はいと多く先だち17くなり給ひき。更に言ふべくもあら18ぬを、仲純は後に籠りなりしかど、上の御心しらひに仰せられしなり」藤壺「さては君達中も聞えまさられたり20」とて笑ひ給ふ。

かくて夕暮になりぬ。大臣もおはするに、新中納言參り給ひて御消息聞え給ひて、御前に出でゝ大臣21 22拝し奉り給ふ。花やかに清らなりし名殘に、精進に害はれたれど樣もてなしなまめきて目出たしと、大臣喜び給ひて御消息して、簀子に御座敷きて据ゑ奉り給へり。「いと嬉しく年頃覺束なく、え對24面せざりつ

校異 1 國イうちアリ。2 國らぬ。3 一字歿ニヨリテ補フ。4 國のアリ。5 イら。6 イし給。7 國かばいと悲しげに世中を深く心憂しと思ひて物し給ひしアリ。8 原考異う。9 一字歿ニヨリテ補フ。10 國右。11 國ナシ。12 イ事と。13 イはアリ。14 イ事。15 イさらずば。16 イナシ。17 イて。18 原考異ず。19 イにアリ。20 イけりアリ。21 イをアリ。22 原拝み。23 イ装束。24 國面。

ゑを思1ひ給へ歎きつるを、2よきわたまつるを限りなく喜び3と申し侍4る。近くは殿に参りて5入りし6よ、え對7面せざりしをなん思ひ給へ歎きつる」中納言、「世8中9のはかなく侍りしかば、行も侍らんとて、しめやかなる所求めて年頃籠り侍るを、殿の御事にて罷り出で侍りぬ。思ほえぬ喜び侍れば驚きかしこまりてなん。かく徒ら人にて侍れば、官位の用も侍らねど、御心ざしを見給10ひつるなむいとかしこく侍る」とて泣き給ふ11、大臣も、「昔より同じ所にて見奉り馴れたれば、よからぬ12事13に14 15人しくこそは思ひ16きゆれ。されど思はし疎みたれば、これをなん17けり申し侍る。此所には此の宮に18侍る者の、とから侍りける、此の頃物すべき頃なりければ、こ19れだに侍るなり。本意有りてい20むえんと21もの〔〕どものカ、と物カ」22宣はん人、同じ所に一見語らひ奉らんとておはしませしを、あるは一の上などにたり給ひぬれば、いかでかゝる所にはとて、皆殿に渡らせ給ひにしかば、此所をば此の人にかく取らせて侍るたり」中納言、「もとより愚に侍る中に、年頃魂23もなく、物覚えず侍りて、故殿宣ひしやう24にて、さる御をはりの事も承りしが、ともかくも覚えず侍りしかば、とり申すやうも25思ほえず侍りて、自ら心しも26有る

校異 1国ふ、因考異う。2イ過り給へ、国かく渡り給ひつ、國よく渡り給へ。3イナシ。4因り。5イ侍。6イに。7因面。8因のアリ。9國イナシ。10因へ。11イにアリ。12国子供。13イどもアリ。14イ佗アリ。15国等。16国聞。17イはか、因と。18イナシ。19国なた。20イひ。21イナシ。22因し給。23因考異を失ひ。24イナシ。25國イ覺。26因考異侍。

やうになり侍りける」大臣「何かはさしも。正賴子供數多持て侍れど、まことには恥しう面1伏すべきは侍らねど、2大すに交らはんに面だたしく侍るべき3もなく、人の遊びせむ所には草刈笛吹くばかりの心どもにて、いと無心にて侍り。か4く〔〇辛〕うじてとざまに交ら5ひても恥なかりし6は、はかなくて先へ隱れにき。されば忝くとも今はた親もおはしまさぬを、賴もしげなくとも殿の御代と思ほせ。正賴は昔侍りし者のかくなり給へると思ひ給へ7ん」など宣へば、中納言物も宣はず涙をのみ流し給へば、大臣、い8もばかり上手めき9たりし人10ぞ、から涙をも惜します、世11中を心憂しと思ひたるを、おぼろげにはあらざめり、かゝる心ながら、徒らになりなば恐ろしくもあるかな、12むべ我13所々は哀なりとは宣14ふばかりと思して、多くの15御物語し給ひて、大臣、「兵衞は、此所に物し給16はず對17面せむと有りし。昔人物し給へり。聞えよ」とて入り給ひぬれば、兵衞の君、御簾の18内にて、「昔を今にとこそ聞えさせ給ふべけれ」と言ふ聲いと近ければ、中納言19 20君「いとめづらしき御聲にもあるかな」とて、御簾のもとなる柱のもとに寄りて、「さも久しくなりにける」など宣へば、「何れの世にか忘れ聞えさせん。片時も思21ふ給へ忘られねど、餘所に離れ

校異 1以下二字イ伏なる、一字因伏、四字因考異伏なる。2イおほす、イ大すハおほやけ戯、国大家、因公。3国かアリ。4イら。5因考異はね。6イかば。7因考異なアリ。8イか。9國語。10因の。11因のアリ。12因上。13イら。14イはし、因ひけり、因考異はせ。15國イナシ。16イひつゝ。17因面。18國イもとアリ。19国のアリ。20因ナシ。21因う。

おはしますな1 2る中に、物馴れたるやうなれば、さしわけても聞えさせねば、げに忘れずながら年頃になん。まして此方に渡らせ給ひて後は、おはしましし方のみ見消られ侍りて常に昔戀しくなん。上にも更に忘れ聞えさせ給はず、思はずにまめやかなる御心ざしの有りける事と聞え給ふ」中納言「今まで世3中に侍ると4て見5奉るをこそ心ざしなきやうに6、昔より今まで思7ふ給へ集めたる事を聞え8、世9中になからん10事なん、いと後めた11なき心地する。早う聞え煩ひて死にかへり惑はれし心地なれど、今は思ほし疎む12つき13あらぬを、只此所もとに出でさせ給ひなんやと聞え給へ」と宣へば、兵衞、「かく」など聞ゆれば、母屋の御簾の柱14のもとに臥し給ひて、「此所にもいかで聞えんと年頃思ひつるに、いと嬉しく物し給ふなるをなん。さて宣ひつべからん事はなほ宣へ。此所に15ていとよう聞ゆ」と言はせ給へば、中納言「今は耳も聞え侍らず。人の聞し召すばかり物も聞えね16ど、遠くてはえなん」と聞え給ふ。上「片輪人にこそ17は睦まじう18いもし給はざりけり」と宣ふ御聲いと近ければ、いと怪しくめづらしく思ほえて、「それも誰がしなさせ給へるにか」と聞え給ふ。兵衞「19此所20になほ出でさせ給へ。大臣の君も、御消息聞えよと宣はせつるものを」と聞ゆれば、「いと苦しければぞや21。22此の簾垂を上げ給へ」と宣ひて、御几帳外に押し出だ

校異 1 国イなアリ。2 國ナシ。3 因のアリ。4 国ナシ。5 国えアリ。6 因考異てアリ。7 因う。8 イてアリ。9 因のアリ。10 イと。11 因ナシ。12 イべ。13 イにもアリ。14 イナシ。15 因考異ナシ。16 イば。17 イナシ。18 イは物、国ナシ。19 因なほアリ。20 因もとに。21 国と宣ひてアリ。22 因考異御簾。

させ給ひて、少しさし出[1]ださせ給へり。中納言「嬉しきに[2]も[3]先づ物[4]覺えぬものになん。昔さもせん方なく惑はれ侍りしかば、魂を沈めん[5]と、度々[6]只御文一行を見給はんと兵衞を責め侍りしかど、え見給はざりしを、そのかみ死に侍[7]りなましかば、かゝる折もたく[8]　[9]死すは」[10]う[11]ゐ「○上」「此所にも年頃いかで聞えんと思ふ事あれど、さるべき折なくてなん。此の山里住し給ふこそいと心憂けれ。自ら近く聞[12]き給ふやうもあらん。さやうにのみ皆あんなる世[13]中なれば、うたて言ひなしつゝ離[14]せけ、いと聞きにくしや」「いかで世[15]中に片時侍るべうもあらず、せんやうもなかりしかば[16]いかゞはせん、見所[17]侍る所[18]の世離れたるにて、思ひ給へ慰むやとて振り歩きしに年頃は侍れど、世の憂きよりはと言ふなれど、なほしやうに侘びしく侍[19]るは、所がらにも侍らず」と聞え給ふ。「まだ物の心知らざりし時は、人に物聞えず、疎き者と思ひしを、思へば今こそ人に辛しと思ほさるゝは、いとほしき心地しけれ。人々の心に見較べ奉れば、まだ忘れ給はざりけるを、常にいとほしと思ひ聞ゆるをも、聞き給はずやあらん」と聞え給へば、「世[20]中の事聞ゑ侍らぬ所なれば、まして思ほされん事はいかで[21]と。今は親[22]も物し給はず、萬に身の徒らにならんを、宜ふべき人も物し給はねば、樣異になりて深き山に入りたんと思[23]ふ給[24]うるを、かくとだ

校異 1イナシ、困て。2以下二字イナシ。3二字困考異ナシ。4困もアリ。5國イナシ。6困考異ナシ。7困ら。8困ナシ。9困死せば、困死なば、困考異せば。10國イこ。11国へ。12イえ。13困のアリ。14イく、イけて、国けば。15困のアリ。16六字イナシ。17イあ。18國イナシ。19困れば。20困のアリ。21困か。22イをアリ。23困ゑ。24イふ。

に聞え承らでやとてなん。覺えぬ喜び1侍るを、いとも怪しがり侍るに、人の告ぐるやうに侍りしかば、さまで2たて思しける事、さりとも聞えさせてんと頼みてなん」う3ゑ(〇上)「御喜びの事4は此度は此所にも知り侍らず。行く先平かにも侍り、思ふやうにも侍らば、内裏わたりの御後見はとなん思5ふ給ふるを、なほ此の6 7(お)こな8(ひ)(〇行)9は山と宣ふ事宣はで、世の人の有るやうに、宮仕10ひなどし11侍12る13人なんどして物14し給はゞ、此所にも絶えず聞え承らん。さらばげに此の邊に御心ざしあ15ると16は知るべき。かく聞ゆるに、さもし給はずばなほ元よりさる御心有りけりとなん」中納言「かく宣はせば、時々里に罷り通ひても侍りもしなん。世の人のやうに人につきてはえ侍るまじ。此所に聞えさせし時より、人の許には侍らず。殿に侍りしまでは女を餘所に見給へき。それも兵衞の君に物聞え給17ひなん。參らせ給ひて後、山里に罷り籠りては、下司にてもさる者をなん見給へぬ。自ら君達時々物し給ひて見給18ふ。今更に何でふ事かは見給ふべき。かくながら死な19なむとこそ思ひ給ふれ」とて、涙をつぶ〳〵と落して、いたく躊躇ひて、聞えも遣り給はね20ど、いと哀と思はして、「知らぬ人の今めづらしきこそあらざらめ、昔見給ひけん人の哀なるも持給へるを、物し給ひけんやうにて經給21ふべし。世22中に見苦しかりし事どもは、皆あ

校異 1イのアリ。2イさ。3国へ。4國イナシ。5因う。6因御アリ。7一字イニヨリテ補フ。8一字イニヨリテ補フ。9因の事は止め給ひて例、一字國ナシ。10イへ。11以下三字因給ひ。12以下二字イり。13國ナシ。14國イ宣。15国り。16国見。17因へて。18国ひつらん。19因ナシ。20イば。21イへり、因へか。22因のアリ。

らまほしきやうにのみなりにためるを、只其所にかうて物し給ふなるのみなん、まだ見苦しかなる」中納言「それは罷りにけん1方も知らず。故殿の、實忠2彼等が料に侍るなるも、徒らなるべくなん。自らも侍るべくもあらず。彼等も世3中に4は有るにや、無きにや、あらんとも」「民部卿こそ在所知りたるやうに物せられしか」「尋ね出でば、もし近く侍る所にはそれら侍らん。さりとも名殘なく、さる容貌ならん者も見給へじ」と聞え給ふを、「怖ぢ給ふはいみじき御行5の心にこそあなれ。などか6い筋異なるやうには」7と聞え給へば、「その筋を心憂しと思8ふ給へ入りにしなり」と聞え給ふ。「まめやかに9て、10此所の爲めに御心ざしあるものならば、聞ゆるやうにて物し給11ひつ。聞ゆるやうにてあらじと思すとも、から聞ゆる事に叶12うと思して、思さるゝものならば、13疎からず常に聞え承らん。さらぬものならば疎くて聞えじ」と宣へば、「例の人のやうにてはなほえ侍らじ。14(か)やうに時々侍らん、仰せ言に從ふと思15ふ給16(へ)て」と聞え給へば、「よし、多くも聞えじ。此所にも世の中に侍らんとも知らず。平かに侍るものならば、時時兵衞が許に訪はせ給へ。さてを聞えん。只今は行く先の事17聞えにくし」とて入り給ひぬ。中納言の君は兵衞の君と物語し給ひて、曉に歸り給18ひなん。

校異 1 國イナシ。2 二字イナシ、3 囡のアリ。4 囡ナシ。5 イナシ。6 イは。7 イナシ。8 囡う。9 一字囡は。以下三字イ寺。10 二字囡父。11 イへ。12 イふ。13 イ事缺か。14 一字イニヨリテ補フ。15 囡ひ、囡考異う。16 一字イニヨリテ補フ。17 イいとアリ。18 イふと、國イふ。

[畫詞]1此所2へは西の對に、喜びの人々3參り4給へり。中納言藤壺物語し給へり。

[奧]文化十二年乙亥七月以本居氏藏書校合畢　橡樟園與之

[校異]1以下廿九字イナシ。2一字イナシ。3イだにアリ、国多くアリ。4イ集ひアリ。

か1うて今日は左の大殿の大饗、やがて此の御方2御前にて、寢殿面白く造り樣いかめしければ、し給ふ、例の如いかめし。上達部は皆例の人々なれば、御方3殊に見給はず。右4大臣5ばかりぞ客人にて物し給へる。又の日は右の大6殿7のいといかめしうし給ふ。三條殿いと面白く淸らに造りなされたれば、其處にてし給ふ。寢殿は上達部の座にしつらはれ8、東の一の對を9彈正10宮、11郞12大臣の座に13、二の對廊かけて所々14にせられたり。上達部常に物し給はぬ15所なれば、御心遣し16つゝ參うで給ふ。17右18大臣も物し給ふ。右の大臣、「此所には、此の大饗し始むる日なるを、畏くとも宮達語らひ聞え19奉り給へ」と聞え給へ20ば、彈正の宮、21帥の宮にかう〳〵と聞え給へば、宮達「大饗の所にな著きそ」と、度々上の宣はすれば、左の大22將殿に23なむ著き侍らずなむ。さりともさ24らば宣ふらむを」25來て、26大將諸共に參うで給ふ。大臣悅びかしこまり給ふ。此の大饗の事は宮27 28更に知り給はず。

校異 1因く。2因のアリ。3國イ方アリ。4イのアリ。5因とアリ。6以下二字因考異臣殿。7イナシ。8因たりアリ。9因ば。10イのアリ。11因達の御座。12イをアリ。13因はアリ。14因ナシ。15國イの。16因考異て。17国左。18イのアリ。19イていて（○牽てカ、出でカ）アリ。20イれアリ。21因帥。22国ナシ。23因だにアリ。24イは。25イ見、因と、因考異聞きていかゞと。26因大臣。27イのアリ。28国さう。

かくて此の大臣、主の大臣に聞え給ふ、「此所には還饗始め1給ひし時ぞ參りたりしかし。年頃あらぬ樣にしなさ2を給3（ひ）てけり。昔よりかく習ひたるしきに侍れば、御心ざしも變らで同じ4事と思ひ給ふれど、その事ともに侍らで、え5殊更に聞えさせ侍らぬや」主の大臣「此所に6も更に隔て聞ゆる事7もなければ、そが中に今はた大將などさて侍へば、昔より心ざし深く」など聞え給ふ。「先に參りたりしには、大將のまだみす8く（〇未熟カ）に物し給ひしかばこそ人心地もせしか。此の度は聞え觸るべくもあらぬこそ」と聞え給へば、主の大臣「先の御碁代物違へさ9を給へりとて、常に嘆きしものを」と聞え給へば、「さて奉らずやっかの持給へる人は正頼が10子にて養ひ奉るぞかし。見奉り給ふにかひなく11よにも12」主の大臣「されど本意違ひたるやうになむ13はつる、中納言のいとめづらしう參られたりけるは、いかなる事にか。殿を深く恨み奉り14て交らはれぬとこそ承りしか。15あ16りは、此度の事は萬の事をかう忘れぬべき御志ぞかし。これを見給ふるこそ心遣は」客人の17殿18の宣ふ。19主は否む。主の大臣「さ宣20（21へ）る22なしめたきやうなり。かの筋によりてと見たればこそ、世の人、皆心遣ひし、畏まり聞ゆめれ」23と御物語し給ひて、御中

校異 1国しアリ。2異せ。3一字イニヨリテ補フ。4図ごと、図考異如く。5異ぞ。6イてアリ。7図考異どもアリ。8図考異す。9イせ。10国孫。11図はアリ。12国あらじアリ。13異一日、図考異侍る。14国ナシ。15国しかアリ。16国る。17以下二字図大臣。18イナシ。19イめりしかばなむ、国ありしかばなむ、図故大臣のありしかばなむ、図考異故大臣のありしかば。20一字国ニヨリテ補フ。21以下五字異ふか。22以下二字図後。23イナシ、図など。

いと1よげに見ゆ。女方に2は、大人童下仕限りなく裝束きていと多かり。かづけ物ども樣々にいと目出たくしてと3し出させ給4ふ、引5出物皆あり。御達6はいと心7こそなり。かくて夜一夜遊び明かし給ふ。

御前の池に鶴8かくる樂に合せて出で來つゝ舞ふ。9へとめて歸り給ふ。

かくて中納言は此の殿に10さた（〇又）物し給ひて、小野へ歸り給ひなむと思すに、藤壺宣ひし事いかにせむ、さ宣ふとて里住をせば今は何のかひかは。心ならぬやうに世11人こそ思はめ、强ひて山里にあらば、本意12よくてあらむと思ふにこそ有りけれとこそは思ほすべかめれ13など思ほし煩ひて、民部卿に、「かう〳〵なむ有りし」と聞え給へば、「さりけんものを、まことにその事を思14ほさば、同じやうにて物し給へば心ざしなきやうにこそは、かくて物し給15はゞ、公私惜しみ聞ゆれば、聞きに16てさには、事し17懸ひ、打ち18あばめて泣く〳〵交り給ひしかど、夢ばかりの19舞うをだにし給はず、世20中に心をも21つ22くしやかに思はれ給へる人の、今更に對23面してさ聞え給ひけむも聞き給はず、年頃24御心ざしの25聞きぬる26にこそはあらめ。此の度の御喜びは、大臣27おはしまし28し世に交らひても、右大辨をば29押し給ふべくもあらぬを、おぼろげの御心ざしに30はあらず。なほ時々は小野にも通ひ給ふとも、かの山里に物し給ふ人迎へ奉り給ひ

校異　1国どアリ。2イナシ。3イう、因り。4因ひ。5因出。6イナシ。7異異。8因ナシ。9異つ。10異ま。11国のアリ。12国か。13異ナシ。14国へ。15國ひつゝ。16異く。17イ佗び。18異合はせ。19異聲。20因のアリ。21異うアリ。22異つ。23因面。24因のアリ。25異消え。26國イナシ。27因世にアリ。28因て。29異越。30イも。

て、御すましの事など1•せさせ奉り給へ」中納言「身一つは京に通ひつゝも侍りぬべし。彼所にも聞えてき、古きにもあれ新しきにもあれ、人は更に見給はじ」と宣へば、「さらば、かの大い君2•は知り給はじとするか。又出で3•来とも小さくこそ4•はあらめ。大人になり給5(へ)る人を知らじと思すらむ6••とぞ」「いで、何か今は。身をだに知らぬも7•のを」と宣へば、「8••更に此所にこそは尋ね聞ゆべかなれ。殿の率られたむなる9•そ10••うらゝ11 12••てら(〇寺カ)13•なども、家など、誰にかは。徒らになされてかひなくこそは」など宣ふ。中納言、「此所に賜へる所は、之侍りぬらむや。さりぬべくば時々侍りぬべからむやうにしなさせ給へ」「14••いで其所は、15•••また手なくはあらざりし所なり。女君の御料なるなむ萬の物具して、只今もおはしたらん16••に便なかるまじき」など聞え17•••たらば、18•••かくて民部卿19•母北20方の住み給ふ山里に參うで給21••ひつれば、北22方對23•面し給へり。民部卿、「年頃いと覺束なく、24••何時に物し給ふらむとも之承らざりしを、或る人の、かうてなど申すにつきてなむ承りし。25••いで淺ましや。さそど怪しき御中ならむ御歎26•なるべし。中納言の君の、ありしやうにもあらずなり27ためる」28•と聞え給へば、「あなうたてや。惡しかれとも思29•ふ給へねばこ

校異 1 因申。2 因も。3 国こ。4 國イナシ。5 一字異ニヨリテ補フ。6 異こそ。7 國イナシ。8 因させば。9 以下三字因御料。10 一字異こ。11 因御アリ。12 以下三字因調度、二字異庄興、因考異たから、國こらのてう。13 異ナシ。14 因答(いらへ)。15 因全(また)く。16 國イナシ。17 異給ふ。18 異こゝは。19 国ナシ、因は。20 因のアリ。21 異へ。22 因のアリ。23 因面(う)。24 異何處(いづこ)。25 因考異答(いらへ)。26 異た。27 異にアリ。28 [イ]ナシ。29 因う。

そ、あらまほしきやうにて1は。さても訪ふべき人だに、年頃まで夢の中にも聞えぬに、思ひの外におはしましたるをなむ」民部卿、「宣はせし事のあるを2、すなはち參り來むと3てせしかど、程なく御思ひになりにしかばなむ。宣はせしやうは、此所に物したらむ女君をば、殿の御子になし奉りて、實政4が仕うまつ5れ。をや〔○親〕は世6中思ひ離れ給へる人なめり。さればえ7し奉り給はじ」とて、奉り給ひし物ども記したる文奉り給ふ。「この得給へる殿は、殊に廣くはあらねど、若き人の住み給はむにいと面白き所なり。かく思ほしてにや有りつらん、年頃御心留めて造らせ給8ふ、有るべき9皆10らむせられた11る。早く渡らせ給へ。此の南殿は中納言の君たむ賜はり給へる。近隣にて、今だに御中よくて物し給へ」と聞え給ふ。北12方も見給ひて、いみじく泣き給ふ。「かく淺ましき所なれば、世13中の事をさ〳〵聞えぬを、殿の御事も久しく有りてたむ承りし。いみじく悲しく、親もなきやうなる人を持ち侍りて、さりともおはしまさばと思14ふ給へつるものを、かゝる事をさへ宣ひける」とて泣き給15ふ、御服などをも16賜へり。例の御服をぞ君は著給へる。かく承らましかば、17此の侍る人にも宜き御服をこそ著せ侍るべかりけれ。心ときめきのやうなれども」とて、濃き鈍色の御衣一襲、黑橡の御小袿18打ち出でゝ19見せ奉り給へり。民部卿泣き給ひて、

校異 1國イナシ。2因考異なむアリ。3因ナシ。4因ら。5以下二字[イ]るお。6因のアリ。7因知り、國仕立て。8因ひ。9[イ]樣アリ、因事アリ。10[イ]な。11国り。12因のアリ。13因のアリ。14因う、因考異ひ。15因ひ。16異著給。17國これ。18異取り。19国著。

山里1を2獨り眺めて我が宿の蘂の盛りをいかで聞きけむ

北3方、

松枯れて蘂のみ有りと4聞えしか我も袂は深くなりにき

と聞え給ふ。民部卿、「そも／＼女君はいかに6生7い8出給へる。昔は名だたる人に劣るまじく聞え給ひしを」とて、御簾を掻き上げて見奉り給へば、鈍色の御几帳立てゝ親も子も居給へり。姫君、薄鈍の一襲、御9う10ちき（〇小袿）、搔練の袿一襲著給へり。御年十七11歳ばかりにて、御髪いと目出たし。頭つき御有樣いと美しげにておはす。母君いと物12くしく愛敬づきて、髮うるはしく淸げな13る、年三十五の程にて居給へり。民部卿女君に、「丸な親とは思せ。今は萬に仕うまつらむ」などて、御髮を搔き出でゝ見給へば、いと多くて七尺ばかり有り。北14方、「髮などは生ひぬべ15し侍りしかど、世の中のかくなりにしより夜晝思ひ歎き、ある時は伏し沈み頭もたげず嘆きて、顏容貌も人のやうにも生ひ出でぬ16めり。怪しく、此の子供は人にも似ず、親を戀ひ悲しみつゝ、一人は徒らになりぬめりき。これも今に忘れざめれば、また如何あらんとなむ」民部卿17を「いと怪しや。何でふ契り有る事にかありけん。萬の事坊のやうにあめれば、世

校異 1 国に。2 國イ人し。3 因のアリ。4 イ聞きしかば。5 異が。6 以下二字異かく。7 国ひ。8 イ出で。9 以下二字イこう。10 因考異ナシ。11 因ナシ。12 イ物。13 イり。14 因のアリ。15 イく。16 イなアリ。17 イナシ。

の常ならぬ御好1 2となむ見給ふる。今はなほ里の殿へ出で給へ。今吉き日とりて御迎へに3」と聞え給へば、「いなや。今更に4憂かりし5里にも何か6。若き人のおはしまさむ所にも參り侍れかし。此所にはやがて黒き樣にてもやみ侍りなむ、此所ながらもたゝむ」「7いでは〔○いノ誤カ〕と味氣なき事を。早渡り給へ。其所にさへ添ひ奉り給はず8、い9(10か)でか後見聞え給ふ人なくては。さても世11捨て給ふばかりの程にはあらざめり。かの君もつひにさてのみややみ給はましと思す心慰め給ふ折も有りなん」など聞え給ふ。かうて物參り給ふ。12色々の折敷四つして13、ひき干菓物などして、御肴14にて、15さへ〔○前〕に柑子橘、ひとこ、16あふらちなど有るを取らせ給ひて、御酒參り給ふ。御供の人には、御前にも下人にも、皆樣々に、御前には皆腰挿賜17ふ、下人には18はらなど賜ひて歸り給ひぬ。

書詞 19 20志賀の山本。

かくて藤壺、今日明日にあたり給へば、皆御產屋の設け21させ給ひて、大殿におはし22させば、君達は三所四所、夜ごとに宿直し給ふ。御方におはしまして、あるは夜泊り給23ふ24ありなどする程25、宮よりよき程

校異 1因考異にアリ。2イに。3國イかアリ。4イ賴。5因考異もなきアリ。6因考異はアリ。7以下四字因答。8イばアリ。9一字イニヨリテ補フ。10以下三字因考異かど。11イ過ぎ、因考異馴れ、國イすま。12國イひろ〳〵。13國イのアリ。14イと。15イま。16イ棲、国あぶらもち。17因ひ。18異はう、国袴。19国此所はアリ。20五字異ナシ。21〔イ〕せアリ。22〔イ〕ま。23以下三字国ひ。24二字〔イ〕ナシ。25〔イ〕にアリ。

なる白銀黄金の橘1一2餌袋、3開えたる色紙一重覆ひて、龍膽の組して結びて、八重山吹の造り花に付けて有り。御文には、「覺束なからぬ程にと思4ふ給へど、留めし程を過ぐさ5れ6しかば、それが空さに7こそ、此の頃は夜の間は如何と、覺束なく思ひや8 9れ。さてこれは幼き人々に。其所に見給ふ程だに哀にし給へかし。

　羨まし今五月待つ橘や我がみに人はいつか待ちて〔〇出カ〕む

と思ふ10、心もとなくなむ」とて奉り給へ11る。大宮御袋開けて見給へば、大いなる橘の12か13い〔〇皮〕を橘さまに切り14て、黄金を實に15似せて包みつゝ一袋あり、大宮「あな煩はしや。いかでこはせさせ給ひしぞ」と問はせ給へれば、例の藏人、「兵衞殿、中納言殿の仰せ言16ぞ承り給ひて、御前にてこれ17なむ仕うまつり給ひし」宮、「かやうのをかしきわざは、かの君ばかりぞし給ひ出でられけむか18し」これかれに押し包みてく19つか〔〇配り〕奉り給ふ。藏人少將、「おは20すや君達、21酒倉の22に橘喰はせむ」とて、餌袋〔〇〕手毎か〔〕に君達弄び給ふ。御返りは、「日頃訪はせ給はざりつればいと心細き心地なむ。さてこれはさしも承らぬものを。

校異 1 イ一。2 イナシ。3 イ黄ばみ。4 因ひ、宮考異う。5 イなま。6 異にアリ、国イなまアリ。7 異もアリ。8 因らるアリ。9 宮考異られて。10 異はアリ。11 異り。12 以下二字異皮。13 イは。14 イナシ。15 国彫ら。16 イナシ、宮考異を。17 イかれアリ。18 国イら。19 イばり。20 イせ。21 以下二字異猿面。二字因さるべからん人。22 異ひアリ。

みにもかく昔の人をならしつゝ花橘を何か羨む」

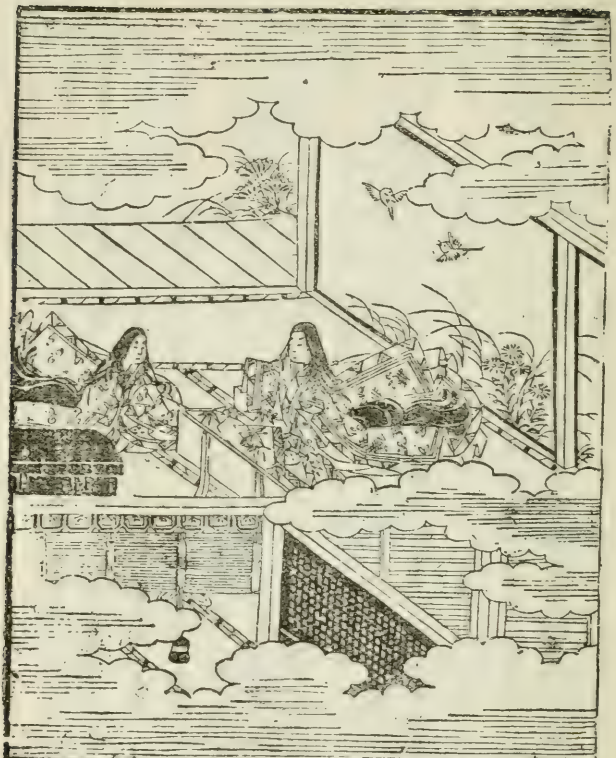
異事にまた聞え給ふ。大宮御使に女の裝束一具賜ふ。

かゝる程に、1孫王の君藤壺にある夕暮に、かは〔〇皮カ、側カ〕離れて黒き水桶の大きやかなる、四つ2五つ重ねて、女どもさし入れて去ぬ。局の人々、「怪しき物かな。御前にかゝる物3をさし入れて去ぬる」とて見れば、大きなる4葉盤を白き組して結ひて、五つさし入れたり。取り入れたれば程は桶5の大きさなり。開けて見れば、6櫃には練りたる絹を飯盛りたるやうに入れたり。7今一つには綾を同じやうに入れたり。今一つには、鰹鮭などのやうにて、8隱9入10りたり。葉盤の蓋に、生女の手にて、「今日ならむ11かう具して一つ12いゝのりつ13るひしてく14すにはなと15る、

祈言も肯かずなりにしかさまには神の多かる葉盤そてとぞ」

と有るを、16孫王の君、「誰にか。例の人のすさびにこそあめれ。久しくかやうの事なかりつるを」と宣ふ。乳母、「里におはします程を思したるなめり」と云ふ。君はいかでかこれが返事聞えむと思へど、さるべき17事18 19おり〔〇折〕もなければ、御前に取り出でゝ御覽ぜさすれば、「いと淸げなる神のおろし20かな」と宣ふ。

校異　1国孫。2国つい。3異ナシ。4異壺。5イナシ。6イ一つ。7十六字因ナシ。8イ沈。9因考異をアリ。10イれ。11イ辛くし、国辛うじ。12イづゝ。13イか。14イま。15因か。16国孫。17イナシ。18国もアリ。19イを。20国つちひくぼアリ。



1うつを〔○俘〕など配り2つ、いほ藥鑑は持た3ち。
かゝる程に臨月になりて、いとた4いら〔○平〕かに男御子生れ給へり。氣色もなくておはしつる程に生れ給
へ5り。人々は聞きあへ給はず。大臣宮喜び給ふ事限りなし。いかならむと思ひつる度6しも、何事もなく
し給へれば、生れ給7ひつる皇子をうつくしみおはさ8ふ。宮より御9消息たちかへり有り。大臣、睦まじ
く仕うまつる人を御前に召して、萬調じて參り給10ふ、思ふやうに人のえせぬをば、御手づからし給ふ。宮
の御腹の君達は籠りておはす。御手づからし給へば、君達、「何事を11 12仕うまつらむ」と聞え給へは、大臣
「13其所達はまだ14未熟なら15ぬ。翁は多くの子孫の母を勞り惜ひたり。かゝる人をばこの折によくいたは
り心しらひつれ16、容貌も殊に害はれぬものなり。宮の17よう思すなるに、つひやか18させでこそは參らせめ」
とて、萬に有難き物をして參り給ふ。産養し給はぬ人なく、いと清らにし給ふ。宮より七日のは、19屏風
御座より始めて、20ひてなる持の御付きたる21み、唐櫃五具に、綾錦より始めて、萬の物入れさせ給へり。
御文あり。御使は太夫、「度々のは見給へき。自ら宣はねば覺束なくなむ。いかにと思ふ驗にや、異なる事
なくて物し給ふなるを、喜び、萬の事見ぬ物となりにけるこそ、あらためまほしくこそ。さてこれは、旅人

校異 1イか。2イつちひ、国飯粒。3イり。4国ひ。5イば。6［イ］々。7［イ］へ。8イらず。9国装束。10 [illegible]
ひ。11イかアリ。12反考異奉。13国イこそふ。14国見知らぬ。15イん。16イばアリ。17イか。18国に
させて。19イ御アリ。20イ長。21イ三、国三つ。

の料にとて。數多の親になり給ひぬるをなおいと哀に。今はとく對1面もがなとのみなむ。さりぬべくば、夢ばかりも自らも2賜へ。打ちも驚かされたりと3も、いと4ざよく見えつべしや」とて奉り給へり。大宮見給ひて、「かく人の親になり給ひて、心しておはしますこそ哀たれ。覺束なしとあめるを、御返5しも伏しながら聞え給へかし」と宣へば、聞え給ふ、「承りぬ。まだ筆も取られ侍られ6ば、覺束なしと宣はせたれば、伏しながら聞えさするこ　いかにと思ひ歎きつるを、今日まではかく聞えさするを、後はいかゞ。人の親にとか宣はせたるは、7よつ早見るとか云ふなる事をなむ、今から思ひ給ふるこそ。旅人に賜はせたる物は、主までなむ喜び聞ゆる8かと此所には」と書き給9ひつれば、宮つゝませ給ひて、御使に女の裝、下人に10祿など賜ひて奉り給ひつ。

一の宮の御方より、子持の御前11の大臣の12御前、兒の御衣襁褓、いと淸らに13て14ら〔〇調〕して奉15れり。白き折櫃に黃ば16えたる綿書きて、白き17くぼみたる錢18積みたり。御いし〔〇石カ、椅子カ〕の臺に例の鶴あり。洲濱に、

行く末も思ひやらるゝ石にのみ千歲の鶴を數多見つれば

19大將の君の手にて書き給へり。源中納言殿の北20方、いといかめしう仕21うまつり給ふ。男方のは、左衞

校異　1 ㊇面。2 イ宣。3 ㊇考異て。4 国ナシ。5 異事、㊇り。6 異ど。7 国萬。8 国異事、國ぶどこと。9 異へ。10 異銀。11 国ナシ。12 ㊇御前。13 以下二字國イナシ。14 イう。15 ㊇り給へ。16 国み。17 異黃。18 異包。19 異とアリ。20 ㊇のアリ。21 国ふ。

門督[1]君、萬の所々の事、皆君達當り給ひつゝし[2]給へり。所々より御産養し給はぬなし。大臣の君は外に出で居給ひて、おはしまさ[3]ひし時[4]は[5]左右よりふと[6]御子達もいさゝか[7]集ひ給ひしを、今[8]しもあらねど、太政大臣皇子達を放ち奉りて、右大[9]將より始めて參うで給へり。宮の殿上人などはな[10]きなし。下人も殘るなく參れり。かくて大臣の御笛御琴ども遊ばせば、大將、「年頃久しく承[11]らざりつる御遊びは、今宵の料に習かせ給ひけるにこそは」大臣、「後生の恐ろしかりしかば、耳は座りにしを、今宵はいたち〔○居立カ、鼬カ〕い的とこそ聞き給[12]ひけるは、物一つ遊ばせ。仕うまつりて試みむ」と宣ひて、[13]筝の笛を奉り給ふ。大臣は皮[14]笛を遊ばす。兵衞督中納言大篳[15]かき〔○篥〕。これかれ御琴[16]も遊ばして、夜一夜遊び明かし給[17]ふ、歌など詠み給ひつゝ、曉には皆物などかづ[18]き給ひて歸り給ひぬ。つとめて宮昨夜の物此所彼所へ奉[19]り給ふ。凉の中納言[20]は[21]はとの[22]て[23]に。

かくて九日[24]夜は、大い殿内裏の大饗の御前の[25]もし給ふ。此所彼所よりいと淸らにて奉り給ふ。[26]左大將殿大いなる海[27]がたをして、蓬萊の山の下の龜の腹には、か[28]ぐはしき[29]なひを入れたり。山には黑方侍從

校異 1因のアリ。2国みアリ。3国まし。4国ナシ。5異客人、國客人と、國イさうふと。6国君、因考異きん。7國イ使。8異さアリ。9国臣、因殿。10異がアリ。11異は。12因へ。13国筝。14異皮アリ。15異り。16異どアリ。17因ひ。18異け。19国れ。20因ナシ。21国果。22国日。23因いといかめしくし給ふ。24因のアリ。25異物。26因右。27因のか。28異うば。29イえ、頭書「褭衣香俗云衣比」。

1薫衣香、合せ薫物どもを土にて、小鳥玉の枝並み立ちたり。海の面に色黒き鶴四つ、皆しとゞに濡れて、字な2り3色をばいと4黒5白きも六つ、大きさ例の鶴の程にて、白銀をはら、ふく6ちに鑄させたり。それには麝香萬の有難き7菓物8ひはゝ9づゝ入れたり。その鶴に、

薬おふる山の麓に住む鶴の羽を並べても返る雛鳥

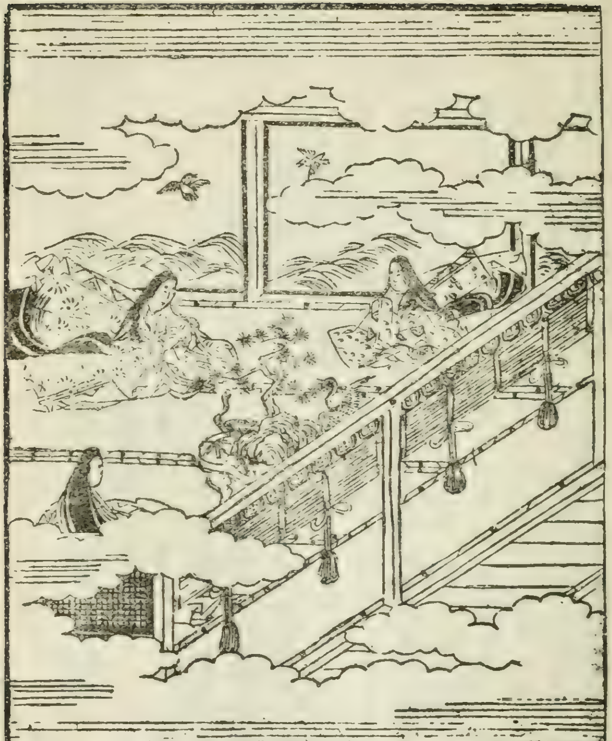
何處よりともなくて夕暮の紛に掻き据ゑたり。涼の中納言の君かやうにもてあそび物10の具11にて奉り給ふ。12所の夜もこれかれおほ13ゝ〔〇御〕遊びなどして、今宵は氣近14うしてなまめきたり。

夜明けぬれば、つとめて御座敷きかへ、例のごとくして、人16 17の18ゝら〔〇〕裝束19どもなどして20候ふ。21御内侍の典初めより參りて、例の御湯殿の行事22と、御湯殿は23すけの君に殿守と云ふ參る。しなやかなる折にて、御前にてこれかれ物語するついでに、内侍の典聞け、「こゝ24ちの御産屋に相參うで25來る中に、26多く賑27けしかりし事は此の御産屋の28たたの御降り、面白く心肝榮えし事は大宮の御産屋、此の度のはいとあらまほしう淸らに29て侍るめる。兵衞30督殿は面白き事はなくて、いかめしく賑けゝしき事はいみじ

校異 1国薫衣。2イる。3国鶴。4国ナシ。5国うアリ。6イら、国ろ。7国薬。8一字イ心、三字国一つ。9国包ま。10イナシ。11異まで。12異そ。13異みく。14国く。15国考異くアリ。16異々アリ。17イナシ。18国さ。19イナシ。20国さぶらふ。21イナシ。22イす。23イ修法、国孫王。24異ら。25国け。26異物アリ。27異はゝ。28異七、国七つ。29異ぞ。30異督殿。

く侍りき。かづけ物清らに萬の物は七つの寶にしかへして、いと清らなりきや」と云へば、藤壺は、「一1宮の御方にて、げにめづらしき心地2は給ひけむかし。さる人の心に入れて、居立ちてし給ひける事なれば」内侍の典「さて更にも生れ落ち給ひしすなはち、父大臣の舞ひ給ひしより始めて、面白き事ぞ限りなく侍りし。大殿七日3夜は舞し給ふ事、他上達部すかし給ふと4 5物舞ひ、琴彈かれなどせ6しは、さる事は何處にか。さるかひありて犬宮のいとをかしくぞおはする。此の頃7はふさして居給へり。人8御覽じてはたゞ笑ひに笑ひ給ふ。大殿の君は、とみの事あれど率て遊ばせ給ひつゝ、9は10(たゞ)立ち給はず、夜11晝膝にぞ据ゑ奉り給へる。げにいと美しきや」御方「宮12との御仲は如何あ13るに14と、典「いかばかり目出たき15仲ぞ16とは。先つ頃此方におはしけるに、參り17けれど、物18聞え給はざりければ、五日六日入り臥し給ひてこそは恨み奉り給ひしか。御遊びこれかれし給ひしを立ち聞きしかば、御方の琴の御琴をこ19れ筋に遊ばししかいと怪しかりしかな、同じやうなる物の音とは言ひながら、此のぞ20ら〔○族〕は筋異なる事の、御21さへ〔○前〕にて仕22うまつりてはたを惰ち給ひしか」「さて宮はいかゞ23宣ひし」と問ひ給へば、「いかでかかう24はし25も聞き給はぬものを、まことに聞えたるならむこそ聞き給ひしか」と問はれ26ど、27よくも宣

校異　1因のアリ。2異ナシ。3異のアリ。4異のアリ。5異も宣、因て宣。6因させ給ひアリ。7因這ひなど。8國イせん。9以下二字國イ居。10一字異ニヨリテ補フ。11國イナシ。12異々。13因なアリ。14因ナシ。15因御アリ。16因そ。17因給ひアリ。18イもアリ。19異の。20異ら。21異ま。22国ふ。23異とアリ。24異ばしく。25國イ人アリ。26異ば。27異か。



ひげなかたと聞し召す。

か1ふて2大宮は3修法の君に4二夜取り置かせし物どもして参れり。蓬萊の山を御覧じて、「いと煩はしくしたる物かな。何処のならん」と宣ふ。5孫王の君に語らひて参らせ給6ひつれば、をかしと思ひつれども、岩の上に立7てた8り。此の鶴どもを取り放ちつゝ見給へば、沈の鶴はいと重くて、取る手しとゞに濡る。「あたいみじの物どもや」と言ひのゝし9る、白銀のは、金なれど殊に重10もくもあらず。腹に物11の下に入れた12り。書き付けたる歌は、黄金の泥して葦手13あり。「これは誰が手ぞ」と集まりて見給へど、え知り給はず。御方御覧じて、「大将の御手に14こそあめれ。若15君にとて16く〔〇手〕本あめりし、同じ手な17めり」と聞え給へば、おと18し〔〇大臣〕「げにさなめり。異人のすべきわざにはあらず。これを見知らぬやう19なる20は、いと心なきわざかな。21如何せむ」と宣ひて、御火取召して、山の土所々試みさせ給へば、更に類なき22香す。鶴の香も似るものなし。白き23が色と見給24ふ人は、25麝香の臍半ら程ばかり入れた26る、取う出て香を心27得給へば、いと懐かしくかうばしき物の例に似ず。「怪しく此の物どものこゝ28らあるが異物に似ざらん」宰相中将、「或る人29々の忍びて申30(し)しは、いと有難き所31なり、32治部卿の御

校異 1国へ。2イ犬。3国孫王。4国一。5国孫。6異へ。7国ち。8異る。9国り。10異ナシ。11国を。12国ふ。13異な。14国てアリ。15国宮。16国て。17異ナシ。18異ど。19異にアリ。20異にアリ。21異いかに。22異香。23異香はなど、国香はなど。24異ば。25国麝。26異り。27異み。28国イち。29異ナシ。30一字異ニヨリテ補フ。31異よ。32異故アリ。

[1]香物[2]得[3]て[4]これたりとこそ申ししか」大臣[5]に「さ[6]よりな[7]り。去年の冬人に聞かせで、御前にて御文仕うまつり給ひき。かゝる世に似ぬ物[8]など見ゆるは」など宣ふ程に、新中納言殿より「兵衞の君に」とて御文あり。御覽ぜさすれば、「いと哀に嬉しかりし事は、すなはちと思[9]ふ給へしかど、世の人の心つ[10]ゝ[11]ませ給ひしかば、げにうたてもやと思[12]ふ給へし程に、念じ聞えし驗にや、思[13]ふ給ふるやうにて、平かにおはします[14]なるを、限りなく喜び聞えさせつれど、物騷がし[15]きが中[16]ち[17]いましてなり侍りにける人は、昔ふみ思[18]ふ給へられて、物も[19]思ひ給へざりしかば、何事を聞えさせ侍らん。いでや、

此所にても聞きける聲を時鳥惑はれしかなしでの山路に

と[20]さこなむ。一人[21]侍る兄弟などをこそ女績には、[22]それ[23]は御覽ずらむかし。大臣[24]物[25]給はせしやうに、昔侍從の君の御代りに思ほしな[26]きば、宣ひし所へも罷り[27]歸らじ。今日明日の程に罷りて、今。[28]さらば時々は近くを」と聞えたり。御覽じて、兵衞に「かく書き給へ」とて書かせ給ふ。「かくなむと聞えつれば、自ら聞えん[29]と[30]すれ[31]ど、まだは[32]るぐしき心地もせぬを。一夜は御辭び俐し聞えんとてなむ。な

校異 1因唐。2以下三字因領せら。3国ら。4**異**く歟。5**異**げアリ。6国こそあ。7因れ。8**異**と。9因う。10国く。11**異**ま。12因う。13因う。14因ナシ。15以下四字因さためらひて。16**異**に。17因今まで。18因う。19**異**覺え。20**異**ナシ。21因考異あ。22以下三字**異**すれば。23国ナシ。24以下二字国も宣。25**異**守。26**異**さ。27**異**つゝ。28**異**更に。29以下二字國ず。30国たっ。31**異**げ。32**異**か。

どか1はかひな2は、または踊り給3へ4るらむ。世の人の有るやうにて近く物し給へかし。さらば思ひ聞えつべしや」と聞え給ひて、奧の方に、「ま5るひけむとか。さらざりせば6と、

山邊に1住むと聞かずば時鳥なべて知らせぬ7聲はせましや

哀と聞きしかば」とて賜8ひつれば、私にも文書きて取らせ9つ。西の對の御産養の物ども取り10出でたれば、君達挑みつゝ取り給へり。物に入れて納め給ふ。かくして中納言御文見給ひて、「げに我が心ざしを見給へばこそかくも宣へ」など宣ふ。宰相參り給ひて、「宮にも內裏にも昨日參りて侍りしに、宮の御消息、日頃經るまゝにいかに心細く、今はかひなし、世に人の皆ある事にこそあめれ。たゞ例の人の有るやうにて物し給へ。何かさて物し給ふなど聞え11よ12なむ」宮の君「など己は、密夫し、人と文通はしやはする。さ13すが人をこそはよきにはし給ふめれ」宰14お「かゝるをぞ宣15ふぞかし。誰か密なるわざする。疎からぬ御中にこそ。かくな宣16(ひ)そ」17「誰か18は、宮にある人の限り此の盜人をよしと云ふ。人は幸ひのおにこそあめれ。ありとある限り皇子にもおはせよ、上﨟にもあれ、面やは見え給へる。夜晝入り居給へ19ば、宮人20のは上のも21し物(ノ)下の(ノ)も、佗び事をこそすなりしか22ば、出で23云ひにたれば、院の御方

校異 1以下四字異否、因は今、二字國ナシ。2国く。3以下二字異ふべか。4二字イナシ。5異が、国ど6異ナシ。7異戀。8異へ。9異ん。10異果て。11異ナシ。12国とアリ。13国する、因る。14異相、国せら。15因ひし。16一字国ニヨリテ補フ。17因宮の君アリ。18国れアリ。19イれアリ。20国ナシ。21イ下の。22異出で。23イ去。

も參う上り給ひて、立ちぬる月よりは、1障り物し給はず惱み給ふなり。此所にも2さ3文賜4ふ。御返5し宣6ひ7さ8かこさへてしなすなりにけんこそ、陰陽師9巫神佛もたき世なめれ。こ10く11ばくの人の、我をもとにてせぬわざをすれ、12いとだに言はずなりにけるこそ。同じくば此の宮男生み給はなん、我こそはと思ひて、生み連13ぬたる者の、口14開か15ず押し16寄せつべく」17と宣へば、宰相の君、「天下に18いつと、時の人の持19ぞするや、梨壺と世20を思ひためれど何事もあら21(じ)。まして更22ふにはおけすとも、宮などのは、我心寄もあらむ」と宣へば、「いであなかま、給へ」など腹立ち給ふを、中納言聞き給23ふを、かたはらいたく思ほす程に、民部卿おはして、物語し給ふついでに、「先つ頃かの山本に參うでて侍りき。かの宮24(ひ)置きし事ども侍りし文ども奉りて、25此方渡り給ひねと聞えしかば、今更に何しにかは、若き人はさらなど26なむ。御服いと重く著給へりき。27かく不28用にしなし奉り給へるはいかにぞとて、隱れ給ひしかど、見奉りしかば、皆かたち人にこそけ。年頃さばかり物を思しつゝ、服29に窶れし給へれど、さらぬ人にも多く勝りてなむ。女君はいとをかしげにて、見まほしき容貌なむし給ひけるに、御髮のいと長30げな

校異 1イ參。2イ御。3以下三字國イ宣ひて。4因考異ひ。5國り。6國は。7以下九字因聞えさせず。8一字國る、國イり。9國巫。10イこ。11國イは家。12国げ。13イね。14以下三字イありて。15因考異で、國イりて。16イ伏。17國イぞ。18イ云へど。19イと。20因に。21一字イニヨリテ補フ。22イナシ。23因ひ。24一字イニヨリテ補フ。25イ內。26イとアリ。27因ナシ。28因益。29イナシ。30國イき。

りしを、掻い越して見給へりしかば、いとうるはしく1覚えて、七尺ばかりにぞ有りし。頭つき顔2やう、いと目出たかりき。かゝる人を見給はで徒らになし給ふ、何でふわざぞ。よき女子は親の面をも3起す4にはあらずや。人の容貌5にも6程に聞き給ひて、御身をも妻7子をも徒らになし給はなむ。其所の思はしさ8は〔〕騒しき9 10し人に、かの君劣り給はじや。見く11な〔〕苦し12。早13くともかくもし給へ」と聞え給へば、「昔はさても侍りぬべかりし。14年頃罷ら15ねば忘れ侍りにけむ。今は人見給へん16とも思17ひ給へず。なほかの18賜びたる所19を20置かせ給ひて、時々21を訪はせ給へ。此所には小野に22参りて、若き程過23ぐして、有るやうにしたがひて、参うで来べくば時々24も参うで来んかし」民部卿、「25何せんにか26今27又帰り給ふべき。年頃さて物し給へる28を、公私惜しみ給ひ、交29ろひのついでなどにも30遂に思ひ出でられ給ひつゝ、いみじく悲しくなむ侍る。今はかく親もおはしまさずなりぬるを、数多ある31なる32なひにもあらず、今はかうて物し給33ひそ、旅のやうに思は34さるらん。今は侍る所もいと便なくなりにたり。昔のやうにはあらで、35童べの侍る所に入りて見給ひて、同じ所に物し給へ。何せむに帰り給ふべき」と申し

校異 1 国思ほ。2 イのアリ。3 国おこもの。4 イ物アリ。5 以下三字異を音。6 國異。7 異ナシ。8 国わ。9 国給ひアリ。10 国給ひ。11 異る。12 異はやアリ。13 国考異う。14 國イ所。15 異ず。16 国ナシ。17 国考異う。18 異旅な與。19 異に。20 異おと。21 イナシ。22 イ罷。23 イぐ。24 國イナシ。25 異何。26 国考異はアリ。27 国更にアリ。28 異ナシ。29 異らひ與、国らひ。30 異常。31 以下四字異なからひカ、国中らひ。32 二字イ子。33 異ふに。34 国考異す。35 国薬家。

給へば、「鈍色の衣1けにや侍らん、いとむつかしう侍れば、湯などわかさせて物せむとなり。今侍りしやうにはあらで、京にも參うで來なむや」と宣へば、民部卿、

今はかくのべ2にし人もなきものを君さへ外へ行かずもあらなん

と宣へば、中納言3 4君、

我が故と歎きこし道に渡れかし君が導にならむとぞ思ふ

と聞え給へば、宰相、

なき人の道の導に君なくば遲れて我も5何6か惑はん

と宣ふを7民部卿8君聞き給ひて、

有りし9ともかゝ10ち〔○容貌カ〕はとのみ11歎かれて君にもつひに遲れぬるかな

と聞え給ふ。中納言は御前などして出で給ひぬ。民部卿も宰相も宮の君に、「いかに心細く思ほすらん。今互にしは〳〵參らむ。宿直人なども12さゝせてをと13く」と殿14へおはしぬ。

かくて15六16日になりぬ。民部卿御迎へし給はんとて、三條殿に物し給ひて、害はれたる所繕はせ、池拂はせ、御調度どもは皆あれば、置き所有るべきやうにしつらはせ、御簾懸けさせ給ふ。屏風御帳より始

校異 1 國のアリ。2 異見。3 國のアリ。4 異ナシ。5 國など。6 異と。7 底宮の。8 國のアリ。9 國世。10 二字異らず。11 國イなれ。12 異去ら。13 異ナシ。14 底に、國イ居。15 異二。16 國月。

めて新しく清げなり。此の殿は一町は檜1わだ〔〇皮〕、2此の御殿い3こ〔〇板〕廊渡殿板屋ども數多藏などあり。池4近くをかしげなり。三日まで物參るべき事など人々に宣ひて、御車三つ御前など數多して、かの麓におはして、近くなれば、我5先立ちておはして聞え給ふ、「先には日の暮れにしかばなむ急ぎて。さらば渡らせ給へとてなむ。いと暑く苦しく侍れども、今日ならでよろしき日の侍らざりつれば參り來つ6るを」と聞え給へば、「さと聞え給へば、「何でふ心を7固く、おはすらんまゝにて、人見るべき所8も侍らぬを」と聞え給へば、「さらば9く早10率ておはしましねかし。11わいても世を憂しと12入りぬめりしを、いづ13ちにこそ」14聞え給へば、「15るど思16す事や出で來ん、渡らせ給ふまじき樣に宣へば、いかなる事17 18や」北19方、「此所に20は何21しにか22は。これより深くとこそは。世23中の心憂く思24給へられしかばこそ、年頃か25うても疎からぬ」二所は、かく此所にもいかでか物し給はん。此の御後見し給ふと思してこそは、26山里には此の君を住ませ奉り給27へき。さりとも此所には劣らじ。そが中に28侍る中納言の君おはせよ29と。此所よく守りて、人に毀たせで仕30うまつれ」と仰せ31給ひて、我も御車にておはしぬ。北32方はそゞろに思さるれ

國異 1 国は。2 異ナシ。3 異た。4 國などアリ。5 國イさわ。6 異ナシ。7 異か、国かく、因かたゞ。8 異にアリ。9 異ナシ。10 国くアリ、因考異々アリ。11 異侘び。12 異云ひ。13 國イナシ。14 國イと脫蝕。15 イな。16 因はアリ。17 因考異ぞアリ。18 イぞ。19 因のアリ。20 國イナシ。21 イ心。22 国ナシ。23 因のアリ。24 因ひアリ。25 国く。26 イかくアリ。27 因ふべき。28 イは一日、國イ一日。29 因ナシ。30 国ふ。31 國イ賜び。32 因のアリ。

ど、此の君をかくだにあらせんやはと思して、おはして見給へば、いと面白く廣くて、調度ども1もなき物なし。いと淸げにて、は2いくりて見給ふに、物愛かり給ひつれど、か3うても有りぬべしと見給ふ。御座臣は、此の4おはすべき5女の6おはすべき7事樣8々なり。9男の出居の方々ならむと思ほす。人々の10曹司などはいとよくて有り。御藏には故殿の置かせ給へる布、綾などあり。細かなる物などはなし。御前の物などは宜ひ置きたる人々參る。民部卿は「三日過ぐしこそ參らめ」とて、外ながら觸り給ひぬ。か11うて三日過ぎぬれば、新宰相諸共におはして、「いと目易くおはしぬる。今一つの事12と、いかでせさせ奉りてしがな」と聞13え給ふ。物など心して奉り給ふ。

〔書詞〕14三條殿15に。

かくて藤壺には御心地も今はさ16るだち給ひにたれ17ば、大18將殿はなほおはしまして、いたはり奉り給へばにやゝらむ、殊に害はれ給はず、19つゞやかに20て、あてになり勝り給ひてめでたくおはす。綾の搔練の單襲、二藍の織物の衣、21脫ぎ懸けておはするを、大殿見奉り給ふ。君達のおはするに、「若き主達に習ひ給へ。子持はかくぞいたはりなすよ」と宣22ふ、誰23々もほ24を25含〔〇微笑〕みにおはさうず。宰相の君、

〔校異〕1 イナシ。2 イひ入、因考異ひ。3 国く。4 五字異ナシ。5 因も姫君。6 五字イナシ。7 因方など。8 イナシ。9 イ大殿、國イ御事。10 國イさらし。11 国て。12 イナシ、国も。13 以下廿字イゆ、十三字因考異ゆ。14 国此所はアリ。15 一字国ナシ。16 イか、国は、因わ。17 イじ。18 因ナシ。19 因づし。20 イナシ。21 イとき。22 因へば。23 イも誰。24 イほ。25 国ゑ。

「人がらにこそ物1かし給ふめれ」大臣、「我が御方2もかく恐ろしげなる人3心地作り出で給へれど、さ4りげにやは。内裏のなどよ」と宣ひて、若宮の御方を見遣り給へば、やむごとなき人參り集ひて、5ところたちて、此方などにも渡り給はず、いとき6くしておはするを、いかな7るらん、人々のさ思ひてかくはあめるを、恥や見むずらんと思8す9程に、宮より、「日頃はいかゞ。うちはへ此所には惱ましくなむあれば、まだえ對10面せずやと思ふに11ぞ。此所には怪しうは物し給はじを、下局にやは。後めたくはこそ。人諸共に12呼びて13や。

君を待つ我がごと我を思ひせば今まで此所に來ざらましやは

思ふこそ妬く。罷出14うれしゝ時も、はかるやうにて、かく15かすかにも思はれざめれば、暫しは物16なしと思へど、怪しく心より外に17」となむ有るを、御方、「あな怪しや。たゞにてやは。例の憎げ言18と給ふめり。あないとほし」とて、「此の頃は誰々か物し給ふ。いづくにか御使は19はつゐはす。内裏わたりには何事かあるゝと宣はすれば、「此の頃は例の御文遊ばし！などはせさせ給は20で、御心地惱ましとて。參う上り給ふ事は、21院の御方22こそは。そこに侍ふ左衞門と云ふ人、忍びて申し23かば、五月ばかりより御氣色有りどよ。

校異 1イナシ。2イに。3イこゝら。4イゐけ。5國日頃立。6イらく。7イナシ。8國ほアリ。9イなどよ。10國面。11イそこ、國イてそこ。12異よとて、イいで、國よいで。13國ナシ。14イら。15イ眼。16一字イナシ、二字國せじ。17イてアリ。18國し、國イナシ。19以下三字イ遣、五字國侍ゐ。20國ず。21國南。22國にアリ。23國は。

て悩ませ給ふとなむ申し1し。御使は2人を參り侍りしかど、申すまじき事なれど、內裏わたりには梨壺の御方の御讀3せうし給へる事をなむ、やんごとなき所々喜ばせ給ふな4る。ある所には、物の筋と云ふ物、5足らぬと見れ6ば7つ8るには出で來ぬる物なりけり。かゝる折に9し合はせ給10ひつる事とて、常にある所には御文通は11させ給ふとなん承はる。かの御方もとく參り給へと侍るなる12を」と聞ゆ。宮の御13返り、「承はりぬ。悩ましげに宣ふなるは、いかやうにか。いとなむ14し聞えさせ15、此所にもなほいと苦しくなむ侍れば、16え參り侍らぬ事や。17待つ18かと19侍るは、

下葉よりしたより色は變りつゝまつとは更に言はずとあらたむ」

と20て奉り給21ひつ。「かの事は」大臣、「そ22く事〔○容言〕にあらじ。內裏の后、いとおぞく心畏くお23はし給ふ。やむごとなき人24々御25腰な26り27さるすれば、必ずさ思す28ならむ。29右大殿、大臣、公卿達、心30を一つに31、例を引きてこれを32と申さむには、何の疑ひかあらん。我は馬に変りたらん牛のやうにて、な33へに〔○何〕事をかは。民部卿ばかりこそは。太政大臣だにも物し給はましかばこそは。物の惡しきにや

校異 1イ候。2イ一日。3イ消息。4イナシ。5イ絶え。6イど。7以下二字イ送、國イ家。8国ひ。9国ナシ。10イへ。11イナシ。12イナシ。13イ儀式、國イ氣色。14イ〱。15国ぬアリ、16國奉。17イ前、国先づ。18イとか歟、国我がと。19イかアリ。20イナシ。21イふ鶴。22イら。23國イナシ。24国に。25以下五字国子し促さ、七字国子達生まれ給へら。26一字イか。27二字イ擦。28イナシ。29イ后宮。30イナシ。31国しアリ。32國イナシ。33イナシ。

あらん、折しもこそあれ、物し給はず。子供とてあるは下臈なり。1つん〔〇院〕2来んとて物し給3ふも、我が筋をと思さむ4だう5り〔〇道理な〕6り。女子をば何7とか8は心憂しと思ひて、子供をあらせ奉らずとも、我が身9ぞ10寡にていたづらにならめ。何の面目かあらん。それ11は皆思ひ12たらむかし。いみじき恥をも老の13なみに見つるかな。太政大臣の14御氣色15は見むと思へど、16おこはまだしう物せぬ」と宣へば、藤壺「何か、17むつ18まじうは19 20思ほす。眞實に定め果てられぬ21。聞し召すとも、夢ばかり物しき氣色22にな。此の折に人々の御心ざしどもを見給へ。人の心ざしのみこそ哀にも辛うもあれ。年頃かくて物し給23ひつるに、さもあらでしもやと思ふ折に、かゝる事のあるは、えさるまじき24にこそは。また子にておはするにはなどかは25。吾26る27佛28をつかの子のと云ふ事も有るを、聞し召したる氣色、29夢人々に見え給ふな」30と聞え給へば、「31あないみじや。32我が君をば、いかで33かたゞ皇子にては見奉らむ。かゝる34おほ事35に、36見寄すな37る38御心ぞや」と、ほろ／＼と泣き給ふ。左衞門督、「何かは、思さじ。よにさ

校異 1イい、因ゐ。2以下二字イえ、三字因かく。3因へど。4イど。5イち。6イる。7イナシ。8イナシ。9イナシ。10イ山家、因寡。11イも。12イ立た。13イ涙に、国涙。14イみ怪しう。15因にアリ。16い男。17イいとアリ。18因かし。19イとアリ。20國イおぼ。21因とアリ。22国に、因考異にを、因考異を。23因へ。24イ事アリ。25國イあかアリ。26イが。27因考異ほとり。28イをつり、因先生ひ、因考異を鶴、因考異を祈。29イゆめ／＼。30因考異など。31國イナシ。32因若宮。33イナシ。34異仰せ、因御。35因よ。36因思はず、國御よす。37國イり。38イナシ。

るやう侍らじ。異人々は知らず、大き大殿腹なるを、え思し1ま〔〇捨〕てじ。何所にも、いかで見給ふれば、
疎かなる御中どもに2も侍らざ3めり。いかでか御爲めに後めたき心は」大宮4は、「これはさるものにて、故宮の男生み給6ひつらん時まで定まらずば7ぞおつかしからん。院の切に聞え給はん事は、いかで8か」大臣、「それは天下に御ま9う〔〇眼〕な10く〔〇七〕つ11め〔〇八〕つ12へ〔〇附〕て給へる男、一所に三四生まれ給ふとも、さかしらさし答へせむとす。世をまつ13かごち馴れ給へる14御15なう〔〇王位〕16だに17も、下の諸口と申す事は、え否び給はぬ事なり。そのかみ罪も男も、心を一つに18に訴へ、19ら〔〇候カ、奏カ〕20らむ、これこそおつかしけれ。それもよう思ふ時は、女子もあれば、さりともと思ふものを」など宣21ひて22、
23又宮より御文あり、心ゆかぬやうに有りつれば、怪し24さに、たちかへり。何と聞き給へるやうや有る。此所には更に思ひ25ずたん人々に消息したりしに26、27時々も、それも此の頃は惱ましくて物28せず。
29み〔〇彌陀カ、枝カ〕の鳥草木だに待たずともなる30。31あなすずろや。
うち32替へてまつの33み茂る作34古は下葉も枝も何か變らむ

校異 1イす。2國イて。3底らアリ。4底ナシ、國イが。5底円に。6イへ。7イナシ。8イナシ。9イたと。10イふ。11イ八。12イつ。13イり。14イナシ。15一字國わ。三字底位に。16國立ち。17國イ臣。18底しアリ。19底ふ。20イせ。21底考異ふ。22底おはすかくてアり。23イナシ。24國き。25以下十九字イざれば。26國こそアリ。27以下三字底ナシ。28國イを。29一字イえ、四字底考異枝とか。30底あれアリ。31イめ。32イは。33イ木、底は。24底の江。

とのみ1を、已平かにてぞ。何事もかくてはえこそ」と宣へれば、大臣見給ひて、「かく宣ふめるを、參り給へかし」御方、一何しにか。梨壺參り給2ひなん。人少ななればこそあらめ」とて御返り、

「深山木の下には風3は早くとも枝4木は露もすく(〇過ぐカ、少カ)なとぞ思ふ。

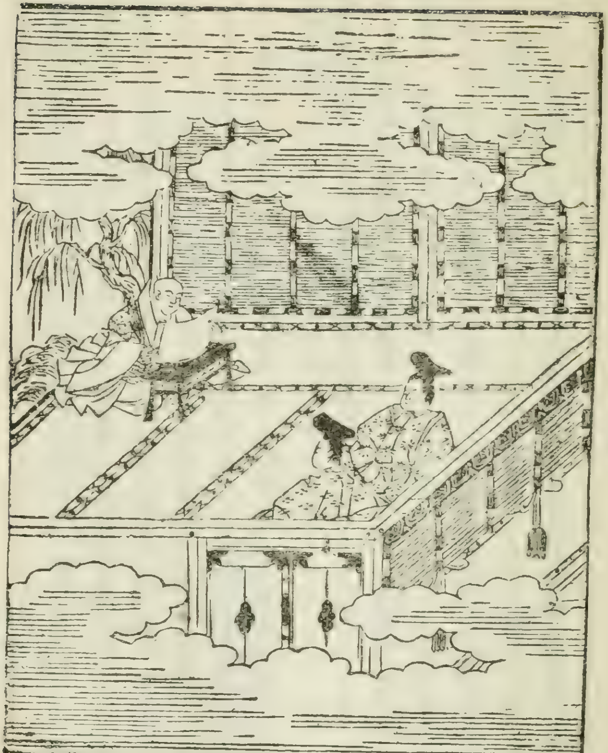
數ならぬ5一身の淵瀬6をば思ひ給へずや」とのみ聞え給ふ。

かくて此の生まれ給へる皇子をば今宮と聞ゆ。御湯殿參りて、深抱き給へるを、大宮は抱き給ひて、「をかしくもおはするかな7。たゞ若宮にこそあめれ。これは我が子にし奉らん」

[畫詞]8此所は畫6にし。

かくて一宮五月より姫み給ひぬ。此度10いたく惱み給へど、大將の君にはさも知らせ給はず。11御心地惱み給ふやうにてあれば、思はしさ12は(〇騒)ぎて13參り、祓せさせ、所々にも御修法行はせ給ひて、歩きし給はず。女御の君もおはしまさねば、夜晝醫師、陰14陽15、驗者など召しつゝおはしますに、彈正に宮と御物語し給ふ。「藤壺の里に物し給ふ、時16々參うでて物申さむと思へど17も、此の月頃は殿など物し給ふめれば。初め參うでたりしに、物騒がしくて、物も申さで參うで來にき。人の心ざしはいとよく見知り給18ひつ

校異 1イナシ。2二字イは、三字因イふ。3国の。4国に。5以下二字イ罪、一字因ナシ。6イナシ。7四字イナシ。8六字イナシ。9二字国なり。10国はアリ。11イたゞアリ。12国わ。13イ祭。14国陽。15イ師アリ。16因に。17因ナシ。18イへ。



るにこそあめれ。新中納言出だし給ふを見れば」「まろが心ざしを知り給はぬにやあらんとこそ語り給ひしかし」「大宮さる事ありと宣ひければ1」聞え給へば、2弟宮、「かひな3の事や。餘り侮られて4は過失せしれ給けむに、誰も〳〵何わざ5ぞし給はん。幼かりければこそ、さりぬべき折有りけれど、人々の心を6懶みつゝ、今ならましかば、かく妬き心地せましや」7女8宮、「あなむくつけ。9かくは宣ふ。人をばいたづらになさむと思すにか。いとゞ此の見ゆる者さ11ぞあらんと云ふものを、戯れにてもあなけゝしや」と宣へば、「よく宣ふなめり。心ある人の、思ふ事をぞ知るかし。只今かく有る程なめれば、まめやかには思さず。世12中宗とりたる時、大臣高き位に物し給ふとも、悔くもてなし給ふらん本意遂げんと思13」と宣へば、いみじく怖ぢ給ふ。

かゝる程に、大將入り給ひて、「今の程は、醫師どもに問ひ侍れば、熱など14やおはすらんとなむ。物問ふには、靈氣とぞ。されば貞言院の15律師のもとに消息言ひ遣はしつ。參り來ば16御修法せさせ侍らん。三條より、言ふべき事17侍りて、度々侍るを、只今の18間に罷りていと19ど參うで來なん」とて20まかりぬ。「召し侍りけるを、すなはち侍はむとせしかど、彼所に侍る人の日頃いたく惱み給へば、女御など21物し給はぬ程なれば、

校異 1イイと。2國弟。3イき。4國ナシ。5イか。6イ波。7國大。8イ君。9以下二字イいかゞ。三字國イいかゞ。10イる。11イと。12國のアリ。13國るアリ。14イにアリ。15國律。16國護。17國ありと。18國イナシ。19イとく。20イ罷、國參。21イはアリ。

1又譲る人なくて、え侍はず侍りつる」北2方、「え更に承はらざりけり。いかやうにか。などかか3ゝなど宣はざりし。參りて見奉らましものを」大將、「知らず。靈氣など云ひて物參らずなん有りつるを、昨日今日は重くなりてなむ4」大臣、「いとほしきかな。參る5べうこそあれ。6もし前に有りし筋にやあらん」と聞え給7ふ。「さも見え侍らず。さりし時もかくは物し給はざりき。さても程なくはいかゞ」と聞え給ふ。大臣、「消息申したりしは、后の宮より宣ふ事たゞ有りし。いかなる事にか、思ふ時にはさもありぬべき事なれど、世の亂れとなり、さ8は〔〇騒〕がしかりぬべき中に、天下に優え心ありと誰9々も思ほえしとなむ。いかなる事ぞと申さむとてなり。宮も10彼所を參ら11ずと宣ふめる12と、今宵なん參らせむと思ふ。藤壺參り給ひなば、裝束の薫物のやうなるべし。鼬の13なき間の鼠14ばしも仕15まつれとてなむ」16宮へば、「いかなるべき事にか侍らん。仲忠17はいかでかとり申さむ、殿18く御爲めにやごとなき事なり。それによりて侍らん所に思ひ疎まれんも苦しうなむ。たゞ后の宮の宣はま19、奉り給へ。非常と見る事も侍らげ、いとよき20となり」と聞え給へば、「いとゞ身の爲めにはいとよ21かるべき事なれど、22大方さ23は〔〇騒〕がしかるべければ、此所にもさ24は思ふや。さらば早物せられよ。早朝25そこ26らにも參うでん」と宣へば、大將27歸り

校異 1国見。2因のアリ。3イく。4下答異侍るアリ。5国や。6國イ物。7国へげ。8国わ。9イとゝ。10国畏う。11国ん。12国に。13イ前。14イと。15異うアリ。16イとアリ。17イナシ。18イの。19異にアリ。20イ事、國イにこ。21國イり侍。22国叔父。23国わ。24イぞ。25以下三字国ぞ此所、因此所。26イをナシ。27イ能出。

給ひぬ。梨壺、御車廿ばかりして、御前いと多くて參り給ひぬ。生まれ給へ1る宮は母宮のもとにおはす。
2〔〇以下四字畫詞カ〕3三條殿4にかく5大將歸り給ひて、宮に、「今の間はいかゞ。言ふべき事有りと侍6〔り〕しかば罷りたりつるに、やむごとなき事7もも申されつれど、僻答をなむして參うで來ぬる。さるは梨壺今宵ぞ參られける。されど其方にも罷らずなりぬ。男人も今參らん」と聞え給ふ程に、「律師參り給へり」と申せば、「なほ此方に」とて、簀子に御座敷かせて請じ入れ給ふ。「これは恥かしき人ぞや」とて、直衣裝束にて出で給ふ。律師は綾のよそ8い〔〇裝〕9くと淸らにて參り給へり。姿顏頭つきいと目出たう、御供の者ども裝束淸らに容貌よき十人ばかり、若法師十人、大童子卅人ばかり。檳10榔毛11車の新しきに乘りて參り給へり。中門より大童子は止めて、侍法師童して入り給ひて居給へり。12大殿、「宮の中などにては對面賜はれど、その事となくてはえとり申さぬ事をなむ。さるは昔より心ざし侍れど、自然に怠13る」律師「山伏もいかでかと心ざし侍れど、殿の仰せ言賜はらぬを嘆き侍るに、たま〳〵仰せ給へれば」と申し給ふ。14大殿「いと嬉しくて。此所にも數に思さねばや訪はせ給15〔は〕ざらんと思ひ給16ひつるに。內裏の召などにも參り給17ふ時多きを、いかならんと思18ふ給19へるに、かく物し給20ひつるをなん21。消息聞えたりつ

校異1国イば。2因此所はアリ。3以下四字イナシ。4因ナシ。5イてアリ。6一字異ニヨリテ補フ。7イど。8イひ。9イい。10異櫚。11イのアリ。12国大將。13因り侍りてなむ。14国大將。15一字異ニヨリテ補フ。16因へ。17国はぬ。18イひ。19國イひつ。20イへ。21因考異かしこう思ひ給へるさてアリ。

るは、此所に、立ちぬる月の晦日より惱み給へるを、日頃重くなりまさりてなむ。これかれに物問は侍せれ
ば、邪氣など申す。作善など行はせ1侍れど、なほ心もとな2(き)を、只今は現れたる藥師佛にこそはとて
なむ。一夜二夜ばかり物せさせ給へ」と聞え給ふ。「心には久しく3侯ひなん4。佛5と宣はするなむいと恐
ろしくて罷り逃げぬべく。此の頃は所々にかくなん。后宮の6姫宮もかくなむ惱ませ給ひて仰せ侍7れ8
ど、先づ殿1をとてなむ」など聞え給ふ。大將、「9親の御許よりだにさりけむ御心を、恐ろしや。奥の方に
おはしまさせむ」とて、しつらはせて入れ奉らせ給ひつ。かくて「參う上り給へ」とあり。南の廂によき御
屛風立てたり。例の空薫物などして參り給ふ。かくて宮に内侍の典10の申し給ふ。「いと腹汚く11幼くおは
します。これは何の罪にてある御心地にもあらず。知らせ奉り給はねば12大殿はさ13け〔 〕騷〔 〕ぎ給ふ。それ
はとまれかうまれ、生きてはたらき給ふ佛と言はれ給ふ、加持參り給へばともかうもこそあれ、かゝる人は
さる14心15してこそ加持參れ16ど、恐ろし。17大殿に聞えむ」と申せば、宮、「何心18地とも知らず、いと苦
しさは、死ぬべきにこそあ19むめれ」と宣へば、「あ20ろさがなや」などむつかりゐ給へり。21律師は加持參
り給ふ。更にはやき陀羅尼讀ます。童より驗限りなく有りし人なれば、まいていと尊し。曉になりて、22

校異 1國給ふ。2一字イニヨリテ補フ。3寛さぶらひアリ。4国をアリ。5國に。6以下十八字國イナシ。
7イりつアリ。8寛考異ナシ。9国公。10イナシ。11寛ナシ。12国大將。13国わ。14二字寛考異志あ
り。15國イざアリ。16イいと。17国大將。18異ナシ。19イナシ。20イな。21寛律。22寛大將殿アリ。

「1此の世2中の事、とざまかうざまに皆承はり3見給4ひつるを、此の御陀羅尼をのみなむ、5音(おと)に承はれど、まだ承はらざりつる6。げにいと尊くおはし7けり。いかで秋8深からん程に、木の葉の降(ふ)り落ち風の聲心細からむ9と、人の聞かざらむ山里にて10あかせて承はりにしがな」律師「いと11とうと(〇尊)き仰せ12(ご)と(〇言)にも侍るかな。たゞこれをのみなむ夜晝13佛神(ほとけかみ)にも申し14なむ15かし。ほのかに承はりて、16多うはこれによりて罷り出でしなり。されど仰せ言17まだにえ承はらざりつれ18ば、思19ふ給へ嘆きつるを、かく仰せら20るれば、思ひの叶ひ侍るなりとなむ。分(わ)いても御琴の音(ね)はいと承はらまほしく、たゞにもえ仕21うまつるまじきにぞ思22ふ給23ひ佗びぬる」「琴(きん)ぞえ仕24うまつ25り合はすまじかなる。そも〳〵いと怪しく26て御行ひにつき給ひけるは、などてにて侍りけん。春日(かすが)にて見奉り侍りしは、いとこそ悲しう侍りしか」「山に罷り籠りし故は、いといみじき事の侍りけるを更に知り給へざりき。たゞす27(ず)ろに物悲しく、世には侍るまじき心地のせしかば、親をも見捨てゝ罷り出でにし。そゝ人繼母(まゝはゝ)に侍28りし人なり。宮仕へし侍りし程に、29言ふ30 31事の有りしを、その事便(びん)なかりしかば聞かぬやうにて侍りしに、怨(えん)じたるにや

校異1國ナシ。2國のアリ。3以下三字イナシ。一字国ナシ。4国へ。5國イと。6イをアリ。7國考異ます。8イ更(ふ)く。9イ時歟、國時。10イ琴に合は、国琴(きん)に合は。11イたう、国たふ。12一字イニヨリテ補フ。13國考異神佛。14國侍る御琴アリ。15國昔。16國考異おのれ。17イに、國を。18イど。19國ひ、國考異う。20國イナシ。21国ふ。22國ひ、國考異う。23國へ。24国ふ。25國る。26イも。27一字イニヨリテ補フ。28イらん。29國考異言ひかくる、國考異いぶかしき。30異〳〵アリ。31イ〳〵かく、國かく。

有りけむ、親に怪しき事を申しけるを、え知ら1で2とふ給へ歎きしを、3不意に異様にて逢ひて侍りしに、
など4(か)くはなり5渡るぞと問ひ侍りしかば、繦子なりし人の爲めに、親の寶とする帶を取り6返して、
これを7取らすと言ひ、帝傾け奉らんとすと奏しけりとなん8聞かせ侍ると申ししを、山伏の9峯に開き
なし侍10(り)て、その日遂に後の事まで先つ頃知り侍りにき。此事を聞11ら侍りしかば、いとよう逃12(げ)
13けりとなん。さる14を聞き給ひ15て、責め16宣17はざりける親、御心なんいと悲しき」と申し給18ふ。大
將「恐ろしかりける人の心にこそは。その事は左の大臣ぞ宣ひしや。さる事有りける帶は仲忠19のもとに侍
20る。此の大殿21承はらんとて、そこに物し給はゞと思ひしを、今は誰にかはとて、院になん奉22られたり
ける23を、内裏にたむ渡りて24けるを、去年の十二月に御文25仕りし26に、祿になん賜はりて侍り。げに
27世にな28きいみじき寶にこそは。かゝる物をさ聞えなしけんが恐ろしき」律師、「さる禍になむ當りて侍
りし」大將、「29その帶は、30物し給はましかば御物31とぞな32くましか。奉りてんとなむ思ひ給ふる」律師
「山伏は何の料にかは侍らん。僧の具に玉の帶さし侍らばこそあらめ。持て侍らましかば、とかくの事殿ばら

【校異】1 イず。2 イ思ひ、底考異思ふ。3 底わだひ。4 一字異ニヨリテ補フ。5 イにた。6 イ隠。7 底賣。8 イま。9 底上。10 一字異ニヨリテ補フ。11 イき。12 一字イニヨリテ補フ。13 底てアリ。14 底事アリ。15 國イナシ。16 イてアリ。17 底せ。18 底いば。19 イが、20 イり。21 イ失せ給け。22 國イナシ。23 イナシ。24 イ侍りアリ。25 異仕うまつ。26 イナシ。27 國イるアリ。28 異く。29 底此。30 イおゝ。31 イ語アリ。32 国ら。

1にこそ奉らましか」大將「たゞそれかと見給へ」とて見せ奉り給へば、律師見2給ひていみじく泣き給ふ。「此の3帶は、4二十年の內宴に罷り出で給ふとて、裝束し給ひしになむ見給へし」と聞ゆ。大將、「此の5はすが〔〇春日〕に侍りし少將なり6りよ7ろ〔〇仲賴〕の、入道して侍8〔る〕訪ひ9に10、その時の同じ11聲の人なり、これかれ、今は仲忠もかく12上達部にて侍り、あるは頭などにても侍13るを、14るいはして訪ひに罷らむとす。そのかみ御前に15賜はりて遊び侍16〔り〕し17喜び申し給ふ事極りなし」かくて明けぬれば御方へ下り給ひぬ。18大殿御心留めて、家司どもに仰せ給ひ19御20前21より物奉れ給22ふ。〔〇以下畫詞カ〕23律師加持參り給24ふ。

25かくて、宮思ひ給ふとて右大臣殿參り給へり。26宮左大27將殿28大將急ぎて御迎へして29歸り給ふ。30左の31大殿、32右の33大34殿に聞え給ふ、「此所に35は惱まし給ふ事のおはしける、いかやうにかと承はり36なん參り來つる」37右の大臣「正賴もさ承はり38になむ參り來つる。先つ頃よりかく承はれど、怪しうはおは

校異 1イナシ。2イたひま。3國イお。4イ故千落。5イか。6イか。7イり。8一字イニヨリテ補フ。9国侍りアリ。10国きアリ。11国人々など。12イ上。13イりける、因る。14イ今しも、国律師今暇に、因今暇に、因考異今。15国侍り、因ナシ。16一字異ニヨリテ補フ。17因頃續ひ。18国大將。19イてアリ。20国前。21イに。22イひつ。23因此所は大將殿。24イう。25イナシ。26以下十九字イナシ。一字因ナシ。27一字国臣。28二字國ナシ。29一字国入。30国右。31国おとゞ。32国左。33二字国おとゞ。34國イ將アリ。35イナシ。36イにアリ。37国左。38イて。

せずと有りしを、此の山籠の律師など召されける1に驚きてなむ。殊にそこはかとある御心地にはあらで、起り給2ふ折などして、物參らずとなむ。かたへは暑氣3などにやとて見給へ侍る。日頃はかく御熱の頃に侍れば、苦しうて内裏にも參り侍らず」4右の大臣「兼正も久しう參り侍らず。さるは、御國讓5らん事近くなり侍るを、宮へも參る6人々侍るを、いと若7く侍りて、片時8きたなびしの引き入れ9く10も11もえ來たりとて。

〔○校訂者云、以下刊本は國讓中の卷の下册として一册となせり。此の一册は刊本の底本に錯簡多く丁の順序の亂れたる惡本を用ゐたるをもつて、頗る文章の順序を異にせり。今、国に訂正せる順序に從ひて正し、刊本の丁數行數を註したり〕

〔○四十一丁ウ一行――四十三丁ウ九行〕かくて右の12大殿13、左衛門14督15君、藏人の少將、宮あこの侍從など參り給へり。宮達大殿達、「いざ、16さかゝる所にて脚病勞らん」と宣ひて、17「をかしき鞠のかゝりかな」と興18有りとて19鞠遊はす。皆上手なり。人々裝束し給へり。宮達大殿達は直衣奉れり。大將20の大殿

校異 1國を。2因ひ。3イナシ。4国左。5国りの。6国者の。7国しアリ。8国見給へ捨てがたう。9イて、国ナシ。10以下八字国おき侍りしを辛うじて出だし立て侍りし。此の惱ませ給ふと承はり驚きてなん、かくて〔宛御アリ〕藥物參り〔宛以下三字ナシ〕などし〔宛御アリ〕物語し給ふ。11以下二字イて。12国大臣。13国參り給ひぬとてアリ。14イ督。15国のアリ。16イナシ。17国楓の青やかに茂りたるもとに立ち出で給ひアリ。18イ有るまで、国じ給ひて。19国御アリ。20国ナシ。

藏人の少將、狩衣上手、樣もよく見ゆ。宮達、「怪しのわざや」とて御覽ず。暮れぬれば皆入り給ひぬ。宮達は二1宮の御方に入り給ひぬ。大將2に宮3の4、「今日は例の風のいね5いり」御前なる人々、「まして今日はいと物淸くて暮らさせ給ひぬ」と聞ゆれば、「あた6恐ろしや7。水飯して參り給へ」8と、御目覺きて見9にだ10な11見給12ふめれば、犬宮膝に据ゑて、さしく13にめて參りて、「御14德をば見給ふるかな」と宣へば、宮、「暑し。15簀子に16」と宣へば、一昨夜をだに思ふ所に、今宵居17眠18ぞ19用なきやに」と宣ひて、伏し給ひて、「かの御方20にいざとく人侍へ。聞21く(く)ふ有り」と宣へば、乳22母は實に潰れて、いかで23聞き給24ふらん25と。藏人の少將も簀子に居給ひて、かの人見26え給27へかば、有28の大殿遣へ29にさし出で給へ、「あなかしこや。人30往ぬ31なと、32いと恐ろしき武士33有りとなり。外にては知らず、此所にてはいと34さがなからん」と宣へば、宮達御目も覺めて起き居給ひぬ。乳母は身なら35冷え果てゝ、我にもあらで居たり。かくて曉になれり、御格子も下さず。二36宮の御方37に此方とは高き御屛風立てたり。おはする所38近39く

〔校異〕1国のアリ。2イ殿、底考異ナシ。3イに。4国考異宣ふアリ。5国るに。6国かしこや、底かしことて。7底考異よにアリ。8底ど。9国ナシ。10イに。11国入れ。12イはね。13イくし。14以下三字国本ともなし。一字国とし。15国イ十の。16国をアリ。17底眠。18イす。19イかう。20国ナシ。21一字イニヨリテ補フ。22国イとて。23イかアリ。24イへ。25イナシ。26国ナシ。27イへれば、底たいつれば、底考異かつるは。28国大將。29国|アリ。30国居。31イれど、国ると。32イナシ。33イ歩く、34イ聞くた。35イあ。36国のアリ。37イと。38国いとアリ。39国ければ。

は御1几帳立てたり。大將此の折、宮達見奉らではいかでかと思ひて、一2宮いとよく御殿籠りた3るに、脇息を踏み立てゝ、御屛風の上よりのぞけ4るは、明けぬと覺えて、男宮達は5御殿籠りたり。二6宮は、御几帳の7帷子は8御達打ち懸けてまだ下さず、起き給ひて、いさゝかなる事せむと思して入り給9ひつるを、いとよく見10奉り給ふ。白き綾一襲奉り11て、御髪なども大殿籠りふくだめたれど、いと氣近く美しげなりと12見る。姫宮も起き上り給へるを、これはまだ小さくかたなりにて、あてなり。よくも生み集め給13ひつる皇子達かなと見て居給ひぬ。〔〇以上〕

〔〇五十七丁オ八行――七十一丁オ一行〕14「昔かゝりし極熱に、此の釣殿へこそは15た16いふら17こ〔〇遊營カ、納涼ノ誤カ〕しに參りしか。今日18たて侍る人をや」19右の大臣、「今月も昔のやうにせむかし。分いても朝涼にこそは。さて20も公の御いそぎは、員21實に月や定まりて侍らん」22左の大臣23は、「八月ばかりにとは承はれど、確かにはまだ承はらず。朱雀院皆造り果てたんなれ24ど、なほとく急ぎてあるべからん事25せよと26なむ仰せらるれば、さらば27同じ28むやこも侍らん29よし、言はせしめ給30えや」左の大臣、

校異 1国屛風にて隔てたるなりけ。2国のアリ。3国れば。4イば、国れば。5イ皆アリ。6国のアリ。7国かたはら。8国ナシ。9イへ。10國えアリ。11國イナシ。12国皆。13イへ。14国ほのぼのとをかしき朝ぼらけなれば男〔因大殿〕達勾欄に押しかゝり〔因てアリ〕居給ひつゝ右の大臣アリ。15以下三字国度々。一字因度々。16一字因ゆ。17異う。18イまで、因さて。19国左。20因考異ナシ。21イ實。22因右。23国此の。24国ば。25国な物アリ。26国ナシ。27以下五字国思し惱む事。28一字イこ。29イかっ。30イへ。

氣色見んとて宣ふにやあらんと心づかひし給へど、誰1々も何心なく打ち語らひ給ふ。大將殿は御酒など參らせ給ふ。右の大臣、「かく惱ませ給はずば、月2も殘り少くなりぬる、小倉の方へ御前賜はらんと思3ふ給4ひつるを」と聞え給へば、左の大臣、「何か、さやうに5住みな6どし給はゞ、怪しう7あらじ」と聞え給ふ。「さらば承はり8て、晦日がたにおはしま9さ10ん11かし。御覽ぜしよりは水なども深くなり、魚もいと多く棲み侍12り。13いかなるにかあらむ、山の前より14川なん入りて侍る。15打ちかふ者どもは家の中よりなお往き返り侍る、16御覽せさせばや。春秋は昔よりも木の數17數多になりて、いとをかしく侍18る」など聞え給ひて、皆歸り給ひぬ。

かくて19二の宮姫宮は、此の御殿の西の方におはします。彈正の宮は、20八の宮の御乳母など具しておはしませど、女御21君22と聞え23給24ひつるは、二25宮の御許に夜も晝もおはします。藏人の少將、いかでなどは思せど、26男宮おはしまいて、いさゝか氣色有27り28て物聞ゆる29（御達もあれば、氣色惡しく30て宣へ31ど、物聞ゆる）人もなし。此の32君達は、3334御なこ（〇女子カ）達35もつきて物36を取らせつゝ、「添ませ

校異 1イも誰。2イの。3因う。4イへ。5国すさ。6イナシ。7国はアリ。8国ぬ。9イせ。10国せアリ。11国昔。12イる。13以下廿二字国ナシ。14一字國イかい。15イ覽り。16國イナシ。17因もアリ。18因り。19異此。20国二。21国のアリ。22国の。23イおきアリ。24イへれば、因考異ひつれば。25国のアリ。26因大殿。27以下三字国る事。28一字イナシ。29十九字イニヨリテ補フ。国ニハナシ。30因ナシ。31イば與、因ば。32国二の宮に思ひ困じたるアリ。33因皆アリ。34因御。35イと、国に。36因ナシ。

寐れ」と宣ふも有り1。藏人の少將2中納言の君とて、御身につき仕うまつる人3、萬の寶物を取らせ給ひつゝ、「盜人に入れよ」と宣へど、さるべき折もなし。いかならん隙に入4れんとうかゞひ給5（ふ）6事人7 8も數多聞ゆる中に、9此の宮より切に聞え給ふ。宮より聞ゆる程に、一の宮の御心地を、かゝる筋に大將見なし給ひて、「さりとも著く思さるらんものを10、宣はせ11で心魂を惑はか12させ給ふものかな」なほ〳〵かくこと〴〵しき御心13とぞ。世14中に侘びしかりしは、内裏に侍ひ困じて、南の宮に御迎へにとて、參りて侍りしかど、はしたなく宣ひしに、え罷らざりしに、藤壺の、國の親となり給ふべき御心なればにやあらん、局などして賜ひしに、出で給はで、やらはせ給ひしこそ忘れがたく15辛く、相思さぬ折多くなむ16。さては御遊ひし給ひし17宵々外に立ちて侍りしこそ。かの君の18際の程近う聞えしかど、此の19常に聞ゆる事を20さも」などて、「三條に、桂におはしまさ21ね22とりき。一日二日涼み給ひて、宮達などして出で給へ」と宣へば、宮、「苦しきに何地か」と宣ふ。「何か、なほ」とて、十九日ばかり23にと思ほす。律師も十日ばかり有りて罷出給へば、24大殿、「さ25くばかの聞えし水の26御繪は、必ずしか思し27たれ。今よりはそれより

校異 1国けりアリ。2国はアリ。3国にアリ。4国ら。5一字異ニヨリテ補フ。6イナシ。7イ々アリ。8国々。9異二、国沉。10イとアリ。11イて。12図ナシ。13図こそ。14図のアリ。15図ナシ。16イとてアリ。17イ夜一夜。18イ御アリ。19イ局。20國イナシ。21図せアリ。22イ時、図と聞ゆ。23十三字國イナシ。24国大將。25国う。26国尾へ。27国立て。

も宣へ。これよりも聞えん」とて、御弟子の中に衣物に包みて出ださせ給1へり。2 3つし〔○律師〕には、菩提樹の數珠具したる4たゝなど一5と奉り給ひ、6罷出給ひぬ。

かくて十九月になりて、御車十二、絲毛には宮達7孫王8犬宮抱き奉りて太夫の乳母。次々に大人うな9い〔○髮疑〕下仕10へ、11ないしもづかひ男宮達、12左13の大臣右大將一14へに督の大殿15女御車六つして出で立ち給ふ。左の大臣も引き16て參うで給へれば、これかれ出で給ふ。宮の御車一に立てゝ、督の17この〔○殿〕二にて、押し合せて二十ばかりなり。御18前は宮ばら殿ばら、二方に押し合せ19て數知らず。男の御車御簾上げて、こぼれ出でゝ、道の程遠くて、御笛吹き琵琶彈きなどしておはします。20 21まし著きて、寢殿の南面を御方にしつらひ、西面に督の大殿、中には一22宮、東に二23宮、姬24宮としつらひたるまゝに下り給ひぬ。一25宮、「女御の君を26い〔○率〕て奉らぬこそかひなけれ。をかしきものかな」舟ども27ありくを御覽じて、28怪しうて、苦しげになくて起き居給へば、大將の君いと嬉し29と思ひ給へり。犬宮いとをかしくて出で給へば、引き入れつ。30右の大臣、「なほ〳〵おはせ31や。彼は好色者の32 33そへ言を申すぞ」など

校異 1イふ。2国りアリ。3一字イり、二字図臨時。4国笏、図總。5イ具、国具。6四字図ナシ。7国孫。8国の君アリ。9国る。10国ひ。11七字イナシ。12国右。13国ナシ。14イつ。15国ナシ。16図續きアリ。17イと。18図前。19イナシ。20イましアリ。21国は。22図のアリ。23図のアリ。24イ君い。25図のアリ。26国る。27国乗りアリ。28イ興じ。29イく。30国左。31イよアリ。32図するアリ。33イすゑ事。

て、御簾の前によりて、薫のをかしき物を取う出てあざむき呼び出で給へば、たゞ出でに這ひ出で給へ1な
に、かしこ2う抱き取り給ひつ。父君、大臣の3 4(給ふをば思さ5で、6外住し給ふ宮達の見給ふを苦し
と思す。犬宮7は父大殿の抱き歩き、をかしき物取らせ慣はし給へれば、8男をば怖ぢず、面ざし9老(○
嫌)をもせず。祖父大臣はかなし10び、呼び12出でゝ見んと思して、薫のをかしげなる物、12宮内侍の髻13
の御髪の箱なるを探し取りて、懐中に入れて持給へりけるを取らせ給へれば、悦びで抱かれ給へり。大臣14
の御やう、「人の子は、天下に云へども、女は睦まじく、男は疎くなむ有りける。此の15遊びをば、親君の16
子かくなむ思ひつる。かゝれど此の犬を今まで見奉らざりつる、かゝりけるものを17今まで見ざりけ18る。
此の宮に侍ふ者は、年頃疎く、をり／＼見語らはず侍りしかど、彼所に物せらるゝ児をば、すなはちよりな
む見侍る。今日19は此の犬をば見せじとこそは思ひためれ20ろくつあれば、吾が君こそ這21いおはしたれ」
とて、懐中に入22(れ)て、奥に向きて23い(○居)給へ24れば、人25え見ず。大臣かく宣ふ26を、大將いとほ
しと思して、まめだちて居給へり。27大臣は「彼所に物し給ふ犬28もいとをかしくなり給へり」。起き返りつ

校異 1イる。2國イそ。3匡見アリ。4十五字イニヨリテ補フ。5匡ねど。6匡外、宮外。7國イナシ。8イ大臣。9イひ。10匡や。11國イナシ。12匡ナシ。13國イナシ。14イ宣ふ。15匡朝臣。16宮と。17以下八字イナシ。18國イり。19イナシ。20宮ど故。21イひ。22一字イニヨリテ補フ。23イる。24イナシ。25宮はアリ。26イに。27十字匡ナシ。28イ宮アリ。

つ、人見ては笑しふ。これを常に見まほしけれど、兒の里へ罷れば、2抱きゐるをも許さず。心に任せても3
侍らずや」4と宣へは、母宮5莞笑ひ給ふ。内侍の督、「あな聞きにくや。6たきな(○翁)をば誰か許さぬ。
心ときめきたりや」と宣ふ程に、父大殿を見つけ7、手8さゝげ9て遠10り出づれば、「あれはあらぬ人ぞよ。
いと恐ろしく憎き人ぞ」と11いかゞし給へ12ど、泣きて遠13い下りて這14いゐければ、父君掻き抱き15て、御
簾の内に入れ給ひ、「此所にか」とてさし入16(れ)給へば、更に下り給はず泣けば、御簾と御几帳との中に入
れて、こしらふれど、舟漕ぎ17浮かぶを見て、外の方を18申してなん笑ひ。19しばし20は21い(○居)給へり。
祖父大臣持たせ給22ひつるをかしき物ども多に持た23り。
かゝる程に、魚いと多く、かはい(○川)のにとりにいかめしき木の蔭、花紅葉などさし離れて、玉縣多く棲
ませ榎二木あり。25蝉の蔭に、陪従松方近正ら、今26冠得て、27物の28すけ29としの官人にてあまた参りて、
螺打ちて居たり。魚歳30あきた(○巻)、人の奉りたらん多く有り31と、大臣32のかゝる折の料とて、鮎篝いと
をかしげに造り置かせ給へり。それ33に撰り出でさせ給ひて、あら34さき(○荒巻)添へ35つゝ、梨壺宮の御

校異 1イはせ給アリ。2イ翁。3イえアリ、異見アリ。4国ナシ。5イ打ち。6イお。7異てアリ。8国を
アリ。9国考異ナシ。10イひ。11異居隠。12イば。13イひ。14イひ行。15国イナシ。16一字イニヨリテ
補フ。17異歌ふ。18イさし魚、異見。19国イナシ。20イナシ。21異ない。22異へ。23國る。24イは。25國
イさり木 26異冠。27異此。28イしげ。29異どさ。30イま魚、国ま。31イナシ。32イナシ。33イ取り
異と、玉取ら、異を取り。34イま。35イて。

方中の君に奉らせ給ふ。内裏にはたゞ御消息して奉らせ給ふ。「まだ大將の惱ましくし給ふに、淸まゝせ奉るとて物しつればなむ聞えずなりける。さてこれは乳母達の料に1て」ことさ2く(〔殊更〕に手づか3ら書き給ふ。中の君の御許には、「月頃はいかでとなむ。近けれどし4かん〳〵5と聞えぬを、今は覺束なき心地なん。對6面久しくなりにけりや。さてこれは一條の御ざ7らし(〔曹司〕の手づから取りて侍りつる。かかなく例の人々に取り散らさ8れ給ふな。

君が爲め天の川原に釣すとて月9の桂もをり暮らしつる

となむ今日は」と書き給ひ、「これ見給へ」とてさし入れ給ふを、北10の方、「あな苦しや」と思ふ爲めとか」とてさし出で給へれば、押し卷きて奉れ給ふ。かく、遊びなどこれかれし給ひ11て、日やう〳〵夕陰になる程12ぞ、主の大臣土器取りて、彈正の宮に參り給13ふとて、

行く水14と今日見るどちの此の宿15に何れ久しくすみ比べなん

彈正の宮取り給ひて、大將にさし給ふとて、

水の色は昔諸共にすみ來とも我等は人の心やはする

大將、

校異 1 底とアリ。2 宝ら。3 イら。4 イはゞ。5 尽も。6 閲面。7 イう。8 國せ。9 イの。10 國のアリ。11 底ナシ 12 イに。13 閲イひ。14 イは。15 イは。

水は1松すみ變るともまど2いゝる今日の習しは何時か絶ゆべき

3とて宮に奉れ給へば、

三代經て澄む4なる川の淵は瀬になればぞ5〔人の〕心6〔を〕も知る

彈正の宮、

人はいさ我が身にかなふ心だに行く先まで7は知られやはする

八8宮、

我等だにむすび置きては行く水9も人10も心も何か絶ゆべき

と宣へば、大將、「吾が君、よく宣はせたり11。此のわたりこそあな心12ぞや」と聞え給へば、皆笑ひ給ふ。かゝる程に、赤き色紙に13書きて常夏に附14けたる御文15にて參りたり。彈正の宮、「何處のぞ」と取り給ふ。「藤壺の御方の、宮の御方16に參らせ給ふ」と聞ゆれば、「我こそは17宮」とて18賜へば、「日頃惱ませ給ふと承はりつれ19、いかにして參り來むと思ひ給へれど、此所にも又いと苦しく侍るを思20ふ給へつる程に、21いとと22を〔〕遠〕く渡らせ給ひにければ、な23ら〔〇七〕瀬の旅にてなむとてや、

校異 1イ先づ。2イゐゐ。3イナシ。4イ中。5二字国ニヨリテ補フ。6一字国ニヨリテ補フ。7イの。8国のアリ。9イの。10国の。11國イる。12イ變う。13三字國イナシ。14國イい。15イ持。16國イの。17国八のアリ。18国見給。19イばアリ。20国ら。21三字國イナシ。22国任。23イな。

諸共に朝夕分かず禊せし早くの瀨々に思ひ出らるゝ

忘れ難くのみこそ」とて、端書に、「これはなめげなれど、此所にある人の小さき、物食ひ始めけるを、若宮の犬宮にとて奉れ給ひける」と聞え給へり。彈正の宮の御とき〔○薺カ〕よく1え2い〔○醉ひカ〕給ひて參れり。御覽ずれば、一には參る物にはあら3で、いと淸らなる、今一には參る物なり。4取り置けて、宮達5參り、遊びなどす。彈正の宮、「6御返りは聞えさせよとか。さらば答へ聞えん」と、答へ給ふ人のなきに、空答をし給ひつ7ゝ、「さらば」と聞え給へば、一8宮、「あな見苦しや、御使の見るに。賜へ、その御文」と宣へば、なほ聞々取り給ひ、「御心地苦しと宣はす」など宣へば、大將いとをかしと思して、9打ち微笑み給へば、「いで宣旨書き奉らん。見給へ」とて、書き給ふ。「自ら聞えさせんとすれど、なほまだ筆も取られ侍らねばなん。日頃はいかなるにかあらむ、うちはへ惱ましくなむ。今朝は心にもあらぬ步き10を11ぞ。御文は朝夕とか。

禊せし瀨々の瀧つ瀨思ひ出では我が衣手も忘れざらなむ

それにも劣らぬ。犬にと宣12ひつる物は、子のと13ゝ〔○德〕見つやとて、大將ひとり皆食ひつめり。などか丸には賜はぬ。これさへ妬うこそ」とて出だし給14ひつれば、大將殿の大殿に、「まうけの物や侍る」と聞え

校異 1国ゑ。2イゐ、国ひ。3イず。4國イとも。5國イ遊び參り。6国此のアリ。7イナシ。8国のアリ。9國イナシ。10イも。11國イも。12イへ。13イく。14イへ。

給へば、單襲の細長、こ1そちき（〇袿）、2（あ）はせ（〇給）の袴具して奉れ給ふ。持て出で給ひて、かづけさせ給ひて奉れ給3ふつ。鮎の御使どもいととく歸り參りて、御消息ども皆聞ゆ。御返り事4も有り。中の君は、「近くても同じ覺束なさなれば、5さふはさて手づからとぞ。さればこそ年頃6は、

わだの原餘所になりにし魚とりは雲出づる原を誰か開けけむ

取り散らすなどあるは、ひとり言よく」とあり。大臣見給ひて、「はかなし者は例の乳母7取らせて、8へも9もは10せで11あらん」とつぶやき給ひて、「これ見給12（へ」と）てさし入れ給ふ。北13方見給ひて、「げにや」と宣ふ。か14くて御前ごとに物參る。御折敷ど15りして、わざと淸らなり。鮎さま〲に16料ぜさせ、いと多く御達の前に衝重し17つゝ有り。大將宮の御許に參うで給ひて、「物は聞し召しつや。何をか參るべき」と聞え給へば、内侍の典、「物も聞し召さず。削り氷をなん召す」大將、「あな恐ろしや。いみじく忌むものを」宮、「かゝればこそいや18（ま）さ（〇增）りつれ。氷食はではいかでかあらむ。先に物忌むと云ひ19つゝ、食はまほしき物も食はせず」と宣へば、「あな心憂や。食物むつかりを。醫師侍りつ言ひて聞えむ」とて出で給ひ、典藥頭に問ひ給へば、聞ゆ、「召さぬにや。過し給ひぬる時は、あつく冷やかなる物を驚きて御胸20惑さ

校異　1イら。2一字イニヨリテ補フ。3国ひ。4イどアリ。5イ御文。6イナシ。7国にアリ。8イ一。9イ食。10国ナシ。11イぞアリ。12二字イニヨリテ補フ。13国のアリ。14國う。15イも。16国調。17国て。18一字イニヨリテ補フ。19国考異て。20異病ま、国病まさ。

せ給ひ、まだしき時はいと悪しき物なり」と申せば、大將、「かくななむ」と聞え給へば、「あな侘びしや。いと暑し」と宣へば、「團扇も參らせむ」と宣ひて、1頭の所は、かのほとい、御殿より西によりて屋あるをしたり、そこに氷召せば、小さく割りて蓮の葉に包みて、標器に据ゑて近江守持て參りたり。大將取り給ひて參り給へば、少し參りて、「かゝらう〔〇笑う〕してよかりつる心地な惑はすかな3と、此所にな來そ。4夫ね」と宣へば、大將わ5く〔〇笑〕ひ6、「前にはかくも宣はざりしを、物7の罪などにや」と宣へば、内侍の典「度々の事に侍れば、內裏の御方は大宮の御時にはいといみじくなむ。此の御時には8例よりも違はせ給9は10もおはしまさゞりき」と聞ゆ。犬宮11はいらで給ひて、物どもに取りかゝりて摑み毀し給へば、父君、「此の人こそいときさなけれ。かゝるわざは女はせぬものぞや。男多かる簾のもとなどに12は出づるものかは」と宣ふ。夜に入りぬれば、と13ころ〔〇燈籠〕かけつゝ、御14殿油參り渡したり。亥の時に、「御祓時なりぬ」と申す。御殿の壇の上より水出だして、石疊のもとまで水堰き入れて、籬落して、大井川のごと15行く、簀子に16は御簾かけ、御床立てゝ御屛風ども立てたり。そこに宮17見所出で18御、督の大殿は19搖り20も立て21て出で給ふ。勾欄に押し懸りて、御階の前に大臣宮達四人、殿々の御達此方彼方に居たり。陰陽頭、御祓物

校異 1 因考巽川。2 イらう。3 イナシ。4 国ゐ。5 国ら。6 イてアリ。7 國イナシ。8 國イ料理。9 国ひ。10 イし。11 イ這ひ出。12 因這ひ。13 イう。14 因殿油。15 因ナシ。16 イナシ。17 イ三。18 イ給ふ、國イさ。19 イ床。20 イ持ち。21 イナシ、因で。

して仕うまつる。馬ども木綿付けて引きたり。御衣脫ぎ1、二2宮唐綾の搔練一襲、姬宮御小袿、督の大殿白き3うら〔○綾カ、衫カ〕の單襲、男宮達4脫ぎ給ふ。宮達御祓5仕り侍れば夜更けぬ。御遊し給ふ。一6宮和琴、7小宮8箏の御琴、督の殿琵琶。宮達おはすれば、御几帳の後におはす。一9宮、「いと10惡し。なほ此所にを」と聞え給ひて、御几帳の中に押し遣りて、「いとよう侍る」とて、御床に押し懸りて琵琶彈き給ふ。し給はぬはた設け給ふ。大將、「此所もとはと11す〔○遠〕か12らず」と、男達の御遊ばすにも聞え給へば、やがて習ひ給ふやうなり。かゝる程に、十九日の月山の端より13わづかに見ゆ。督の大殿扇に書きて一14宮に奉れ15ば、

木綿襷けて禊をしつゝ諸共に有明の月を幾夜待たまし

宮見給ひて、

永き夜の有明の月も待つべきを禊の神やいかゞとぞ思ふ

二の宮、

かくしつゝ月をし待たば淺き瀨の禊の神も何か知るべき

姬16君、

校異　1 イ給ふアリ。2 因のアリ。3 イろ。4 イもアリ。5 イ仕うまつ。6 因のアリ。7 イ二。8 異箏。9 因のアリ。10 因著。11 イほ。12 國イうす。13 国はつ。14 因のアリ。15 イ給ふ。16 イ宮。

月待つと桂わたりに小夜更けて彈く琴の音は神も聞くらん

とあるを聲の大殿大將に奉り給へば、また取りて、

神も聞け1顏2ばかりせずや3た〔○八百〕萬世4に禊ぎつゝ思ふ5どち絕ん

とて、人にも見せでさし入れつ。かくて夜一夜遊び給ふ6に、明けぬれば、御簾の內に入り給ひぬ。大將、白銀の鑵四、脚付けさせて、鑄物師ども召して作らせ給ひて、7取り上8ぐる魚ども9はらせつ。鮎一籠、鮠10石斑魚小鮒入れさせ、荒卷など添へさせて、藤壺の若11宮の12御許に13、手づか14うわうら15い〔○往來カ〕月日書きて、せお〔○饌カ、錢カ、贍カ〕立てゝ御覽し給へり。かたはらに、

君が爲め誓けき16客に棲むい17ほ〔○魚〕18の今日より見せむ千代の日ごとに

と書きて、蘇枋籤にして、赤き色紙に書きて瞿麥19の花に付けたり。か20んて21ら〔○漢朝カ〕なる人を召して、「これ三條22院の南宮に參りて、若宮の御方に持て參れ」と宣へり。御使持て參りたれば、若宮見給ひて、「西の對になむ」とて奉れ給へれば、大23殿さだおはしま24す。君達御方見給ひて、「此方渡り給へ」と聞え給へば、おはしたり。「かく書き給へ」とて、此のやうに書かせ給ひて、かたはらに、

校異 1因顏。2イ變。3国は。4因に。5國イ年無。6イ夜更、国夜明。7イ飛び與、国跳び。8イが與、因が。9イ取。10イ一籠アリ。11イ君。12國イナシ。13因考異とアリ。14国ら。15因び。16イ水與。17国を。18イも、国を。19二字イナシ。20因ナシ。21国う。22因のアリ。23國將。24イさずアリ。

君1がかく取り初めければ山川のあさぢぞおきの上に見えける

敎へつゝ書かせ給へれば、いとをかしげに2覺ゆ。御使に祿賜びて奉れ給ひつ。大臣御前に3召して、調ぜさせ給ひて、興じて參る。藤壺4は鮎ならぬ魚5煎りて參り給ふ。かくて御使參りければ、青き色紙に書きて結梗に付けたり。見給ひて、「いとかしこうも書き給6ひつるかな。只先つ頃7こそ手本召ししかば奉れしか。いとよう似させ給へり」と宣へば、右の大臣取りて見給ひて、「なほかしこき君たり」宮、「先つ頃見給8ひしかば、手をこそ習ひ居給ひしか」大將「容貌もいとをかしげにおはすや。9坊に10こそ内裏の宮若宮よりは此の11君12をこそ13生ひ出で給ひぬべかめれ」14いとをかしげにおはすや。は15ら(○坊)にこそ内裏の宮若宮よりは此の君をいとらう16しく17ゆへ(○故)18にぞ生ひ出で給ひぬべかめ19る」など(○以上)(○七十一丁ウ三行——同十行。以下因ナシ)聞え給へれば、北方土器にかく書きて、瓶子持たせて奉り給ふ。

巢立つ子とまだ知らざりし雛鳥の枝は何れぞ知らず顏にも

と有り。大臣見給ひて、「げにいと道理や、されど、

鳥の居る同じ鳥塒はとひし20(か)ど古巢を見てぞとめずなりにし」

校異　1イは。2因書き給ふ。3イ人アリ。4イにも。5因撰。6因考異へ。7イナシ。8因へ。9イは内裏。10因も。11國宮。12イナシ。13十一字因ナシ。14以下廿九字イ衍與、因ナシ。15一字因ら。16イ〱。17イ遊人、因ゆゑ。18因づきて。19イり。20一字異ニヨリテ補フ。

とて奏り給へば、中納言、何事ならむ。かたはらいたしと思す。〔○以上〕

〔○七十一丁オ一行――七十一丁ウ三行〕1かくて、その日一日涼み2あ3〔○細カ、鮎カ〕引かせ、4日暮るれば鵜飼はせなどし給ふ程に、5宰相中將の6君7御許より8小9宮の10乳母の許に、女の裝一具、内張の單襲11包みて、御文あり。「昨日の早朝消息聞えたりしかど、急ぎて出で給ひにければ。かの聞えし事、宮にてはいと難かるべき事を、宮達も御遊びせさせ給12ひし13かば、ほともに涼み給ふめる宵の間にたばかり給へ14ば、昨日の早朝、追ひ15て參うで來て、此のわたりになむさる心して侍る。さてこれは16今暑き日なめる17を、脱ぎ變へ給へ」と有り。乳母見て、「あな恐ろし。人もこそ氣色見れ」とて、里より遣り18し物19は20らし給はで、いとよう21止め給22へど〔○以上〕〔○四十一丁オ一行――四十一丁ウ一行〕隱して御返23、「畏まりて承はりぬ。昨日は左の大臣參り給ひて、急がし聞え給ひしが、いととく24はて物し給ひしなり。宮はせたる事はあ25る恐ろしや。宮におはします時よりも、宮達垣の如26おはしまさ27ひて、夜は御廻り28におはしまさふめれ29ば、これかれだ30に近くも參らずなむ。いと忝なく旅におはしま31さすたなを、

校異 1以下十四字宮宮ひて大臣は彼所に出で給ふ。2以下三字国湯浴びら。3イみアリ、宮考異はアリ。4国ナシ。5国藏人の少將。6国ナシ。7異のアリ。8イ二、国二の。9國イ君。10国御アリ。11國イ謹。12国ふべ。13イ川邊、国なほ共。14国ナシ。15イ出で。16イいと。17国ナシ。18イたりアリ。19以下六字国持て來し樣にて。一字國イ干。20一字イ越。21以下五字国持て。22二字イひつと。23イ事アリ、国りアリ。24イ出で。25国な。26国考異くアリ。27国い。28国の。29イナシ。30國イち。31国ナシ。

早歸らせ給ひ1ね。人に氣色見えさせ給2〔へ〕な。さて賜はせたる3、あな忝なや。かく御櫛匣殿を4せさせ給ふ5をなむ、いかで此の6こそ7に女も縣けさせ奉りてしがなとぞ8人知れず。まめやかには宮に渡らせ給9ひなむ10」と聞え11させつ。〔〇以上〕

〔〇四十三丁ウ九行――五十七丁オ八行〕12かくてその日の夕方13歸り給ひぬ。男宮達は、主の大臣14の御馬鷹など奉り給ふ。女宮達には黄金の15やつこの箱に、薫16の有難き物ども入れて、一17宮より初め18奉り19て、20大宮21 22は23琴の小さきに、昨夜の物入れて奉り給ふ。乳母達には裝束一具づゝ賜ふ。御達の中に鬘24とののなど出ださる25。歸り給ひて、右の大臣26宮下御27祓28、大將29に御車30など五つばかり31して32せさせ奉33り給ふ。34殿の若君35など36して出で給ひ37て、せう38はう〔〇逍遙〕39など40く41し給ひて、歸り給ひて、二日ばかり有り

校異 1國イぬ。2一字イニヨリテ補フ。3図物はアリ。4イ出だ。5図ナシ。6イこふ〔〇頃カ〕、国御衣。7国は御目に。8国思ふ給へる、図思う給へる。9図ふ。10国時聞えさせんアリ、図と聞えさせむアリ。11国ナシ。12図かくて明けぬれば一日涼み鮎引かせなどし給ひてアリ。13イにアリ。14国ナシ。15国かふ、図から。16国ナシ。17国のアリ。18国てアリ。19国給ふ。20国犬。21図にアリ。22以下二字イ箱。23国箱。24国物の具、図の具。25國イ歸り給ひぬアリ。26イ宮に、国梨壺、図梨壺の。27國イはらは、國イはら人。28国に出でさせ給ふアリ、図に出ださせ給ふアリ。29国殿より、図ナシ。30イナシ、国ども。31以下五字国出だし立て、図出で立て。32三字図考異ナシ。33国れ。34以下二字国宮達。三字図宮達。35国達アリ。36国參り。37国ナシ。38イえ、国よ。39二字国ナシ。40イをかしアリ。41國イナシ。

て、1中宮2東河に車三ばかりして出で給ふ。大臣は出で給はず。睦まじき人々して出3で給ふ。近江守に宣ふ、「此の東河4の祓へに物すなる5。東河の6水に7かからむあたりに車立てさせて、鮎など食8につきやうに物せ9させ給10へ。怪しう若き子のやうに、人11するに従ひたる12人なれば、心苦しくなん」とて、出だし立て給ひ13て歸り給ひぬ。

[書詞]11 15 三條殿。

かくて藤壺も16辛崎に御祓へし給はむとて、17大殿も諸共に、君達18も御供の人々多かり。御車引き續くる程19、20大宮、「あなたの御車21も22一つに」と宣へば、藤壺、「いかで23先づ」と宣ふ24程25ぞ、御車ども26にだに引き續けて立ち煩ふ。大臣、「なほ27彼を促せ」とて、藤壺の御車を一に立てさせ給へ28ば、皆29々いと哀30に思31ひ32て、辛崎におはしまして、御祓いかめしうし給ひて歸り給ひぬ。大殿も歸り給ひぬ。此方には例の33番結びて、君達34の宿直し給ふ。

かくて經給ふ程に、春宮より、遅く參り給ふとて、ある時は哀に心苦しげに、ある時は憎げに35怨じ給ふ。

校異 1国ナシ。2国大臣アリ。3国だし。4イに。5イをアリ。6イ宮。7国近。8イふべ。9以下四字国よと仰せよ。10一字イふべし。11イのアリ。12国宮。13五字国ナシ。14国此所はアリ。15三字イナシ。16國イから。17国大臣。18国もながら。19イにアリ。20国宮大臣。21国か。22国先づ。23国かアリ。24以下二字国に。25イに。26国二方。27国これ。28イど。29イ人アリ。30イと。31以下二字イふべし。32國へアリ。33イ綠。34国ナシ。35イ怨。

1使に従ひて御使有り。その御使の藏人の申すやう、「梨壺のたん坊には居給ふべき」と申したりにためり。まつりにも2履參う上り給3ふ、晝は4殊に渡らせ給はず。日頃は殊に御遊びもし給はず」と聞ゆれば、ある時は一行二行と聞え給5ふ、ある時は聞え給はず。か6くれば皆人の申す、「あな異樣7、またなき例にもし出で給ふ8かた。かく讒られ給9ひたり」と10誹り申す。殿には、大殿の御方にも藤壺の御方にも、今より宮司11は12藏人殿上人帶刀13と14いき申す人多かり。若宮の御方には人々參り込みつゝ、公のやうになりておはしますを見奉り給ふさゝに、15思し嘆く事限りな16く、山々寺々に修法行はせ、神佛に申し給ふ程17、七月18の中の十日19になりぬ。

20ある夕暮に、彈正の宮西の對に參り給ひて、御物語り聞え給ふ。「かくて物し給ふ程に、21しほ聞えまほしけれども、物騷がし22物し給ふめれば、いとおとなしくなりまさり給ふなりし心地も、自ら聞23らんとせしを、あ24ゑ物も程過ぐしつるになむ」御答、「あえ物は年隔てゝこそは。25こもつれぐ〜と侍26(る)を、誰にも聞えまほしけれど、皆こそ思し忘れにたれ」宮、「更に忘れ聞えず。かくて侍るをば何の心有りてと

校異 1**イ**ナシ、国ついで。2國しばし。3國ひ。4國イかど。5国ひ。6**イ**か。7**イ**やアリ。8**イ**ナシ。9国ふ事。10**イ**はし。11**イ**ナシ。12五字国ナシ。13以下三字国など。14二字**イ**ナシ。15國イおは。16国し。17国にアリ。18国考異ナシ。19国考異程アリ。20国孜アリ。21以下二字**イ**志を、国しばぐ〜。三字国しばく〜。22**イ**うアリ。23国え。24国え。25**イ**此所に。26一字**異**ニヨリテ補フ。

1る思す」「いでなほ心憎く2ておはします。3今こそは」宮、「此の數多し給ふわざ、時々は此所にもして4給5へつは6や。かくてやは」君「いと見まほしくて數多物せらるめるを、何かは」宮「まめやかには、年頃かくて7は侍るを、此所彼所にも物せ8よと云ふ人侍れ9ば、御心のつらかりしにのみ忘れ難くて、さやうの10頃も11覺えぬに、なほ昔のやうにも思ほさで、忍びて知る12邊にはし給13ふなむや」と宣へば、「怪し。忍びずとも、さて知らぬ人にやは。かく聞え14(承はる15も疎からねば16こそ」など聞え)給ふ程に、左大辨の君、「いと17事々し」とて參り給へば、宮、「18あな憎や。此のうるはし者は何しに來るぞ」とて、聞えさし給ひつ。

かくて新中納言、「藤壺物し給ふ事有りしを、かくてあらば物しともぞ思す」とて、小野より物し給ひて19、「いと嬉しく物し給へ20る。遲くおはせば御迎へに參うでんとなむ。此所はいとかく便なきを、日頃侍21(る)所に物22の23さとしなどせしかば、先つ頃二條殿になん罷り渡りて侍るに、其所におはして、聞えしやうに、24內に入りておはしませ」と聞え給へば、中納言、「何か、此所にも暫し25は26物27せむ。尋ねむと宣ひし人はいかゞはと聞え給へば、「いと暑く侍28れば程遠くては物せず。今少し涼しくなりなむ時」29など情なく

校異 1イか。2イナシ。3イと。4以下二字宋賜ひつべく。5一字イふや。6イふ。7國ナシ。8イし。9殿ど。10異心。11イ思け。12宋人。13イひ。14十五字イニヨリテ補フ。15イや。16二字玉ナシ。17イ疎し。18宋合。19玉けり民部卿アリ。20イり。21一字イニヨリテ補フ。22國イナシ。23國きこ。24宋考異打ち。25イナシ。26以下三字玉ナシ。27二字イナシ。28イりつアリ。29イにと。

聞え給ひて、「たほいざ給へ」とて、一つ車にておはす。下りて諸共に入りおはするを、北1方など見給ひて、驚きて御几帳立て直しなどす。先づ民部卿入り給ひて、「あな見苦し。こは何ぞ」とて御簾上げ給ひつ、あるじだち突い居給ひて、「なほ、こゝには恥ぢがにてまつる人もなし」と聞え給へど、つゝみてえ入り給はず。民部卿、「なほ3入らせ給へ。女だに4はき聞えぬ所に5、6いとひ7なく\/し8く」と聞え給ひて、御9圓座さし出で給へば、いと澁々10がり入り給ひて、いとまめやかに見給へば、奥の方に小さき几帳立てゝ人あり。柱11のもとに若き女のいと淸らなる居12たり。中納言いと怪しく、睦まじと言ひながら、つれなくても居給13ひつるかな。これは藤壺の14姉なれば、かく良きぞと見居15たり。姫君は、とまれかうまれ我が親に見え奉らむ、親の御顏見んと思16ほして、伯父大殿見給ふを17物にも思ほしたらで、さし向ひて居給へり。中納言は容貌の18美しげなる見守ら19へて居給へり。女君は、見や知り給ふと恥ぢたれ20ど、21物も宣はず。姫君父君のえ見知り給はぬをいと悲しと22思ほして、え念じ給はで、つぶ\/と泣き給ふを、民部卿いと哀と見給ひて、「思はし出でずや」と聞え給へば、中納言いとまめにて、物も宣はず。民部卿、「此の君を、いと淺ましく、かくなり給ふまで見奉り給はねば、思ひ侘びてかくおはしま23せつるなり。今かくておはし24させ

校異 1因のアリ。2イ奉。3國イ答。4イ恥ち。5国はアリ。6以下八字イはかひなくと口說き、因考異はかひなく\/。7一字因が。8一字因考異からて。9国圓座。10イに。11イナシ。12因考異給へ。13イへ。14イ御アリ。15因給へ。16イひ。17イもアリ。18イいとアリ。19國れ。20イば。21國誰もアリ。22國イおぼ。23イさアリ。24イま。

1よ。人2あらぬやうにては、え永くは物し給はじと。御髪もかくぞなりたる」とて、掻き出でゝ見せ奉り給ひて、「今一所も3かゝ此所になむ。天下45世に求め給ふとも勝る人しもえ侍らじ。實正らを6も人と思すものならば、なほかくて物し給へ」と聞え給ふ。「年頃見ざりつる程に、大人にこそは」と宣ふまゝに7泣き給ふ。昔の人々集りて泣く8樣、小君の御乳母の前なるを見給ひても、中納言いみじく泣き給ふ。さても怪しう、心にもあらで來たるかなと思ひ給へり。民部卿、「故殿のおはしましゝ時こそ、女親のごと、折々の御消しの事なども御9みち〔〇口〕入れ給ひしかど、今は女は10うから〔〇兄弟〕とておはするは、さやうに心しらひても物し給はず。實正らが如11くは白12くの事にも叶ふ人し侍らねば、心ざしは有りながら、え思しきやうにも仕13うまつらじ。かく世14中を思し離れ15にためれば、16よく君はよしな知り給ひそ、此の君を御後見17にて、萬の事さやうに思ほして物し給18ふ」など聞え給ひて、御供の人々、所々に据ゑさせ給ひて、物19問はせなどして、「遠くよりおはしましつるまゝに20、率て奉るなり。物參れ」と宣へば、黒き御臺一具、精進の物いと清らにして物參21る。22仕23る人は、24かで〔〇袖〕君、まさご君の御乳母、おとなびにたれど、容貌宿徳にて有り。童なりし人25に、大人になりて、若人にて26は有い27。28はらけ〔〇童〕ばかりと知

校異 1イ世の。2イのアリ。3國イ隱す。4イにアリ、國イりアリ。5國外。6イナシ。7四字國イナシ。8國まさご、國考異またまさご。9イく。10イら。11國き。12國ら。13國ふ。14國のアリ。15イナシ。16イ母。17國た。18國へ。19イ宣。20イてアリ。21イた。22イ仕うまつ。23イり。24イそ。25イナシ、國ぞ。26イナシ。27國けるアリ。28イわ。

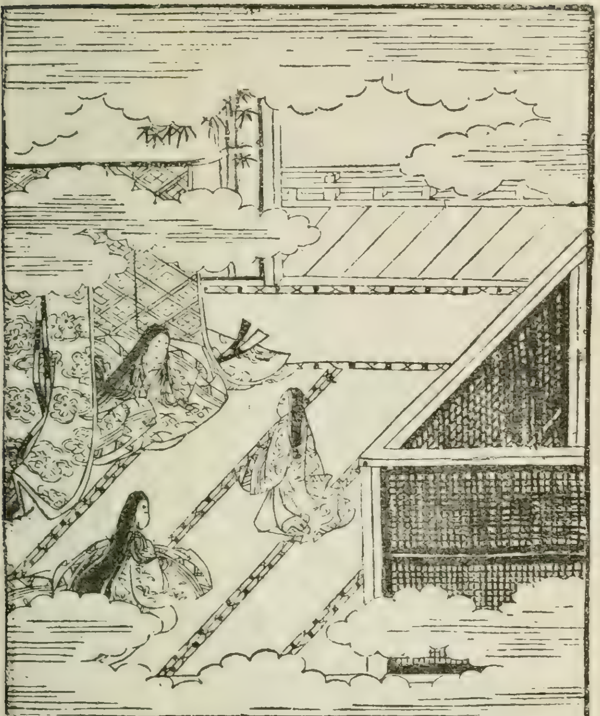
らぬはあらぬ。かくて物參り御酒など參りて、山里より渡1り給ひ2し日しつらひ置かれたる御方に、「彼方に3入らせ給ひて、いと暑きに休まへ給へ」と聞え給ひて、入れ奉り給ふ。昔持ち使ひ給ひし調度、いさゝかに手4慣らし給5ふ皮故など、6取り散7らし給8ふ物なく9し給ひなどして居給ひしまゝに、異御調度の清らなる數を添けりたれ10ど、無き物なくしつらひ置かれたり。中納言、なほ有難き心11はあり12かし、親もなくて我をのみ頼みたりし人の子供13たりしを見捨てゝ年頃有りつるに、かく一つも失けで有りけるなど見給ふ。此方にも昔見給ひし人々の參りて、御衣取り懸け、御14團扇など參れ15、只昔のやうなり。民部卿は娘に禁取りしたらんやうに、居立ちて殿へも物し給はで、た16く此の君の事をいそぎ給ふ。新宰相も急ぎ參り給ひて、「寶賴は殿籠れ給ひて17の夜晝悪しき事を思ひ給へ歎きつるに、今日なむその心も忘れて、嬉しう思ひ給18へば、なほかくて經給は19じ、總て同じき兄弟と聞ゆとも、親君と仕うまつらむ」とて、二所ながら此所に物し給ひ、かしづき仕20うまつり給ひつゝ、二三日經給へど、北21方22も姫君にもまだ物聞え給23はず。

かゝる事を内裏にも春宮24にも聞し召して、「らうたく、いたづらになりぬと聞25くつるを、今は宮仕へせむ

校異 1國イし。2國イナシ。3イ參い。4イ習ひ。5イひし。6國イナシ。7イら。8以下六字イナシ。9二字國ナシ。10イば。11イばへ。12十六字イナシ。13イ持アリ。14イ袿。15イばアリ。16イだ。17イ後。18國ふる。19イば。20国ふ。21國のアリ。22「國にアリ。23國イふ。24國イナシ。25イき。

と思ふにやあらん」と宣ふ。左の大臣いみじう悦び給ふ、年頃も聞えつるを、我が逢ひて、さて物せよと言ひしかばにやあらんと思ほす。中納言、世の人聞などの心ならずや1思ほすらんと思して、四日ばかり有りて、夕さりつ方此方に渡り給ひて姫君に聞え給ふ。「いとめづらしく對2面したりしかど、見奉りしにも、己が心からとは言ひながら、萬3事哀に覺えしかば、まめやかにと思ひてなむ。年頃、いかでか今更4かはと哀5にかく物しにければ、これも心憂く覺えて、此のわたりには思ひ出でられんによりてなん6。多くはえ」など聞え給ふ。姫君とかくも物も宣はで、たゞつくぐ\と泣き給へば、「なほ年頃7は有り8 9つらき物語をこそせめ」など宣へば、「年頃戀しく悲しくのみ覺え給ひつるを、辛うじてた10ひさ11お〔〕對面賜はりたれば、夢の心地してこそ」など聞え給へば、「世12中に久しかるまじき心地のせしかば、法師にもなりなんと思ひて、山里に年頃は」民部卿、「彼方に13は物し給ふ所にて、尋ね聞えんばかりなかりしかば、折節に思ひ出でつゝ、いかでとのみ思ひながら、年頃え」など聞え給へば、「紅葉見むとて、知らぬ人物せし時に參うでたりし所なむ、14其所15に殿籠れ給ひし程に、16卿の君の宣ふになむさなりとは17。いと18さ世離れては有りけん」な19ん20ど多くの御物語し給ひて、「母君は何方にぞ。物聞えん21と聞え給へ」と聞え給へば、22女君

校異 1「玉思」。2 反面。3 イのアリ。4 イにこ。5 イ深。6 イ心憂く思し〈国え〉」アリ。7 イナシ。8 イ經アリ。9「国經」。10「国いこ」11 反ナシ。12 反のアリ。13 イナシ。14 以下二字イニよとつ。15「国よこ」16 イ四。17 因知りにきアリ。18 反里。19 因ナシ。20 イナシ。21 五字異ナシ。22 反姫。



悦びて、北1面におはする所に參うで給ひて聞え給へば、北の方、「い2で、何か3」4と聞え給へば、民部卿5の、「影のごと添ひてと宣ふ6をも、かう宣ふをも聞き給ひて、吾7る佛、などかうは宣ふ8。9消息し給はずとも、參うでて對10面し給へとこそは思ひつれ。御上を思11る聞ゆるにしもあらず。此の君の世に惜まれていたづらになり給へば、とざまかうざまにたゞばかり聞ゆるなり。早おはして何心なく語らひ聞え給へ。おぼろげに思ひてやはかう聞ゆ12(る)」と申し給へば、「いでや。此所に對13面せむに14う、いとゞ鷲の山にも思ひ入り給はん」民部卿、「同じうは經て15ふ山にはと聞ゆるを、北16方打ち笑ひて、「年頃17住居こそさやうには。いでや今更にはと思ひ給ふれど、かく宣へば」とて、薄18鈍の單襲、黒橡の小袿奉りて、19參うで給ふ。几帳押し出でて對20面し給へば、中納言、「昔恥ぢ聞えしなめりしにだに、さもあらざめるを」21几帳22押し遣りて見奉り給へば、昔に23殊に劣り給はず、仁壽殿の女御24やうにて、面痩せ給25ひつるもあてに見めきたり。中納言、「あなめづらしや。いと久しうなりにけるかな。淺ましうあり所も知らせ給はざりつれば、年頃山里のつれづれ、春秋の夜寒などには常に思ひ出でられ給へど、尋ね聞えん方なくて、有りし人26しもあらで見給27つれども、其所には28變り給29ひつる事もなく、たゞ哀なる人のみなむ」とて、扇に

校異 1 イのアリ。2 イかアリ。3 イはアリ。4 イは。5 イナシ。6 友考異ナシ。7 イお。8 国ぞアリ。9 國イせし。10 友面。11 イひ。12 一字友ニヨリテ補フ。13 友面。14 イぞ。15 國ぞ。16 友のアリ。17 国のアリ。18 イ鈍。19 国裝束きて出。20 友面。21 国とてアリ。22 友をアリ。23 イもアリ。24 イのアリ。25 イへ。26 国にアリ。27 国へ。28 國イかもい。29 イへ。

書き付けて奉り給ふ。

　雲井より歸りて見れば故鄕の1今雖2鶴ぞ待ち見ざりける3

とて奉り給4ひつ5れば、北6方泣く〳〵、

　昔見1屋どもの山に荒れまして歸らぬ鶴をまつも枯れぬる

と宣ふをいと哀と思して、「まめやかには、昔怪しきそゞろ心のつきて、あくがれそめにし7心地の靜まらざりしかば、世にもあらじと思ひて、怪しき山里に籠り侍りて、親の御許に8參うでざりき。たゞ此の折にぞ參うでて見奉りし。其所にてなむ此所には平かにおはしますなど聞9え10、すなはち思ひになりにしかば、今まで。すなはち聞えんとせしかど、心深き所付き給へりしかば、11はいりにぞ思ひつゝみてなむ」北12方「年頃はいと哀13と物思して居給ふと承はりつる、我が14ことやと思ひ知られて、いかで訪ひ聞えんと思ひつれど、それにつけても思はす事やあらむとてなむ」中納言「何かは、今までは。暫しこそ人を憎しとは思ひしか」など多く御物語、年頃有りつる事など互に聞え給ふ。中納言、「いとよ15るめり、かくて物し給へば。此所にはさ16えついつけても、そへて物し給へば、煩はしうて、來る折あらば、親兄弟のごと語らひ來にたれば、恐ろしとこそ思さるらめ」など、夜更くるまで聞え給ふ程に、夜さりの御臺參り物など聞し召して、

校異1國イいさ。2國イナシ。3國イかなアリ。4**イ**へ。5國イナシ。6國のアリ。7**イ**を猶アリ、國イ心を猶アリ。8國もアリ。9**イ**きし。10國考異しアリ。11**イ**いか、國いかゞ。12國のアリ。13**イ**に。14國事に。15**イ**か。16國考異い。

御方に渡り給ひぬ。かくて御は1くか2く〔○兄弟〕の君達は、物し給はず、小野へや歸り給ふとて、北3方達の御許に、「かゝる事のあればなむ」とて、夜も晝も物し給ひて、人々の參る物なども、皆「持て參うで來」と宣ひて、内にも奉れ給ひ、此方にも取り散らし給ひつゝ、人にも賜ひなどして物し給ふ程に、昔見語らひ給ふ人は、上達部も殿上人も、めづらしがり悦び、あるは興ある物など奉れ給ふ。右大將4も夕暮の涼しげなるに物し給ひて、「此所にかうて物し給ふと只今なむ承はる。年頃、おはする所に參り來んと思ひ給ふれど、とかく參5りてなん。さるはかの見付けし山里にも、いかで諸共に6とぞ思ひ給へるや。かの人はおはして訪ひ給7ふ。さや誰とは聞き給ひ8し」と宣へば、中納言、「年頃は、尋ね問はせ給ふとこそ深き山人には」と申し給ふ。北9方姫君などは見給ひて、かの山里に物し給ひし人にこそはあめれ。見しよりもいと宿德に淸げにもなりにたるかな、誰ならんと見給ふ。かくて物語などし給ひて歸り給ひぬ。

かゝる程に、左の大臣君達に、「新中納言本10妻に返り給ひて、此のたび東に物し給ふなるを、訪ひに物せん。故殿11いたづらになすなと宣ひしものを、かく世づきて物し給ふな12る悦び申さむ」と宣ひて、左衞門の督宰相中將などしておはしたり。民部卿驚きて、三所ながら出でて御迎へして入り給ひぬ。大臣「かくて物し給ふとなむ一日承はりし。すなはちと思13ひ給へしを、いと暑く侍りてなん。いと嬉しく思ふやうにてや。

校異 1国ら。2国ら。3図のアリ。4図殿アリ。5国らで。6国イナシ。7図ひき、国イふにカ。8国つるや。9図のアリ。10図の御妻。11イのアリ。12國イり。13図ひ、図考異う。

おはするを、限りなく悦び聞ゆるを」民部卿、「あからさまに妹訪ひに物し給へりしを、1言ひ止め2て侍るなり。なほ山里に3となむ、いと忘れ難げに」おと4し（○大臣）「御心とかくて物し給ふに5あらずやはとて、かねて參うでける喜びにこそ、祈などす6時幸ひと云ふ事あるは」とて、皆笑ひ給ふ程に、內裏より精進の御肴して、心殊にいと淸らにて、御酒參り給ふ。中納言に土器さし給ふとて、

忘るな7と契り置きけんたらちねも8え（○笑）みて見るらん雲の上にて

中納言賜はりて、

契りけん雲井をか9つは忘10るれば11此所に12と君が見るをしぞ思ふ

民部卿、

おひ上る雲も知るらん山里に尋ね出でつゝ契る心13を

宰相、

昔のも今のも雲は晴れぬらん契りし宿に有りと見つれば

左衞門督、

雲よりもおのが山々年經つる君をば誰か14歎かざるべき

校異 1イナシ。2イナシ。3因ナシ。4イど。5イ飽か。6イるアリ。7イよ。8国ゑ。9イく。10國イら。11イ空。12国て、因考異し。13因考異は。14國イなり。

宰相中將、

山里に行きつゝ見れば打ちなかめ獨り經しこそ哀なりしか

民部卿、「1あな憎や。同じ心に」と宣へば、「答へするはと仰せられつれば」などて、御酒度々聞し召す。御物語など久しくし給ひて、2新宰相3君して内裏に御消息4と、「嬉しく5て物し給ひけるを、喜び聞えさせ6に。7いまだに8あく9え侍らねば」（〇以上）10

（〇七十一丁ウ十行｜｜八十丁オ四行）かくて民部卿、因事の11所なれば、かづけ物はせで、御供12の人々に13腰插など14し給ふ。大臣歸り給ふとて、「かくてのみを、今は物し給へ、さておはせば近き程なるを、さし歩みつゝ參り來な」とて、おはしぬ。

かくて十日ばかり有りて、民部卿なん夜は殿へおはし、晝は此所にのみおはす。中納言は15蔭凉いかに聞き

校異 1因合、因仇。2異良。3因のアリ。4イいアリ、因聞え給ふいアリ。5因を。6イよ。7以下十一字因今又も聞えさせんなどやうにて歸らせ給ふ。8以下七字因隔て聞えず承けらむなどやうにて歸らせ給ふ。9一字イへ。10因次ノ文章アリ　と聞え給へれば、北の方土器にかく書きて、瓶子持たせて奉り給ふ。「巣立つ子とまだ知らざりし雛鳥の枝は何れぞ知らず顏にも」とあり。大臣見給ひて、「げに道理や。されど、「鳥の居る同じとぐらはとひしかど古巣を見てぞとめずなりにし」とて奉り給へば、中納言、何事ならむ、かたはらいたしと思すアリ。本書ニテハ因ニヨリテ此文章ヲ前ニ入レタリ。原刊本ニテハ此場所（七十一丁ウ三行――同十行）ニアリテ直チニ本文ノ次ノ文章（七十一丁ウ十行以下）ニ連續ス。11イ頃。12因ナシ。13因はアリ。14因賜。15因殿へは。

給ふらんと靜心なく思ほして、下の殿へ歸りなむと思1せど、2哀は萬の人々參りて、故殿の人3もなつき奉りなどし4給ひ、仕5うまつるずりや6し〔受領〕なども、まめやかなる物菓物など奉れば、時の所のやうなり。藤壺に御文奉れ給ふ。「御消息聞えたりし7すなはち遠く罷りて、山里制せさせ給ひしかば、時々はと聞えさせしかば、一日あからさま8と思9ひ給へて參うで來しを、思ひの外なる10やうなる事ども侍りて11、自ら聞し召ずらん。

　古里に有りとは人に知らるれ12ど涙にのみぞ淫霖せらるゝ

何時しか內裏にも。さらば時々と宣はせしかばなん、今日までもかく近き程に侍るを、有りしやうなる折もいかでかとなむ。參13たせ給14ふなど、何時を何時とかは」聞え給へり。御返り、「日頃は近く物し給ふと承はりつれば、おひな15をり〔生ひ直りカ、老い直りカ〕を16もとなん。時々17と聞えし事は、なほさてのみおは18しまさゞる折も有りなむ。とみに參るまじくなん。

　そこにかく有りと聞ゆる今より19ぞ言ひてし事も思ひ知らるゝ」

と聞え給ふ。

中納言いと花やかにもてなされて、かくてもつきなからず20や、山里につれ〴〵と男どもをのみ使ひておは

校異 1イすと。2国々アリ。3国々アリ。4イて、国ナシ。5国ふ。6イう。7国從。8国にアリ。9国ふ、国う。10四字国ナシ。11国なんアリ。12イば。13イら。14イひなば。15国ほ。16国ナシ。17イも。18国す。19イも。20国ナシ。

せしよりはと思はさるれど、なほ世の人の心をつゝみて、北1方には物も聞え給はず。途2ゆへはなくて、
な3るど〔〇中戸〕をたてゝ、東の方には北4方、西には中納言と、いと5疎々しうて、女も召し使ひ給は
ず、使ひつけ給6ふつゝ男を7召し使ひ給ひつゝおはす。時々姫君のみ呼び渡し給ひつゝ物語し給ふ。「年
頃はな8〔に〕〔〇何〕事かし給9ひつゝ。一日此所に物し給へりし10かば、かの山里におはせし11ぞかし。12
所のかみは中将に13ぞ有りし。14これは萬の事する中に、琴の上手ぞ。それこそ紅葉見るとて有りし。そこ
にや有りけん、琴弾きしを、よくなりぬべき15事かなと宣ひしが、その後はよくなりにたりや」一年頃は夜晝
戀ひしく悲しくのみ16聞え給17ひつゝ、世に18え侍るまじくのみ聞えしかば、かくてもえ對面すまじきにや
19と嘆かれて、萬の事もかひなく、つれづれと20ながめ21るに22君「などか參うでたりしには、此所には我
ぞとは宣はざりし」23「さ思24ふ給25ひて、母君制し給ひしか26ど、出でて聞し召しもやするとて、萬の事
を聞えしかど、知ろし召さずたりにしかば、いとこそ悲しく侍りしか」と聞え給へば、心あやまりこそしたり
けれと思して、物も宣はず。かくなど27てもてなして隔て給へど、北28方には人の靜まりたる夜々29など

校異 1 因のアリ。2 一字イ簾、國簾。二字国簾。3 イか。4 因のアリ。5 イ事。6 一字なひ、二字イへ。7 國のみアリ。8 一字イニヨリテ補フ。9 イへ。10 イけ。11 国人アリ。12 イそ。13 国てアリ。14 イそ。15 国琴。16 国思ふ、因思ふ。17 国へ、18 国ね。19 国皆汚。20 イなんアリ。21 イ侍アリ。22 国そこには。23 国袖君アリ。24 因ら。25 因へしかど。26 因ば。27 因ぞ。28 因のアリ。29 因中戸。

より1密に入りて、時々物な2こ聞3く給へど、夢4に人には知られ給はず。密人のやうに5てぞ聞え給ふ、「年頃心憂り6てあるやうなりつれど、御許より出でて、異人を目に近くだにぞ見ざりつる。此の西の院に有りし時、物聞え7し人の御許なりし兵衛と云ひしになん物聞えつ8るせし事、夢9に近き事も言はずなりにき。此の10頃ばかりぞかくて有りつる。容貌異なる11頃しも人に物聞ゆるやうなれば、なほかくてはあらん」とて出で給ひぬ。言つ方御文書きて、中戸のもとにて姫君を招き寄せて、「これ母君に奉れ給ひて、御返12取りてを」と宣へば、持ておはして、さらぬやうにて奉り給へば、民部卿13も物し給14ふ。北15方かくこれかれ物16し給ふに、何云はずと見給ふらんと思せ17ば、取18かて見給ふに、民部卿「彼方の方様見む」と宣へば、姫君、「彼所に立ち給へ19り、人に見す20れと宣へるを」「いかゞ思21しな22るらんと、いとゆかしく思ひ給ふるに」とて、取りて見給へば、「いと哀に昔の23み覺えしかば、萬聞えんとせしを、山籠りの心なきやうにやとつゝましくて、

　逢ひも見で經る年月は何なれや暮れ難くのみ見ゆる秋の日

暮にただに心靜かにもがな。忍びて此方にもやがて」と有り。民部卿、「さればこそ、惡しくやはたばかり聞え

校異 1図ひそか。2イど。3国え。4国ナシ、図考異も。5イナシ。6國イナシ。7國イナシ。8イが。9図戯れ。10イ猿。11イ心。12図考異事アリ。13国ナシ、図の。14図へり。15図のアリ。16國寅、國イも賜。17イど。18イり。19イる。20イな。21以下三字国す。22イナシ。23図考異ナシ。

たる。1(は)や(○早)く御返事聞え給へ」と宣へば、「何か」とて書き給はねば、姫君2、「思ほし出づるなるは近かりし昔のか3いにやと思4ふる5に、げに6はかにとなん。いでや、

余所なれどなほ夕暮は頼まれき變るを見つる今ぞ悲しき

心細く7なむ」とて奉8り給ふ。

かくて夜さりつ方此方にわ9く(○渡)り給10ひつる程に、左大殿よりよ11は密、12瓜、燒米、た13き(○生)海松、水14荗など奉れ給へり。北15方の御許に御文あり、「一日參りたりしかど、出で立ち16たりしたと有りしかば、煩はしさになむ急ぎ、さてみるはた17人の許に18て、

わだつうみの底に入りてぞ求めつる物と見るめをかづき19來ぬらん

と20て見習し給へや。21くい(○燒)米は22をうな(○嫗)の齒23いた24つて惱み殘したる、若人の御許に」とあり。取り寄せて見給へば、いとよき瓜、よき水25荗折櫃に積みて、大きなる甕に、「お26姫君27なお御覽せよ」と書き付けたり。開けて見給へば、白銀の甕どもに練りたる絹28唐綾29など入れて、絲を輪に曲げて、

校異 1一字イニヨリテ補フ。2国をアリ。3異ひ。4因ら給アリ。5イも。6イい。7イのみアリ。8イれ。9異た。10因へ。11国い、因き。12国栗、國イかゝり。13因ま。14國イふとき。15因のアリ。16國しアリ。17五字因考異ナシ。18イとアリ、国しアリ。19因考異なし。20因く。21イや、因ナシ。22イお。23以下四字因は立たで。三字國痛く。24一字國へ。25イ荗、因荗。26因ひアリ。27イナシ。28國イナシ。29國香アリ。

組みて沈の枌につけたり。中納言見給ひて、「あな忝や。煩はしく御心ざし有るを、1枌得給へる」とて奉り給2へ。御返事は、「何事か怪しうなんとて、此の海松は、

伊勢の蜑もみるめをか3へしかづきせば憂きに心は沈まざらまし

焼米は、大かみ(○幽カ、神カ)にこそはなむ。さても大和のには見え侍らずなむ。あなかしこ、いととくやうせ4給へ」と5書かせ給ひて、御使に祿賜ひて奉れ給6ひつ。かくて夜々なほ參うで給ふ。姫君に、「今は御服脱ぎ給7ひてよ。明日なむ吉き日」と申し給へば、「8(人々の脱がせ給はん時にこそ9母君は10宣11へ」と申し給へば)、「12用なき事。形の如くにて、親ありとならば」とて、御車ども御前などして、脱がせ奉り給ふ。歸りおはしたるを見給へば、濃き御衣小袿など著給へ13る御容貌、いと淸らなり。藤壺のやうなる人の、氣少し劣りたるなり。父君いとよき御娘なりと見給ふ。かくて小野へ物せんと思ほす。北14方同じ裝束いと淸らにして奉れ給ふとて、

君にとて縫ひし衣も來ぬ程に涙の色に濃くぞなりぬ15る

御返し、

涙にし濡れ16ける衣の黑ければなほ墨染17といかゞ思はぬ

校異 1イ枌、イ逢ふ期。2イひつ。3イく。4國イと。5國イナシ。6因考異ふ。7イへ。8廿四字イニヨリテ補フ。9因とアリ。10以下二字因ナシ。11因ふ。12因益。13國イり。14因のアリ。15國イぞ。13イぬ。17國イて。

とて、あからさまに小野へおはしぬ。

かくて、春宮は藤壺の參り給はず、御返聞え給はぬ1と思2し嘆きて、院の御方梨壺なども久しうなむ參う上らせ給はず、御局へも渡らせ給はず、つれ〴〵と物も聞し召さず、日に從ひ3く御氣色惡しうなりおはしま4さば、内裏にも、「折しまれ、かゝる頃しも惱み給ふなる事」と聞え給へば、后宮、「何5る、異なる事にもあらじ。暑氣などにや。さてはそゞろなる事を思すにこそあらめ」など聞え給ふ。これかたの藏人召して、御文賜ひて、「これ前々のやう6にならば、さ7うにな參りそ。侍はせじ」と仰せらるれば、いたう歎きて持て參りて奉る。8(かくて例の藏人參れり。「此の頃御返り事言少なに、御心ゆかぬやうにて怪しきを、參りて御氣色賜はれとてなむ。御文も侍る」とて奉る)。見給へば、「度々聞ゆれ9ど、物も宣はせざめれば、いと覺束なく10なむ。人の怪しがり11し騒ぐなむ聞12くにくく、聞えじと思へども、さてのみは有るまじければとて、

諸共に有りてぞ13夜々も惜しまれしかくてはなぞや露の14哀も

いでや小さき人々數多あめれば、そこの御爲めにこそ、命もさらぬ事も、いかでかは心憂からめ。15例世にあらまほしくもあらず」など有り16て賜ひて、例の物も宣はず。藏人、「御返持て參らずば、簡削らんと仰せ

校異 1 **イ**を歟、因を。2 **イ**はアリ。3 **イ**て。4 **イ**せ。5 **イ**か。6 國**イ**ナシ。7 **イ**ら歟、国ら。8 五十六字因ニヨリテ補フ。9 國**イ**ば。10 因てアリ。11 因ナシ。12 **イ**き。13 **イ**世に。14 **イ**命。15 国れば。16 **イ**見給。

られつるものを、1とくにいたはりなさせ給2ひて、とゞめられ侍りなば、いとかひなく」など申す。孫王(そわう)の君3を初めて、兵衞「あこ君を顧みさせ給ふと思ほして、しるしばかり聞え給へ。これがいたづらになりなば、いと悲しう」など集りて申す。君「御返聞えずとて御使を罪し給はゞ、我が爲めにぞあらん。罪し給は4ば喜びと思はむ。5さば6るりだに仰せられたらは、これに勝りたらんしき八〇仕儀カ、識カ」にも申しなしてん」と宣へば、藏人、「いかゞして侍らん。7やがて參らずや侍るべき。參りてかゝる由をや啓し侍るべき」8「たゞ參りて、御返9も聞えず10(と)乳母達(めのとゞ)して申させよ」と宣へば、泣く〳〵參りて、さ啓せさす。宮、これは乳母子(めのとご)とて、いというたくするなの11に。これを解(と)き棄てたらば、これ12え事言ひに文はおこせてんと13思ほして、勘事(かんじ)に据ゑ給14へ。かくて日頃待ちおはしませど、殿の君達15參り給ふに、これにやと16思ほせど、御消息(せうそこ)も聞え給はず。いみじう恐ろしき人の心かな。何により17 18深く怨(ゑん)ずらん。19人々參う上(のぼ)ら20すとにやあらんと思し給ふ。殘りは21次々にあるべしとぞ。

〔識〕 文化十二年七月以本居氏藏書校合畢　豫章園題之

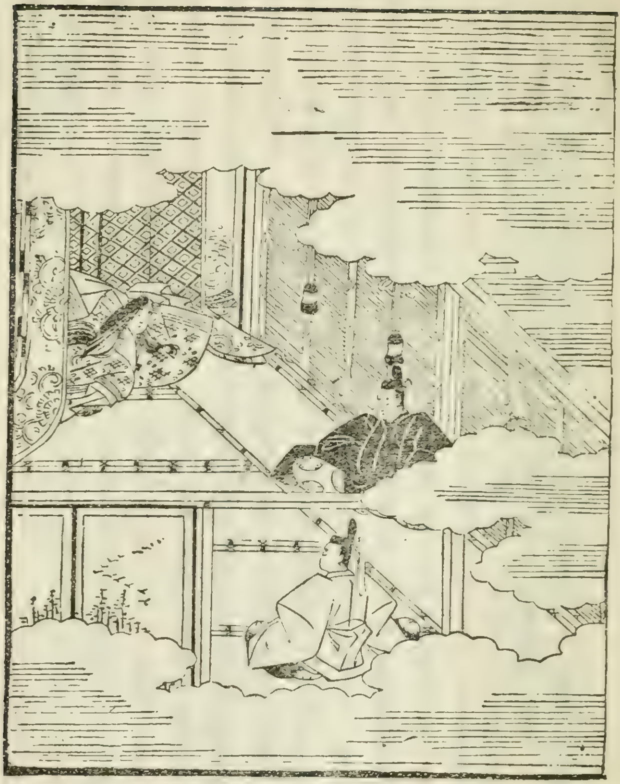
校異 1 国御德。2 国へ。3 異おはし初(そ)。4 イずアリ。5 因考異と同じ樣の事書かせ給へり。旗亭さらば今日はさもやと御心得るばかり御返事聞えじアリ。6 イか。7 因いかで。8 イ上アリ。9 因事アリ。10 一字異ニヨリテ補フ。11 異ぞ。12 イが。13 國イ思(おぼ)。14 イひつ。15 因のアリ。16 國イてアリ。17 異かくアリ。18 イか。19 因考異今は。20 因考異ず。21 國つれ〳〵。

かくて、中宮より太政1大殿2の、その日の夜うさり、「聞ゆべき事なむ有3(る)。大納言宰相諸共に忍びて物し給へ。切なる事聞え4む」とて奉り給5へど、右の大殿にも、「大將諸共に物し給6ふべし」と有り。大臣、「7怖ぢ畏まりて承はりぬ8と、9今10更に思す事11侍らむ」と聞え給12へど、その夜になりて、皆參り給へり。后の宮、御前の人13皆立てさせ給ひて、請じ入れ奉り給14ひて、太政大臣に聞えさせ給ふ。「消息に聞えしやうは、昔より此の筋にかくし15來る事の今違ひて、行く末まで16たゝぬべき事聞えむとてなむ。御國讓の事、此の月になりぬるを、宣ふやうは、同じ日春宮も定めさせむとなんあめる。それを、己等もあるに、一の上にては、そこにこそ物し給へ。又次々かく17やうごとなく物し給ふを、かの筋は、太政大臣のみこそ18は。19太政大臣20の物し給21はずなりぬ。さては皆下臈にてのみこそは。此の筋にしつる事を、一世の源氏の女后になり、22 23子坊に据ゑたる事はな24るなるを、などかこれしもさるべき。宮に女をこれ

校異 1 因大臣。2 イへ、因に。3 一字イニヨリテ補フ。4 國てアリ。5 イふ。6 イへ。7 イ達。8 イナシ。9 因いざ。10 イさらば仰せ言、国侍ひ仰せごと。11 イ侍りけ、国承はりさぶらは、因侍るにさふらは、因考異承はら。12 イひて、国ふて、因ふ、因考異ひて。13 イをアリ。14 国ふ。15 因考異つ。16 イ絶え。17 異さま異、因やんごと。18 國こアリ。19 イ故アリ。20 因考異に。21 因考異へ。22 因その御アリ。23 イナシ。24 イき、因か。

かれ奉り給ひし時は、此の中にさりともとこそ思ひ1知り給ふ年の2覺ゆるまで、さる事のなきを思ひ歎きし程に、3心のまゝなる人出で來て、4二つなく時めきて、子をたゞ生みに生めば、これにこそはあめれ。此の筋の絶えぬべき事、口惜しく思ひつるを、此の梨壺5の、思ひの外に夢のごとし給6う7つるに、かゝる折にこれを坊に8は据ゑなとなん思9ひ、女はよになき物にもあらず、此の御身の10筋を思ほし捨て11つつ、來し方行く先、又此の筋の恥と12ある13を、14をいなる事を15止め給へ」と聞え給へば、太政大臣、と16みに物も宣はず、しばし思ほしためらひて、「忠雅らは、ともかくもいかでか17。臣下と云ふものは、君の若くおはします御心の疎におはします時18みそ19は20つ〔〇侍〕れ、かく明王のことおはします世には、何事をかは定め申21す。たゞ、22御子の23よみにかくなんと思す、いかゞと聞え給はむに、御心に定めさせ給ひて、これをと思さば何の疑ひか侍らん」中宮、「それは、さばかり、此の頃24里なりとてだに、戀ひ悲しび物も參らず、影のごとなり給はぬ人は、まいてかけても聞き給ひなば、いたづら人になり給ひなむものを。人の國にも、大臣公卿定めてこそは萬づの事をもしけれ。これかれ心を一つにて、此の事をかくなむ有るべ

校異 1因しか。2因越。3イすゞろ。4イに。5因ナシ。6イふ。7イべ。8因考異ナシ。9国ふ。10イ耻。11国いい、因で。12因考異な。13以下五字因考異大いなる。14四字イ大いなる、因ば何。15因もアリ。16因考異ばかり。17イ何をか申さむアリ、国はアリ。18イこ鯨、国こ、因考異にこ。19以下二字イ侍。20玉べ。21イさん。22因そこ。23イとみ、国御代、因御心。24イさ。



き。此の筋のむげ1なくばこそ2異筋の変らめ。かくさるべき人を措きては、いかでか3己等もそこにも申さば4、さすがに道理失ひ給はず、賢しくおはする人なれば、心には5飽かず悲し6と思すとも、世を保たむと思ほす御心7あらば、許し給ふやう8あらめ。おのれ一人、かうなむ思ふとは申さじ」大臣「忠雅9は承は10り11す侍りぬべし。公卿大臣定め申し侍り12なん。13近きは女の事なれ14ど、此所にこそは先づかゝる事はしも依りなん。いかなるべき事ぞ。男子ども」と宣へば、宰相大納言、「更に知り給はぬ事なり。上の定めさせ給はむまゝにこそ従ひ侍らめ」大臣「さらば大臣は15皆女16人孫なり。大将は下臈なれど、行く末只今物のかためと17侍り給う18け人なり。その妹婿の上なり。有るべからむごと定め申し給へ。19只麿はせばそれを承はらむ」右20大臣「いとも21尊く、かく思22はし召させ給ひけ23る。24か25の仰せ26承はるは嬉しけれど、こゝに五人侍ふ人は、四人は皆犬に侍り。兼雅も此のあそ27び〔〇朝臣〕侍れば、思ひ28捨つべきにも侍らず。退り居おはしますべき帝の、数多の皇子達の母にて侍ひ給ふも、世を継ぎ給ふべき君の、二つなく思ほして、三所の君も近う侍ひ給ふ。同じ人の女なり。此の御中ども疎なるに29あらず。いかゞ、命

校異　1イにアリ。2國イと。3因とアリ。4イこそアリ、因わそ〔〇和子カ〕はアリ。5イあら。6因考異く。7因考異のアリ。8イもアリ。9因らアリ。10以下二字因らず。11イナシ。12以下五字イ汝らが。13三字因大臣は御。14因ば。15イ御。16因又御孫。17因は撰。18イぶ。19イ忠雅は。20因のアリ。21因尊。22イほ。23因り。24以下二字因考異ナシ、國イ衣。25因く。26イられアリ、因をアリ。27イむ。28國イす。29因もアリ。

を懸け給1ひつるやうなり。此の太政大臣、此の子どもの母罷り隱れて後、此の女御2の同胞持給ひて、又一日一夜3別の所をなむ知り4給は5ず6はざな7り。その8母に子四人9はべなり。10かの大納言の朝臣は、その妹11の12八にあたるをなん持て侍るな13る。それまた子二人。又今日明日にて侍り。14それ去年の15冬、はかなき人に物言ひ觸れて侍16るもとて、罷り去りて、親の許に侍りければ、此の幼きを取り持てなむ、せん方なく17ても侘び給ひけるが、からうじて此の頃なん、あの父など言ひて渡りて侍るな18るこ19中將の朝臣20も、21兼雅が22姉の腹なり。それも子ども侍り。仲忠の朝臣かの家に侍らねど、有る23かなきかの君にしても24とかしづき侍る人25につきて侍り。26此所に限りなく愛しうする女子侍り。またも有るやう27はべなり。かくのごと手を組みたるやうにゆき交り、此の中にいさゝか疎ならず命を限りて侍るに、かかる事をなん相定むると聞き侍りなば、此の女どもをも取り放ちて、帝にもかれこれにも、又相見せ奉るべきにも侍らず。いとよき人なれど、いと急に剛き人になむ侍る。又しか思はん28道理になむ。家の29尊き事は、かやうの折のよう30ゐ(○用意)なりと聞え給へば、中宮、大きに御聲出だし給ひて31ぞ、「仁壽殿の

校異 1 因へ。2 イへ侍り給うび、國イへ侍りたうび。3 國イち。4 國イたら。5 以下二字イナシ。6 以下二字国侍る。7 イる。8 イ腹。9 イ侍る。10 国又此。11 國イとアリ。12 国六。13 因り。14 因こ。15 因今日。16 イり、国りし。17 イナシ。18 国り。19 国宰相。20 因のアリ。21 因考異實政。22 国もて侍るアリ。23 国が中にかの、因が中に。24 国て。25 國イナシ。26 イ子、因考異腹。27 イ侍る。28 異事アリ。29 国尊。30 国い。31 因その、因考異ナシ。

1乳母子ども2ゝ侍3は「〇侍るはカ、侍ればカ」など、すべて此のめのこどもは、いかなる4一日か附きたらむ、附きと附きぬる者は、皆吸ひ付きて、大いなる事の妨げもし5居り6」と宣へば、太政大臣、「7かの大將の朝臣の8聞き侍るに、いと不便なる仰せなりや」と聞え給ふ。「忠雅らは人にも侍らず。9かの朝臣は男だに恥かしく侍るものを」とて打ち笑ひ給へば、皆笑ひぬ。「さぞかし。女なる己等だにこそ、筋の瀬10え11候事は思12ひぬべし。たちは何のなり給へればか、その13子か14 15しとて、かゝる大いなる事の妨げをばなさるゝ。世の中に女はなきか。それに勝りたらむ人をもおのれ奉らん。16近うは己が一人持ち奉りたる17皇子18女皇子19女得給へ。20さりともその21女の子ども22は劣らじ。いとかくつたなくな23いから給ひそ24そも」太政大臣、「なほこれは私事なり。なほ侍る事を。かうなんと申ざるゝなめ25り26と、子を思はぬ人な27 28れど、事の道理の29事なり。か30く31母心32をとなへてなんえ申33(す)まじく侍る。なほ只啓するやうに、皇子の君に、有るべきやうを、宜からむ折、こしらへ聞え給へ34ど、仰せ言にて許し給は35じ、此の

校異 1異めの、因考異女御の。2因考異ら。3因考異る。4イへか、因日、因考異べき。5イたる、因つる。6国たるアリ。7国此。8イ君。9国此。10以下二字イつ。11因む。12イへ主、国ひつ主。13因妻アリ。14イなアリ。15イくゝ16國イらか。17二字因ナシ。18三字イナシ。19因ナシ。20イた。21イめ。22イにアリ。23イ計ひ。24二字ナシ。25以下二字イれど。26因考異ナシ。27国かアリ。28閑けれは。29イ有るアリ。30以下二字因かれば。31イナシ、国は。32因おぞく。33一字イニヨリテ補フ。34国ナシ、因と。35イば。

中1に幸2いに3てこそ侍らめ」后の宮4の「其所達は妻方をのみ5おはして、宮の6二つなく思し7たる
8見て宣ふにこそあめれ。よしや。我9やを世の中の事ども任せて見居らむ」と宣ふ。10左の大臣、「11さて
も此のは12ら（○坊）がねの君をば、まだ御覽ぜぬにやあらん。その君は、もとより天地13へに愛）けられて、
明14わかねと生まれ給へる人なり。彼をきしろひ15押さば、いと惡しからむ。なほかゝる御おもてだて（○表
立カ、面立カ）を見ずと言はれ譏がれ侍りつるに、かゝる事の侍るこそ、恥少し免かれて思16ひ給17つゝれて
18うあらん。人にきしろひていたづらにならむと思ひ給19へず。知20る21るのやうにても、え侍らずのみこ
そ」宮、「あ22るほう23/\と24くなしつ25る。つきて、26男の27端となりて、か28ら物を言はむよな。一人
29してだにかしこき者は。たゞ女の子どものやうにて」と腹立ち給ひて、「その朝にも、宮とても、妻まき
狂をこそし給へ、いと憎げには30思は31せず、32おほたあま33かへ女なれば、表は34ゝけたるにこそあら35
かはざらむ。げに氣色の恐ろしげに、人を殺すべかたむは何36ぞ」太政大臣「さ侍る人なり。更に只人37に
侍らず。氣色有樣いと恐ろしき人に侍り。38かの大將の朝臣39萬づそなた我が男に40添へ侍れど、いとよく

校異 1 囨か。2 囨ひ。3 イナシ。4 イナシ。5 イ思。6 イに。7 以下三字囨考異翻み。8 イと。9 イナシ、囨なほ。10 囨右。11 三字囨ナシ。12 イう。13 二字異ニヨリテ補フ。14 イ玉。15 囨思。16 囨う。17 イへら。18 イぞ。19 イふぞ。20 以下二字異か/\。21 イ/\。22 囨な。23 イナシ、囨し。24 囨考異と。25 囨く、かりき。26 囨男。27 國イはら。28 イく、囨う。29 囨ナシ。30 イお。31 囨考異ナシ。32 一字囨を、三字囨考異はを。33 イかつ、囨がつ。34 國イら。35 イめ。36 イに。37 イと。38 囨此。39 囨こそいまだ若き。40 イぞ、囨は。

人見侍る、人1より」大將「うたて、遊びのやうに申さるゝかな。2たは見侍3(る)に、いとかしこく見え給ふ君4也。かの侍る所に住み給ひし時は、近く侍りし事なり。いと恐ろしく侍5りし」と聞え給へば、后の宮、「さる者しもぞ神佛は6ほしうし7給ひしか8な」と、9實は大臣達、「よき事10聞き侍れど11なん此の中には定め侍らぬ12。なほ申しつるやうに奏せさせ給へ」とて、皆罷出給ひぬ。

かくて日頃有りて、宮に、「聞えさすべき事なんある。渡らせ給へ」とあれば、渡らせ給へり。御物語など聞えさせ給ひて、「からう〳〵なん思ふ。いかに13〳〵有るべきことぞ」と聞え給へば、宮いと御氣色惡しくて、青くなり赤くなり、物も聞え給はず、いと久しく有りて、「昔より誰も、親の仰せ言は、ともあれかうもあれ、否び聞えじと思14ほ15ひ侍れば、否び聞ゆべきには侍らず。此の國ならず大きなる國にも、國16母大臣一つ心にてこそ事を計りけれ。臣下ども、御足末にて、やんごとなく17て物せらるめるを、相定めてともかくもせさせ給ふばかりになん。此所にはた、かの人離れてはいと便なく侍るに、かゝる事侍18(ら)ば、參るべきにも侍らず。さればかの人、幼き者諸共に、生くとも死ぬとも、19諸共に山林にも入りて侍るばかりにこそは。20くらな21そくゐ、返り22て見んと思ふ人の爲めにこそは。23何故には24これをいたづらになしては、

校異 1イな。2イな。3一字イニヨリテ補フ。4イなり。5因考異る。6国法師に。7イにアリ。8以下三字国など宣ふ君。9一字イ君。二字因宣ふ。10イナシ、因に。11イえアリ。12因をアリ。13イナシ　14異ナシ。15因え。16因母。17イナシ。18一字イニヨリテ補フ。19二字因ナシ。20イ位。21イ職、国など、因考異即位。22イナシ。23国にはか、国なほ。24イかにアリ。

よく共侍るべき」とて、涙をこぼして立ち給ひぬ。1宮、「聞えじと思ひつる事を、これらが女方に思2るて、己等は知らず顔にて、さはせむと云ふを、かゝる中らひに離れたる人をば、入れ交ぜんが憎さに、3心に4しか〳〵申せば、かく宣ふなめり。大方は5さ6ばれ、いな」と腹立ちておはす。

【書詞】7此所は后の宮。

かくて又后の宮、右の大殿に、「忍びて、直衣姿に8物し給へ。聞ゆべき事なむ有る」と聞え給へば、その夜参り給へり。宮對9面し給10ひて、「宮に、かの有りし事聞えしかば、ともかうも、あるべからん11様々に12 13此所にはいかでかと有りしかど、氣色なんよくも見えざりし。それ思ふやうは、上に聞えて、同じ日定めさせ給ひて。たゞ太政大臣の御心なり。そこには14彼方15彼方により給はんや16は。位に居給ひぬ17えほしはしにつけなりしはしこそ18思さめ。王昭君を胡の國へ遣り19給へる、楊貴妃を殺させ給へる帝なくやは有りける。太政大臣は女を思ひ給へれば、それにつゝみ給へるにこそあれ。すべきやう20必ずと思ふを、さる心21知り給へれとなん」大臣、「ともかうも御心と定めさせ給は22らんになん。此所には、皆々人23の24人かのそに入り25ふしり〔○交りカ、伏しカ〕て侍れば、心一つに萬づ思ひ給ふとも、力なう侍るべければ、思ひ

【校異】1国后アリ。2イひ。3国宮。4イ知る。5以下二字異騒が。6以下五字国考異云はれむなど。7六字イナシ。8異てアリ。9国面。10国う。11イさま、国やう。12国考異とてアリ。13國イこし。14国彼方。15イ此方。16国考異ナシ。17国すなはち此の事を、国考異ともなほしばしにくゆなりしと。18国はアリ。19三字イナシ。20国なから。21国し。22国ナシ。23国ナシ。24三字イナシ。25国まじ。

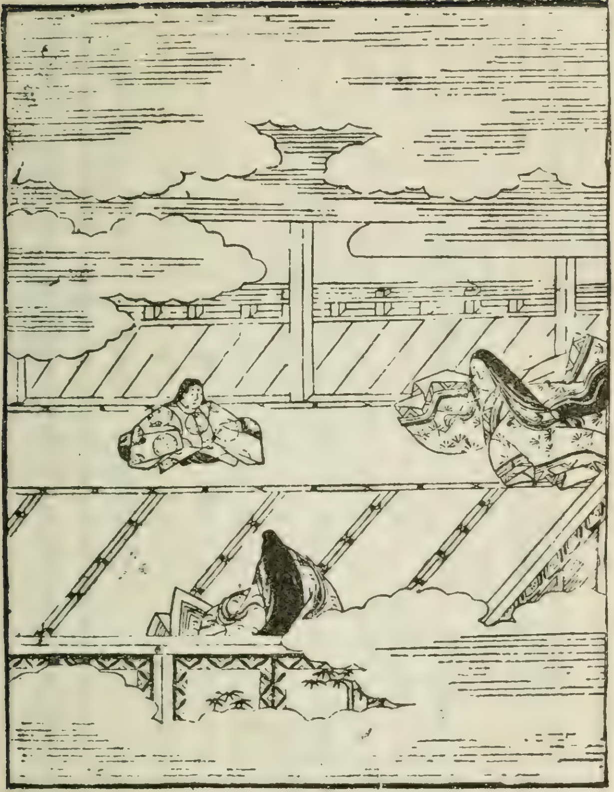
1そけぬなり。たゞ仰せ言になん。萬づの事、仲忠の朝臣に語らひて侍るを、大方の心2寄よりも、又思3る侍るめる筋4はべめれば、よ5そ6も動じ侍らじ」宮「いと7けようの8みこそさこそあなれ。さ不孝ならん者をば子ともな見給ひそかし。さもあらはあれ、それらは一つ心ならずとも有りなん。たゞ一の9鑑だに一つ心ならん」と宣へば、「承はりぬ。10立たせ給はんにたん」とて11任せ給ひぬ。

かゝる程に、上渡らせ給ひたるに、「國譲は、12實に何時程に13侍らむ」上、「此の十14日15よび16半かりになむ」「坊17に同じ日18や19は定めさせ給はぬ」上、「何か、さあらずとも。騒がしきやうなり。のどかにも有りなん」宮「そのよしは、かう〳〵20思ふ事なむ有る。その人なかりし時こそ、あるに隨ひてと思ひしか。かゝる人ありとならば、同じくは21申しける、その腹のをとなん」上思ほすやう22に、宮姫み給23へ24 25なり、それ26もし27おとゝならば、28それをおし、これをもやとこそ思ひ聞え給はめ。29あらぬものから、左の大臣の思はむ事あり。30こゝばくの皇子の祖父にて、かくある事思ひて、女御をも罷出させ給ひて、參らせずばいかゞせんと思ほして、「何か。只今ならでも有りなん。自ら位にあり定まりて、親31のあ32ら

校異1イう、国が。2イばせ。3因ひ。4イ侍る。5イに。6因考異ナシ。7イ不用、国不孝。8因子。9イ上。10因たゞ宣、因考異たゞせさせ給。11イ退出。12因實。13イかアリ。14因餘アリ。15異餘り、因ナシ。16イば。17国も。18因にアリ。19イナシ。20国なんアリ。21四字因ナシ。22イナシ。23国ひつる。24因考異るアリ。25因るが。26一字因ナシ。二字因考異しも。27イ男。28五字イナシ。29イさアリ。30イそく、因そこ。31国と。32因考異るアリ。

ん人の心よろしからんやうに定められん。さしも思はざらん人を子にしたらば、味氣なくさかし1ら2をも。恥かしき人にさも覺えじや」と宣へば、「此の仁壽殿の盗人により宣ふぞかし。ふけう〔○不孝カ〕し奉りて、籠り3おもて、4戀ひ悲しび待ち居て、青蠅のあらんやうに、立ち去りもせでおはすれば、いかに恐ろしく思さる5らむ。6人の由縁をこそ思すらめ」上打ち7はら8さ〔○笑は〕せ給ひて、「何か、さまでも思すや。めづらしき人ならばこそ。神さびにたる子どもの母をば何か。十の君のまだ見ざりつるが有りければ、それ9見にこそ時々渡れ。さて宣ふやうは、彼所に、靜かになりなん時、あるべきやうに語らひ給へ。便あるべからん事を宣はせんには、よも否びられじ。やむごとなき人の皆10御11ある12末にてあ13んめるを、分いても思ふ人の14類と宣へど、世をば左大臣仲忠の朝臣となん政つべき。太政大臣いと15よき人なれども、ざ16へ〔○才〕なむなき。才なき人は世のかためとするになん惡しき。右の大臣は、有樣心もかしこけれども、女に心入れて好いたる所なむつい17 18さるべき人は賴もしげなくなむある。此の二人は、大將の朝臣は更に云ふべきにもあらず。今一人も才19もあり心もいとかしこく20重し。その人伏し籠りて、女ども21 22販り23持24て迷はさんに、人25こなんさ26は〔○騷〕ぐ事あらむ。27よし見給へ」と聞え給へば、「よし聞えだ

〔校異〕1以下二字因考異う。2国ナシ。3国君り。4國イう。5因るアリ。6因さるアリ。7**イ**わ。8**イ**は與し 9因考異をアリ。10**イ**さ。11国足。12國イす人。13因考異ナシ。14國イなん。15国どアリ。16**イ**え。17**イ**たるアリ。18国た。19因考異ナシ。20**イ**をか。21**イ**ねもアリ。22国ねも。23**イ**以下二字みたさで。24因ちアリ。25**イ**〱、国々。26国わ。27**イ**か。



や」など怨じ聞え給ふ。

かくて、御國譲明日になるまで、藤壺藏人1事も申させ給はず。宮からながらあらば、いたづらになりなんと思して、その日勘事許させ2 3て、さて夜うさり4方、異藏人して聞え給ふ、「日頃は、殊に參り給ふやとのみ。年頃契り聞えし事を違へ給ふ5ろめるこそ、

諸共に思ひそめてし紫の雲の6柱を7獨り見よとや」

と聞え給8ひつれば、たゞかくなん、

ながき世を見るべき人は9異なれ10ど他所にのみ聞く雲の11原をば

と聞え給12ひつれば、此の后の宮住ひし事によりてなりけりと思ほして、あな妬や、天下に言ふらむと思す。

十一日に御國譲り給ひて、帝は朱雀院に出で給ふ。仁壽殿の女御御供仕うまつり給ふ。后の宮は内裏におはしませど、藤壺の諸共に見給はぬを夜晝思ほし歎きて、更に人も參う上らせ給はず。異君達は皆參り集ひ給へり。しば13らありて女御14なし給ふ。只今しもなし給ふまじけれども、藤壺を參らせ給はむと思して、急ぎなさせ給ふ。15こ宮16ひにこ17て、18上19大臣殿の一の女御、今の20大殿の二の女御藤壺と21おなし給は

校異 1イのアリ。2因給ひアリ。3イ給ふ。4因つアリ。5イナシ。6イ原。7イもアリ、国ばアリ。8イへ。9国うとけ。10国ば。11國イから。12イへ。13国し。14異にアリ。15以下五字イナシ。一字国四、因四の。以下七字國イ太政。16以下四字国故大きおとゞの、因引き越え。17イ太。18異政、因故太政。19国左アリ。20因太政大臣のと。21イを、国ナシ、因を二の女御と。

おとする時に、后の宮1の聞2へ給ふ、「いかで3か梨壺をばなし給はぬ。さかしき世ならば、これも4坊の親ともたり5たる高き位にもなるべき人なり。かく亂るゝ6おも〔〇折〕なれば、7云ひかく云ふにこそあなれ。必ずなし給へ」と聞え給へば、帝、「二人は8大殿大臣の女なり。これは下﨟にこそ9あら10め。相次いでこそは11。これをしてはいかでか」と聞え給へば、后の宮、「此の12時なしのさがな者を13な14へし給ひそかし」と聞え給へば、「いかでか。これこそある中の上﨟なれ15と。公に世を静め久しう仕うまつりたる人の女なり。そのうちにいと便なく心細き人にこそ此所にだに顧みず16いかゞせむ。なほなして、17牛車を梨壺に許さん」と申し給へば、后の宮、「さも、とざまからざまに、申す事を聞し召さぬかな」と聞え給へと、皆18知り給ひて、梨壺には19牛車を許し給20ふと21する。かくて、22日の宮は承香殿に、故大23臣殿の24宣耀殿、今のは麗景殿25、左の大26殿のはやが27て藤壺、式部卿28 29宮のは登華殿、右の30大殿の31梨壺、32藤中納言殿の君33登華殿に住ませ給ふ。御名も皆しか申す。登華殿34に女御になり給35半す。36た父宮より始め37てまつりて、かゝる恥を見る事と思し嘆きて、参り給はず。38宣耀殿は服にて39(さ)と〔〇里〕に、

校異 1国ナシ。2国え。3國イナシ。4図王。5イナシ、図て。6国をり。7イナシ。8図太政。9以下三字図考異ナシ。10図ざらアリ。11イあらめアリ。12四字イナシ。13国ばアリ。14イな、国ナシ。15図ナシ。16イばアリ。17図輦。18国かし、図し。19国輦。20以下四字図へり。21二字イぞ。22図四。23国る。24図昭陽。25国にアリ。26イ由アリ。27國イにアリ。28図のアリ。29イナシ。30国大臣。31イはアリ〜32国平。33図宣耀。34イは。35イに。36イ故、国ナシ。37イ奉。38図昭陽。39一字異ニヨリテ補フ。

1帝は久し2と3人も參ら上4らせ給はず。

[書詞]5 6國譲の所。

かくて后の宮の思すやう、同じ日坊を据ゑずなりぬれば、今はしにくかりぬべき事、一の人の心だに一つになしてば7ことん8をや〔○親〕に從はざらんやはと思して、彼岸の程によき日を取りて、さるべき事思し設けて、9后10 11大臣に忍びて物せん、院聞し召しても悪し12まゝ宜はじ、右大將をだによき聟にし給へば、これも年もまだ若う、容貌13も心も目易く、世の一の人にもあればなど思ほして、太政大臣に、「聞ゆべき事なんある。今宵此所に忍びて物し給へ」とあり。大臣怪しく、かゝる14程よき日と云ふなる日しも、かうかう宣15へれざ〔い〕坊定めの事にやあらん、煩はしと思して、「畏まりて承はりさぶらひぬ。侍ふべきよし仰せられた16る17は、日頃勞る所侍りて、院にも内裏にも參り侍らぬ。今今日明日18過して、ためらひて參り侍らん」と聞え給へれば、宮口惜しう、いかでかこれ呼び取らむ。天下に思ふ人持たりとも、我が皇女を見奉らむ人は、おろかにはあらじと、御心一つに、人には言はで思ほす。度々聞え給へど參り給はず。かくて、藤壺の御方によろこび聞え給ふとて、これかれ渡り給へり。大宮も19式部卿20宮の御方21も、太政

[校異]1イかと。2イく。3イナシ、国居給ひて。4国せし。5イ帝アリ、国此所はアリ、国此所は御アリ。6四宮イナシ。7イ事、イとてカ、国異人、国子ども。8国お。9以下二字国太政大臣。10イの宮アリ。11イ大臣、国の宮内裏。12イう、国考異く、国考異と。13イナシ。14国ナシ、国事に。15国ひつ。16以下二字国れど。17国をば。18イ過ぐ。19国民。20国のアリ。21イナシ。

大臣、兵部卿の宮、民部卿1殿の北2方3渡り給へり。「必ず、何かはと思へる事なれど、怪しく妨げられつるやうに聞4へ侍るを、かくて5だに」と宣へば、「年頃6は、かしこの國7の8寺事によりて思ひ歎き、心9に害10いたるやうにて、11ふみへも參らず物し給ふこそいと見苦しけれ。子持たるも苦しげなるものにこそ」大宮、「いでや此所にも、此の12御事を、とざまかうざまに思はゞ、おぼろげにやは。ほと／＼13（か）くもえ有るまじきにこそは聞えつれ。又いかなる恥を14も見むとすらんとぞ彼所にも思ひ歎かるめれ」太政大い殿、「その事いと15騒がしかりなんや。一日も后宮16から召す17めりき18や。度々になりぬれど、煩はしとて參り給はずなりにし氣色を、それはかやうの筋なるべし19、20問ひ申せど、更に宣はせね21ど、著くなん」大宮、「かた22ゝ、とざま23／＼にたばかり給ふめり。たゞ此所には大臣をのみ頼み聞えたる。さりとも一つ心になり給はずばとこそ思へ」北24方「25畏きは、26世にもかく27も思し騒ぐが苦しき事とこそ思28ひはれためれ」大宮「いさや、いと怪しき事をぞ人言ひつるや。眞實にやあらむ、大臣を或るやむごとなき所に取り籠めらるべしと29や。それこそいと恐ろしきたばかりなれ」北30方「何所に、いかゞ聞し召しつるぞ

校異 1 **イ**ナシ。2 図のアリ。3 **イ**もアリ。4 国え。5 **イ**とアリ。6 図考異ナシ。7 以下二字図譌りの。8 **イ**守。9 図ナシ。10 国ひ。11 **イ**湯水、図内裏へ。12 **イ**帝。13 一字**イ**ニヨリテ補フ。14 國イナシ。15 國イさか。16 国より。17 国な。18 **イ**ナシ。19 図とアリ。20 **イ**とは。21 **イ**ば。22 **イ**へ、国ぐ。23 **イ**からざま。24 図のアリ。25 図彼所。26 図考異と。27 **イ**ナシ。28 国ナシ。29 **イ**なり。30 図のアリ。

や」「后の宮の姫宮にとかや」北1方胸潰れて、「あな心憂や。さも知らずかし。此所にはさる氣色もなきは、隱さるゝにやあらん。幼き者ども數多侍2(る)に、またも見まほしう3て侍るに、さ4る5名だゝる6ゝめで7たくおはする所に取り籠められなば、顧みもせじ。如何樣にせん」と、氣色惡しうて聞え給へば、「いさや。さぞ言ふなりつる8。たしかなる事にやあらん」北9方「10 11より度々忍びてとぞあるや」宮「朱雀院は一12宮より勝るはなしとぞ思した13なる。それは小さくより思しつきたればにこそ。かの宮更に劣り給はざなる。まだかたなりに14く、いとをかしげにおはすなり。今少し15ねび給はゞ、いとようなり給ふべき人にこそ」北16方「17二18宮思ふやうにおはすなり。いかで見奉る物にもがな。大將こそ羨ましく目覺ましけれと時々宣ふを、19此の宮さやうに聞え給へば、よも惡しと思20るはじや」民部卿殿の、「こ21にも、あの乳母の云ふとて言ひし22はひな23取られたりけり。それはたゞ此の事に24似よりゝ、萬づの事をすとてたば25るなめり」など女御の君と御物語し給ふ。「新中納言の御事は昨夜聞し召した26りや。いとこそをかしかりけ27り。かの三條に昔28の人を迎へおきて、さも知ら29で、己が侍るぞとて率て罷りたりければ、そで君の、

校異1因のアリ。2一字イニヨリテ補フ。3イナシ。4イぞ。5以下七字イな只止めて。6一字国ナシ。7イ立て。8因考異はアリ。9因のアリ。10因彼所アリ。11イ昨夜。12因のアリ。13因考異ナシ。14国て。15國願ひ。16因のアリ。17國此。18因のアリ。19イ二。20イナシ。21国こアリ。22イろ。23イとせ。24因ナシ。25イかアリ。26イるやう。27イれ。28因考異ナシ。29イせアリ。

されど己（おの）が方2々あらぬ者に1思ひなりてあんなるを、己（おのれ）と見なしたりけるは、いとこそ怪しかりけれ。一日なん此所に物せなむ、いとうとく、心にもあらぬやうに3物せられける。小野（をの）へとて歸り給ひけるを、彼所（かしこ）にはいと目出たき者に7とぞせらるなんとておはした4なるが、かの北5方こそいと6(よ)き人なれ。今は親同胞（はらから）のごとして、親も子8る。中納言をばいとうとき者にして、答（いらへ）も昔は聲も聞えざりける人9に、所々（ところ）に物せられ12つれば、いかもさし向ひてある10事こそ〔〇ぞカ〕云ふめる」女御の君、「年11頃いと怪しくて、かの14そで君のよく生（お）15いなり給16ひつるを、いかの中納言對13面（めん）して、なほかくてをとこそ物せしか。睦まじき人のいと17奉ら18せまほしきを」北19方「さなん思ふとあらば、いとよで内裏（うち）に參らせてしがな。今ことのついであらば、彼所に物し20給ふらん」と聞え給ふ。く奉られなむ。朱雀（すざく）院の女御の御許（もと）より、「必ず〳〵有るべき事と思21ふ給22へしかど、うたてきしろ23う人がちなりけるを、かく24物し給ふをなん。今一つの事を、内裏（うち）の御用意にこそは」と聞え給へり。御返、「承はりぬ。宣はせたる事は、もし參る事あらば、徒歩（かち）走りの苦しかりしをのみなん。さて物たばかり25は、そがいと樣々なら。

校異1 因生（お）。2 因を。3 因てアリ。4 イナシ。5 因のアリ。6 一字異ニヨリテ補フ。7 イこそ。8 イれ。9 國は。10 イと。11 國イてこアリ。12 因たりアリ、國イなりアリ。13 因面（う）。14 國イせ。15 国ひ。16 因へ。17 因考異どアリ。18 国ナシ。19 因のアリ。20 イ侍。21 因う。22 國イふアリ。23 因ふ。24 イさかしら。25 イいかでか。

るを、1味氣なく人の御爲めにさ2へあ3へ4りなるをぞ思5る嘆く」と聞え給ふ。藤大納言殿の北6方は、たちぬる月の晦日にこそ「〇ぞカ」子生み給へる。まだ7先立ち給8ふは9給ふと御使して聞え給ふ。源中納言殿より、「參り10にても聞えさすべけれども、此所に日頃惱まるゝ11に、陽へ讓る人もなくてなん。いとも嬉しく、いつしかと待ち聞えしやうにおはしますなるを、內侍の督の殿達などには物や遣はすべき。さらば宣12(は)せよ。此所に物し侍らん」と聞え給13ふなり。御返事、「承はりぬ。惱み給14はんは、いかやうなるにか。さらに承はらざりけり。待ち給ひける事は、時過ぎたるやうにて15は。乳母達は、いさやさする物にやあらん。今さらば聞えん」と聞16き給ふ。一17宮より、「日頃淺ましく、頭もたげられず18ありて、え聞えざりつる程に、思ふにもしるき御喜あなるをなん。これはさるものにて、かの事をなん念じ聞ゆる。此所にあめる者19い、怪しき事あなるを、更に知り侍らぬを、もし誰20をも思ほしやうとなら21んとぞいとほしがり聞ゆる」とぞ聞え給へる。御返、「日頃は惱ませ給ふなるに、自ら22は參23りべけれど、えさも侍らぬをなん。思ほしける事24を、いでや、此の頃の花櫻ばかりにこそ思25ふ給へらるゝ。26陽はせたる人の御

校異 1イ明らけ。2國え。3以下二字因べか。4二字イるめ。5イひ。6因のアリ。7因さは。8以下五字因はねば、因考異はねど。9以下二字イナシ。10イ參うで、因ナシ。11イ見給へカ、因見給へ。12一字国ニヨリテ補フ。13イへ。14因ふ。15イナシ。16イえ。17因のアリ。18三字イナシ。19イは。20因もアリ。21異はアリ。22イナシ。23イる。24因は。25因う。26因宣。

消息は、さる御心1な2からんこそ鮮みたるやうには。かく宣はせたるをなん賴もしう3は」4聞え給ふ。〔〇以下繪詞カ〕5左大6辨殿の7北8方〔〇以上繪詞カ〕、かくて後は思ほし9う心して、親同胞にも聞え給はず、夜晝思し嘆きて泣き給ひつゝ、よき事もあしき事も知らぬやうにて10經給へば、11聞え給はず。大臣は此の君をぞ12私物にてらうたくし給へど、心もゆかずのみおはす。兵部卿13は14心15ずみし給16ひて後、まだ藤壺に對17面し給はざりつれば、「年頃の御物語聞え給18ふ」とて、切に止め聞え給へ19ど、また渡り給はず。かくて御方々も、大宮男君達も皆おはす。御裝束ども20は給一襲、御小袿ども、さまぐ\にいと淸らなり。夜うさりになりて、太政大臣殿より御迎へ參り給21ふれど、「今宵は此所になむ」と聞え給へば、大臣例ならず怪しと思して、おはしたり。北22方、「23はと狹うて、これかれ物し給へば、更に對24面すべき所もなし。歸らせ給25ひ26ぬ。今一日二日ばかり有りて、其方にを」と聞え給へば、大臣「怪しう例ならず宣へば、聞き習はぬ心地なむ驚きながら27なん。などかう28は遙け29げには宣30ひつる。たゞ此所もとに31出で給へ」と聞え給ふ。大宮、「なほ對32面し給へ33かし、此の御過失やある」と聞え給へば、「かゝる事の有り

校異　1国のアリ。2イナシ。3国と。4図とアリ。5国此所はアリ。6国臣。7国御。8図のアリ。9イ倦じ。10四字イナシ。11イえアリ。12イ私鍬、国私。13国のアリ、図の宮のアリ。14以下三字国外住。15二字イ過へ。16図う。17図面。18図へ。19図ば。20図考異ナシ。21イへ。22図のアリ。23イい。24図面。25以下三字国はねば。26一字イね。27イナシ。28イナシ。29イく、図くて、國くに。30図へ。31国ゐて。32図面。33国彼所に。

けるを知ら1ざりけるが憎ければぞや。あぢ2さな3」と聞え給ふ。鶯子に御4座參りて、左衞門督の君宰相中將左大辨など侍り給ひて、おはしますべき所に、これかれ物せらるべければとて据ゑ奉れり。御前に此方の御腹の君達皆おはする程に、后の宮は、此の事をいかで5思して、姫君を玉の如く6つくろひ磨き奉り給7ふべし。天8上の吉祥天女9持たる者の夷なりとも、我が宮をばと思しつゝ、度々御消息を聞え給へど、かく病申しをの10こし11つゝ參り給はぬを、我まことの12天ちに受けられたる國の親ならば、しはづさじと思して、昔若小君を求めし中將の母北13方の兄、宰相になりて若くて亡せにける子の小さかりけるを取りて養はせ給ひける、今は宮の權の太夫になして、いとやんごとなき者にし給ふ人、いとかし14から萬づ正しう、おほやけ人なり、おほき大殿も同じ御親族にて、馴れ仕15うまつる人にて、御文を書きて取らせとて、宣ふやう、「これ人に持たせで、懷中に入れて、太政大臣の御許に持て行きて、人す16た〔〇傳〕ならで、御手に確かに奉れ。惱み給ふと17てあるは、眞言か空言18る、確かに案内して言へ」と宣ふ。畏まり19賜はりて持て參るに、此の南の御門に、大殿の御車御前など北に立てり。此所におはするなるべしと思ひて、20表入り見れば、大臣これかれ21しておはす。宮の亮消息申させて、たゞ22申して、參うでて、御階のもとに侍るを、

校異 1国せアリ。2イき。3イやアリ。4イ座。5イとアリ。6図にアリ。7イへか。8イ下。9イをアリ。10イみ。11図考異て。12イ天地、図天地。13図のアリ。14イこっ。15図ナシ。16イて。17イナシ。18国か。19国承。20イ下りて。21イナシ。22イ參うでに。

とく見付け給ひて、何事ならん、これに見えぬる事、患ふよし申したるものをと思して、物も宣はず、御簾の内に集まりて立ち騒ぎ給ふ。左衛門督の君、「宮の大夫の朝臣侍り」と申し給へば、「何事によりてぞ」と問はせ給ふ。「宮の御使1いに侍2いつるなり。これ目の當にて參らせよと侍りつる3てたしの侍りつれば」とて、懷中より、陸奥紙にてある文を、藏人の少將の君して奉らす。御簾の内には、「さ4はれよ」とて集まりてまどひ給ふ。北5方は青草の色になりて、「今宵呼びもて去なむずるにこそあめれ」と涙を流して伏し轉び給ふ6事、人々7いとほしと8覺ゆ。大臣は胸潰れて、開けて見給へば、「切なる事有りて、度々物し給9ひつれと聞ゆれど、惱ましげにてとのみあるを、さしもおはせぬ樣に承はるは、おこたり給ひけるにや。たゞあからさまに、立ちながら物し給へ。かう數にもあらず、人侮られなる身にはあれども、昔の人々10に、世にあらん限りは、思し11からん事聞え合はせてあれとこそ宣ひしか。萬づの愁はしからん事をも、誰にか12聞えんとてこそ、必ず」13書き給へり。見給ひて、夢にも此の事とは思さで、此の春宮定の事にこそあらめ、かう御消息などあるに、思ほしうとみて、いとゞ相見14て給はじと思して、15いとほしく思ほす。内に16も、かゝる事を知り給へれは、17限りぞと思ほして、北18方19はうつぶし20て泣き給ふ。大臣「畏まりて承りぬ。日頃は亂21れ足の氣にや侍らん、更に踏み立てられ侍らず、立ち動きもし侍らぬを、年頃相か22ゝりみ

校異 1国ひ。2イひ。3イくだ。4図れば。5図のアリ。6国異。7図はアリ。8国思す、國イ太政。9イへ、国へれ。10図ハ、図考異も、図考異ナシ。11国寄。12イはアリ。13イとアリ。14イえ。15イいとアリ。16図は。17國イき。18図のアリ。19國イナシ。20イ伏しアリ。21図り。22イへ。

侍りつる者の、親の許に參うで來て、にはかに惑ひ侍りて、いと怪しくなんと告げ參うで來つれば、空しくもこそなり侍れ、見給へざらむやはとて、亂り車ながら罷り下1もてなん。昔の事どもは、何か仰せらるゝ。萬づの事、いかでとのみこそ。少しも踏み立てられ侍らば參り侍らん」とて、押し包みて奉り給ひつ。宮2、亮が御許へ參りて奉るを御覽じて、「いづくにいかやうにて會ひつる」と問はせ給へば、「左大臣の家3の藤壺の女御の物し給ふ方に、公卿達數多これかれ4してなん物し給5へる」宮、「心地病むとあるは、さあるにや」「詳しう6はえ見奉らず。車は門の外に立ちて侍りつ。簀子に異なる事もなげにてこそ」など聞ゆれば、宮、なほ聞かじと思ふためり。負けじ。足病むといふは、蟄 の宣旨を申し下さむなど7思ふ。大臣なほ簀子におはす。夜の更け行くまゝに、八月十七日ばかりの月のやう/\高くなり、御前の遣水前栽樣々に面白く、蟲の音も哀に、風も涼しきまゝに、北8方、かくて後、我が心とこそ親の御許などにおはして、他所なる折もあれ、恐ろしき所に取り籠められなば、如何樣にせんなど思し嘆く。異人々も母屋の9御簾のもとに集まり、おはする所のいと近ければ、大臣10の宣ふ、「今參りたらん童べのやうに、御簾の外に侍はせ給ひて、內にこれかれ御覽ずるこそはしたなけれ。例ならずかゝるは、內裏の御11事の御もてなしにやあらん」など聞え給へど、出で給はず。夜一夜おはすれば、君達え立ち給はず。曉に大臣歸り給ふとて、御消息有り。「萬づ

校異 1イり。2国のアリ。3イナシ。4イナシ。5イひつ。6イナシ。7因宣。8因のアリ。9因隅。10イナシ。11国方。

怪しく習はぬ心地こそよき者の品1かや。

〆 世の中はかゝるものともしら露のおき2いて消ゆる今朝ぞ知りぬる

老の學問をなどなん。只今渡らせ給ひ3ぬとて、御迎へに奉る」と有り。北4方御返りも聞え給はず、御消息もなければ、御迎への人は5一日立ち暮らして、歸り參りて、「とりもかくも仰せられず」と申せば、怪しと思す。此の御腹の君達四所、十一なるを兄にて、四五なるおはす。七におはする女君ぞ父母いみじうかなしうし給ふ。女はそれが限り7。かゝる程に、御即位廿三日あるべしとのゝしる。帝はかゝる事を何とも思さで、たゞ藤壺の參り給はぬを夜晝思し歎8くと、御使も久しう奉り給はず、9后の宮10聞え給ひし事をのみ11心心憂しと思しつゝ、御つれ〴〵とながめおはしませば、御乳母達命婦藏人などは「かゝるものの初に、面白く興ある事をこそ。かく物をのみ思はし歎き、日々に御容貌の衰へおはしますこと」など言ふ。12女御更衣達參り集まりて、「身の甲斐なくて、とてもかくても珍らしからぬ世なりや」など云ふ。かくて御即位になりぬ。上達部皆參り給ふに、太政大臣暇文出だして參り給はず。御心もゆ13きかず、萬づの事諸共にと思しゝ人に見せぬ14事と思せど、これかれぞゝのかし聞え給へば出で給ひぬ。15舍の事なりぬれば、上達部陣にて宣ふ、「太政大16將殿の、かゝる大事に參り給はぬかな。暇文出だし給17へれ18ば、殊に

校註 1イり、因な、國も。2イゐ。3イね。4因のアリ。5異日アリ。6國イナシ。7国なりアリ。8イけど興、因けど。9因后。10因のアリ。11イナシ、国御。12三十九字因ナシ。13イナシ。14國如く。15国例。16一字イナシ、二字国大臣。17異ひつ。18因ど。

悩み給ふ事もなかなるものを」と宣へば、又異人、「かの北1●の2親の許に籠り居給3●、4●なれば、小さかりし子どもの騒ぐなるをこそもてあつかひて物し給ふなれ」と、右5大殿右大將、此の事6聞えの出で來たるにこそあめれ、さは思ひし事ぞやなど心の中に思ほす。大將藤大納言などは、太政大臣をだにかくし奉り給へば、ましていかにたど思はしつ7●、かくて冠位賜ひ8●に、皆人加階し給ふ。大殿右大9●將二位になり給ふ。東宮の亮四位階越えて、學士の右大辨三位になる。家あ10●しの衞門の11●尉かうぶり得給ふ。女かうぶりに女御更衣皆か12みぶり賜13●●はりぬ。乳母達加階す。藏14人達かうぶり得な15らす。かくて晦日に、司召の頃、右衞門督兼けたる宰相なくなりにければ、宰相には右大辨季英、右大將按察使兼け給ふ。右衞門督に兵部の16●●大輔、「いと17●離くなり給へり」と世に言ふ。兵部の18●●大輔19あ20さ(〇顯)純、右大辨21●に東宮22●亮、これ23●●はたの藏人右衞門の24●督になりぬ。

かくて太政大25●殿の北の方26●東宮の御許に渡り給ひて、大臣の御消息はあれど、御返りも聞え給はず、眞實に物し給へど、對27●面し給はず。宮も大臣も、「味氣なし。28●●●はら人にもあらず、心の變り給はむにだに、身一つにもあらず、子どもも數多あり、かく物し給ふめれば、忘れ果てしとこそ思はめ。かく宣ふめるを對29●面し

校異 1国方。2因方アリ。3因考異ふ。4イナシ。5国のアリ。6国のアリ。7イナシ。8イナシ。9因駢。10因こ。11因尉。12イう。13イひ。14イ人。15因ど。16国大輔。17因考異いた。18国大輔。19国にアリ。20因き。21イナシ。22國イ佐。23一字イか。二字国こそ。24イ尉、国尉、因尉。25因臣。26国大。27因面。28以下二字イナシ、三字国童べ。29因面。

給へ」と聞え給へば、北1方、「何か普う人に知ら2ぬ先に、彼所にもかう宣ふ程に、己が心と去り侍3りな●んとなん。これかれ見習ひ4もあるものを、己しも、かしこき心に忘れじとなん。たゞつきたりし乳母なくて懐中にのみ習ひたる子の、求め泣くなれば、らうたさに、とざまか5らざまにたばかりて迎ふれど、許されぬをのみなむいと悲しくは」とて、物も聞え給6(は)ねば、大臣7、かくや8らん9●ことなき折にも参り給はず、君達をのみもて煩ひ給ひつゝ、姫君をば北10方のいとかなしうし給ひしかば、これ見にはさりとも渡り給ひなんと思しつゝ、日を11放ち給はず、守らへておはする。右の大殿の聞き給ひて、さ思ひし事ぞや、后の宮にも、し12●か聞えて13●きかしと思す。右大將、我もかゝる日をやと思し怖ぢて、歩きもし給はず、夜晝添ひ14〱、●御消息あれば15●参●で、人の参り罷出16す17、車の音すれば尋ね問はせ給ひて、心ゆ18かびなく思す。

かくて朱雀院には、異人々又参らせ給はず、仁壽殿の女御のみ出で給ひし御供に仕うまつり給ひて侍ひ給へば、上、「今はかく中宮も内裏19●にのみこそは。異人々は参りもせじ。其所にのみ20●は添ひて、御子達21●は數多あれば、賭22△さじき者には。凡人のやうに、子ども前に据ゑてつい23立ちてあらんと思24●ふなん」とて、

校異 1図のアリ。2イれアリ。3イる。4図てアリ。5国う。6一字国ニヨリテ補フ。7図はアリ。8図ナシ。9図ご。10図のアリ。11図考異ばアリ。12イナシ。13イナシ。14イて、図居て。15イ参りて、図まつりて、図イ参で。16イなどアリ。17イればアリ、国るアリ。18イる。19図ナシ。20図ナシ。21図考異ナシ。22イま。23イにアリ。24イひ。

御局廣く造りしつらはせ給ひて、殿上人上達部も、さりぬべき御前に1さし、車どもなどして、「女御達一の宮も參り給へ」とて、2立ち參らせ3つれば、大將、「此の頃いたく害はれ4給ひにためり。さあら5ざらん時、殊更にも參らせ奉らん」とて留め奉らせ給6ひつ。7ことは參り給ひぬ。上見奉り給ひて、「一の宮をこそことなしと思ひしか。これも怪しうはあらざりけり。琵琶箏の琴の上手もがな。8皇子達の9料にせん」と宣ふ10。男皇子達も皆同じ所にて、夜晝御遊びせさせ給ひておはします。御妻持給へるは、夜は罷出給ふ。彈正の宮は夜晝侍ひ給へば、上「などか此の宮達の見る限り罷出ぬは。里もなき、ようする人のなきか」と申し給へば、女御、「これかれさ物する人侍れど、いかなるにか、かく獨りのみぞ」と聞え給へば、「もし藤壺をや、月見るやうに思ひけん。實忠の11卿こそさやうに聞きしか。それだに今はさもなかなるものを」「それ山里に侍るまゝに侍ひしとて、喜びに12さて來たりけるを、言ひこしらへ侍13り。それは時々京に通ひ參うで來けるを、民部卿の言ひたばかりて侍りけるにこそ」上「怪しみ思ひしは、こしらへられ14にたりけるにこそ15は。心さ16へこそあらまほしう。かの朝臣は山籠りこそあいなかりしか」女御「いでやいとさ17は18わひ〔○幸〕なく侍りける人にこそ。若君19のまだ生まれ給はず、さる氣色侍りける夜、思ふやうにてあ

校異 1因おは。2以下五字国御消息あり。二字因呼び。3因給へ。4イ遠。5國イナシ。6国ふ。7国此の宮、因二の宮は。8イ此のアリ。9イのう。10イにアリ。11国朝臣。12イ參うで、因考異參で。13國る。14因ナシ。15イナシ。16國え、17国い。18イは。19國やアリ。

らば、必ずしかせんと宣はせければ、親もこれかれも、さ思ひて侍りけるを、かゝる折節にもかくやんごとなく妨げ給1(ふ)人の出で給ふめれば、父母、今まで世に侍りて、かゝる恥を見るこ2そと伏し沈みて、湯水も3足らず思ひ歎き侍4れば、親を歎かするにまさる幸ひなき事は、何所にか」と聞え給へば、5こゝ( )上」に「よにさ6きれらば違へられじ。7我等が心には似ず、8た9る所し給ふ人の御心なれば、ある10所か11ゝると聞えしかど、12あるまじき13事14 15こそ物せしや」と宣ひて、夜冀物し給ふ。

[畫詞]こゝは16(仁)壽殿の女御の御方。

后の宮聞し召して、思ふやうに子ども引き率て、我が儘にはた口ざ17しましやと思して、右の大殿に御消息奉り給ふ。「對面聞えまほしけれど、これも煩はしくし給へばなん物し給へと聞えぬ。太政大臣に聞ゆべき事有りて、度々物し給へと聞ゆれど、惱む事有りてなど聞ゆれど、さしもあらぬやうに。かの事はいかゞ思しなりぬる。そこにもや昔の懸想人の心つゝまし18なんとて、永き世の喜びと有るべき事をもせじと19は思すらん。此所には萬づに思へど、人に20會ひ21つゝ言ひ語らふべきにもあらず。かの人にも會ひ22給ひつゝ、よく言ひ語らひ給は23じさりともなむ。大将そこにやむごとなく思さむ事を、何か妨げむ。さらば子ともなた。

[校異]1一字イニヨリテ補フ。2イと。3イ絶え、異絶えて、国絶ちて。4イるなアリ。5イ上。6イ契られた。7イそ。8イさ。9國イか。10因ぞ。11因し。12イ淺まし。13以下三字イ如く。14因とアリ。15二字因考異と、國とぞ。16一字イニヨリテ補フ。17イナシ。18因くアリ。19因考異ナシ。20因考異もアリ。21因て。22國イつゝ云ひ語らふべきにもあらずかの人にもあひアリ。23イば。

見給ひそかし。天下にかしこき身なりとも、親の見給はざらん1にはいと惡しからんは。2夜語。3翁を語らひてこそ事はな4どし5けれ。五人の心を一つにて、昔よりかうなんある。此の事許されずば、山林に交りて公にも仕うまつらじ。何を勇にてかと申されば、さりともえ否び給はじ。此の事に叶はざらん人をば、かく數ならず思はれたりとならば、此の世にもあの世にも深くつらしと思はん」と有り。大臣、大將をたゞ見そ、と宣ひつるに驚きて、坊をば据ゑず6ば7据ゑず、大將の躁にはいか8ど思はん、かく宣ふが恐ろしく畏9（こ）き事と思して御返事、「畏まりて承はりぬ。仰せられたる事、世にいかで10と思ひ給ふれど、相叶ふ人の侍らぬになん。今方々宣ひ語ら11いて聞えさせん」と聞え給ひて、大將の御許に、「宮よりかくなん」とて奉り給へれば、見給ひて、人にも見せで隱しつ。

一畫詞12此所13は14へ右大將殿。

〔○以下底繪詞ノ中トス〕宮の御方、右近の15小君といふ人、御前にて聞ゆるやう、「宮の亮大臣にて、思ふやうにておはしまさば、罷るらんと申す人侍る」宮、「あな聞きにくゝ16 17と、心遣へなり」と宣ふ。人々多く參り集へり。人の奉りたる物いと多かり。此所18にて宮乳母達などして遊び給へり。殿19の內、引きかへ

校異1底子。2イ四人。3底のアリ。4底ナシ。5底にアリ。6以下四字イナシ、底とも。7三字底考異ナシ。8イに。9一字異ニヨリテ補フ。10イかアリ。11底ひ。12以下八字イナシ。13以下二字イへは、國侍る。14一字底ナシ。15底ナシ。16底いアリ。17底考異ナシ。18底は。19底ナシ、國イし。

たるやうに、人多く參り集ひて、市のごとのゝしる。〔○以上圀繪詞トス〕
1かくて內裏より初め、世界にのゝしりて云ふやうには、「梨壺の御腹のなん居給ふべき。后の宮夜晝泣く
泣く聞え給へば、帝さ思しなり2とた3んなり。大臣達は知らぬやうにて、皆4心を一つにてなん物し給ふ
5也」と言ひのゝしる。6右の大臣は、御婿達を辛しと思す。御婿達、かく言ふ事を、いかに思すらん、夢
にても知らねどなど互に思せど、誰7々も物も8（き）こ〔○開〕9へ給はず。女御の君に付き奉りつゝ、物
望みせし人々、一人目に見えず、若宮の御方に參り集10いし人々もま11つ〔○參〕らねば、引きかへたるやう
に、いとしめやかにながめおはします。內裏よりも久しく御消息も見えねば、大臣、此の事實に定まりなば、
またの日法師になりなん、な12せら13にか世に14經交15るべきと思し嘆きて、君達も皆集ひて萬づにこしら
へ給へど、思はし慰むべくもあらず。藤壺は萬づに思ほ16すと物も宣はず、帝の御心17をあやまり18にたれ
ばこそ19は、人20はかゝは21言ふらめ、かく言ふも22品々御返し聞えか23、立ち返り賜ひし御使も見え24ぬ
はいかなるにかあらむ、此の事はげにくさなり25て、大臣も宣ふやうに26 27給はゞ、我も尼になりなん、
何か世に交らんと思はす。宮達28見奉りておはす。若宮は何心もなくて、遊び歩き給29ひ、かく云ふ程に、

校異 1廿三字イナシ。2イに。3圀ナシ。4國も心、國もを。5イなる。6国左。7圀もアリ。8一字イニ
ヨリテ補フ。9国え。10異で。11イゐ。12圀でふ。13圀考異事アリ。14圀ナシ。15イらふ。16国せど
も、圀せど。17圀ナシ。18イナシ。19イナシ。20圀も。21國笑。22イしるく。23圀どアリ。24国ねば。
25イと。26国なりアリ。27イ宣。28イをアリ。29イふ。

十月になりぬ。大將宮に聞え給ふ、「世に人の云ふなる事は、此所にも知りて侍らんやうに聞き給へらんがいとほしき事。自ら御覽ずらん。御即位に參りて侍りしまゝに、院のかく旅におはしますだに參らず、三條にも罷らで侍るは、知り侍らぬよしを一所に御覽じてば、罪に1は當て給はじとてなん。太政大臣の獨り月頃思し歎くなるを、人の御上とも承はらず。此所には見2(た)ま(〇給)へ煩ふべき人數多も侍らねど、一所の御心を思3る給ふるも恐ろしくなん」宮、「それは人のし給ふにもあらざなり。對面し給はぬをこそ、誰4々も宣はすなれど、聞5きやうありとて、正身こそ對6面賜はざ7んめれ、此所にはさやうにたばか8ら9な10らも、しはてられむやうをこそ見侍らめ」大11納言、「何事をいかやう12になる筋に」宮、「皆集はれてこそ定められけれ。知らず顏にも」大將、「すべて此の事な宣ひそ。更に知り侍らず。さるは去年より、水の13お(〇尾)14山罷り訪ひに罷らんと言ひ契りて侍るを、花盛りにもとかく障りて物せずなりにしを、此の頃紅葉の散らぬ先にとて罷り出で15たなるを、一二日侍らざらん程の後めたければなん。さあらん程16、あからさまに渡り給へ17ど、夢渡らせ給ふな。罷り歩きて參うで來るに、此方におはしまさぬ時は、いと便なく佗びしくなむ。なほさ聞ゆる心あり。歸り參18で來なん、待たせ給へ」と聞え給へば、宮、「何地か。苦

校異 1 イも。2 一字国ニヨリテ補フ。3 イひ。4 イもアリ。5 国く。6 国面。7 国ナシ。8 国り、国ナシ。9 以下二字イると。10 国ど。11 国將。12 イナシ、国な。13 国を。14 国のアリ。15 国立つ。16 イとアリ、国はアリ。17 国とありとも。18 イうアリ。

しくのみあれば、臥し起きも心安くてこそ。日頃はこれかれ物し給はねば、人少なにてさう〴〵しき1●をのみなん」大將「それさぞ實におはしますめる。此の東の對に侍る人を、召し上げて侍はせ給へ。琴などいとよう彈きて、樣々にせぬわ2せな3●り、よき人なり。心なども4●よげに侍るめり」宮「恥かしげに、かくいと異樣成5(る)6しも、いかでか」大將7●に8●か9、「いと恥かし10き●11侍らぬ人なめり」とて、參う上らせ給へば、いと目易く裝束きて上り給へり。容貌もいとおとな〳〵しう淸げなり。宮御琴賜ひつゝ彈かせ給ふ。いと面白く彈き、樣々にいとらう〳〵じく、をかしき人得つと思はす、按察使の君と12云ふ。大將殿13●の宣ふ、「水の尾へ罷るなり。14●御消息やある」按察15ゝ(〇使)にかく現はれて侍りとて、恥ぢ侍16●なるものを」と聞ゆれば、大將17●に、「世にさもあらじ18。19●いとよく褒め聞え20●●とす」と宣21●●ひぬ。22宮をかしげにて、一人立ちし歩み始め給ふ程なり。父君23●奉り給ひて、「此所にかく睦まじくなし奉るは、此の子によりてなり。火水に入れども、宮は見も入れ給はず、乳母どもの限りは、後めたければなん。侍らざらむ程に、出だし給ふな」いとあわたゞしくて出でつゝ人に見ゆれば、見苦しくなむ。上局などして、かくて物し給へ」と宣ひ置く。宮に、「今いととく參うで來なん。聞えさするやうにを」とて出で給ひ、そこにて24●それかれ

校異 1イナシ。2イざ。3イう。4イ滿。5一字イニヨリテ補フ。6イ心アリ、因頃アリ、因考異折アリ。7以下二字国さは、一字因何。8イは。9因はアリ。10イく、異う。11因考異樣アリ。12因考異なむアリ。13イナシ、因按察使に。14イナシ。15イち。16因ナシ。17因殿、因考異ナシ。18イかしアリ。19国かし。20イなどす、国などする、因つ。21国ふ。22国犬アリ。23イ見アリ。24因こ。一

待ちつけ給ふ。山籠りに取らせ給ふべき物とて、御衣櫃一かけ1●に、櫃一かけ持たせ給ふ。ほそを2と云ふ3持たせ給へり。御供には御前六人、御馬添六人、御前二人は四位、二人4五位、二人5やんごとなき官ある六位、御随身四人、雑色六人、装束白きろう〔〇不詳〕の指貫、青露草してらう摺〔〇亂摺カ〕に摺りて、白き綾の袿、白馬、御供の人より初めて、様々の白青6●●●ほん〳〵に著たり。中納言は赤色の織物の襖、鈍7の指貫、綾掻練の袿、赤馬、御前二人は劣れり。8●山もり9と云ふ琴持10給へり。右大辨11青鈍12襖、共13●たい〔〇他はカ〕皆同じ色の襖、御馬添四人、せい〔〇制カ〕ありて、學生と14●む御前四人、秀才二人、進士二人。●御供の人皆大學の15●衆の下﨟な16●る。17●藤の中將は青色の襖、18白の指貫、薄色の綾の袿、19 20●と21●ん〔〇供〕の人22●かくの如23●く、琵琶持たせたり。雅樂24●の25●頭欄の頭琴持たせたり。右馬助ち26ろ〔〇近〕正は和琴、左衛門の非違のぞ27く〔〇尉〕時正笛持たせたり。これかれ装束は心に任せたり28●し。萱四人法師四人童子六人、これも皆29●えう装束30●皆調へたり。此人々の御31●と32●ん〔〇供〕に、かゝる物の上手の限りおはし集ひて33●●●樂權探し給ふべしとて、人の數少く擇らるとて、我も〳〵見聞かんと思ひて、雑色はやむごとなき

校異 1 図長。2 図風アリ。3 国琴アリ。4 国はアリ。5 イはアリ。6 国品々、國たん〳〵。7 図色アリ。8 国宿。9 図風アリ。10 イたせアリ。11 イはアリ。12 国はアリ。13 図外も。14 国も。15 図衆。16 イり。17 国良。18 イ青アリ。19 図御アリ。20 以下二字イ伴。21 国も。22 図前。23 イし。24 以下二字図ナシ。25 イナシ。26 イか。27 イう。28 イ律師。29 図よ。30 イナシ。31 以下二字イ伴、イ覽。32 国も。33 図逍遥。

侍の人ぞ出で立つ。御衣櫃割籠持には侍1出で2、かくて二條の院に集まりて、そこに饗などして出で立ち給ふ。大宮の大路より北樣に上り給ふ程、車どもいみじく立て續け見る。3內人もいと多かり、忍びてやむごとなき人ども、4なほかゝる中にも、大將はいとこよなう淸げなり。山路まで御送りの人いと多かり。到り著き給ひて、麓より「迎へに5も上せよ」とて、歸6されぬ。

［畫詞］7 8水の尾の路。

かくて到り著き給ひて、9山籠りは年頃10堂などもいと廣く、いかめしう瀧いと面白11く落したる所に住みて、里なりし女子迎へて物習はす。山犬里犬と云ふ男子どもに笙12よき横ぶ13へ〔○笛〕吹かせて、箏の琴女に習はして居たる14夕暮に、打ち群れておはしたれば、山籠り喜び畏まり聞え給ふ事限りなし。15松の紅葉の林に御座16こ片敷きて、皆居給ひぬ。17先づ「疲れ給ひぬらん」とて、山のほ18たし〔○法師〕ばら童べ出だして、をかしき19かし木拾はせて、御前に白銀のまがりなど取り出でて、20をの21炊がせ、御前の朽木に生22いたる茸ども23羹に24させ、苦茸などて25ら〔○調〕じて、白銀の金鋺に入れつゝ參れば、君た26う

［校異］1イ立つ。2国立つアリ。3イ徒歩。4イ多か、國イ多かな。5因物。6イさ。7国此所はアリ。8五字イナシ。9以下九十五字因考異ナシ。10一字国塔。11一字国う。12一字イ吹。13一字国え。14一字イり。15国先づ、因考異先づ此の。16二字国ナシ、因ども。17イナシ。18イう。19イ枯。20国御膳、因考異物。21イの布か。22国ひ。23イ羹。24以下十六字国イナシ。25一字イう。26イち。

〔〇達〕興じつゝ召し添へ1つゝ參2る、3物語などし給ふ程に、御割籠ども持ちて參れり。取り4さがして、山籠りの御弟子童子、その5邊の者の6小君に仕うまつるなど召し集め7給ひて、御菓物ばかり御前に8は參れり。御酒度々聞し召して、物の音ども掻き立て、山風は紅葉の散りたる9ごとは吹き立て、枝なるをば散らしなどする夕暮のけ10ふ〔〇興〕11飽かに、12先づ13よつ方の雅樂頭、大きなる木の節のいとをかしきを取りて、山伏と御土器參るとて申す、「權頭は昔14のいさゝかの御歩きにも後れ奉らずこそ仕うまつりしか。かゝる路におも15ひ〔〇赴〕き給16いにし17より、告げさせ給はましかば、御供18に仕うまつりて、御弟子にても侍ひなましものを、世の中に交らひ侍れど、何の勇19こも侍らぬに」と泣く〳〵「御土器20 21釋迦の22供養23も侍るなり」とて、

「吹上24つ誘ひし供の山深く尋ねて君を見るがかなし25さ

山籠り26に今日は」などて、

谷風の吹上ぞ27 28かひも思ほゆる山の錦にきど29ひせる今日

大將30も、

校異 1 イナシ、因て。2 イり御。3 因考異御アリ。4 因渡。5 因邊。6 イ此の。7 因て賜ふ。8 イナシ。9 イなば。10 イう。11 以下二字異ある。三字イあり。12 以下四字イ似。13 国似。14 国ナシ、因は。15 イむ。16 国ひ。17 因折。18 イナシ。19 イみ。20 イ參りてアリ。21 因嵯峨野。22 因やうに。23 国にアリ。24 国に。25 イき。26 国も、因考異ナシ。27 イ我アリ。28 因戉。29 国る。30 国ナシ、因殿。

百數の昔の友を見に來れば嵐の風も錦をぞ敷く

中納言の君、

君をのみ尋ねて今は秋山1も紅葉も深くなりにけるかな

右大辨昔の藤英なりし火影姿思ひて、

七夕の逢ふ夜ぞ我も君を見し誰も心のめづらしきかな

律師、

限りなく憂かりし身だに有り果てぬ山にて君が思ひをぞ知る

中將、

君をだになしと嘆きし百數に有りし世さへも變りぬるかな

右馬助、

君により時雨るゝ袖の深き色をお〔〇織カ、折カ〕れる紅葉と里人や見ん

時蔭、

古へは君が衣に見えし色の今は山邊に散りま2よふかな

とて、中將は琵琶、山籠り3箏の琴、權頭琴、近正和琴、時蔭横笛、4右大將の御許なる縫殿頭笙の笛、

校異 1 困の。2 困が。3 困箏。4 十四字困ナシ。

またそれらが中に篳篥吹く者と吹き合はせて、異人々は唱歌し歌唄ひ、夜一夜遊び給ふ。所々1に見遣れば遠う火を焼きて、その山の廻りの山2伏3にだにあり、近う見れば火を山の如4く起して、大いなる鼎立て5し、栗を手ごとに6かきて粥7る8煮させ、萬づの薬物食ひつゝ、人々の御9許なる人に賜び居たり。夜更け10ゆくは露霜置く。夜一夜遊び明かし給ひて、つとめて11になれば御粥參12る。露13と濡れたる御衣ども脱ぎかへ給ひて、山籠りの御供によき人の子どもの四人あるに、四と14〔こ〕ろ〔〇所〕ながら取らせ給ふ。その日はた15はゝ〔〇題出〕だして、16用意しつゝ文作り給ふ。右大辨17御18許なる19秀才、一人は文作る、一人は講師20、かゝる程に源中納言殿より、檜割籠、只の割籠、屯食などいと多21う有り。御前どもに22參23る、人々にも賜ぶ。よき物いと多24うもて込み給ひて、日暮れて文作り果てゝ、讀ませ給ひて、面白き25句は皆誦し給ふ。右大辨の御聲はいと高ういかめしう、大將の御聲はいと面白う哀なり。夜更くるまで26は文誦じ、曉27方になりて、風いと哀に、木の葉の雨のごとくに降る程に、律師陀羅尼誦み給ふ。大將いみじく賞で給ひて、箏の琴彈き合はせ給ふ。面白き事限りなし。山28のも里のも、皆淚落さぬはなし。暫し遊ば

校異 1イナシ。2以下四字図じにたに〔〇路に谷カ〕、図考異二谷。3三字国二谷。4イナシ。5イて、6イ燒。7イに、図考異ナシ。8国に混ぜ。9図供。10イ行けば。11四字イナシ。12イり。13イに。14一字異ニヨリテ補フ。15イいい。16イよい。17イのアリ。18図供。19国従者の。20イすアリ。21図考異く。22図もアリ。23イり。24図く。25図ナシ。26イナシ。27図考異ナシ。28図人。

せ給ひて、山籠り1●常の事にて陀羅尼を誦み給ふ。中納言3●山もり4召して調5●べ6させ給ふ。かくて暫し有りて、君達諸聲に文遊び給ふ。律師山籠りの御聲のいと尊きを聞き賞でゝ、土器取りてかく申し給ふ。

山籠り、

出づとせし身だに離れぬ火の宅を君水の尾にいかで住むらん

大將、

烟立つ家は思ひの苦しさに身も消ちがてら入れる水の尾

中納言、

此所にかゝあるどち誰か7●浊らざ8●りし9●袖のみ10を（滞カ、水の尾カ）にもぬる11●ゝ（本ノママ）みやはせし

辨殿、

人よりは我ぞ燻の中なりし今も消えねどえやは出でける

中將、

夜を晴12●め螢求めし我が身だに消えし思ひの目に燻りつゝ

13●月渡る火の14△をとりにはありながら乾かぬ物は袖にぞ有りける

校異 1因たゞ。2イのアリ。3因やど。4因風アリ。5イめ。6因合はアリ。7因燃え。8國イら。9因そ。10イのアリ。11イナシ。12国み。13因燃え。14イは。

など宣ひつゝ遊び明かし給ふ。

かくて日やう〳〵晴れ1もて行く程に、2かね〔○種〕松山籠りの3御料に粥の料、給いと淸らに調じて、馬ども4 5負せて、乾6飯馬ばかりに負せて、布の襖綿厚く入れて、いと多う持たせ、長櫃どもに飯入れさせ、酒樽に入れて持たせて參うでて、山伏ども召し集めて、飯酒食はせ乾7飯襖一8〔つ〕づゝ取らす。大將持たせ給へりし9わ櫃御衣10一つ、山籠りに奉り給ふ11に、櫃には淺香に沈の脚つけて、蘇12わう〔○枋〕をあ13うご〔○枋〕にして、白銀の14鉢金鋺、15しか16ひさし、銚子水瓶など、萬づのてう17つ〔○調度〕盡くし入れたり。御衣櫃には御法服一、限りなく淸らにて、夜の裝束綾の指貫に繡物の襖、綾の裏どもなどして、その襖に書きて結び18いけた19る、

露けくて山邊に一人臥す人の夜に衣に脫ぎかへよとぞ

子どもの裝束、女子のも、いと淸らにし入れて20參り給ふ。山籠り見て、

世を捨てし苔の衣に脫ぎかへばまた21〳〵に22物23もこそ思へ

とて賜はり給24〔ひ〕ぬ。中納言は絹綾を糸の裏に入れて、供養のやうにて、三所ばかり奉り25、右大辨もい

校異 1イナシ。2国た。3イ御。4国にアリ。5国負ふ。6イ飯、国飯。7異飯。8一字イニヨリテ補フ。9イに、国長。10イ櫃。11国こ。12国は。13イふ。14国考異はし、国考異ナシ。15イナシ。16国い。17異ど。18イつ。19イり。20イ率てアリ。21イしアり、国夜アリ。22國なほアリ。23イを。24一字イニヨリテ補フ。25イ給ふアリ。

とをかしき物奉り給ふ。律師は萬づの1を2とた3い〔○行〕の4て〔○具〕、菩提樹の5數珠より初め6て7有用物を奉り給ふ。中將は墨染の裝束、袿指貫黑橡の袍、五條の袈裟具したる法服三8具9主に、裝束四10具11上12はら13〔は〕〔○童〕の料に、14袈裟の料に下衆の裝束15廿二ばかり、童子の中に皆し給ふ。これより外は心に任せてをかしき土産ども。かくて物など參りて、又の日は16の作り、その17く〔○寺〕に18ま廻り19い20寺に21も、御讀經せさせ22えくらたせなどし給ひて、その夜は泊りて、とざまかうざまに遊び給ふ。山籠り大將に聞え給ふ、「昔一條殿に侍りし人の、便なげにて侍るめりしを、見給へ捨て23て籠り罷り24、年頃いかで侍らんと思ひ給へしを、殿になむ頼みさせ給ふと承はるをなん深う喜び畏まり聞えさする。分いても昔だにようも侍らざりしを、いかやうにと思ひ給ふるになんかたはらいたくは」大將「年頃さて物し給ひしをえ承はらざりき。去年事のついで有りて、彼所に宣ひしになん驚きながら聞えんとせし。これかれ集はれて騷がしかりし程は、さし25はきたるやうなりしかば、26え。27三宮迎へ奉りてしかば、これかれ外へ渡り28給ひなりにしかば、此の三條の29本家なりし方になん侍30〔る〕東の對になん住ませ奉る。さて

校異 1国お。2イこ。3国ひ。4イ具。5イ念。6国ナシ。7国用ある。8国具。9国はアリ。10国具。11国はアリ。12異わ。13一字イニヨリテ補フ。14五字イナシ。15国三十具。16国文。17国ら。18イナシ。19イナシ。20國イてう。21イは。22イ儀法さ、国儀法せさ、国考異こんぐ打た、國イこんぐうい。23國イし。24イてアリ。25イ分。26国女、国考異ナシ。27国その。28國イたが。29イほ。30一字イニヨリテ補フ。

も殊に轁もしげなる事もなけれども、自らをだに人にもし給はぬかな。幼き者の侍るめるを1憎み汚ながるめれ2ば、身にはらうたく覺え侍るになん預け奉りてなん侍3(る)。いと目易く、4ら(〇警)策なる人にこそ物し給ふめれ。君をのみ見奉りて、彼所に對5面せざらましかば。人の云ふ事は空言になん」山籠り「6さだに御覽しなさばいと嬉しく、佛の御德7になん。此の侍8(る)童べも、母9とせ10侍り、身一つだに侍11(り)がたげに承はれば、こゝ12ち召し集めて、松の葉をも苔の衣をも、も13つ(〇諸)共にこそはと思ひ給14ひてなん。女子をさへ物して侍るを、童べ15はいかで宮仕へも仕うまつらせんと思16ひ給ふれ17ば、親は便りなく侍18(れ)ば、いかでかはとてなん」大將「何所に、いかにせんとか思ほ19す」せんやうを宣へ。20るの伯母君にあづけ奉りて、い21か22うに此の事を後見奉らん」23たふ、「いと嬉しき事24なん。昔だにいと御前に侍ひがたかりし上に侍らじ。今25居給はむ東宮に奉らんとなん」大將「藤壺の一の宮こそは。それ26ぞ更にたゞの人とは見え給はぬ。27今ながら內裏の御氣色に劣り28給ず、いと29氣かしこくなん」山籠り、「また承はるやう30か侍る。さらばましていかにこれ31知る爲めに嬉しう、32さらばま33しう侍らん」大將、

校異 1因考異ナシ。2イど。3一字イニヨリテ補フ。4因警、因警。5因面。6イと。7イと。8一字イニヨリテ補フ。9因失。10イはえつる、國イはえつ。11一字イニヨリテ補フ。12イら。13因ろ。14因へ。15イナシ。16因考異う。17イど。18一字イニヨリテ補フ。19國イさ。20イか。21因考異や。22国やアリ。23イこそ、国だに、因答、因考異げに。24イにアリ。25イは賜。26イは。27イナシ。28イ給は。29異ナシ。30因ぞ。31イらが。32イ侍は。33因ほアリ。

「あなうたて。何でふさる事か」中納言、「さ1りと2皆定まりたるやうにこそ。日さへ取られにたりとか申すなる」大將「すべて知り侍らず。此所には忍びてなん」中納言「御心にこそ忍びてと3か思せど、異人4かしか思ひ5立ためり。さもはた覺えたる事なれば」大將、「おのづから終には見えなん。6藤壺はえさや思すらんと思ふのみこそ、いみじうかたはらいたけれ。それもおとなしき心つき給7ふめれば、さ思すやうもあらん」などて、「さらば此の吾子達は今日もいざかし」山籠り、「8今年ばかりは物の音少し聞き知らせ侍りて、年返りて率らせん」など、これかれ9多く御物語10多くし11歸り給ふ。御裝束どもは白き襖、綿入れて、白銀の泥して12え〔○繪〕書きたり。綾搔練の袿、薄色の香の指貫、御13供の人は薄色の襖、露草して遠山14に摺れり。綿皆入れたり。下人は朽葉色の15青など、心に任せて著たり。山籠り、子ども、法師、童べ御供にて、麓まで御送りし給ふ。君達は御馬引かせて徒歩より、大將は笙の笛、中納言は横笛、中將篳篥、松方近正は御先に立ちて、陵王落蹲舞ひ16て、異人々御17居に立ちて、錦の如く散りたる紅葉の上を歩み出で給ふ。山の嵐18は色々の紅葉雨の如く降りかゝれば、御襖に色々に付き19て、麓20に別れを惜しみて、歌詠みて、山籠りは歸り給ひぬ。君達御迎へに、樣々人多く參れり。大將中納言の御迎へ21に、人22 23う鷹手

校異 1 医れど。2 国もアリ。3 医は。4 イナシ、医は。5 イたらざ。6 医たゞアリ。7 イひた、国ふた、医ひため。8 イ今年。9 医考異ナシ。10 イナシ。11 イてアリ。12 イ繪。13 國イ許。14 医を。15 イ襖。16 イナシ。17 国後。18 医に。19 医たり。20 イてアリ。21 イの。22 医々アリ。23 イ小、国々。

に据ゑつゝ参かり。帰り給ふまゝに、野邊ごとにあさらせ給ひて、御餌袋に入れさせ給へり1し。大辨は2館にて別れ給ひぬ。人々は大將の御送りして殿へ帰り給ひぬ。御供人饗まうけ3て、御前にはかづけ物し、御馬添雑色には腰挿させさせ、入りて見給へば、宮歩き給はでおはすれば、いと嬉しと思す。小鳥ども生きたるは犬宮に奉り給へば、もてあそび給ふ。御餌袋なるは調じて宮に参り給ふとて、聞え給ふ。

君が爲め小鷹手に据ゑ4詠ホノママ　5（邊に出6て）先づ7むしり食ふ鳥を捕りつゝ

宮、

鷹据ゑて野邊にと云ふは我が爲めにかりの心を知ら8する9は10せは

と宣へば、「思ひ11て12まな」とて、按13を〔〕察〕使の君14に山の有りつるやうなど御物語し給15ふ。

一書詞一此所16に書。

かく歩き初め給ひこそ院に参り給ひける。上聞し召して、御前に召して、物も宣はで、つ17れ／＼と18参り19給20ふ。久しう有りこ、「年頃かゝる住居の、21かくせまほしかりつる事も、見まほしき事もせんとこそ思ひしか。などか参られざりつらん22と。一宮も久しう23見ねど、遅、に物24しか25と26く27られにき28とかし

校異 1因右。2因路。3因考異ナシ。4一字イ野。以下五字因考異秋の野に。5四字イニヨリテ補フ。6因でアリ。7イ虫を、イ虫が。8因せや。9以下二字イとや、因考異かや。10因する。11因ぐ。12イさて 13因イぜ。14イナシ。15因考異ひ。16以下四字イ彼所。17イく。18イ見守。19因考異居アリ。20因考異ひ。21因考異み。22因ナシ。23国こそアリ。24イしアリ、因せアリ。25国ど。26国留め、因とゞめ、國と、國イく。27イは。28イナシ。

と宣へば、大將いとほしう苦しと思ひて物も1奏し給はず。久しう有りて、「年頃勞2わる所有りて、罷り歩き4もえし侍4りざりつる。5中頼が侍る所に罷りて、相勞はり侍りてなん辛うじて參りて6なん辛うじて參り侍7りつる」と申し給へば、8下上、「それは皆獨居してこそ物せらるると聞きしか。何でふ事か有りし9と問はせ10たりし文どもなど御覽ぜさせ給11ふ。

［畫詞］12此所は院13り14女御へ。

かくて山籠り15は、人々の奉り給ひし物ども見給ひて、人々に賜ぶべきは16賜ひて、我が御用になるべき17はなどして、中納言の粥の料18にとて有りし物をば、子どもの母君の許に遣り給ふとて、御文には、「日頃はこれかれ人々物し給19へれば、騷がしくてなん。いかにつれづれにとのみぞ。なほ人の有るやうにてあら20（ま）ほしく思されば、さやうにても。分いて21も、22子に見奉23りしやうにてもありにきとな思しそ。今の人の心はさしもあらじ。山の末よりも時々訪ひ聞えんに24もつきて物し給25えぬべうは、さても、

松風の寒きまにまに年を經て一人臥すらむ君をこそ思へ

［校異］1イ申。2異は。3国えしも。4イら。5イ仲。6八字異ナシ。7二字国ナシ。8異ナシ。9以下七字国大將彼所の哀れなる樣奏し給ひ人々の作れる、国考異大將彼所の哀れなる樣申し給ひ人々の作れる。10以下三字国考異給ふ。11イへば。12三字イナシ。13イナシ。14国御方、国御前。15イへ。16国賜び。17国留め。18イなど。19国ひつ。20一字国ニヨリテ補フ。21以下二字イだ。22一字国此所。23イらじ。24イナシ。25イひ。

さては、これは粥の料とて人の賜へりし。其所にて煮させ給へ。子どもの宿直物綿多く入れて賜へ。纔ひ聞ゆれど、暫し琴1も2なんは3せんとてなん」4とうく奉れ給ふ。女君見給ひて、いみじく泣きて御返6、7受け給ひぬ。8眞人達いと日出たう、花やかにて參うで給ひて10なりしをなん、いと悲しう11給はりし。12世人のやうにてとか。いでや人に見13へぬべき所なりとも、今更にさる心をばいかでか。さやうなる様にて近14うだにいかでとこそ。松風はそれをのみなん。

獨寢る夜寒むもいざや15うけ〔〇岩已〕を薄み霜置く山の嵐をぞ思ふ

此の粥の料は官」6へるやうに」と書きて奉り給17へ。絹綿を見ればいと多かり。親に奉り給ひ、18按察使の君の許に、19籠に入れて奉り給ふ。御達も皆賜はりて、引き散らしてむしりなどす。女君、「昔も今も、此の吹上の20身の御贈21をこそ豐かに見れ」と宣ふ。

〔書詞〕22此所は23に宮内卿殿。

かくて三條の院には、四面廻り立ちし24馬車25を26おさ〳〵見えず、廣壺の御方に27一もなし。大將28にい

〔校異〕1図考異どアリ。2イ習。3イさ。4イナシ。5一字イて歟、国て。6国りアリ。7国承はり。8図客人。9図ふ。10イナシ。11図承。12イ上。13国え。14國イら。15イこ。16図考異ひつ。17イひつ。18以下十七字國イナシ。19一字イ箱。20イ君。21図物アリ。22以下八字イナシ。23一字国ナシ。24国とま。25イナシ、国ふ。26国を。27イ人歟、図人。28イ殿アリ。

と多かり。1東中將の御方に數多あり。大殿には2得つ3と參る人々、君達の御車ども、右大辨4の殿の御方、式部の5大輔兼けたれば、此の頃6ひしせんとて大學の7衆8此の車數多立つ、9とくいとかしこし10。世に重く思はれ、人に許された11り學士なりしかば、今12も帝御心に御書入れ給へれば、常に御前に侍ひて、13いと14議奏する事15も、いとゞく聞し召す。容貌も16こともの／＼し。北の方に聞ゆるやう、昔17內の院に18、鶴驛躲にて、19上に20いつ〔〇居つカ、出づカ〕21書く書の見ゆる限りは22參らで、夜は螢を集めて、學問をし侍りし時に、心地常に面白く賴もしく、思ふ事なく侍りし。今から公に仕うまつり、かゝる御中に侍へど、物思はしう侘びしうなん。それはから見奉る限り、親にも對23面し給はず、世には心24にもゆかぬやうにて經給へば、25い生きて侍るか26いなむなき。つたなき人につき給へりとて、親を勘じ27し奉28り29なんひ30るみたるやうな31る、大臣は御前去らず召し使ひ給ひ、公事32につけても思ほし數まへ33たり。34御前をもかくてこそ思し召し顧み35給ばめ。いと味氣なき御物恥なり。世の中ははかなきものぞや。藤壺

校異 1イ頭、図藤。2以下三字図集ひ、図考異續き。3イつ。4図ナシ。5イ大輔。6図考異一本ニ「檢非違使か」ト註ス。7以下二字国助。8図ナシ。9イ事。10図考異とアリ。11イる。12図の。13三字図此の、図考異ナシ。14図はかり申す。15図どアリ。16イい興、図い。17図大學、図考異此。18図考異侍りし程はアリ。19イ家、国飢ゑ、図飯、國イこゑ。20国飢ゑつゝ。21イ二字ナシ、一字國イナシ。22図守(まもる)らへて。23図面。24イナシ。25イナシ。26国ひ。27イナシ。28国る。29図考異給ひアリ。30イか。31国り。32國イとし。33図給へ。34図御前。35国給は。

の昔よりな1らせ給ひて、多くの人をいたづらにしなし、宮仕へをし給ふとては、傍ほとりに人寄せ給はず、2すなはちより子を生み給ひしかば、3坊后がねとのゝしられ給ひしかど、音もし給はず。思ひがけざりし人の昨日今日打ち生みてし給へるこそはき4めれ。かゝれば、5かく花や6うに見給ふらん人々はかなうなりて、7季8ひさ〔〇英〕9〳〵10久しくならむとも知らず。大學院の藤英と言はれ侍りしかども、上達部の端に籠りならずや。博士とて侍る人11の侍らぬをぞ思ひ侍る」と聞ゆれど、12出でもし給はず。

〔書詞〕13此所14に右大辨殿。

かくて春宮月の中に居給ふべしといふ。右大殿15右大將殿16には御門17 18外に19は、人も避りあへず馬車立ち、市の如くのゝしる。后の宮よりは20人に御消息あり。三條21院には内裏の御使も見えず。かゝる事の筋も聞え給はねば、大臣ともあれかうもあれ、此の事定まりなば、又の日頭落して山に籠りなんと思はして、さるべき所思し設け、法服など設け給へば、22男23も女君達も、集ひ24て侍ひ25給ひて、泣く〳〵聞え給へば、大臣「我女子多かる中に、此の子生まれしよりらうたげなりしかば、26頃よりと云ふばかりにお27ほし

校異 1イり、図なり。2國イし。3図考異母。4イナシ。5国かれはアリ。6イか。7以下四字国末。8一字イふ。9以下二字イ人々。10異人々アリ。11イナシ。12図答。13以下七字イナシ。14一字国は。15以下六字図の。16二字イの。17図のアリ。18イナシ。19国ナシ。20イ日ごと。21図のアリ。22國をこと。23イ子アリ、図君アリ。24イナシ。25図考異ナシ。26イ懐中。27異お。

立てゝ、いかでこれをだに人並々に1と思ひしに、ある時は對2面におもだたしき時もあり、或時はいとをかしき時も有り3來しに、なほいかで4思ひて持たりしに、これによりて人のう5ちみ〔○恨〕6も7な、いたづらになると云ふ8と人も聞え9、強ひて宮仕10いに出だし立てたれば、安からず羨まれ言はれし人の、かく人笑へに恥を見むを見ては、世にも交らふべき11」と宣ふ程に、「明日になりぬ」と云ふ。君達は萬づに聞え給ふをも、「すべて我此の事聞かじ。人も言ふな」と宣ひて、その日のつとめて塗籠にさし籠り給ふ。大宮、「我も12何せ13らにかゝる日を見るべき」とて諸共に入り給ひぬれば、君達は左右の戸口に14なみをえさみて泣きまどひ給ふ事限りなし。

その日晝つ方、「參り給へ」とて御使有り。「かくなん」と聞ゆれど、音もし給はねば、參り給はぬよしを申させ給へば、大き大殿を召す。それも參り給はねば、立ち返り召せば、今15かくにはかになりにたれば、我16すゞと人17に思ふべきにあらずと思して參り給ふ。「藏人の少將の君18を、左衛門佐の君なほ參りて、物の氣色も案内せよ。此所に參り給へと有りつる、疑ひ有り」とて參らせ給へば、19我か人かにもあらで參り給ふ。かくて酉の時ばかりに大臣參り給へれば、上ともかくも宣はで、御硯取り寄せて物を書かせ給ひて、

校異 1國イナシ。2因面。3國此所。4イとアリ。5国ら。6因をアリ。7イナシ、下負ひ。8イナシ。9因しかどアリ。10以下二字国へ、一字因へ。11因にあらずアリ、因考異やアリ。12以下三字因何せむ、因考異何でふ。13イう。14イ涙押さへ、因並み居給ひ、因考異涙を押さへ。15イはアリ。16因がアリ。17イも、因の。18イナシ。19因われ。

封じて、頭中將して奉らせ給ふ。大臣見給ひて、御氣色よろしきを、藏人の少將、これは我が御お1い〔〇甥〕の皇子なれば、思ふやうなりと2思したるなりと思して、我が親はいたづらになり給ひぬと思ふに、色も容貌もなくなりて侍ふを、上御覽じて、をかしう哀なりと思して、打ち3覺え4ませ5て、「少し生き出でて、太政大臣の御し6ろ7とつき8ぬ。立ち給へ」と宣へば、御供に宣ふ事やあ9りと、氣色を見歩き給ふ。その夜は10曉の御曹司に泊り給ふ。そこに參うでて、御前に侍ひ給ふ。曉方に大臣、人間をはからひて、御文をいと小さく書きて賜ふ。賜はりて急ぎ出でて見れば、大臣の11供に12 13ある御文いとよく封じてあり。從者の行く末も知らず、御門に立てる馬14乘りて、15馳せて三條16院に參り給ふを、17君18太刀を19拔きて殺しに來る者かと思して、いかに言はんとする者ならむと、身も冷えはてゝ物も言はねば、宰相の中將辛うじて20打ちわなゝきて、「いかに21ぞ。誰か定まり給ひぬる」と宣ふ。少將「22いさ、23さ聞かず。大臣の御文ぞある」と打ち24(わ)なゝきて宣ふ。君達開けて見むと騷ぎ給ふ。少將、「御文をいかで」とて、塗籠の戸を叩きて、「近純侍ひ侍り。25問ひ申すべき事侍23(り)」と云ふ聲を聞27くに、大臣28はいとゞ物覺え給は

校異 1国ひ。2十字イナシ。3国微笑。4イさせ給ひ。5国給ひアリ。6イり。7因に。8因て。9因る。10イ心き、異職。11イ御許。12因とアリ。13国と。14異にアリ。15三字イナシ。16因のアリ。17國イ君。18イ達アリ。19因考異取り。20イナシ。21因ナシ。22以下五字因の答知ら。23一字イ見、異え、因考異まだ。24一字国ニヨリテ補フ。25イ取り。26一字イニヨリテ補フ。27国き給ふ。28因ナシ。

ず。宮、「言ふべき事こそはあらめ」とて、開け給へば、君達押し込み入[1]れて、御文を奉り給へば、大臣御衾を引きかづきて、うつぶし[2]臥して、御文を左衛門の督の殿に讀めと宣へば、[3]御泣きして、「春宮には若宮居給ひにけり。昨日の酉の時ばかりになん宣旨下り侍りにし。例の作法[4]にもあらず、御心一つにせさせ給ひて、宣旨の先に人に漏らすなとたん仰せられたる。巳の時にぞ列引く[5]つう侍[6]（る）。參り給へ」と聞え給へり。大臣いとすくよかに起き居給ひて、「彼所には告げつや」と宣へば、「先づ此所に參[7]りとて」と申し給へば、「早や告げよ[8][9]と、思ひ困じぬらん」とて御氣色いとよし。

少將は南の宮に參りて見給へば、若宮をば膝に据ゑ奉りて、今宮をば抱き奉り給ひて、帝の年頃の御契りを思し出でつゝおはするに、藏人の[10]頭、「かう〳〵なん」と聞[11]へ給へば、女御の君打ち[12]はら〔○笑〕ひ給ひて、「さればこそ。年頃の御契りは、よもあやまち給はじと思ひつれど、怪しう言ひのゝしりつれば、心地もあわたゞしうぞ有りつるや」とて、宮を引き据ゑ奉り給ひて、御裳引き懸けておはする程に、大臣君達裝束し給ひて、打ち連れておはして、寢殿の[13]東の[14]御方に渡し奉り給ひつ。二[15]宮をば西の對に移し奉り給ひて、君達殿人引き率てしつらひ仕うまつり給へば、片時[16]玉のごとしつらはれぬ。所[17]に皆有るべきやうに

校異 1イナシ、国り。2國イナシ。3図女手、國イ女君歟。4國ナシ。5国べ。6一字イニヨリテ補フ。7イる、図考異れ。8図考異いアリ。9国ナシ、図や。10国少將。11国え。12イわ。13イ北、図東。14イナシ。15図のアリ。16イにアリ。17イ々。

しつらはれぬ。御前にはいと雪の降れる庭のごと砂子敷かれたれば、かねてせら1 2むやうなり。かくし据ゑ奉り給ひて、皆内裏3へ参り給ひぬ。上には乳母達大人童4なりし5にも皆参う6で、髪揚げ装束したり。に7ゝ〔〇西〕の御方には、例の御方々皆渡り給ひぬ。大宮太8〔政〕大臣の、9式部卿の宮の北の方達は寝殿に渡り給ひぬ。

大将聞き給ひて、「此の事により10頭をえさし出で11で、朱雀院12かい〴〵しきやうに思されき。三條には、た13ゞ参うでゝ、辛き日を見つるかな」とて、内裏へ急ぎ参り給ひぬ。右14大殿、中宮よりかく宣へれど、夢にも思ひかけず、さるべくばかゝる人の腹に15子ら生まれ集まり給はましや16と、天下に言ふとも、まさにと思して、かくなんと人にも宣はず。「こゝ17ちの18習ひならね19ど、人に心もおかれし。よからぬ者一二人心を合はせてだに、悪しと思はれぬれば、人をいたづらになす20ものなり」とて、思しかけざりつれば、かゝるをも何とも思さず。されども内裏へも参り給はず。新中納言は小野へ物し給21ひて、此の頃は京に物し給22ひて、例の方々23疎々しうて物し給ふに、24それも聞え給はで、昔を思し出づる事25も多かり。されど人々のいと26ほしう27いとのゝしりつれば、いと28ほしう思ほしけ29れば、かゝれば耳安く聞き給30ひて、

校異 1異れアリ、因れたらアリ。2因考異れし。3因に。4因皇アリ。5イナシ。6因上りて。7イし。8一字イニヨリテ補フ。9国民。10イてアリ。11イず。12因にはひが〱。13因え。14因のアリ。15イここ。16因は。17異ら。18因考異仲ら。19因ば。20異ナシ。21因はで。22因へど、因考異はで。23國イ事々。24因誰。25因どアリ。26國をか。27イ言ひ。28イをか。29イれど、因るを。30因ふ。

かゝる程に、院の女御の御許に御文あり、「月頃いと思1ひすに承2(はり)つれば、心憂く思ひ給へつるを、只今なん承はり直しつる。眞實にやあらん。大方のいとほしさよりも、殿に思し歎きつるなんいみじう。宮達も自ら參り來んとすれば、ゆゝしげなる3事なれば、物の初にはとてなん。今今日明日過して4と聞えさせん」となむ有る。御返り、「承はりぬ。宣はせたる事は、今朝5大政大臣の消息になんさやうに有りける。今の程もいかにりとぞいと煩はしく、恐ろしき世の中なれば、今見給へ定めてことゞゝには聞えむ。宮達の御7やうそこ思ふには、何事にかは思はし8屈ずらん」と聞え給9ふ10は、かくて11夕方になりて、宣旨持て參りて、上達部など皆參り給へり。中納言殿に今日は設けし給ひつれば、皆あるべきやうにせられぬ。た12ち13わき(〇帶刀)どもは、14君達御聟達の中に、さりぬべき一人づゝ出だしてなし給ふ。殿上人藏人などぞ、これかれ御勞りにて皆15々參りぬ。宮司16さるゝ程に、大將殿より人のなるべき御文してあり。見給へば、一日頃宮に度々參れど、物騷がしきやうにて、え聞えさせず。さては自ら聞えあ17(き)ら(〇明)めぬべき事18さ侍るを、いかで。さて年頃あ19る返20(り)みるべき者の侍るを、數ならぬ心地して21は勞り侍らぬを、此の折にだにこそはとてなむ。かれこれの御賜りし22に侍る23なれど、御勞りになさせ給へとてなん。さも

校異 1イはず。2二字異ニヨリテ補フ。3因身。4イナシ、因ぞ。5國イ大き大將殿。6イぞこと。7イ消息、因考異漾こそ。8イ沈む、因屈す、因考異倦んず。9以下二字因ひつ。10イナシ。11國イ豐か。12國て。13イは。14十七字イナシ。15因ナシ。16異おアリ、国なアリ、因召アリ。17一字イニヨリテ補フ。18イどアリ。19国ひ。20一字イニヨリテ補フ。21因え。22イか。23因め。

仕うまつりぬべき者なり。宮の大進に罷りならんとなん申1すと申し侍る」と聞え給へり。それは伊豫介になされし2かば3ま一人なりけ4る。御返り、「承はりぬ。宮はせたる人の事は、いと安き事なり。一人は此所に物せよとあれば、さるべき人も侍らぬを思5ひ給へ煩ふを、さりぬべしと御覽ずる人侍らんを喜び聞ゆる」と聞え給ふ。かくて大夫には伯父達ならまほしう思したれども、帝心寄あるやうに聞ゆる中にて、さてぞよからんと6覺えて、大將をなし給ふ。7亮には右衛門督兼けて、權の亮には大殿の御勞りにて、學士にはもとより宮8仕うまつる文章博士、大進は大將9此の人、少進には大宮の御勞りにて一人、女御の君の勞り給ふ一人、もと宮10一人なりぬ。それより次々の皆これかれ御勞りになりぬ。

畫詞11御櫛匣殿。12右大辨の北の方。(〇以上國繪詞トセズ)13此所は春宮の初めの所。

かくて后の宮は、御心にこそ萬づ思したばかりつれ、帝に初め聞え給ひしに、御氣色悪しかり14(し)かば、殊に聞え給はざりしかば、かゝる事も15上には16怨み聞え給はざりけり。下17地にはいと妬しと思す事限りなし。此の腹の皇子達18なしならん、遂に思ふ如せんなど思して、朱雀院に出で給ひぬ。女御憎しと思す事昔よりこよなし。いかで憎み立てゝ、院の內に19も侍はせじと思せど、近き20大殿を二つ三ばかり賜はり

校異 1三字國ナシ。2以下三字國が今。3以下三字イ罷り。一字國今。4國り。5國考異う。6イ思し。7十字國ナシ。8イにアリ。9國の殿、國考異殿の。10國なるアリ。11國此所はアリ。12國これはアリ。13十字イナシ。14一字イニヨリテ補フ。15三字國考異ナシ。16國殊にアリ。17國ナシ。18イ皆死なな。19國えアリ、國考異だアリ。20國にアリ。

給へば、皇子達の御局をしつゝ、やんごとなき人の御女を迎へ1、八の宮も宰相の御女を得給ひて、迎へて侍ひ給ふ。我も2〳〵3清らをしつゝ、日出たき御いき4を5い〔〇勢〕なり。彈正の宮御妻6なけれ7ど、物少し覺え、容貌よく、覗ある人、我も〳〵と參りつどへば、それしも8暮には樣々多く侍ひ給ふ。女御の御許に宮達集ひて、御容貌は花を9織りたる10に11として、大人も童も夜晝遊びのゝしり給へば、12帝はこれを御覽じ13て聞し召すとて、此方にのみおはしまして、「一の宮迎へて、大將のあそ14ひ〔〇朝臣〕婿はせて、遊びをせさせて聞きしがな」と宣15ひ、父大臣御同胞の君達、常に參り仕うまつり給ふ。大將も聟達も、院に參り給ふと一訪16へ聞え給ふ。五の宮も二の宮を17も切に聞え給へば、いかでかと思したり。かく18后の宮、19御族より初め、上達部皇子達を惜しと思したれば、睦まじかるべき大臣達も畏まりて參り給はず。かゝればなほ心憂20ひ世なり、これらが世に21はてぬるにこそはあめれ、かゝる事を見で、御髮おろして、さりぬ22べき23べから24ぬ所に籠り居にしがなと思せど、只今は心をさめぬやうたりと思25す。

畫詞26 27朱雀院。

かくて大き大殿28北の方は、此の事によりてこそ宮の御聟取もあべかりしか、今は音もなし、わか〔〇若カ〕、

校異 1イてアリ。2イとアリ。3国とアリ。4国は。5異じ。6イナシ、国の。7国ば。8イ添へば。9国折。10写ご。11イま。12国院のアリ。13国ナシ。14イむ。15イふ。16異ひ。17国ナシ。18国てアリ。19イ我アリ、国わがアリ。20イい、国き。21イたりアリ。22国ナシ。23以下四字イナシ。24国ん。25国考異ほアリ。26国此所はアリ。27二字イナシ。28国のアリ。

我がかし君達は戀ひ泣き給ふ、御腹はゆ1く〳〵と高くなる、何心もなく出で給ひて、秋の頃2をば夜寒む3に心細き4を、月頃離れ給ひて心細く思す。大臣も夜ごとにおはしつゝ泣き侘び給へば、「いかゞせむ」とて渡り給ひぬ。「何事5より6も、いかに思ほして有りつるぞ」と聞え給へば、かゝる事をなん聞きしかとも聞え給はず、世7中にのゝしりいで給ふ宮なれば、男の御心と云ふもの姑く8ともと思して、大臣の留め給9ひつるやうに聞え給ふ。大臣、「さ思しける10こそ11は心憂けれ。天下にしか宣ふとも、此方に疎なる心は有りなんや。よし、親さ宣ふとも、哀と思さば、月頃かく侘びさせ給はましやは。そこを疎に思ふ人にて、人の思し宣ふやうにしてましかば、我がやうなる12一節もなくて、13殊にな14どをいかにし給は15す、よき人は有りとも、己が心ざしのやうなる人16はえしもあらじや」北の方聞き給ひてけりと思して、有りしやうを初めより聞え給ふ、「宮の御文奉り17し時は、限りとなん思ひし。その御文を見18給はせ給はずなりにしかば、つらきになん」と聞え給ふ。大臣19は、「それは、げにさ聞き給ひければ思しけん。いかでか、さおほぞ20らには21思ひ22て、此所に有りや」とて、取り出でゝ奉り給ふ。かくて、ありしより御中いと日出たし。

〔詞書〕23 24大殿の北の方、御物語し給ふ所。君達遊び歩き給ふ。女君御髮喝食ばかり、いとをかしげに

〔校異〕1 図考異ら。2 イほひ。3 図考異ナシ。4 図考異ナシ。5 図にアリ。6 図ナシ、図考異て。7 図のアリ。8 図ナシ。9 図へ。10 以下三字国事。11 図ナシ。12 図人にし。13 図考異こ。14 図考異ほ。15 図む。16 國イナシ。17 国給ひアリ。18 イナシ。19 図ナシ。20 国う。21 以下三字國イ覚え。22 図なむ。23 国此所はアリ。24 三字イナシ。

て、雛遊びし給ふ。御達三十人ばかり、1はらは〔〇輩〕數多。御前に人の奉りたる物いと多かり。管子に大納言宰相いますがり。宰相中將藏人の少將など物語し給ふ。

かくて嵯峨の院、若し宮3おと4〔〇男〕もぞ生み給ふと思して、朱雀院降り給ひて、初め5參り給へり6はるに、大后の宮聞え給ふ、「いかで聞え7ざらんと思8ひ給9ひつるに、10一の宮時過ぎてめづらしき事の有りけるを、若し思ふやうにてあらば、かく今日明日に11〔なり12に〕たるは、かくし給へと、內裏にも聞え13となん思ふ。院にも御心得て申させ給へ。三條の皇子も聞きてつらしと思はめど、かの人まだ小さかりし時、そこをば大人になし給ひし14や。さ思ひ15て奉りしかば、日に近く見るは悲しきうちに16恥ぢ17るべけれ」18と19ちと聞え給ひければ、「それまで定まらずば、さこそ物すべう20侍なれ」后の宮、「それを定まるまじきやうに聞え給へかし。これを思21〔ふ〕になん限りになり22わたる命は惜しう、冥路は安かるまじ23う」と聞え給ひけるに、かく聞し召して、口惜しう急ぎてもしてけるかなと思す。朱雀院は、さぞあらんと思しければ、惡しとも聞し召さず、たゞ嵯峨の院の后ぞいか24で思すらんとぞ思しける。

かくて內裏の帝、母25后の御心26をゆかで罷出給ひにしをいとほしと思し27て、只今生まれ給へる梨壺の皇

校異 1イわ。2図のアリ。3図を。4イこ。5イてアリ。6イけ。7国させ。8国ふ。9国へ。10国四。11二字イニヨリテ補フ。12図考異ナシ。13異しアリ、国むアリ。14異なり。15イナシ。16図侍。17国給ふ。18図など。19イナシ。20イ侍る。21一字イニヨリテ補フ。22イに。23一字イけ。二字國イナシ。24国に。25図后。26図も、図考異ナシ。27國イナシ。

子を、「ば1ら〔○坊〕に据ゑよと2もこそ宣ひしか」とて、親王になし給ふ。藤壺の3二4宮は二5 6かれ7は三の親王になし給ふ。春宮8姙まれ初め給ひしより、「世9中10に平かに思ふやうならば必ず」11など宣ひ契りて、年月行く12も待たせ給ひし程に、あるは生まれあるは姙まれ給へるを、母后は、昔よりの筋ありとて、大后公卿一つ心にて宣ひたばかるなり、公帝大后姙まれ給へる皇子13を14思して、返すぐ15帝一つ御心にして妨げ給ふべしと聞し召して、人にも宣はで、16御心一つに思して、その日まで音もせで、俄かには据ゑ給ふなりけり。后の17御氣色を18見、世19人の言ひのゝしるなりけ20る。藤壺の参り給はぬ事を、夜謹上は思し嘆く。人も殊に参う上らず、渡り給ふ所もなし。起き臥し思すに、月頃21御使も奉り給は22で、は23ら〔○坊〕据ゑて24ば、その25頃26はしてん、それにつけてをと思して待たせ給へど、さもあらねば、二27淺ましう、心強き人にも有るかな。例の我こそは負けぬべかめれ」とて、木工助なる藏人して、28文奉れ給ひければ、御達めづらしがり喜びて、御簾のもとにたゞ出でに29居て、土器さしなどす。御文には、「立ち返り聞えても覺束なく、度々のを、見つとだにあらざりしかば、見る人も怪しがりしを、常に世の例にはあらでも有りぬべしや。月頃はあるやうにもあらずや」とて、

校異 1 **イ**う。2 **イ**ナシ。3 国ナシ。4 宮のアリ。5 **イ**の親王アリ。6 国な。7 国ど。8 国は生。9 宮のアリ。10 **イ**ナシ。11 **イ**と。12 宮を。13 **イ**と。14 国とアリ。15 宮ナシ。16 宮帝アリ。17 宮宮のアリ。18 一字宮考異ナシ。二字宮考異皆。19 国のアリ。20 **イ**り。21 国はアリ。22 **イ**ず。23 **イ**う。24 **イ**ナシ。25 異喜び。26 宮ナシ。27 **イ**あもと。28 宮御アリ。29 宮出で。

「山彦の答へざりしを聲々にまだ白雲と騷がれしかな

なほま1つ(〇參)らるまじきにや」と有り。いとめづらしと思して、御返、「いとめづらしう賜はせ給2ひつるは、畏まりて承はりぬ。いとも〳〵嬉しき御喜びは、先づ奏せんと思3ひ給へ4しかど5も、月頃仰せ言も侍らざりしかば、いかなる御氣色にかと思ひ給へ6つゝみてなん。山彦とかや宣はせたるも、いさや、

白雲も色變りぬと聞きしかば山彦もいかゞ答へ憂からぬ

おぼろげにや。參り侍らん事は、此の宮今日明日參り給7(ふ)べか8んめり。同じくばとてなん」と聞え給ひて、織物の細長、袷の袴一具賜ふ。御返り9給ふ。御覽じて、參り10ぬべか11りと思して、「昨日はめづらしき12なん。雲の色とか。

立つ雲を色々亂る風といへ13ば出づる月日をかざしやはする

喜びとかあるは、おぼろげの心ざしにやは。此の宮一人によりてなん數多の親にも恨みられ奉りぬる。14次第は15さる〳〵まなりや。今傍もう16ちや(〇羨)ましとこそ思へ。それらも皆」とて、これ17はたの藏人18として奉り給ふ。喜びて持て參れり。大宮もおはす。見給ひて、「嵯峨の院も聞え給ふ事有りと聞きしぞか

校異 1 イみ。2 図へ。3 図考異う。4 図りアリ。5 図ナシ。6 國イて。7 一字イニヨリテ補フ。8 図ナシ。9 図ナシ。10 図考異給ひアリ。11 イめアリ。12 図考異ナシ。13 異ど。14 図下に。15 イ逆しま、異逆様、図まが〳〵しげ。16 イら。17 図こそ。18 イナシ。

し」と宣へば、「女御1君のとこそ聞け。怪しくも」とて笑ひ給ふ。御返、「承はりぬ。月2と3か侍る4とは、

いづれとも雲隔つれば月も日もさやけく人に見ゆるものかは

それも御心にこそはと承はりしかば」と聞え給ふ。

かくて春宮5も御讀經に、物の初なりとて、僧綱達名ある6智者どもなど召して、論義などせさせ給ふ。大將參り給ひて、夕7方西の大殿に參り給8ひて、簀子に褥參り給ひて、これかれ物聞え、大將女御9君に物聞え給ふ。孫王の君して御10答など11言12かつがせ給へば、大將、「今はかく有りしよりも親しく仕うまつるべく侍るを、み13ろ〔○道〕14品々ども承はりなん15はなどて、さても先づ頃世16中に怪しき事を申しけるを、17卑下せる所に、いかに思ふ給へ18ならんと聞し召しけん事をなん、此所にも彼所にも、限りなく19なく思20ふ給へ21る歎きて、誰々も罷り歩きもせで侍りつる22所23より、かの三條にと24て宣はする事なん有りける。さる心も思ひ知れとて、かの宮消息にて侍りし、事定まりて御25覽ぜさせんとてなん、まだ失はで侍る」とて、此の26かく27して宮の御文を奉り給ひて聞え給ふ、「かくも聞ゆまじけれど、昔28心ざし失はず、

校異 1異のアリ。2因日アリ。3因考異日。4因ナシ。5因の。6國持僧。7因つアリ。8因ふ。9異のアリ。10國イはらへ。11以下二字因考異取り。12イひ、國イる。13イち。14イしなく、因もな。15四字因さても。16因のアリ。17六字因ナシ。18因るアリ。19イナシ、因考異なむ。20因う。21因ナシ。22イに。23因々アリ。24イかく。25イかん。26因君。27国しアリ。28国のアリ。

今行く先頼み聞ゆる事もなら1は2つ〔○侍〕れば、うたて有る心も持たる者ぞと3もぞ思し4出づる」と聞え給へば、見給ひて、大宮などもいと恐ろしくも有りけるかなと5。大將6も、「御覽じてば賜はりなん」と聞え給へば、女御7君、かく書きて出だし給ふ。

來る春を雲に知らせずなりにせばふちも絶えぬる松にやあらまし

大將見給ひて、

石の上の種よりまつと聞きしか8ば緑も春ぞ深く知るべき

など聞え給ふ程に、大殿おはしあひて、内裏に宮參り給ふべき事を定め給ふ。十月十五日、女御諸共に參り給ふべし9、あるべき事ども皆定め給ふ。かくて皆參り給はんとて、童下仕へとゝのへ、大人卅人童八人、唐綾の青色の五重襲、綾の上の袴、下仕へ八人、檜皮の唐衣袿ども著たり。

かくて出で給ふに、三條の新中納言殿より御文あり。「いとゞ/\思ふやうなる御喜びは、先づ自らに參りて聞えさせんとせしを、ゆゝしげなる樣に思10ふ給へつゝみてなん。近う侍はゞとか宣はせしを、影踏むばかりにて久しうなりぬれど、いと覺束なくて參り給11へるなれ12ど、あさづまの心地してなん。

身を捨てし山邊にもなほ有るべきを今もまどはす君にもあるかな

校異 1イく、因ほ。2イべ。3イナシ。4因考異つ。5因思すアリ。6因ナシ。7異のアリ。8イにこ。9因とこアリ。10因う。11イふべか。12因ば。

國譯 丁

宮はせんまゝにと思[1]ふ給ふるこそ心ならぬやうにも」と聞え給へり。見給ひて御返[2]、「[3]見給ひつ。宮の[4]御事は、悪しきやうに言ひ騒ぐなりしかば、いとゞ昔の人の物し給はぬをなん哀に心細く思[5]ひ給[6]へし[7]。今も心ゆ[8]かびなく、恐ろしき世なれば、御宮仕[9]いなどし給ひて、後見聞え給はゞ頼もしうなん。民部卿殿に聞ゆる事有りしや。聞き給ひけん。なほ思し[10]たらば。よも後めたうは」と聞え給ふ。見給ひて、民部卿殿の物し[11]給ふに、「かゝる、何事にか侍る」と聞え給へば、「そよ。さる事有り[12]けり。姫君の御事ぞや。睦まじき人奉らまほしきを、事々しくはあらで忍びて局に物し給ふやうにて参らせ奉り給へと聞えよとなん、女御になり給ひし喜びに、彼所に物する人の参うでたりけるに宣ひける」[13]中に中納言、「苦しや。先々のやむごとなき人をだにも、あるものともし給はざなるものを、これらは何の事にかあらん。親の人数にて労るにこそ女は人とも見ゆめれ。か[14]ゝるいたづら人の子をば何にせん」民部卿「それはさしもあらじ。かの女御の御心に入れ給ふと見給はゞ、いと哀にぞ思さん。先々の人はあれど、皆中[15][16]どもの悪しければ、女御も心解けず物し給ふなれば、それに随ひて上も物し給ふ[17]を[18]な[19]か、彼所に労り給はゞ[20]いとよくぞあらんや。此の御服果てゝ、四月ばかりに裳など著せ奉り給[21]ふて出だし奉り給へ。[22]男も諸共にこ

校異 1因う。2因りアリ。3四字イナシ。4因考異君のアリ。5因う。6國ひ。7イはアリ。8イる。9因へ。10国立た。11イひにけ。12イナシ。13因ナシ。14イく。15國イ〱アリ。16イ々。17以下三字イなる、因考異なり。18以下二字イナシ。19国り。20イナシ。21イひ、異う。22因己ら。

そ参らせ奉らめ、たゞの人のさりぬべきもなし。宰相中将こそは昔より心ざし有るなどあめれど、1聞2き3給ふ4なに物思ふ人にこそ。さあらぬ若き人々は數多あれど、5させむやは」中納言「此の日頃6は五の宮7御文とて度々見ゆれど、世の中の煩ばしさに、物な聞えそとてぞ侍8(る)」民部卿「それはさるあだ人にて、女ありと聞く所にては、さ9う宣ふ10なる。朱雀院の二11宮12も思ひかけ13て、入りなどし給ふたれど、14男15集ひて夜實遊びをしつゝ起き居給ふたれば、上もこれ聞し召すとておはしますなれ16ば、さ17すとも帝の御前に18入りなどし給ふなれば、その折には人來んとて、兵士をまうけてぞ待ち給ふなる。一日左の大殿の宣ひしは、后の宮の、よくもし給はずば、此の皇子して名を立てさせて、恥を見せて、捨て給ひ19てはいかゞせん。子どもより初めて、いく20とあらむ人21申し加へて、此の皇子罷でさせ奉り給へと宣ひしかど、頼み給ふ22事の中にも、さ思ひたるも多か23んなれば、いかにあらん。かく生24憎25くおはする宮なれば、よろしく聞き給はゞ、たゞ入りに入りおはしなん。たほさ思はせ」「いさや。26心々にこ思はし合はせんに恥かしげなる者27を、同じ所にて見比べ給はゞ、士とた28に「〇玉」とのごとこそあらめ」「いで何か、

校異 1以下二字国見。五字国見る。2国考異え。3以下二字イ見る。4国る。5五字イナシ。6イナシ。7国のアリ。8一字イニヨリテ補フ。9イぞ。10国ノアリ。11国のアリ。12国をアリ。13国給ひアリ。14イ弟皇子。15国皇子アリ。16国ど。17イれど、国りと。18イ參。19国な。20国らも。21国をアリ。22以下二字国人。一字国ナシ。23国め。24以下二字国考異にて。25国心。26国所。27国も。28国ま。

此の君殊に劣り給はじ」中納言「いみじ1(き)事をも2 3し給ふかな。いかならん人とか思す。女一の宮こそ劣り給はずと聞きしか。それも4迎へ寝給へりしかば、氣劣りてこそ。世に類有るべき人に5もあらずや」民部卿「かたへは6見なしなり7給ふ人はさぞ見ゆるや。8歩きは怪しき9方ぞ10うにこそ11」など宣ふ。

書詞 此所は三條の西の方、民部卿中納言物參る。御前に12ちろして、13さがりなどして物調ず。割籠する物あり。これは東の方。御簾の内に北14方臥し給へり。姫君物參る。大人童多かり。姫君の御乳母の云ふ、「上の15内は人惱み給ふを、大臣の氣近う見給へば、いかなるぞとも聞えつべけれど16、もて離れ給へればこそ」まさご君の乳母、「芦の根這ふらむとも知らずや」姫君、「あな聞きにく。何事ぞや」など宣ふ。

かくて春宮參り給ふ日になりぬ。御車宮の御方に十、女御の御方に廿、絲毛六、ひら17かげ(○檳榔毛)廿、髫髮下仕へ車二つづゝ、18人賜どもはこれかれ出だし給ふ。車の口付ども、裝束19と20ものへ、容貌を選びて、十人づゝ21(付)けた22ち。宮の人賜は23褐の衣冠した24ち。あるは白25襲26白袴、あるは薄色の下襲、

校異 1一字異ニヨリテ補フ。2イ申アリ。3因宣。4因向ひ居。5イは。6イ皆知。7因思。8因吾君。9以下三字因御族。10イら。11因はアリ。12国手、因考異ふ。13イま。14因のアリ。15イ打ち延へ。16国もアリ。17イう。18イ出車。19国どもアリ。20イと。21一字イニヨリテ補フ。22国り。23イかたち。24イる、国り。25国銀。26イの箔散らしたるアリ。

裾濃の袴、心々にせられたり。女御の御方の人腸は狩裝1すく〔〇束〕、車ごとに心々なり。かくて春宮2は東の大路の前、大宮の大路に引き立てたり。宮の御車は飽かず氣に一、3車の大4きなるやうなり。黄なる御車牛懸けたり。御車添は嵯峨の院の庖の人の子なるを、丈等しく容貌有るを選びて十二人、掻練襲の下襲、5深い沓穿きて、後には宮の藏人、所の6樂ぞ仕うまつる。女御7御車は南の御8門三條の大路に引き立てたり。御車9らし〔〇牛〕黒10うて懸けたり。御車添、御方の侍の人十二人、葡萄染の下襲着たり。後に卅人仕うまつる。上達部、左11大殿の御子ども三人、源中納言12藤中13納言右大辨、大き大殿、御族は后の宮開し召す事有り14とて仕うまつら15ず。民部卿の御族は服なり。さあらぬ殿上人は四位五位なきなし。六位も目開きたる16は17なし。宮おはしませば、藏人ども宮の御車に奉る所に、さながら仕うまつり給ふ。御車の後に乳母二人、左大臣殿の君達は女御の御車に奉る。大宮いと參ら18せまほしう思せど、19罷で給はんが煩はしかるべければ止まり給ひぬ。一の人20だ21〔ま〕ひ〔〇賜〕は宮達の御乳母三人孫王の君。かくて出で給へば、皆人馬22す乗りぬ。次第司二人、車行ひつゝ、女御の君の御車の次には、御櫛匣殿23人腸さながら立つ。その次に萬づの宿徳乗りたれ24ど、女御の御方の人腸の後に25ぞ立26てける。宮達の御乳母の云ふ

校異 1舉ぞ。2イの御車アリ。3因韲。4因い。5イ線鞋靴顋、イ深沓、国深沓。6イ樂。7因のアリ。8因門。9イう。10因牛。11因のアリ。12国良。13国將。14イナシ。15イる。16国なき。17因なきアリ。18因ナシ。19イ參う。20以下三字國此の度。21一字イニヨリテ補フ。22イに。23国のアリ。24イば。25國イも。26國ち。

やう、「同じ御腹に生まれ給ひつる同じ宮に仕うまつれど、いかなる人の一の車に乗るらん」。我らいかなれば、宮のをさめみ1るはやうど〔○御厠人〕の後に立つらん」と腹立つ。孫王の君、「かの宮をかしづき聞え給へばぞや」と言ふ。大宮の大路より上り給へば、多くの左右の物見車2内まで3立てたり。夜静かに月の光り4のごとく5有り、御前6 7松8木9燒き燈したり。絲毛の車には御前六人、檳榔毛には四人、火燈せり。車の簾垂高く上げて、後口よりこぼれ出でつゝ乘り10たる人は、裝束容貌あらはに目出たし。物見車大將11中納言とを見て言ふやう、「これは名だたりし涼仲忠ぞな。目出たくもなりまさ12にたるかな」と云ふ。右大辨を見て、「これは藤英ぞかし。生きながら人の身13變るものなりけり。此の世にも14上士は有りけり」又ある女15藤の中將を見て、「これは16仲頼行正ぞな。いといみじく淸らなりや。哀れ源少將法師あらましかば、いかならまし。容貌心目出たかりし17を18はや。手を書き歌をよく讀みし19るや」と車ごとに言ふ。少將20 21妻母一つ車にて物見る。母、「22我が聟の君をほろぼし給ひてし人の、目出たくて物し給ふかな。23かかりける幸ひ人を思ひ懸け給ひ24せる25ぞ、お26ほけなきや」女、「さればこそ死に入りて久しかなめりしか。山へ入るとてこそ生き出でたりしか。そのかみ侍從なりし人だにかくなり給ふめれ27い、かの君28は今は大臣

校異 1 イか。2 イ打ち交ぜ。3 因考異てアリ。4 因書アリ。5 因なる、因考異て。6 因にテリ。7 以下二字因松明。8 因考異ナシ。9 因ナシ。10 イ給へげ。11 因とアリ。12 イり。13 イかほ。14 イ浮。15 国良。16 国ナシ。17 因ナシ。18 イナシ。19 イか、異は歟、国は、因考異ぞ。20 因のアリ。21 イ妻母。22 國イり。23 イ寝。24 異け。25 国は。26 国ふ。27 イば。28 因考異ナシ。

にもなりなまし」母、「かの大將のやうに、いかで。宰相などにはさも有りなまし。されど、君なればこそ、かゝる君達の打ち羣れて深き山邊を尋ねて、いみじう心ざしをして訪はれ給へ。その1奇德にぞ〔○こそカ〕かゝる面白き日をも見れ」とて皆泣く。女、

語らひて群れ2くる鳥を見る時ぞ殘れる袖も朽ち果てぬべき

母、

袖のみや朽ちははつらん君なくて見も見るかひの見えずも有るかな

など云ふ程に、御前は中の御門に到りぬれば、後は宮まだ近し。

かくて參り給3ひて、先づ春宮入り給ふ。御車に乳母二人4は侍ふ。今二人は藏人5廿人6と步み入り給ひぬ。梅壺に下り給ふべ7きと輦の宣旨申して、女御入り給ふ。御輦にては、宮達今宮の8乳母孫王の君侍ふ。後に大人六十人ばかり、童下仕へ步み、四位五位具した9る異君達皆10思す。かくて藤壺に下り給ひぬ。御送りの人男女罷で給ひぬ。

〔書詞〕11春宮參り給ふ12所。

かくて13先づ上らせ給ひて、月頃の御物語14、遲く參らせ給へる事など互に聞え給15ひつゝ16、まだ御殿籠

〔校異〕1イ御。2イつ。3因う。4イナシ。5因御供。6因などアリ。7因し。8イ御アリ。9因り。10国おは〻11国此所はアリ。12イナシ。13イ參う。14イにアリ。15イふ、かつぐ。16因考異かつぐ〳〵アリ。

らぬに、「1らし（〇丑ヒ二つ」と申すに、女御下り給ひなんとすれば、「暫し2罷り給へ」とて、「此の頃の夜は、かう言ひてもまだ暗し。

獨り寢し夜は待ちかねし時の間3の4憂くも今宵は思ほゆるかな

明け難かりしものかな」と宣へば、女御、

夜々は知りけるものを今宵しもなほさへ5憂く6はなどか聞くらん

上「うたて7うも言ひな8るゝかな。さりとも、打ちなす鐘の一など宣ふ程に明くなれば、急ぎ下り給ひぬ。すなはち御文あり。「只今9に、

歎きつゝふる夜もあれど朝ぼらけおきつる霜の侘びしかりつる」

女御、

明けぬれば雲の上にもとまらずておきゆく霜の寒きをぞ知る

と聞え給ふ。二10 11色、赤らかなる纏搔練の一12 13襲、織物の直衣、襷懸の御袴、今宮小紋の白き綾の御衣一襲奉りて、襷懸け14て、いと15たかしく16 17えて這ひ歩き給ふ。18 19御20上渡らせ給へば、皆出だし据ゑ

校異 1イう。2因待ち。3因考異を。4イとく、異うら、國うし。5イか、因と。6因考異も。7イく。8イさアリ。9イは。10国のアリ。11国宮。12イ重アリ。13イナシ。14イナシ。15イお、因を。16国肥アリ。17イナシ。18因女アリ。19国ナシ。20國イこゑ。

奉りて、乳母達は御几帳の後に並み居て、いづれの宮をか先づ1抱き給ふと、挑み2るはして見るに、二3宮遊び給ふを掻き抱き給ひて、御膝に据ゑ4つゝ掻き撫でつゝ見給ふ。御髮は瑩しかけたるやうに目出たし。肩打ち過ぎたり。御容貌いと目出たし。上「坊をこそ先づ見むと思へ。呼びに遣り5て給6え」と聞7へ給へば、「今、今日明日過して」と宣ふ。今宮の御乳母いとねたしと思ふ。二8宮9は、「され10ど11我こそ」とて12誇る。今宮何心もなくたゞ笑ひに笑ひて、二13宮に這ひかゝり給へば、上、「これ14は15類の人16は17など、これ18と憎くはあらねど、いたく我に物を思はせつるや」と19て宣ふ。

二葉にもまだ見えざりし玉鬘這ふまでまつぞ久しかりける

女御、

待つだにも苦しからずば玉鬘立つをぞ君に見せむと思ひし

上、「遅く参り給ひしかば、これをいと憎く、見じと思ひつれど、親の罪20と21思ふまじ22ものかな」とて、23掻き抱き給ふ。おはしまし暮らして、「夜24うさり參う上り給へ」とておはしましぬ。參う上りて下り給へば、「坊25呼びて据ゑ給へれ。此所に物せん」と宣26(へふ)。下り給ひて、左衛門の君に、「渡し奉り給27ふ。さ

校異 1イ抱。2イか。3国のアリ。4国て。5イナシ。6イへ。7国え。8国のアリ。9国のアリ。10イば。11イナシ。12イおこ。13国のアリ。14国も。15国考異たゞ。16イぞ。以下三字国考異ながらし。17国ナシ。18イも。19国考異ナシ。20イも、国をも。21国負。22イきアリ。23イナシ。24イナシ。25イにアリ、国考異をアリ。26一字イニヨリテ補フ。27イへと。

1「宣へ」と宣へば、大殿上2人などして渡り給ひぬ。知らぬ顏にて渡り給へば、いと〳〵おとなしう、細ついさして侍ひ給ふ。御髮は居長にて、いと氣高う淸らなり。「3今日これは聞きつるやうに、たゞ4の人には見えざりけり。親にこそいとよう似たりけれ。あいなう心さへ似るかな」と宣へば、女御、「いかゞ5は侍らん」上、「人の6ゝえ7持たるまじ8く、心強くこそは」と宣はす。

かく9來つゝ常に宮達を見給ふ。夜ごとに參らせ給10ふ、晝も11日々に渡らせ給へば、女御、「身一つ12候ふだに、ゆゝしく聞きにくき事侍ふものを、かく若き宮達引き連れて侍ふ事、いかにうたて有る事侍らむ」上、「今はさもあらじ。人々の心を遣りても、いとよくありぬべかりけるものを、思ひのまゝに有りてこそ院にも騷がれ奉りしか」など宣ひて、13女御14參う上らせ給へば、いと花やかに艶めかしくもてなし給ひて、世15中政治もいとかしこうせさせ給ふ16。御學問に心を入れて、御遊びも常にせさせ給ひて、いと17面白18し給ふ。19ほはなほ物20宣21い22ふれなどす。異人は參う上り給へ23と申し24なる事なし。人の御宿直の夜も、藤壺の御爲めには、さるやうにもあらずもてなし給ふ。25ひの宮は藤壺參り給ふべしとて罷出給ふに、

校異 1三字イナシ。2イへ具。3イげに。4國ナシ。5イさアリ、因考異はさアリ。6イナシ。7イふどか、国もどく、因考異もどかる。8因う。9因考異てアリ。10因ひ。11イひし。12イナシ。13イ巡にて。14因考異巡にてアリ。15因のアリ。16イてアリ。17以下二字イをかし。以下六字国をかし梨壺。18因うアリ。19因梨壺。20以下三字國のたはぶ。21イひ。22二字因ナシ。23因ど殊。24因考異給ふ。25国四。

さかな者はまだ參り給はず。1式部卿の宮のは、女御にならずとて父宮思し嘆くと聞し召して、度々召しければ、「いかゞはせん」とて參り給へれば、輦許され給ひぬ。時々參う上り給2ふ、春も時々渡らせ給ふ程に、十月ばかりより3姙み給ひぬ。父宮少し嬉しと思す。

かくて世4中定まりけり。太政大臣はさるやんごとなき一の人におはす。左大臣の大殿世5中を政ち、帝6も政治をあづけ給へゝやうして、聊かの事も宣はせではし給はず、奏し給ふ7とも否び給はず。大臣も、公の謗8と9あるべき事は10定め11 12ず13も、やんごとなき事14な15れ16ば奏し給はず。右の大臣をば心憎き恥かしき者の心ある人にし給ふ。右大將は公私にもかしこき者に思はれ給へり。さあらぬ人も調ひ17よし。新中納言萬づ人に惜しまれ、上もこれ宮仕18ひせさせてしがなと思す。

かくて年返りぬ。朔日の日朝拜聞し召す。二日朱雀院嵯峨の院に參り給ふ。三日朱雀院に行幸有り。大將思ひあるべければ、かうぶり賜19はせず。や20 21とたき者どもに賜ふ。これ22はたかうぶり賜はりぬ。次々の節會どもゝ皆聞し召す。内宴には23故中納言殿の御息所なり。容貌も淸げなり、ある中に下﨟に24もてまかなひ給ふ。

校異 1イ民。2因ひ。3因姙み。4因のアリ。5因のアリ。6イナシ。7イ事。8國イナシ。9イな。10国御爲。11因給はアリ。12以下二字イて、国に。13因ナシ。14以下三字国にても。15以下二字因らぬは。16イど。17因たり。18因へ。19國ひアリ。20因考異ごアリ。21イく。22イか。23国平。24イナシ。

司召にもなりぬ。女御奏し給ふ、「宮内卿忠安の朝臣は、よき官はえ賜はるまじき人にや侍らん」上「さも1え聞えず。よろしき人な2めるを、嵯峨の院の御爲めに過失したる事有りて沈むとこそ聞きしか」女御「さ侍らば、いと哀にて侍るなるを、修理頭のあきて侍る3なるにや4はなさせ給はぬ」上「など勞るべきやうやはある」女御「さも侍らねど、兵衛が親がたにて、常に申さすれば」など聞え給5えば、なされぬ。世6中にいみじき官得つるものかなと驚き騒ぐ。左7大臣、よき折に8さう（〇奏）し給ふ、「此の放ち遣はして滋野9ますをはさ10るわ人に侍りしか11ば、その罪を後まではかうぶり侍12（る）まじ。かく御代の初めなどには、天下の罪ある者を免させ給ふなる。13あの男ども14が哀にて侍るなる、召に遣はさんはいかゞ侍らん」上「ともかうも知らざりし事なり。これかれよろしう定められて、有るべからむやうに物せられよ」と15給へば、喜びて皆召に遣はす。

かゝる程に16（17嵯峨18の四の宮男19宮生み給20ひぬ。大后宮）かゝりけるものを、今宵し坊定ま21りざらましかばと思す。御22らぶ（〇産）屋23いとに24（なく）、所々より御産養例の作法なり。三條25院よりもいかめしう仕うまつり給ふ。

校異 1因ナシ。2イナシ。3イナシ。4イナシ。5イへ。6因のアリ。7イのアリ。8イそ。9国眞菅は、因眞菅。10イかしき、因けしき。11因ど。12一字イニヨリテ補フ。13因か。14因の。15イ宜。16十六字国ニヨリテ補フ。17三字因ナシ。18因考異院アリ。19因皇子。20因考異へり父帝。21イら。22イう。23因考異ナシ。24二字イニヨリテ補フ。25因のアリ。

【書詞】此所は嵯峨の院1 2●日の宮の御方3●にて。修理頭は覺えぬ喜びして、驚き喜ぶ事限りなけれ4●ど、出でゝ歩かんとするに、5●年老い6△こし〔〇牛〕車裝7△ずく〔〇東〕もなし。直衣裝束は女著せたれど、袍8●はなし。女形身にせんとて、少將の裝束一9●具持たりけ10●ろ、取11●む出たれど、袍は12●え13●き●か●ま●じ。とかうたばかる程に三日も過ぎぬ。辛うじて所々に喜び申すとて14●言●ふ、「こゝ15△ちの年頃、公に捨てられ奉りて、16●猪17●妻●子を賣りて、世18●々に悲しく侘びしき目を見て、僅かに侍る女の童の19●弟に侍りし山伏の、苔の衣を脱ぎ、松の葉を包みて、深き山よりとぶらひ侍る20 21●も22●分ちて養ひ侍るにかゝりて、一人の從者も侍らず、衣裳も侍らで籠り侍る23●に、明王の出でおはしまして、かく罷り浮びたる喜びを、す24△れはち25●奏●せんと思ひ侍りつれど、26●とかくの27●事28●ほ●て●い●し侍りつる程に、今までになり侍りにけり」と申すを、異人は29〔なほ聞き給ふ。左の大臣、「げにいと怪しう沈み給ひつるを〕いかに思はれつらむ。此の御喜びは、兼雅らには30宜はじ。春宮の女御になん返すぐ申さるべき。かの女御こそ度々申されけれ。異人數多有り、かの御同胞の31●右大辨、兼けて仕う

【校異】1 図のアリ。2 国四。3 国かく。4 国ば。5 國イ御。6 イら。7 イぞ。8 イも。9 図具。10 国り。11 異ふトアリテ下ニ「板」ト記セリ、国う。12 以下五字図元よりなし。13 以下二字イ著る、国ざる。14 イ出づ。15 イら。16 以下三字国諸資財。17 一字國太。18 国ナシ。19 イ夫。20 図考異をアリ。21 イを、図物を。22 図考異ナシ。23 国を。24 イな。25 図申さ。26 イナシ。27 イ如く。28 図ども出で。29 廿四字図ニヨリテ補ス。30 イえアリ。31 国左。

まつらむと切1〔に〕申されけれど、2めし〔○主〕を申しなされけるとぞ聞きしか」修理頭驚きて、「3な4わ〔○何〕の故にか女御さ奏せしめ給ひ5なむ。わた6かし〔○私〕事には侍7りと、8仲頼9のあそ10ひ〔○朝臣〕の山に籠り籠り11しも、かの女御によりてとて、童べの侘び申す事を聞し召す所や侍らんと畏まり侍12りて、13さい〔○忠〕安は、14男の好色と云ふもの15は怪しきものに16侍17り18ければ、お19ほ20せたき心の侍りて、身をも亡ぼし21て侍るにこそあれ。女御知り給ふべき事にもあらずと愚なる心にも制し侍るを、身のた22ゝりなきまゝに申すなり」大臣「男23子の24氣25はさ26ぞあるや。女あると聞けば、天27下28 29仙人も30さらなら31すさめれは32わ33うぞ。かの女御34は35有識にて、さやうの事を思し36て労られたるにこそはあらめ。新中納言御37腹を越してこそは物せらるなりしか。彼所に蔵人の少将などして申させ給へ」と守38へば、

書詞39此所は右大臣殿の御方。修理頭40六十ばかりなり。宮大臣に梨壺の御文見せ奉り給ふ。「此の

校異 1一字イニヨリテ補フ。2イめ、底考異ま。3以下二字イこゝばかり。4イに。5イけ。6イく。7イれど。8異申。9底考異ナシ。10国む。11イて。12底る。13国た。14底男。15イナシ。16国てアリ。17以下二字底ナシ。18二字国それは。19国ふ。20イけ。21イナシ。22国よ。23国ナシ。24イ好色。25以下二字イ業も。26国も。27国上の。28底考異のアリ。29底天女を。30以下六字イ御門樹、底考異御門ならざ。二字底持て、國イさめ。31すざ、底さす。32イに。33国こそ。34以下二字イ有。35底有、36底考異ナシ。37イ同胞。38イへど、底ひつ。39廿字イナシ。40異年アリ。

頃1はな参2で給3はう。藤壺隔てもこそ思せ」「今衣更の程に物せん」とて、生まれ給ひし宮の、脇息を押さへて立ち給へるを、抱きて歩き給ふ。

か4うぞ督の大殿の御方に大将参うで給ひて、「猶申すべき事の侍るを、とく渡り給ひなんや」北5方「此の晝ぞ参うで侍りぬる。夜は6殊にも泊り給はず。かの宮見奉りにぞかく晝間には」大将「此の東には物し給ふ7や」北8方「わざとにはあらで、夕暮夜の間にぞ9來し隠れせらるなるや」大将「さ思すべき人にこそは。年頃いかに思10るつらん。かのあ11をち〔○按察使〕の君なども、いと目易き人にぞ有りける。かゝる人どもを見捨てゝ、いかで物し給12ひつらんとこそ。屡々参り來べきを、彼所に疑はしき程になり給ひぬるを、人少なにて、心ぼ13そ〔○細〕げに思したればなん罷り歩きもえせぬ」北14方「げにさ15ぞなり給ひめらん。参らんとするを、按察使など憎しと見むと思へば、恥かしくてこそ。院の16は、などか17今までは罷18りて給はざらん」「いさや、かの二19宮20を、五の皇子の世を世ともし給はず、帝后も聞え給はぬ人の、いかで21取らむとのみ22し給ひて、罷で給はずともかくもせんとのみあれば、里にも、え。さらぬ人知れず盗まん23入らむとのみあなれば、それに怖ぢてえ罷で給はぬぞや。藤壺の、さばかりのゝしられ給ひしかど、

校異 1 国に。2 イうアリ。3 イはず、国ひそ。4 イうて、国くて。5 因のアリ。6 イ此所。7 イなり。8 因のアリ。9 イこうじ〔○小路カ、困じカ、勘じカ〕、因考異格子。10 因ひ。11 イぜ。12 因ふ。13 イそ。14 因のアリ。15 國イう。16 イ上アリ。17 國イいまして。18 イで。19 因のアリ。20 イナシ。21 イ止。22 イ見。23 三字イナシ。

情1づき、人の御返事申2すべき、えすまじきは、さてこそあらまほしくて得給ふなりしか。これ3は物騒がしくぞあるや。さては得ぬものと懲りにたるにこそはあらめ。さてのみあらむやはとて、明日ぞこれかれ大事4して迎へ奉り給へるな5り」と聞え給ふ程6は、大臣おはしぬれば、御物語など聞え給ふ。

〔畫詞〕7此所は右大臣殿。

かくて御迎へに、大臣君達出で給ふ。左衛門の督の君、「何か。參り給はずとも、忠純は參りて罷出させ奉りてむ」大臣、「8しかれど一所をだに9我らかし10へき奉るべし。況むや七所の孫の宮達迎へ奉りたらんに、何の事11とかあらん。宿徳作らず間に、事惹き出でてはえかひもあらじ。我主達の御心も知らず、若き男女12親同胞13と14伍し給ふ、易く思ふべきにもあらざりけり」と宣へば、宰相中將打ち笑ひて、「聞し召し懲りたる事やあらん。さやうに好いたる人も今15は侍らぬもの16お」とつれなく言ふ。下には、いかで此の折に盜まむと思ひたばかる。藏人の少將は物も言はで、下りて入り給ふらむ程に入り臥しなん。17際に殺されむやは。又さらばさて死なんと思ひおはす。かくて皆出で立ち給ふ。大臣「私の大事18は此の事に19似まさるはあらじ。此の事かく同じ心にし給はざらむを20怨み申さむ」民部卿源中納言右大辨參うで給ふ。上達部は

校異 1イな。2イしつぎ。3イらアリ。4國イナシ。5因る。6イに。7七字イナシ。8イ彼と、因考異さば。9国彼。10イづ。11イナシ。12イナシ。13以下三字イ同じ。14一字因具。15國イナシ。16イを。17イ上、因まさ。18因考異ナシ。19因ナシ、國イぞ。20イげアリ。

御馬にて、御前、弓胡籙1 2を〔〇負〕3いたる4者を5のかしと數多して、衞門督宰相6など7は馬にて參うで給ふ。朱雀院の御門には后の宮8をはすれば陣9居たり。御車も寄せさせず。御門に引き立てゝ參り給へり。上おはします。女御、「罷出侍りて10さらむた11いら〔〇平〕かに物し給はゞ、いととく參り侍りなん」上「かく大事12して物せらるれば、賴もしきものを。されど今日やむごとなき迎へ人ども賴もしくあめれば、男皇子達はな13率て物し給ひ14て15そ。いとさうぐゝしか16ゝむ」と宣ふ。上思はす17心有りて制し宣18わせて、御車近19ふ寄せさせ給ふ。左20大臣右大將左衞門の督近く侍ひ給ふ。五21宮いと22仕叢なき氣色にて、23うつ立ち給へ24り。25前より二の宮の御許へ、たゞ入りに入り給26ふ。「何方27に28。あなさ29は〔〇騒〕がし。かの太政大臣30大將の朝臣の31みにぞ。いと怪しからずや」とて引き留め給へば、涙を流して、たゞ泣きに泣き給ふ。「など皇子のあやまりて見ゆる。32思33ひ心あらば我にこそ言はめ」と宣へば、涙を拭ひて侍ひ給ふ程に、皆引き連れて出で給ひぬ。御車の左右には、大臣大將の御車を引き並べて、御前34の君達打ち圍みておはしませば、此所35に彼所に、ひたぶる36の裝束したる者ども打ち群れつゝあ37ふ、寄38り39べく

校異 1 因考異をアリ。2 イお。3 イひ。4 以下六字イ男子ら、因男ら、因男ども、因考異者男ら。5 以下二字國がさじ。6 イと。7 因御アリ、因御アリ。8 國お。9 イ湯。10 イ御產。11 國ひ。12 因と。13 イ出で。14 國ナシ。15 イば。16 イら。17 イはアリ、因御アリ。18 イは。19 イう。20 イのアリ。21 因のアリ。22 イしけ、国しどけ。23 イ上。24 因る。25 イ御アリ。26 因考異ひつゝ。27 イぞ。28 因ぞアリ。29 國わ。30 因はアリ。31 因見給ひて。32 以下二字國イナシ。33 イふ。34 イに。35 イナシ。36 因ナシ。37 因れど。38 イる。39 因來アリ。

もあらね1ど隱れぬ。大將、宰相の中將藏人の少將のな2に3を、これは皆4疑はるゝやうあらん、此所5な6はらなれぬ。彼等ぞ煩はしきと思ほして、御車を引き分れて、走り先だちて、宮に下りて、入りて見給へば、宰相の中將、かゝるわざの爲めに片時に千里行く馬立て飼ひ給ひけるに、鞍置き7にて、や8んごとなく睦まじう仕うまつり給ふ四人、9かえさぬに10わらこへはきて隱れ立ちたり。をかし11と見12て、上に上りて見給へば、御車寄する程にあたりて、13たゞ參り、見ぬやうにして入りて、脂燭をさして14入りて、御帳の內その邊を廻りて見給へば、藏人の少將直衣姿にて、壁代と御障子との間に立てり。いとをかしと見15て、待ち奉り給ふに、おはし著きぬ。御車寄せて、御几帳さして、「早下りさせ給へ」と聞え給へば、大臣左衞門の督と立ち給へば、女御の君、「あな見苦しや。此所には恥ぢ奉らず。物恥し給ふ人此所に物し給ふめり」大將「宮達もおはしまさぬをとて侍ふなり。仲忠をばな疎ませ給ひそ。16日を暗うなさね」とて、御17松明も暗うなさせ給へば、さるやうこそ18あらめとて、先づ下り給ひて、宮達下し奉り給ふ。大臣左衞門の督御几帳さして入り給へば、大將後に立ち入り給19へば、やがて御座所へも入れ奉り給はず、一の宮の御方におはしまさせて、御帳の內に入れ奉りつ。宰相の中將20の、「大將21今日盜人の氣色を見てするにこそあら

校異 1 イば。2 イき。3 因に。4 因たばから。5 以下四字イをば離。6 一字國イが。7 因ナシ。8 因ナシ。
9 イ狩衣。10 イ草鞋。11 国く。12 イえアリ、因給ひアリ。13 因立てり。14 三字因ナシ。15 因給ひアリ。
16 イ火。17 イ松明。18 異はアリ。19 因ひて。20 イナシ、因こは。21 因のアリ。

め。宮達もお1かせて、いとようたばかりつべかりつるものを」とて、齒嚙をして出でぬ。少將もすべり出でて去ぬ。つとめて2はつれなくて皆出で來たり。大將見合はせて、いとをかしと思ひたれど、いとまめやかに3て、氣色いと惡しくて、宰相の中將居たまへり。

かくて五の宮、彈正の宮の膝を枕にして、夜一夜泣く〳〵物語して、「まろをばいかにせよとて、4此の宮をば罷出させ奉り給へるぞ。かゝる心ありとて、宮も月頃は見給はず、上もよからず思したれど、それも思はず。宮5の我を子にして助け給へ」6など宣ひ明して、つとめて御文書きて、「これ御文の中にて奉り給へ。まろを7もよも憎しと思はじ。8見る人に憎まれぬ人を、宮達に9ぞ思しつらん」と宣へば、彈正の宮10の、「此所にこそ人に憎まれ11て獨りのみ侍れ」五12宮「あなしれや。同じ心なりけむ人を、何につゝみてたゞにはあらじぞ。わりなくて13も、物をだに言ひそめ14いれば、15人16こそ我17をいかでと思ひたれ。何れの男か人を思18かひ懸けて、それに19こして一人はある。上の御心を思はずば、宮をも今迄かく思はましや20は。21上は萬づの事憚22へざりしかど、捕へて23まつり給ひにしかばこそは、え見合はせ奉らずなりにしか」彈正の宮「中納言の女のもとに御文遣はす24聞きし25は、それこそ人も見つべう聞ゆれ」五の宮「よ

校異1イはせで。2イナシ。3因打ち語らひ給へば。4因考異二。5因に。6四字イナシ。7イば。8因皆。9因も。10因ナシ。11イナシ。12因のアリ。13イナシ。14イつ。15因そのアリ。16因をアリ。17因ナシ。18イナシ。19イ倦じ、因憂く。20イナシ。21イ昨夜。22因え。23因參。24因とアリ。25因考異か。

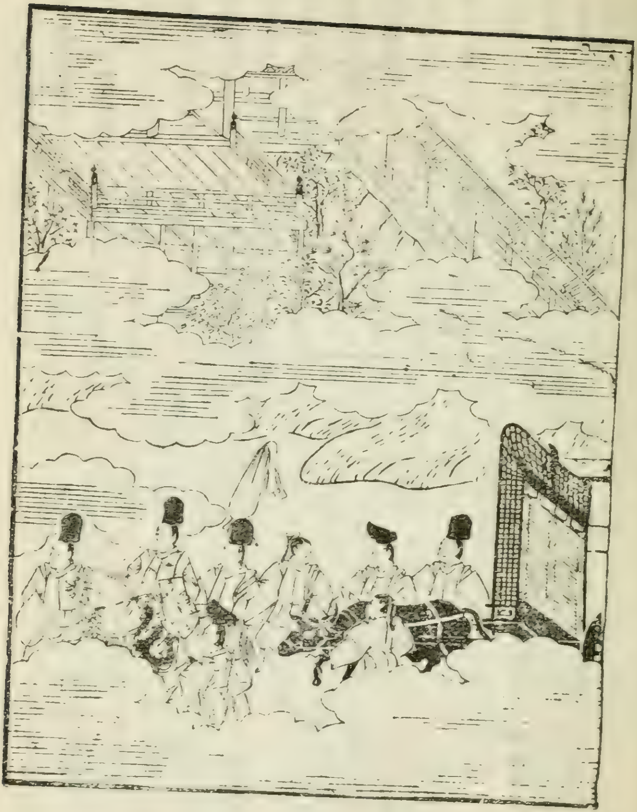
しと人の言ひしかば、文遣りしかども返事もせず」[1]兒宮「なほそれを宣へかしと云ふなり。此所にもかくてのみやは侍らん、い[2]る見むと思ひし[3]を、さ宣ふと聞きしかば」五の宮「[4]二の皇子を賜べ」「[5]それは讓り聞えむ」などて、「此の文をとく／＼」と宣へば、二の[6]皇子の御許に御文書き給ふ。「夜の間[7]はいかが。昨夜御送りもえせずなりにしをなん。た[8]いら〔〇平〕かにや[9]。覺東な[10]んなん」とて、「これはいと哀に宣へば、いとほしさに奉るなり」と書き給へり。見給へば、[11]二の皇子の御文には、「昨夜は御供にと思ひしを、淺ましく[12]此の許させ給はずなりにしかば、中空になん。

　歸り行く鴈の里へと思ひしを雲に[13]迷ひて獨り[14]寢もなく

今そこに參り來む。分いても近き守どもこそいと恐ろしけれ」と聞え給へり。二の[15]皇子見給ひて、「あなうたてや」と宣ふ。女御[16]君見給ひて、「げにさもし給ひてまし。あな煩はしや」など宣ふ。宰相[17]の中將藏人の少將など、今は氣色[18]も出ださで、女御の君に[19]は見[20]へ奉り給はで、參うで語らひ[21]給ひつゝ、萬づの事心ざし深う仕うまつり給ふ。

かくて大將殿は宮の平かにおはしますべき事を、神佛に申させ、所々に修法などせさせ給[22]ふ、[23]產屋[24]の

校異 1國あさ。2イかで、國かど。3国かども、国考異かど。4国此。5イければ。6国宮。7国ナシ。8国ひ。9国考異はアリ。10イくて、国く。11国近。12国上。13国考異まど。14国音ぞ。15国宮。16異のアリ。17国ナシ。18国にアリ。19国考異ナシ。20国え。21イナシ。22国ひ。23国御アリ。24イを。



1ありしよりも淸らにして待ち給ふに、2十月と云ふ上の3十日過ぎぬ。人々心もとながり給ふに、中の十日も過ぐれば、萬づかしこしと云はるゝ僧都僧正申し集めて、不斷の御4修法七八壇せさせ給ふ。眞言院の律師5くて、くざく〔○孔雀〕經の御修法行はせなどして思し騷ぐに、廿三日の晝つ方より惱み初め給ひて、そのよ6く一夜惱み給ふ。いとほしがり騷ぎて、大宮督の大殿渡り給ひて、明る日一7〔日〕惱み暮らし給へば、民部卿の北8方、大殿9にこそ見給ひていくばくもなければ、あ10へ物にとて聞え給ひければ、渡り給ひぬ。宮の内より初めて、左右の大殿、朱雀院より修11行の使乘り連れて行き違ひつゝ、初瀨壺坂12まで萬づの所々に參うで、左右の大臣御子達も皆おはしましぬ。萬づの人皆簀子に居並み給へり。

かゝる折に、人々さ13はぎ14く〔○騷ぎて〕、しづ心あらじと思ひて、例の君達15をば乳母を語らひて、萬づの財16物を取らせて、「日だに暮れば盜ませよ。17何れよ」とて暮るゝを待ち給ふ。朱雀院には、帝安くもおはしまさず出で入り18思ほし歎きて、おはしまさんとすれば、19后の20腹立ち21てのゝしり給ひて、いみじき事をし給ひて、「此の盜人22知らなん」と手23打ちて宣へば、御心を破らじとて、えおはしまさず。五の宮、「彼所の人24をくさ25は〔○騷〕ぎ26來たらむ。此の折27 28は盜み29にてん」とて、日の暮るゝを待ち給ふ

校異 1因考異樣アリ。2国二。3イ十日。4国修。5イし。6イナシ、国夜。7一字イニヨリテ補フ。8因のアリ。9イの子生み。10国え。11イ經。12因ナシ。13国わ。14イて。15イは。16イナシ。17国入。18国をもアリ。19因后。20因宮アリ。21因ナシ。22因死な、因考異死し。23因をアリ。24イ多く、因々、因考異々多く。25国わ。26イナシ、27因考異にアリ。28因に。29イもして、因出で。

をも知らず、女御の君より初めて、宮にかゝり奉り給ひて、1まどひ給ふに、二の宮は何心2もなくて西の方に人少なにておはす。一の宮罷出給ひし夜の事を聞き給ひにしかば、さるいみじき御心にも、「二の宮3おはして我を見給へよと聞えよ」と宣へば、さ聞ゆ。宮4の御方々を5 6聞え給ひて、まどひて泣く／＼入り給へり。「此方寄り給へ。我7が許な退き給ひそ」とて据ゑ奉り給8ゑるに、心知りたる人々はいみじく泣く。その夜いと恐ろしく病み明かし給9へ、その日の晝つ方よりをさ／＼物も宣はず、たゞ萎へに萎へ臥し給ひぬ。女御10君巽も惜しみ給はず、伏し轉び泣き給ふ。大宮、「あなかまや。かく宣へば、いとゞ湯水も參らず11まどひ給へば、我も死なんと泣き焦れ給ふめり。數多12もしまつる族にたに、かく宣はするを、まして只一人持ち給13ひつる父母、いかゞ聞き給ふらん。誰もかゝる日をこそは見しかど、今まではあらずやは」と聞え給へば、「數多おはすれど、此の宮をば、ち14ゐ〔〇小〕さくより、15聲の限りなくかなしき者にし給ひて、簪持ちたる心地こそすれと宣ひつゝ、年頃見ぬ事と思ほし嘆きて、迎へ奉り給ひしにも參り給はざりしを、いと口惜しと思ほしたりしものを、今一度見せ奉らずなりぬるにやあらむと思へば、いみじう悲し16きなん。此の宮により奉りてこそ17己を18も人19にも思したれ。片時も見奉らではいかゞはあらむ」と泣きま

校異 1 因心アリ。2 因ナシ。3 イにアリ。4 因數多アリ。5 イ恥ぢアリ。6 因考異こえ。7 イを。8 イへ。9 イひつ、因考異ひて。10 因のアリ。11 イとアリ。12 イ持給へ、因持ち給へ。13 因へ。14 国ひ。15 イ上。16 イう。17 国はアリ。18 因ナシ。19 因と。

どひ給ふ。朱雀院より御使、「只今も、いみじう聞きつる1は、いかなる事にかあらむ。定かに宣へ。いと口惜しく、年頃いと覺束なく思ひつるを、かく云ふかひなかなる事。只今物せんとするを、男ども一人もなく、皆そこに物しにければなん。心の中に、己に逢ひ見むと念じ給へ。此所にも限りなく2念願し侍る3を4と聞き5かせ給6〔へ〕」と有り。大宮見給ひて、「かくなん」と申し給へば、「ねたく召しし7ほり〔○折〕參りなんとせしものを」8息の下に宣ふ。大宮御返、「畏まりて承はりぬ9る。仰せ言賜10ひつる人は、此の晝つ方より物も宣はず。11事頼もしげなくなむ。かくても平かにあるものとは思12ふ給へながら、心細くなん。かくなんと物し侍りつれば、參らずなりにける事13なん聞え給ふ」とて奉り給ふ。大將14ぞ衣15は脱ぎ16も敢へ給はず、直衣などの上に水を浴みつゝまどひ給へば、人々脱ぎかへさせつ17ゝ、18にはかに出でて、大願を立てゝ申し給ふ、「此の人え免れ給ふまじくば、己を殺し給へ。片時遲らし給ふな」と伏し轉び泣く、贊子に上達部御子達おはす。ありと有る人は立ち並みてぬ19る〔○額〕づく。朱雀院の御使は、降る雨の脚20ごと21、參りて22は立ち並みて有り。萬づの所々の御使有り。左右の大臣下りておはして、「などか、かく23見え給はぬものを、心弱く24見え給ふ。萬づの事心を靜めてこそ25」と26く集まり27て上りて、父大臣、「女に

校異 1 因考異ナシ。2 因なむ。3 因ナシ。4 因考異ナシ。5 因え。6 一字イニヨリテ補フ。7 イを。8 イとアリ。9 因ナシ。10 イへ。11 因いと。12 因う。13 因とアリ。14 イ殿。15 国も。16 国ナシ。17 因ナシ。18 因庭。19 イか。20 異のアリ。21 国にアリ。22 イナシ。23 因もアリ。24 因はアリ。25 イはアリ。26 イて。27 因ナシ。

もまたも逢ひぬるものにこそあれ。親こそえ逢はざむなれ。よしや兼雅をばさも思ふらん。かたのやうなる女子も有り、1親をばいかにせよと思ふぞ。昔2は忘れにたるか」と宣へば、「女親にはた3似るに随ひて仕うまつり侍りにき。殿にまだえ仕うまつらぬ。仲忠が4代りには犬を噛みさせ給へ。女子なれ5は、たゞにはあらじと見給6ひつるものなり。いとよく仕うまつりなん。此の君いたづらになり給はゞ、やがて淵河にも7落ち入りて死に侍りなん。更に遅れじ8とす」と聲も惜しまず泣けば、督の大殿、「日もこそ二つあれ。一所を親君と頼み奉る我が子に9は、などかかくは宣ふ。我が子の御代りに我こそ死なめ」と伏し轉び給ふ。左の大臣10は「11己は必ずかゝる日をぞ見る。左衛門の佐の折になんかゝる目見侍りし。人のかなしう覺え侍りしよりも、嵯峨の院の思し召しけむ事を思ひ侍りしなむいと辛かりし。これも院のかく思し騒ぐらむを聞き給ふらん所苦しう覺え侍らん」大將「それまでも12思し侍らず。かの御身のいみじきをのみなん。御方方物し給ふとて、あたり13えだに寄せられねば、御面をだにえ見奉らぬ事」と宣ふ。左の大臣14打ち笑ひ給ひて、「かゝりける御中を、初めは心ゆかず思ほして、勘當せられしはや」と宣へば、人々笑ふ。「物な思しそ。正頼生け奉らん。人の疲れにたるならむ。かやうの事は、人疲れぬ15れば、かうも有り。己廿餘人の子どもの親なり。こゝ16らの御子達は、誰が17 18をも〳〵、居立ちてなむ生ませ奉りし。先づ湯參れ」と

校異 1イ女アリ。2宮ナシ。3イふ暁、国あ。4異かばか。5イど。6宮へ。7國イナシ。8イナシ。9宮て。10宮ナシ。11イ男。12宮覺え。13イへ。14イナシ。15国例。16イら。17宮考異のアリ。18国の。

て、大臣は湯、父大臣は物取りて、食かせ給へ1ばえ食かせ給はず。辛うじてこしらへて、參りて、「2いませ給へ」とて率て入り3て、「人々暫し入り給へ。此の主え見奉らずと佗びまどひ給ふ。入れ奉らん」女御4君、「何か。口惜しうなり給ひにたるものを、今更に」と宣へど、人は出で給ひぬ。二5宮は添ひ6／＼おはするに、小さき几帳7立てたり。女御8君、「己は物の恥も知らず、先にいとよう見給ひてしものを」と宣へば、入りて9も見給ふに、いと御腹高くて、息づき臥し給へり。大將「我が君はいかに10侍れとてか、かくは臥し給へる」とて、掻き起して湯參り給ふを、え參らねば、「ともかくもなり給ふとも、仲忠が心ざしと、御湯聞し召せ」と泣く／＼聞え給へば、一啜參る。お物一口く11しめ奉り給へば、食き給ひつ。喜びて、脇息に凭かけて、掻き抱き上げ給へば、心し12うひたる人13に抱きつきて侍る。大臣弓走り引きて、打ち聲作り給ふ。大德達14近う侍へど、加持高うもせさせ給はず。「弱き人はそれにまどひ給ふものぞ」とて、密に讀ませ給ふ。眞言院の律師一人いちはやく誦む、いと念し。大臣、「かゝる折には人多くな侍ひそ。騒がし」とて、御湯度々參りて、弦打しつゝ聲15作り居給16ひつるに、とら〔〇寅〕の時ばかりに17、いか18／＼19に20泣く。驚きて女御探り給へば、後の物平かなり。臥せ奉りて、大將やがて添ひ臥し給ひぬ。内侍の典、「仕

〔校異〕1国ど。2イ居さ、国いざさ。3國イナシ。4国のアリ。5国のアリ。6国て、國イナシ。7イ陽。8国のアリ。9国ナシ。10國しアリ。11イく。12イら。13国拘。14イ長。15國イく。16イへ。17国考異生まれ給ひぬアリ。18国ナシ。19国と。20国かくなど。

うまつるやうあり。怪し」と聞ゆれば、「なほさて仕うまつり給へ」とて起き給はず。笑ひて、物など著せ替へ奉りて、「いと怪し。なほ起き1かせ給へ」と2集まりて聞ゆれば、3右4大臣、「よかんめり。なほ休ませ奉れ。いみじくまどひ給へる人なめり。先づ湯参れ。そも〳〵何ぞ」と問ひ給へば、5「翁」と6云ふ、心7地よげに内侍の典申す。「あなむ8つけ。はや追9い遣れ。いと恐ろしきものなり」と宣へば、督の大殿、「さらば賜はりて率て罷りなむ」と宣ふ。10「何か。暫し。今見11る」と宣ふ。大将、「いみじき目12見13給14ひつるものを、何か見給ふべき」と聞え給へど15「何か憚かるべき」とて許し給はず。御臍の緒切りて、湯殿参る。講師文誦む。左の大臣お物湯につけて、先づ大将の主に参らす。「いみじう16答へ給へ17道理や。よくもあらで数多侍18(る)が、一人缺けに19あるだに、いかゞ思ふ。御後見しに参りつるぞ」とて参り給ふ。かくいみじう20病み給21ひつれど、生み給ひては殊なる事もなし。たゞ22事なく御身すくみてぞおはする。朱雀院に御使参りて、委しく奏す。限りなく喜び給ひて、萬づの物多く奉り給ふ。左の大臣、「いたく煩ひ給ひつ」とて、例の御手づから君達引き率給23ひつゝ、物調じて24給ふ。例の御産養所25により有り。御産屋いと面白ういかめしけれ26ば、大将入り臥し給へれば、27ある事もなし。女御殿もえ入り給はず。

校異 1 国さ。2 イあや。3 因左。4 因のアリ。5 因すけアリ。6 国いと。7 因ナシ。8 イくアリ。9 イひ。10 イ宮アリ。11 因む。12 因考異をアリ。13 因考異せアリ。14 因へ。15 イもアリ。16 国いられ。17 イどアリ、因るアリ。18 一字イニヨリテ補フ。19 因た。20 因悩。21 因考異へ。22 因異アリ。23 國はゞ。24 因奉りアリ。25 イゞ。26 因ど。27 因興アリ。

督の大殿のみ夜晝仕うまつり給ふ。御達、「犬宮の御時面白かりしを、此度は覺めたりや」と云ふ。

かくて七日過ぎぬれば、督の大殿宮に聞え給ふ。「少し1さ2かだち給はゞ、院に參り給ふべかなり。御方とく參り給ひなん。此度の3いなを4しか5な。翁率て罷りて、つれ〴〵とさう〴〵しくて侍るに、もてかしづき6てさにらし奉らむ。ゆかしく思さ7ぬ時に、率て奉りて御覽ぜさせん」と聞え給へば、大將も、「いとよき事なり。悔8しとも、常に參りて見侍りなん。ご9くな〔○御覽〕ぜんと思さん程には、迎へて見せ奉10くむ」と宣へば、宮、「いさや、かく恐ろしき事なれば、また有るべくもあらぬを、11あ12かをこそは。犬がもてあそびにもとてぞや」「さらば何かは」と聞え給へば、乳母湯13殿。内侍の典引き率て罷出給ひぬ。

かくて大宮も大臣14渡り給ひて、萬づの物調じて奉り給ふ。大將、「いみじう煩ひ給15へれば、御髮や落ちんと思ふこそいとゆゝしけれ」宮16は「さるは、少し人17人心地おせば院に參ら18せんと思ふものを、かくて止みぬるにやあらんと思ひしかば、いと戀しく覺え給ひしものを」「それも見所有りて、人のやうに物し給ひしかば、それを思してゆかしがり聞え給ふにこそあらめ。今はか19いた20らむや、見え奉り21給ひぬべしや、見奉らむ。起き給へ」と聞え給へば、「さらば見よ」とて起き給へり。大將打ち笑ひて試みに、「向ひ22居給

校異 1 國イ御。2 國わ。3 國は。4 國ノ〵アリ。5 國る。6 國ぐ。7 國な。8 イく。9 イら。10 イら。11 以下二字國吾兒。12 イそ。13 國參る。14 國もアリ。15 國ひつ。16 國ナシ。17 イナシ。18 國ナシ。19 國ひ。20 異かアリ。21 國考異ナシ。22 イナシ。

へるこそ1常なけれ」とて、御髪を掻き撫でゝ見給へば、落ちげ(〇氣カ、毛カ)もなく引出たし。かくて少し痩せ青み給2ひつれど、いと淸らなり。「かくながらも惜げには見奉り給は3ずとも、今少し人となりてこそは。暫し念じ給へ。衣更の程にを參らせ奉らん。我が君、かくて見奉るこそ、いたづら人4見奉りたる心地5すれ。死にて臥し給へ6もし7ざるよ。何れの世に左8大殿の御心を忘れ9ん」宮、「物も覺えざりしに、律師の加持せしこそ、遠く聞えて、助かる心地せしか。いかで此の喜び言はん」大將、「今よく物し侍らな。いといみじき人なり」など宣ふ程に、左近の乳母と云ふ、騷がしげなる氣色にて、出で來て申10(す)やう、「いと恐ろしき事をこそ聞き侍りつれ。二の宮の越後の乳母11は、宰相中將に盜ませ奉らむとたばかりて、多くの物賜はりにけ12る13は。大きなる瑠璃の壺に黃金一壺入れて、沈の衣箱に絹綾入れてこそ賜はりにけれ。かゝる事知りたる下衆を、はかなき事にて打ち14おほひ出でければ、腹立ちて言ひのゝしりければ、皆人聞き侍りつ。先々も多くの物得てけり」と聞ゆ。宮、「さればこそ。それを思ひて、一夜も15入れ奉りしぞかし。あなかまや。聞きにくし」大將、「何事ぞや」と宣へば、宮、「あ16はず」と宣ふ。大將「いとよく知りて侍17(る)事ぞや。五の宮も狩衣姿にて細殿に立ち給へりけり。さる騷ぎに少將入りなましかば、いかなら

校異 1イつれ。2國へ。3イねど。4國にアリ。5國もアリ。6国り。7以下二字國標。三字国さるに。8國のアリ。9國聞えアリ。10一字イニヨリテ補フ。11イナシ。12イか。13国か、國ナシ。14以下三字イ追ひ。五字國賁みて、國考異追ひ出でゝ。15国呼びアリ。16国ら。17二字イニヨリテ補フ。

まし。心すとも、さるべき心か」と宣ふ。乳母、「左1えら〔〇近等〕こそさるい2たづら物も賜は3ず、恐ろしきはかりごとも仕うまつらで止みぬれ」大将、「破れ子持におはすとも、今もさやうにた4いかられよかし。否とな言はじや御伯父どもに」など宣ふ。

[書詞]5此所は[illegible]の所。

かくて、年いと遅き年にて、三月上の十日ばかり花盛りたり。嵯峨の院花の宴聞し召さむとて、つ6と〔〇造〕りしつらはせ給ふ。萬づの財物を盡くして、御前の物どもまうけ給ふ。多くのまうけ物7をさ8へ渡へば、源中納言は院の9家司なれば、多くのか10け物調じ給ひて奉り給ふ。

かくて十日たんその日なりける。かねて朱雀院に「11花御覧じ12て渡らせ給へ」と聞え給13へれど、参り給ふを、内裏の帝聞し召して、朱雀院に参らんと思ふを、同じくばその日嵯峨の院に参らむと思し14て、御供に15とて度々中納言を召すに、参り給はむともなければ、明日になりて、藏人御使にて、「嵯峨の院に参16りつきぬ。院の御供に民部卿これかれ仕うまつるべければ、御供に人侍ふまじきを、里には17た18久19しう物せらるなるを、仕うまつられたん。20ようあらむ人の明日見ざらむや。ひがみて」など仰せられたり。民部

[校異]1イ近ら。2国みじき。3イらアリ。4イば。5八字イナシ。6イく。7国せ。8イせ給。9国家　国イ源。10国づアリ。11卅五字イナシ。12一字国に。13一字国考異ひつ。14国考異召し。15国イナシ。16イるべきを。17国考異ナシ。18以下三字国考異宰相。19一字国し。20イ世に。

卿、一かく度々仰せらるゝを、なほ1を参り給へ。かの女御世に心ざしなくて歩き給ふとも聞き給はじ。申し給ふ事を聞き給ふと2て思さむ」中納言「何か、それを3くば思4ひし5あらねど、久し6く交らひもし侍らぬに、そこばくの帝の御前にはいかでか侍7ふらん。そが中に嵯峨の院は、いかに8目馴つい給へる帝9ぞ10は」民部卿一11集まり12とはにや、内裏には来ぬものか。13さ思ひてこそ参るべかなれ」とて、侍ふべきよし奏せさせ給ふ。民部卿喜びて、我仕うまつらんとて、調ぜられたる14服直衣の御衣どもを奉り給ひて、我はあるに従ひて仕うまつり給はむとす。大将も殿文出だして参り給はぬを、行幸あるべしとて召せば、え参るまじきよしを奏せさせ給へば、かくて宮、「猶参られよかし。」など15かは一と16宣へば、「かくておはするを見17すく18して19奉りて、しづ心もなからんに、文作り遊びせよと責められば、20容にこ過失なしてや騒がれむ。この中に嵯峨の院21を見付け給22ふ所23に、ちうやく〔〇軍役カ〕に指し當て給ふ。24御前にて騒がしき目を見せ給ひしも、かの御そゝのかしにて上は責め給ひしぞかし。分25ひても、さてぞかくても侍ふぞかし」など宣ひ26て、その日になりて、「事缺けぬべし。右の大臣は院の御27許に仕うまつり給ふべけれ

校異 1 異ナシ。2 イや、底ぞ。3 イナシ。4 底ふに。5 底もし侍。6 國う。7 イは。8 イ女。9 底に。10 イナシ。11 以下九字底東人は宮の内。12 以下三字イ訪はず。13 國イき。14 底ナシ。15 三字イナシ。16 底考異責め給へば。17 以下三字イ捨、底捨て、國ずし。18 一字底考異捨。19 底參。20 イ心アリ。21 国の。22 以下二字底はともし。23 一字イもし。24 異御前、底御前。25 イい。26 底つ。27 イ供。

ば、大將1侍ひ給はでは有るまじ」と騒げば、むつかりて參り給ひぬ。辰の一2點ばかりに、朱雀院に上達部皇子達引き率て參り給ひぬ。辰の二3點ばかりに内裏の帝行幸し給へり。此の院喜びかしこまり給ふ。花の蔭に4才人ども、樂所の者ども皆侍ふ。文人は博士より初めて、5てより出でたる人6廿人、擬生も召したり。暫し有りて、右大將源中納言新中納言宰相の中將右大辨7藤の中將藏人の少將近純などは文の人に召さる。嵯峨の院8に題賜はせて、た9ひゐ10(○探韻)11させ給12ふ。仰せらるゝ、「此のえうにも有り13しもせじ。公卿達に14やゝ仕うまつら15むせん。右大辨季英の朝臣には16 17う仕うまつら18む。右大將の朝臣には講師仕うまつらせん」朱雀院「いと興あり。朝臣は文講師する事をなん申し侍19(20る)」内裏の帝「御前の講ぞいとになく仕うまつりき。21よき今日の講師に侍り」と皆許し給へば、大將、さればよ、何事に當て給はむとは思ひつる22日にて仕うまつらんとすらんと思ほす。

かくて皆探23韻す。大將文を賜はりに參るを、嵯峨の院御覽じて、「此の朝臣見る時こそ齡延ば24るゝ心地すれ。いと警策になり勝りにけり、此の國の人には餘りにたる人かな」朱雀院「此の頃は憔悴し25にたるにこそ侍るめれ。さ26は(○先)つ頃ほと〳〵しき病者をた27ん持て侍りて、かしこく28心勞し侍るなり」嵯峨

校異 1イ訪。2因つ。3因つ。4国舞。5イ進士。6因三十。7国良。8因ナシ。9イん歟、異ん。10国んアリ。11因せアリ。12因考異へと。13因考異もせぬ。14イ役。15イナシ。16イかアリ、因はアリ。17因考異け。18イせアリ。19一字イニヨリテ補フ。20因り。21イナシ。22イいかで。23国韻。24イは。25イナシ。26イい。27國イさアリ。28因考異心を。

の院「さ聞き侍りき。三の内親王のもとに訪ひに物して侍りしかば、賴もしげなく物して侍りしを、異なる事もなく物せられけるを喜び侍り」朱雀院「いみじう侍りけるを、か1し〔〇辛〕うじてちうはいして侍り」嵯峨の院「今日此の朝臣に2何でふわざし出ださせて、宜き祿賜はせん」院打ち笑はせ給ひて、「今は賜はす3〔べ〕き祿もなし」4などて笑はせ給へど、聊かつゝみたる氣色もなく、いと目安くて入りぬ5べき。源中納言目安くて入りぬ。新中納言出で來たるを、帝達「山籠りはいかで出で來たるにかあらむ。今日めづらしき事は先づこれ6有りけり」と驚き給ふ。內裏7帝、「辛うじて召し出でたるなり」と宣へば、朱雀院「あたら8、さても有りぬべき公人の怪しうても有りつるかた。此の朝臣の常に嘆きしものを」など宣ふ。午の二9點ばかりに、擬10たゝ11ら〔〇生〕の男どもに12御題ども13賜ふに、14難くもあらず、五位六位なり。あらはなる所に侍ひて、15のゝつかさの16の判人ども左右に侍ひ、そなたに居たる17ちかた參りて、仕うまつらせ給18〔ふ〕。た19人ゐ20〔〇探韻〕賜はる人の目安きをば譽め給ふ。見苦しきをば笑はせ給へば、21おはしつつ、天下のしちら22は〔〇失禮〕を仕うまつりあへり。上達も御文遊ばす。皇子達上達部御心に任せて作り給ふも有り。朱雀院の皇子達23は、后腹の二の皇子は御病して、法師になり給ひて西山におはす。大殿腹の四

校異 1イら。2国何。3一字イニヨリテ補フ。4イと。5図次に。6図な。7イの歟、国のアリ。8イしアり。9図つ。10イさ歟、異さ。11イら。12図文、國イ二。13図考異宜。14図高。15図近衞府。16イ官。17国近う。18一字イニヨリテ補フ。19イん。20国んアリ。21図憶。22イい。23イナシ。

人、后腹の五人侍ひ給ふ。七の皇子、中の君の姉、女御の御腹、それ參り給はず。九の1みは更衣腹、童にて參り給はず。嵯峨の院の皇子は三人ながら內裏の御供に仕うまつり給へり。御前ごとに皆參れり。文人樂所の者どもなどに物賜ふ。上達御琴遊ばし、上達部皇子達2文仕うまつり給ふ。樂所には樂仕うまつり合はせていと面白し。中に一3書ばかりに、擬生の文題取らせ給はむとすれば、あるは清4書きたるもあり、あるは年書きたるもあり。とかくしまどひて、手をひろげて奉り參るに、道に倒るゝも有り。かくまどふを今日の物見にはしたり。花さそふ風の5 6かに吹きたる夕暮に、花雪の如く降れるに、大將文奉8りに、學生負ひて庭に花雪のごとく散りて、「右の近き衞の府のたみ藤原の仲忠」と申し給ふ聲いと高ういかめし。嵯峨の院、「よき講師の試みの9上なりや」とて笑はせ給へど、つれなくて入りぬ。文皆奉り侍れば、文臺取らせ給ひて讀ませ給ふ。大將參らせ給ひて讀み申し給へ10(ば)、帝み11り〔○達〕より初めて皆12見給ふ。聊か怖ぢつ13らん所なし。朱雀院、かゝる物に心強き、物に怖なき人、いかで前後知らずまどひけむ、なに我が皇子をおろかには思はざりけりと思す。やんごとなき文ども14おほ誦せさせ給ふ。大將の文を皆帝達誦じ給ふ。土器參る。新中納言いみじう囃ぜらる。右大辨土器參る。

かくて御遊び始まりて、朱雀院、「15やよひ春を弄ぶ」と唱ひ出給ひ一、嵯峨の院に奉り給へば、

校異 1イ皇子。2国前。3国つ。4国くアリ。5国るらアリ、国考異たアリ。6イくに、国るう。7イく。8国そ。9イ聲。10一字イニヨリテ補フ。11イち。12国開き。13イつむ與、国つむ。14イを。15イおい與、国老。

御土器取りて内裏の帝に奉り給ふ1とて、

春來れば髮さへ白くなる花2に今年は君も3行き初めるかな

内裏の4 5歌、

積りけ6ん花をもなどか見ざりけむ春とは我も言はれつる世に

朱雀院、

白くとも千代し積らば花を見7よいづれの春かつれて8來ざらむ

式部卿9宮、

積り行く花も數10くに木隱れて空に知られぬ11下枝なりけり

など申し給へば、12五の宮、「す13ぐわい仕うまつりぞした14りや」とて御土器參り給ふ。土器下りて、中務の宮、

兵部卿の親王、

かくばかり枝に盛りに匂ひつゝいつかは15春の深く積りし

校異 1 國イナシ。2 図を。3 以下七字イ雪ぞ降りける。四字図雪と見。4 国御アリ。5 イ御方、イ帝歟、図帝。6 イる。7 図に。8 イま、国こ。9 図のアリ。10 イき。11 國宗。12 以下十一字イ此の御息所何時から參。13 以下三字図ずろに。14 図る。15 図考異雪。

古へは春の1●宮をや君は皆戀ひてを惜しむ花は散らめや

彈正の宮、

散る花ぞ頭の雪と2●越え渡る花こそいたく老いにけらしな

3●帥の親王、

打ち群れて花をしをりてかざさずば何にか春の老も知らまし

五の宮、

風をいたみ我らに降れる花をさへ頭の雪と見るな宮人

常陸の4●大守5●親王、

櫻花咲かざらませば野邊に出て春の齢を何6●に知らまし

大政大臣、

櫻花何時か飽くべき野邊に出でゝ心々に君が惜しむに

左7大臣、

元結に花結べりと見ゆるまで見れどもかゝる春の花かな

右8大殿、

校異 1 因色。2 因見。3 イ内裏。4 因太守。5 国のアリ。6 イか。7 因のアリ。8 因のアリ。

散りぬとて手ごとに折れば櫻花髮さへ白くなりまさるかな

右大將、

櫻花い1まゝ〔○幾代〕を經れば木隱れて見る人ごとにお2ひ〔○老〕を見すらん

民部卿、

お3ひ〔○老〕も嵩花4をも遊ぶ此の暮は春櫻やとしらにわくらん

藤大納言、

立ち寄れば老をのみ增す櫻花折りつゝかざす君は幾代ぞ

權中納言、

散る花に頭の多く白ぐるは世々を隔つる宿に咲け5春

源中納言、

花の色は盛りに見えて年ごとに春の幾度老6をしつらん

7左衛門の督、

老いぬとて春をば惜しむ頃しもぞ萬づの花8は盛りなりける

新中納言、

校異　1イよく、イくよ歟、国くよ。2国い。3国い。4イ折り。5イやと。6国と。7国右。8イぞ。

君離れて花見る今日と思はずば山の朽木も春を知らめや

とあるを、朱雀院いといたく誦ぜさせ給ひて、土器参らせ給ひて宣ふ。

我が前に木高くなりしもと櫻山邊に枝ぞ朽つと嘆きし

内裏の1女御、

朽ちぬとて歎きし枝は春を知る有りし櫻の見えぬ今日かな

嵯峨の院、

諸共に生ひし櫻の先づ枯れて殘れる枝を見るが悲し2きなむとて御土器度々になりぬ。御時よき程にて、御遊び盛りて、大將3中納言などに4箏の琴賜ひて、皆5々も物の音仕うまつり合はせて、順の舞し、6かた(〇數)唄ひ猿7樂せ8むはなし。9上達いみじう10奏し合はせ給ひて、朱雀院、「今日11いと興ある日なりや。12戌の年の秋た13り(〇仲)賴が14出づる所にて、此の族罷りて、人も聞かぬ所にて、己がどち隱したる手どもあらはして、15興さがし侍りけるこそいとになく侍りけれ」嵯峨の院、「さ聞16くや。忠まろ法師に17たゞに寄せて、かの朝臣の18琴彈19きける曉、たゞ人など

校異 1一字**イ**ナシ。二字因帝。2因さ。3**イ**源アリ。4因箏。5**イ**人。6**イ**う。7**イ**樂。8**イ**ぬ。9國**イ**舞足り。10**イ**興じ。11**イ**はアリ。12**イ**去ぬる。13国か。14国好つ。15因稚策に。16国き。17**イ**陀羅尼讀ま。18**イ**ナシ。19國**イ**ナシ。

の皆集ひにける1おや」と宣2へば、內裏の帝立ち給ひて、后の宮に對3面し給へり。后の宮、「あなかしこや。久しう4もなりにけるかな。三條に5は所し皇子の若菜摘に參うで來たりしまゝにや侍らん」帝「屢々6も參7で來べきを、罷り歩きも心に任せは8つ〔〇侍〕らざりければなん」宮「今はかく今日明日になり9にて侍れば、聞えさせ置くべき事も聞えさせ置きて、冥路も安くと思10ひ給11ひつるを、いと〳〵嬉しく、渡りおはしましたる事をなん。此の12暑げなる夏にて侍13りつる人は、14思ほえず老の後に出で來て侍りしかば、中にかなしく思15ひ給へて、顧みさせ給へとてき16わ〔〇參〕らせ17ゝしか18いなく、人數にも思ほ19ざなれば、恥かしう思20ひ給21ふるを、此の位ゆ22へ〔〇譲〕り侍りな23んとなむ思ひ給へる。便なき事と、これかれ聞ゆとも、皆思24ふ給へし心ざし叶25うると思して、必ず26おせさせ給へ」帝久しく思ほし煩ひて、「また物の心も知らず侍りし時、27見なれ奉りにしかば、睦まじく賴もし28くものには彼所をなん。怪しく人にも29し給はず、疎々しく物し給ひしかば、思ほし直すまでとなん暫し物聞えざりし。宣はする事は、かやうの事は例とはせでなん物すなるを、考へさせ給ふらんに、さる例あらば何かは。さらずば封賜はりなどを

校異1イを。2因ふ。3因而。4イナシ。5イ侍りし、因侍る。6因は、因考異ナシ。7イうアリ。8イべ。9國イナシ。10因考異う。11因へ。13因承香殿に、因考異預け奉り。13因ナシ。14因覺。15因考異う。16イい、因る。17イナシ。18イひ。19イされアリ。20因考異う。21イへ。22イづ。23因な。24因う。25イふ。26イを、國イ物歟。27國イ皆。28イき。29因似。

こそは御位久しく物すべく侍るなれ」宮「封賜はりなどせずとも、此のくら1い〔〇位〕とこそ言は2すまほしく侍れ。3有るにには坊の母をとこそは思すらめ。此の人をば哀と思さましかば、かゝる事も侍りけるを、暫し待たせ4たまへこそはし給はまし5か。さもや聞ゆるとて急ぎし給へるこそは」帝「かゝる事のとく物し給はましかば、何の疑ひにかは。年頃さもあらで、彼が出で參うで來たりしかば6〔何心もなく、さあらん折はさせんと宣ひてしかば〕、空言せずと云ふ7空に聞りなりにたれば、8はたかくし9 10こと11てなん。彼も思ほし12すべきにもあらぬを」と13て聞え給へば、宮、「すべて幸ひなき者は」とて、御氣色よか14ねば、立ち給ひて、15日の宮の御方16の參り給ひて、「いといたく醉ひにけり」とて、裝束解きひろげて臥し給ひて、「17いとよく18申し19はうし20く責ませ給ふなめ21れ。萬づの事互に習ひて哀に捨まじくこそ。淺ましう打ち泣き給ひしかば、恐ろしさにこそ聞22へざりしか。たどかは、かゝるわざをなし3と24はし給はざりし」など25御物語し26て、「いで〳〵此の持給へらん物見せ給へ」と聞え給へば、「あなむつかしや。何でふさる者をか」27上、「かゝる程のをまだ見ねばぞかし。かゝるついでに此所のを見で、28何時か。猶見せ給へ」と宣へば、乳

校異1イゐ。2イせ。3以下四字国有りやう。二字図其所。4イは。5イら。6廿一字イニヨリテ補フ。7イ族。8図違へじ。9国しアリ。10イし。11国とアリ。12イ捨つ。13イナシ。14イら與、国らアリ。15国四。16国に。17以下十字イようして。18図案内アリ。19以下四字異ようして、図給ひて、図考異奏して。20国て。21イり、異りな。22国え。23イ今。24図くアリ。25以下廿一字図ナシ。26イ給ひアリ。27イらす。28イ云へり。

母召して見せ奉り給ふ。まだ五十日にも足り給はず、いと1つぶ2そかに白く肥3そ給へり。上抱き給ひて、「あなち4い〔〇小〕さや。人5初めはかくある6、我7にもさぞ有りけんかし。かゝる者を大きになすこそ女は恐ろしけれ。宮はいと大8になりにけり。初めはいと淺まし9や」「月頃御覽じ習ひたらむを」「それは罷出にき。大10になりにたり。それをぞち11い〔〇小〕さきと見しか12とし」とて、「これをも對13面とや言はんに」とて、袙の御衣脱ぎて乳母に賜ふ。

かくて上達部殿上人14だに著き侍ひて、御輿寄せてぞ「久しくなりぬ」と奏せさせ給ふ。上、あな物憂き。此所に泊りなばや」と宣ふに、「亥四つ」と申すに15、時なりぬとて騷ぐに、「しづ心なく言へば。さばとく參り給へ16。17宮かく聞えこしらへ給18へ」19とて出で給ふに、后の宮より、源中納言20奉り給へりし女の裝廿21人具22ばかり、櫻23の色の細長袷の袴など上達部殿上人に賜ふ。院の御方よりも、例の公け24やうにてはあらで、皇子達上達部に例の女の裝束一具、殿上人には細長袴、下﨟の文作りなどには腰挿棒持の綿、25ぎさ26ら〔〇擬生〕27楽まで賜ふ。大將には講師の祿とて御馬一、皇子達にも28馬一、帝達には世にかしこき

校異 1以下三字國ふつゝ。2イらゝ。3イえ。4国ひ。5国のアリ。6国ものかなアリ、因ものかアリ、因考異にやアリ。7イら、国ナシ。8イきアリ。9国かりしアリ。10イきアリ。11国ひ。12二字イナシ、一字国ナシ。13對面。14イ座。15イはアリ。16國とアリ。17イと、因とよく、二字國イナシ。18以下二字イひ。19国ナシ。20因のアリ。21イナシ。22三字因考異ナシ。23イナシ。24因祿。25以下六字因考異濁らにて。26一字イう。27一字イ楽。28イ御アリ。

1帶御佩刀など奉り給ふ。

畫詞 2（此所は嵯峨の院の花の宴の所）。

〔○墨書〕　文化十二年乙亥八月十日以本居氏藏書挍合畢　荒木田與之

校異 1イ御アリ。2十三字イニヨリテ補フ。

昭和七年七月十五日印刷
昭和七年七月廿五日發行
日本古典全集
第三期【非賣品】

うつぼ物語
第四

編纂者　正宗敦夫
東京府北豐島郡長崎町一六二
發行者　合資會社日本古典全集刊行會
代表社員　長島東一
裝幀者　廣川松五郎
東京府北豐島郡長崎町一六二
印刷者　不二製版印刷所
高瀨清吉

發行所
東京府北豐島郡長崎町一六二
合資會社　日本古典全集刊行會
振替東京七三〇三二

UNIVERSITY OF TORONTO
LIBRARY

WILLIAM H. DONNER
COLLECTION

purchased from
a gift by

THE DONNER CANADIAN
FOUNDATION

EAST-ASIAN LIB. UNIVERSITY OF TORONTO
3 1761 03021 4621

PL
787
U7
1929
v.4